書に基き後人之を補訂し以て法となせりと云ふ

○己亥耆社日記　一卷　寫本

本書は肅宗四十五年春秋已に六旬に達したるを以て太祖の故事に倣ひ四月十八日を卜し景賢堂に於て耆社の題名式を擧行するに當り朝官四品以上は年七十、五品以下は年八十を踰ねたる者を限り陪宴の恩榮を與へたり本書は卽ち其の擧式前後に涉る傳論、上疏、進箋、箚子、設備、飲宴等に關する一切の書類を輯錄したるものにして當時盛事の一斑を窺知するに足る

○耆社慶會曆　八卷　正祖命編　板本

本書は正祖九年徐命膺をして耆社慶會の緣由及之に關する賀章祝詞等を輯錄せしめ熙朝の盛事を發揚したるものなり元來耆社の慶會は高麗より始り朝鮮太祖は卽位三年に於て耆社に入り耆老の群臣を會して土田を賜ふ肅宗英祖亦此の擧あり當時七十以上の群臣皆共に耆社に題名して宴を張り詩文を詠進せり靈壽玉牒、耆府文藻、群老題名、洛社故事、浩露恩禮、考訂雜述、優養彝典に分目す

徐命膺の小傳は經部易學啓蒙集箋に出つ

○人瑞錄　四卷　正祖命編　板本

正祖乙卯英祖妃金氏壽五十一莊獻世子嬪洪氏六十一に達し且正祖の卽位二十年に當りしを以て諸廷臣の進言を納れ祝賀の典を擧くると共に朝官七十以上又は七十以上の僧老者亦に士庶人八十以上又は八十未滿の僧老者及百歲以上の高齡者に對し爵又は木綿等を頒ち總計七萬五千一百人を得たり本書は當時人瑞の盛を記したるものなり

○大東掌攷　一三卷　洪敬謨編　寫本

本書は古昔檀君以降朝鮮純祖に至る國名、姓氏、年代等を記載したるものにして本編及別編あり第一卷は歷代考第二卷は椒椒宗英、國舅、儀賓、輔相及冢宰攷第三卷は司馬攷、文衡攷、附圈點錄第四卷は文任、湖堂、玉署、講官及國子攷第五卷は內翰攷第六卷は內翰薦圈錄及內閣攷第七卷は中書攷、銓郎攷第八卷は司勛攷第九、十の二卷は方伯攷第十一卷は方伯攷、使星攷第十二卷は戎垣攷、耆社攷、休退攷等にして別編は儒林、清吏、儒賢門人、名將、文苑、太廟從享、詩人、筆苑、莊陵配食及畫家攷等なり洪敬謨の小傳は史部重訂南漢誌に出つ

○東國文獻　四卷　編者未詳　板本

本書は儒生金性溉の校正に係り井邑の忠烈祠にて開刊したるものにして朝鮮太祖の初より純祖の時に至る諸名臣の略傳を錄せしものなり其の目次は第一卷相臣、文衡湖堂、奎章第二卷功臣、清白耆老、南臺品職、顯官、大官筆苑、畫家第三卷儒林、門生、名臣第四卷文廟、太廟、院宇等とす

○東國諡號　四卷・編者未詳　寫本

本書は朝鮮歷代の文武諸臣に賜ひたる諡號を輯錄したるものなるも編者詳ならず

系譜類

○全義李氏族譜　一〇卷　編者未詳　板本

本書は忠淸道全義李氏の系譜にして其の鼻祖は高麗及朝鮮に歷仕したる簪纓の大族たり舊譜は宣祖七年に編成し其の後屢次補修を行ひ肅宗三十七年本書を大成す嘗て世宗か手書して孝靖公李貞幹に與へたる家傳「忠孝」「世守」「仁敬」の八大字を開卷第一に刊載し以て後世子孫遵奉服膺の規となせり

○大邱徐氏世譜　一〇卷　編者未詳　板本

本書は慶尙道大邱徐氏の世譜にして肅宗二十八年之を創刊し繼いて英祖十二年再版に付し五十一年に至り本書を大成せり徐氏の先は箕子に出て新羅に顯れたりと稱するも文獻の徵すへきなきを以て此の書は大丘卽ち古昔の達城に於ける徐氏を少尹公以下十四世源派、晩沙公派、典籤公派、僉樞公派、都尉公派、奉事公派、瑞興派、四佳公派、版圖公派の九派に分ちて編次したるものなり又參照として卷尾に墓表、神道碑銘、墓誌銘、碑、補遺記、名字行第圖を附記す

○昌寧成氏族譜　四卷　成　渙編　板本

本書は慶尙道密城郡昌寧縣成氏の族譜にして遠孫瑛の編次したるものなり其の舊譜は成宗二十

四年成子正の手に成り隨時增訂を經たるも年所の久しき支派の別分明ならざるを以て更に之を追補し各名下に就き年齡、配室、墓地、官歷、行狀等を附記せり又外派璿源譜を卷首に加へたる外宗人の遠孫にして後繼者なきものは別錄となして譜末に列せり

成瑛字は秀輝、昌寧の人なり監司俊者の孫にして肅宗庚午文科に登り官同中樞に至る

○ 昌寧成氏思肅派譜 一卷 成道默編 板本

本書は昌寧成氏思肅公世純以下一派の系譜にして遠孫成道默の編次したるものなり

成道默字は聖及、昌寧の人なり文簡公成渾の八代孫にして純祖甲子進士に登り乙丑入仕して屢州郡を典り官敦寧都正に至り哲宗甲寅に歿す

○ 東萊鄭氏派譜 一七卷 鄭元容等編 板本

本書は東萊鄭氏中水竹鄭昌衍の子孫の系譜のみを編錄せるものにして哲宗己未鄭元容等の編に係る鄭氏の譜は曩に宣祖十八年乙酉鄭惟吉始めて編成し孝宗六年乙未鄭良弼之を補修し肅宗四十二年丙申鄭必東更に之を補し全譜を成せり丙申以後は卷帙浩繁にして全譜と成し難きを以て各孫其の派譜を編輯せるものにして本書も其の一なり

鄭元容の小傳は史部國朝寶鑑に出つ

○ 慶州鄭氏世譜 一〇卷 鄭寅奎等編 板本

本書は哲宗八年鄭寅奎等の編刊せるものにして譜の記す所に據れば慶州鄭氏は辰韓六部長の一人栖山珍支部長なる智伯虎なる者新羅儒理王より姓鄭氏を賜りたるに始まり爾後將相となりたる者多く高麗に至り益其の盛を致し文正公鄭珍厚、文獻公鄭玄英等名臣相承け朝鮮に至り良景公鄭熙啓佐命の勳あり齊安公鄭孝常亦翊戴の功を顯して朝鮮の望族となり一系相聯り四派益蕃茂せり本書は其の族譜にして始祖より三十六世に至る大系を叙し並に支派を分書せり

○ 驪興閔氏派譜 一冊 閔致序等編 板本

本書は驪興閔氏二十一世著重、弟鼎重、維重三派の譜にして後孫閔致序主として之か編次に當る第一世閔稱道は高麗の人四世令謨は高麗容宗十年に生る十四世粹は朝鮮世祖元年に生れ二十五世李珷は英祖時代の人なり記錄は三十一世の孫に止り其の間二十六、七、八、九世は最も繁榮を極めたるものとす驪興は今の京畿道驪州なり

閔致序字は景殷純祖十七年丁丑に生れ憲宗十年甲辰進士に中り同王十四年戊申蔭を以て判書となる李太王二十六年己丑に歿す

○ 驪興閔氏族譜 三八卷 閔致序等補編 板本

本書は驪興閔氏一族の系譜にして閔氏の譜は朝鮮國初太宗の妃の元敬王后の本系を命修するに當り始めて之を編し其後司諫閔定命十餘卷を撰せしか兵燹に失し光海君十四年壬戌驪興君閔仁伯姓譜一卷を編輯し顯宗十二年辛亥閔鼎重旁搜博考して八編を成す肅宗三十九年癸巳閔鎭厚、閔鎭遠復た改輯し純祖二年壬戌閔昌爀之を增修し太王二十六年己丑閔致序等續成刊行せり

閔致序の小傳は史部驪興閔氏派譜に出つ

○ 豐壤趙氏世譜 三〇卷 趙曮等編 板本

○ 豐壤趙氏世譜 三五卷 趙寅永等補編 板本

○ 豐壤趙氏世譜 八〇卷 趙秉弼等補編 板本

三書共に豐壤趙氏の系譜なり豐壤縣は高勾麗に於ては骨衣奴縣新羅に於ては荒壤高麗に於ては豐德と稱せり高麗顯宗九年楊州に屬し後抱川と改め朝鮮世宗の時再ひ楊州に屬せり趙氏は朝鮮の大族にして始祖を趙孟佐と云ふ高麗太祖の功臣なり此の譜は其の子孫の三十七派に分れたる氏族の系譜とす顯宗の時趙涑始めて之か編次に著手し英祖三十六年庚辰趙曮之を續成して三十卷とし後純祖二十六年丙戌趙寅永增補して三十五卷とし後又李太王光武四年庚子趙秉弼更に之を增補し八十卷とせり

趙涑字は希溫、滄江と號す豐壤の人守倫の子なり宣祖乙未に生れ仁祖の時翊戴の勳に錄せられるも謝して鄉里に歸る書畫を善くし官掌令に止る顯宗戊申に歿す

○ 楊州趙氏世譜 七卷 趙泰萬編 趙榮國增修 板本

本書は楊州趙岑の子孫を合錄したるものにして

岑の十二世孫泰萬之を編し景宗元年辛亞弟泰億慶尙監司たりし時刊行し英祖十九年癸亥再從孫榮國增修重刊せり

趙泰萬字は濟博古朴齋と號す楊州の人苔村嘉錫の子なり顯宗十三年壬子に生れ肅宗四十三年丁酉學行を以て登仕し官侍直に至り英祖三年丁未に歿す

趙榮國字は君慶月湖と號す楊州の人大憲泰東の子なり肅宗二十四年戊寅に生れ景宗三年癸卯進士に中り英祖六年庚戌文科に登り翰林を歷て官吏曹判書に至り同王三十六年庚辰に歿す靖憲と諡す

○海平尹氏世譜　三六卷　尹致定編　板本

海平尹氏世譜の舊本は宣祖壬辰の兵燹に失し肅宗正祖の兩時に於て屢改修を加へたるも訛誤遺漏を免れざるを以て哲宗二年尹致定舊本の五層圖を改めて六層となし遠派微族に至るまで一齊に之を網羅し始めて完成したるものなり海平は慶尙北道善山郡に在り

○豐山洪氏族譜　六卷　洪象漢編　板本

本書は慶尙道安東郡豐山洪氏の族譜にして肅宗三十五年始めて之を印刊し爾來六十年の久きに渉り生死の增減あり且脫漏鮮からざりしを以て後孫崇祿大夫前行議政府左參贊象漢監督の下に三五の族人修補を加へ英祖四十四年再版に付したるものにして譜の記す所に據れば洪氏の祖先は高麗に仕へ中世稍振はざりしも慕堂に至り經術德行を以て宣祖の時に顯れ本支共榮の慶を承けたるものなり

○綾城具氏姓譜　三卷　具仁等編　板本

本書は具仁等が宣祖八年に編成し邊循の校訂を經て其の翌年に上板したるものなり全編を上中下三卷に分ち上は具氏歷代の墓誌類中、下は其の姓譜とし之に附するに別譜を以てす此の姓譜に據れば具氏の祖先は高麗の名族にして綾城に居住し本系は十六代外派は十三代內派は十二代に至る

具仁字は大春八松齋と號す綾城の人なり明宗の時經學を以て諮議に薦められしも仕へず學問に沉潛して後進を敎導し一時名流門下より出る者多し

○新安朱氏世譜總卷　一卷　朱錫冕編　板本

本書は淸溪公朱瀆の世譜にして朱瀆字は景陶朱熹の曾孫なり高麗高宗十一年七學士と共に朝鮮に來り遂に歸化せりと云ふ跋文は朱熹二十五世の孫伋の撰する所にして文中に瀆の東來後六百八十餘年と記せり卷首に李太王の詔文あり編修の緣由を明にせり

○栗谷牛溪年譜　四卷　尹宣擧編　板本

本書は栗谷李珥及牛溪成渾の年譜を合併したるものにして尹宣擧の編に係り各其の世系、年譜行狀、碑銘、祭祝文、疏、箚等を備載せり

尹宣擧字は吉甫魯西又美村と號す坡平の人八松煌の子なり光海君庚戌に生れ仁祖癸酉生員と進士とに中り遺逸を以て薦められ諮議を授け官執義に至るも就かず顯宗己酉に歿す特に領議政を贈られ諡を文敬と云ふ仁祖丙子淸國僭號の書來到の時進士を以て疏を上り來使を斬らむ事を請ふ丁丑の後錦山に隱れ市南俞棨と隣を卜して道義を講磨し家禮源流を纂成せり嘗て愼獨齋金集の門に從學し學問節操當時の儒宗たり子明齋拯、農隱推竝に儒學を以て著はる

○沙溪年譜　一卷　金鎭玉等編　板本

本書は金長生の年譜なり長生字は希元沙溪と號す、光州の人業を栗谷李珥の門に受け博く禮學に通し師門の高足を以て推重せらる丁卯淸軍東侵の際兩湖號召使となり義を擧げ轉戰して功あり文元と諡し文廟に從祀せらる明宗三年に生れ仁祖九年八十四歲にて歿す外曾孫李氏初めて年譜の編纂に著手せしも業を卒へずして歿す玄孫金鎭玉、金鎭泰等遺命を承け補纂修潤を加へ上刊したるものなり

金鎭玉號は韞齋光州の人なり吏曹判書金益熙の孫にして英祖の時蔭途を以て江原監司に拜せられ歿す

○西厓年譜　三卷　編者未詳　板本

本書は柳成龍の年譜にして成龍字は而見西厓は其の號なり豐山の人退溪李滉に學ふ滉曰く此の子天の所生なりと以て其の鋭才達識を推知すへし甲子生員進士に中り丙寅文科に及第し官領議政に至る壬辰の役駕に扈して平壤に遁れ歿して文忠と諡す鰲城曰く近代名相中柳相を以て最となすと亦以て其の人と爲りを知るに足るへし本書世系圖中十世を西厓とし十五世を以て終とせり全部三卷第一、二卷は世系表並に年譜記事第三卷は行狀、祭文、書院奉安文、輓詩等を附載す

○ 霽峯年譜　一卷　高濟寅編　板本

本書は高敬命の年譜にして附するに父子三人殉難の事蹟を以てせり高濟寅の編に係る敬命字は而順霽峯と號す中宗二十八年光州に生る才學俊秀殿試甲科に魁たり後文臣庭試第一名に中り官弘文館副校理司憲府持平に至る宣祖壬辰年六十國難を憤慨して壇を秋城館に設け香を焚き天に誓ひ勤王の義を倡へ轉戰して二子と與に節に殉せり褒忠祠を本州に建て忠烈公と諡す長子從厚は孝烈と諡し次子因厚は毅烈と諡す世人之を並稱して三壯士となす

○ 旅軒年譜　三卷　編者未詳　板本

本書は張顯光の年譜なり顯光字は德晦旅軒と號す仁同の人深く性理の學に通し官吏曹判書に至り文康と諡し洛東書院に享配せらる明宗の時の人にして著書頗る多し本書編纂は第三十世啓遠以後のものなるも年代編者共に詳ならす

○ 浦渚年譜　五卷　尹拯等編　板本

本書は趙翼の年譜なり趙翼字は飛鄉號は存齋其の先は豐壤の人門生尊稱して浦渚先生と云ふ宣祖十二年に生れ孝宗十七年七十七歲にして歿す本書第一卷世系年譜は文成公右相尹拯の編にして第二卷墓誌銘は尹宣擧神道碑銘は宋時烈誌狀は宋浚吉等の手に成り第四、五卷には諸儒の祭文挽詞祝文辨疏等を附載す

尹拯の小傳は經部明齋疑禮問答に出つ

○ 陽坡年紀　二卷　鄭太和著　寫本

本書は鄭太和の日記にして記す所は仁祖二年より孝宗七年に至る五十餘年間の事實なり

鄭太和字は圃春陽坡と號す東萊の人濟谷廣成の子なり宣祖壬寅に生れ仁祖甲子進士に中り戊辰文科に登り史局に入り官領議政に至り顯宗癸丑に歿す翼憲と諡し顯宗廟庭に配享す生れて十歲專ら遊戲を好む叔父與谷廣敬之を責め始めて學に就き十六歲にして場屋に名あり仁祖丙子元帥府從事を以て兎山に戰ひ大捷す人皆之を壯とし文武全才と稱す四度儐使となり六度元輔を拜し相府に居ること二十五年其の間國家危疑の時に値ひ身を以て安危を佩ひ事に隨ひ變に應し主角を露さす國命を辱しめす胸に朋黨の念無く家に財帛の物無し四世相業を繼き其の弟恭洲致和從弟南谷知和子洛南載嵩相繼きて相府に入る後孫亦名相たる者多し

○ 同春年譜　四卷　編者未詳　板本

本書は宋浚吉の年譜なり浚吉字は明甫號は同春恩津の人宣祖三十九年漢城貞洞の寓居に生る仁祖甲子の生員進士なり官參贊に至る英祖八年に歿す歲六十七諡を文正と賜ひ文廟に配享す此の書は正祖四年庚子に上刊す

○ 三淵年譜　二卷　金洙根編　板本

本書は金昌翕の年譜にして金洙根の編する所に係る昌翕字は子益三淵は其の號文康公と諡す金氏の始祖諱は宣平麗初功勞あり安東に廟食す子孫遂に安東の人となれり昌翕は孝宗四年に生れ景宗二年に歿す肅宗己巳尤菴と同しく罪に坐せり

金洙根字は晦夫安東の人牧使麟淳の子なり正祖戊午に生れ純祖戊子進士に中り蔭仕を以て童蒙教官を拜し甲午文科に登り文任を經て官吏曹判書に至り哲宗甲寅に歿す諡を正文と云ふ哲宗廟庭に配享す二子頻樵炳學頻漁炳國俱に上相に至り炳學文衡を典る

○ 黎湖年譜　四卷　編者未詳　板本

本書は朴弼周の年譜なり弼周は肅宗六年漢城の太平館洞に生る字は尙甫黎湖と號し文敬と諡す始祖は全羅道羅州潘南縣の人にして弼周は其の

十七世の孫なり篤學力行名利に淡く英祖の時官議政府右贊成兼世子貳師に至りしも遺逸の禮を以て待遇せられ肅宗景宗英祖に歷任し年六十六にして歿す

○ 荷棲年譜　一卷　編者未詳　板本

本書は趙璥の年譜なり璥初の名は瑋字は景瑞荷棲と號す始祖は漢陽府豐壤縣の人麗初の功臣なり趙璥は其の十九世に當り英祖三年漢城達坊洞の第に生れ三十九年文科に及第し正祖十一年に歿す官右議政に至り忠定公と諡す楊州陳田鄕卦峴里に葬る荷棲集六卷あり

○ 梧川年譜　二卷　編者未詳　寫本

本書は李宗城の年譜にして宗城字は子固梧川と號す慶州の人鷺谷台佐の子なり肅宗の時進士に中り三代に歷仕して官吏曹判書及右相を經て領議政に至れり初諡は孝剛後文忠と改む歿する年六十八此の書年譜としては他書に比し不備の點尠からず亦編者の何人たるを知るに由なし

○ 仁興君年譜 附詩稿拾遺　一卷　李　偘編　板本

本書は靖孝公李瑛の年譜にして遺詩若干を附錄せり李瑛字は可韞醉隱と號す宣祖の第十二子なり宣祖甲辰に生れ仁興君に封せられ孝宗辛卯に歿す編者偘は其の子にして肅宗の二十五年に之を上刊す

李偘字は和叔最樂堂と號す全州の人靖孝公瑛の子なり仁祖庚辰に生れ朗原君に封せられ肅宗庚辰に歿す兄觀瀾朗善君俁と俱に賢宗室と稱せらる璿源譜略を撰進せり

○ 靜觀齋年譜　二卷　編者未詳　板本

本書は李端相の年譜なり端相字は幼能靜觀齋と號す延安の人仁祖六年に生れ顯宗十年四十二歲にして歿す官は副提學に至り文貞と諡す此の書の編成は肅宗二十九年以後にして編者詳ならず

○ 金氏分貫錄　一卷　金昌熙編　寫本

本書は金氏分派の族貫を地方別となし各其の祖系を正し同族關係の分を昭にしたるものにして卷首に分貫收草事例を載せ次に搢紳有司節目等の數例を擧く卷末には各道有司邑分掌記を揭げ以て本支の所掌を詳にせり

金昌熙字は壽敬石菱と號す慶州の人石世鼎集の子なり憲宗甲辰に生れ哲宗辛酉に蔭仕を以て明陵參奉を授けられ李太王甲子文科に登り典翰を歷て官工曹判書に至り庚寅歿す諡を文憲と云ふ昌熙專ら古文辭を修め又吏治に嫺ふと云ふ

○ 朴氏溯源錄　二卷　朴世旭等編板本

本書は朴氏の苗裔密陽の人世旭等祖先を追崇するの意より新羅朴氏以降の來歷を明にし家系を分記したるものなり

○ 梁文襄外裔譜　一冊　編者未詳　寫本

本書は文襄公梁誠之の外裔譜なり誠之字は純夫訥齋と號す南原の人世宗辛酉の生員にして進士に及第せり文宗の時密啓して曰く外戚に倚任するは固より國家の吉事に非す然れども宗親强盛にして公室微弱なるとき外戚の賢者に任するは己を得さるものなり云云と蓋し梁氏の外裔中提學たりし者誠之より十六世二十餘名の多きに達せしは洵に偶然に非さるなり

○ 河忠烈貫系辨誣錄　六卷　河始澈編　板本

本書は忠烈公河緯地の系譜辨誣錄にして緯地字は仲章丹溪と號す世宗二十年文科壯元に及第し晩年罪を得て死を賜ひ後吏曹判書を贈られ忠烈と諡す世祖元年裔孫始澈其の材料を採集し朴充輔之を刊行す

○ 縉紳五世譜　一卷　編者未詳　寫本

本書は李、金、鄭、徐、尹、趙、洪、申、沈、閔、權、朴、韓、柳、俞、宋、吳、任、姜、南、林、黃、崔、具、蔡、丁、睦、魚、元、呂、許、曹、安、成、盧、郭、愼、白、嚴、孟、奇、張、邊、羅、四十四家五世の系譜を以て各住地別に排錄し下部には其の外祖及妻父の名を附書したる外其の官職を傍注せり

雜錄類

○ 攷事撮要　三卷　魚叔權編 許筠等增補　板本

本書は魚叔權か事大交隣を主とし帝王歷年記、要集の兩書に據り各種の事項にして日用闕くへか

らさるものを取り以て編纂したるものなり此の書魚叔權の手に成るものは明宗九年甲寅に止まり乙卯以後宣祖十八年乙酉に至る間は許篈の增補に係り朴希賢又之を續成して光海君壬子に訖る仁祖丙子崔鳴吉更に之を增減修正したるものなり上卷は紀年中卷は中朝忌辰以下十三項下卷は接待倭人事例以下十七項附錄には朝鮮歷代の忌辰より八道宣職總數に至る五十三項の雜記を載す

魚叔權は也足堂と號す咸從の人西川世謙の孫なり官學官に止る

○麗事摠要　一卷　編者未詳　寫本

本書は編者を詳にせす卷初には均役節目を擧け次に里代定法諸牒報事及辭狀等を列記せり

○眉巖日記抄錄　四卷　柳希春著　寫本

本書は柳希春か宣祖の講筵に侍したる當時の日記なり

柳希春の小傳は史部國朝儒先錄に出つ

○睡翁日記　二卷　宋甲祚著　板本

本書は睡翁宋甲祚の手記にして仁祖二年より六年に至る間の日事を主とし附するに詩文行狀墓誌等を以てす五代の孫宋龜相の編次に係り金鐘秀宋煥箕等之を校正し宋煥學資を投じて上木せり

宋甲祚字は元裕睡翁と號す恩津の人にして尤菴時烈の父なり宣祖甲戌に生れ光海君丁巳進士に中り官奉事に止り仁祖戊辰に歿す子時烈の貴きに迨ひ領議政を贈られ諡を景獻と云ふ光海君廢母の時新進士を以て西宮を拜し大學の儒邪論を倡へし時其の名疏中に入りしは囚徒の僞署なりと云ふ

○古鑑　一三卷　著者未詳　寫本

本書は支那歷代帝王羣臣の事歷に就き各名下に四字句の提題を揭けて其の大要を記述し間間著者の私見を加へたるものなり

○五龍齋錄　四卷　南溟學著　板本

本書は南溟學の手錄にして其の子陽龍之を上刊す蒙恩錄廬憂錄君親夢教錄の三類に分ち附する

に書五龍錄後工曹佐郎南公墓表五龍齋南先生忠孝追慕碑記の三篇を以てす

南溟學字は聖源五龍齋と號す英陽の人爾赫の子なり英祖辛亥に生れ己卯進士に中り戊子蔭仕を以て顯陵參奉を拜し官僉正に止り正祖戊午に歿す李朝の西北道人を遇すること甚だ薄く近侍する者極めて稀にして蔭官と雖も淸選を許さす獨り南氏進士を以て太學に居り英祖の時入對して講義に陪し特に齋郎を授けて奬褒すること隆摯なりしといふ

○龜菴擬政內外案　一卷　金濟學著　寫本

本書は金濟學か朝鮮の各官職を支那漢唐宋明歷代の人を以て組織したるものにして其の才行職任に近似する者を取りて之に八字の評語を付し內案外業に分てり內案の首は議政府にして領議政に蜀漢人諸葛亮を擬し外業の首は水原府にして留守に宋人文天祥を擬せり蓋し閒餘の戲作なるも朝鮮舊官制の考據には一助なしとせす

金濟學字は文祥龜岩と號す金海の人にして政格及官方に慣熟せり其の生歿年時は詳ならす

年表類

○歷代總目　一卷　編者未詳　寫本

本書は支那太古堯元年甲辰より明の章宗哲皇帝に至る歷代帝王の帝都在位年數改元生壽及陵墓其の他顯著の事蹟に就き極めて簡略に之を記載し上下四千年間の事蹟を擧けて一小冊子內に縮寫したるものなり

○歷代帝王傳授總圖　一卷　作者未詳　寫本

本書は朝鮮を主とし日本支那歷代帝王の傳統總圖を示し之に附するに國都變遷の事蹟を以てせるものなり

○歷代帝王傳世之圖　一卷　作者未詳　板本

本書は支那唐堯元年甲辰より明の毅宗崇禎十六年癸未に至る約四千年間歷代帝王傳世の要略を圖したるものにして僭國及朝鮮の事歷を以て其の下に附記す而して朝鮮は漢の宣帝五鳳元年甲子卽ち新羅始祖赫居世元年より朝鮮仁祖二十一

年に至る事蹟を記載す凡例を按するに本圖は記年を主とし帝王の興亡、立廢、崩年、纂弑等は之を特書せり編次の年代等詳ならざるも顯宗の時に成りしものと推定せらる

○ 皇極經世書東史補編通載　九卷　申翊聖編　板本

本書は宋の邵雍の皇極編に基き宣祖の時申翊聖か東史の事實を參酌して補撰したるものなり邵雍の記する所は周の世宗己未北契丹を征するに止まり宋の太祖受禪以下を錄せす翊聖は丘濬の編次せし史綱に法り其の目を捨てて其の綱を取り專ら高麗史、東國通鑑、東國史略等の書を根基となし李彦迪、李滉の遺說を襲用して編次したるものなり其の內容は戊辰の歲檀君國を朝鮮と號し都を平壤に定めたるより始まり高麗廢王禑十年以降朝鮮太祖元年壬申に至り筆を止む

申翊聖字は君奭、樂全堂又東溟と號す平山の人象村欽の子にして宣祖の駙馬なり宣祖戊子に生れ己亥東陽尉に封せられ仁祖甲申に歿す諡を文敬と云ふ早歲禁闈に出入し貴顯を極めたれとも意を文章に專にして著述甚た多く又小楷、八分、篆籀を善くし仁祖辛巳に淸人の誣を被りて淸陰金尙憲と俱に瀋陽に拘囚せらる昭顯世子其の誣を卞明して事遂に解く

○ 紀年兒覽　八卷　李萬運編　寫本

本書は英祖末年李萬運か學童の便覽に資する爲博く諸家史乘に取り歷代沿革皇王統系等を簡明に編次し正祖元年丁酉李德懋之を修潤し翌年戊戌李萬運更に訂正せるものなり其の內容は支那朝鮮に分ち第一、二、三卷は支那上古紀より淸紀に終り第四卷は歷代の國都、世系圖第五卷は檀君朝鮮より高麗第六卷は古代より高麗に至るまての地界第七卷は朝鮮の紀事第八卷は八道地圖、三朝鮮の世次圖、四郡二府、三韓世圖等なり

李萬運の小傳は史部俎豆錄に出つ

○ 歷代紀年　三卷　正祖編　寫本

本書は正祖老後に至り特に一文を製し前代の興亡を歷叙し卷尾に兢業の二字を附書し以て東宮に授けたり又其の心法を傳授する爲歷代紀年の一篇を纂成し上は盤古三皇より下は明の永曆年間に至るまて享國の遲速、年月の長短、園寢の所在、后妃の姓氏等を備載し歷代の王統をして一目の下に瞭然たらしむ

○ 登壇年表　一冊　編者未詳　寫本

本書は宣祖より李太王十六年己卯に至る歷代登壇武將の姓名錄なり編者年代詳ならす

○ 三東歷史　二卷　編者未詳　寫本

本書は日本、支那、朝鮮三國の歷代甲子、帝王の卽位及崩御年時を記したるものにして日本は天之御中主神支那は盤古氏朝鮮は箕子より筆を起し日本は白河天皇支那は宋の神宗朝鮮は高麗の順宗に終れり

○ 經世指掌　二卷　洪啓禧編　板本

本書は英祖三十四年洪啓禧か邵康節の皇極經世書を本とし帝堯以來四千有餘年間一歲を一劃とし四千二百劃を作り之に支那及朝鮮の歷史上の大事を記入したるものにして後編は明太祖洪武十七年卽ち高麗廢王禑十年より朝鮮英祖三十四年までの月の大小正閏及干支を列記し元會運世を以て歲月日辰に比例し其の理數を說明せり

洪啓禧の小傳は經部三韻聲彙に出つ

○ 皇極一元圖　二卷　英祖命撰　板本

本書は英祖五十年癸巳戶曹判書徐命膺に命して編纂せしめたるものなり其の上卷は宋の邵雍の皇極經世書に則り元、會、運、世の各年を圖に表はし其の相當の年に支那及朝鮮の重要なる歷史上の事實を記入し下卷は英祖卽位の初年甲辰より以後一百二十年を上元、中元に分ちて作成せる千歲曆なり

目錄類

○ 弘文館書目　一冊　寫本

本書は弘文館に藏置の經筵講學に用ひたる書籍の目錄なり館は景福宮內に在り經籍、文翰、侍講及代撰の事を掌りたり

○ 芸閣冊都錄　一冊　寫本

本書は校書館に藏置せし書冊の種類、冊數及冊板の種類、板數を總錄せる簿冊なり芸閣とは校書館の別稱にして奎章閣卽ち內閣に隷し其の位置宮門外に在りしを以て外閣とも稱したり

○ 本院奉安總目　一冊　寫本

本書は摛文院に藏せし王室書類の目錄にして摛文院は昌德宮內に在り奎章閣學士の直所となす爲正祖五年辛丑に剏建す

○ 奉謨堂奉安御書總目　三冊　寫本

本書は奉謨堂に藏せし王室の譜牒、誌狀、寶鑑、遺敎大寶、御製、御筆、御畫、御押の總目にして奉謨堂は正祖か歷代書品を藏する爲昌德宮內に建設したるものなり

○ 奎章閣書目　三冊　寫本

本書は奎章閣に藏置せし書籍の目錄にして閱古觀、隆文樓、隆武樓に藏せし書冊及新に內下せる書冊、奎章閣樓上庫、樓下庫に在りし書冊の目錄を分別して記載したるものなり閱古觀は昌德宮後苑に在る書閣の名にして隆文樓及隆武樓は景福宮內勤政殿東西に在る樓名なり

○ 承華樓書目　一冊　寫本

本書は承華樓に藏置せし書冊、書帖、書帖、書簇、壽簇等の目錄にして承華樓は昌德宮に在り憲宗此の樓を建て書畫を貯藏して常に披覽せりと云ふ

○ 大畜觀書目　一冊　寫本

本書は大畜觀に藏置せし書籍の目錄にして大畜觀は昌德宮內に在りし書樓の名なり

○ 隆文樓書目　一冊　寫本

本書は隆文樓に藏置せし書籍の目錄にして書架に依り分錄せるものなり樓は勤政殿の東に在り

○ 寶文閣冊目錄　一冊　寫本

本書は寶文閣に藏置せし書籍の目錄にして寶文閣は王室藏書の所なり

○ 春坊藏書總目　一冊　寫本

本書は侍講院に藏置し王世子講學の用に供したる書籍の目錄なり春坊は侍講院の別稱にして王世子所屬官職の總稱なり

○ 緝敬堂曝曬書目總錄一冊　寫本

本書は景福宮內緝敬堂に藏置せし書籍を曝曬し其の書目を經、史、子、集、書畫、韻、醫、算、新奇、雜著、試帖、小說十二部に分ちて編錄せるものにして緝敬堂は宮內燕寢の傍に在り內藏せるものなるを以て內府祕藏とも稱せり

○ 集玉齋書籍目錄　一冊　寫本

○ 集玉齋目錄外書冊　一冊　寫本

本書は集玉齋に藏せし書冊の目錄にして目錄外書冊は前書に漏れたる書冊を收錄したるものなり集玉齋は景福宮神武門內に在りたり

○ 書香閣奉安總目　一冊　寫本

本書は書香閣に奉安せし歷代の御製、御筆、關王廟碑文簇子、其の他上尊號玉冊文、御製、書冊等の總目錄なり

○ 圖書集成分編第次目錄　一冊　寫本

本書は淸康熙年間に編纂したる圖書集成の閱覽に便する爲索引を示したる目錄にして圖書集成は全部一萬卷、五千二冊、目錄二十冊あり歷象彙編、方輿彙編、明倫彙編、博物彙編、理學彙編、經濟彙編の六編三十二典に分ち浩瀚類なし仍て函次に隨ひ千字文の符號に依り簡明なる第次を定めたるものなり

○ 三南冊板目錄　一冊　寫本

本書は全羅、忠淸、慶尙三道各邑に存在せる冊板を總錄せるものにして英祖三十五年己卯之を調査し冊板の刓缺と冊紙の枚數とを備錄せるものなり

○ 慶州府校院書冊目錄　一冊　寫本

本目錄は慶尙道慶州の龜崗書院東江書院及梅月祠等に所藏せし書冊の目錄なり

○ 嶺南各邑校院書冊目錄　一冊　寫本

本書は慶尙道各地の鄕校、西岳書院、玉山書院、崇烈祠、三溪書院、虎溪書院、泗濱書院、道南書院、玉成書院、近巖書院、檜淵書院、武屹書齋等に藏せし書冊の目錄なり

○ 芸閣唐字數　一冊　寫本

本書は校書館に藏せし衞夫人字と稱する活字の字種及字數の目錄にして太宗十六年明翰林學士

の筆蹟を版本とせし孝順事實、爲善陰隲等の書を字本となし銅活字を鑄造し後又英祖四十八年及正祖元年改鑄す之を衞夫人字と稱す是れ晉李充の母衞夫人の筆蹟を字本としたりとの傳說あるに因る七欌鐵木六萬六千八百七十一字あることを記せり

○ 實錄字數　一冊　寫本

本書は實錄字と稱する活字の字種及字數を錄したる目錄なり此の活字は世祖及成宗の時に鑄造し又顯宗九年にも鑄造し本字數には之を七欌に分藏し鑄字五萬四百三十四字木字二萬七千七百五十四字あることを記せり

○ 韓構字數　一冊　寫本

肅宗二十六年平壤の人韓構の字を字本となし銅活字を鑄造す之を名けて韓構字といふ後正祖六年、哲宗九年にも鑄造せり本書は其の字種及字數を記したる目錄なり

○ 生生字譜　一冊　板本

正祖十六年康熙字典を字本となし木活字を造り之を生生字と名け其の二十年更に之を字本として銅活字を造る之を整理字といふ本書は生生字の字譜にして康熙字典の例に依り字劃の順序に從ひ字種及字數を錄し終に計數を揭け原字一萬四千九百八十六字疊字十四萬四千二百六十字總て十五萬九千二百四十六字小字此に稱ふと記せり

○ 奎章總目　四卷　正祖命撰　寫本

本書は奎章閣に藏せる支那本を經、史、子、集の四に分類し各書に就き其の編著者名と所著義例とを標し或は序跋の文を節取して其の體樣の槩略を示し或は評隲の言を援引して其の編摩の得失を明にせり正祖の時奎章閣諸員に命し之を編定せしめたるものなり

○ 內閣訪書錄　一卷　寫本

本書は奎章閣に藏置せる支那本を經史類、子集類の二に分ち各書に就き編著者及義例評隲を略付せるものにして其の撰者及年時詳ならす

子部

儒家類

○ 聖學十圖　一卷　李滉著　板本

本書は李滉か宣祖の經筵に侍せし時聖學の大端を辨し心法の至要を明にする爲濂洛以來諸儒の圖說に就き其の尤も的確なるものを選擇し每圖の下自己の意見を叙述し又或は前賢の條目規畫に因り自ら之か圖を作り裒めて一卷と成し之を宣祖に進めたるものなり所謂十圖とは第一太極圖第二西銘圖第三小學圖第四大學圖第五白鹿洞規圖第六心統性情圖第七仁說圖第八心學圖第九敬齋箴圖第十夙興夜寐箴圖是なり前後十圖一言以て之を蔽へは唯敬字の工夫に存するのみ李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

○ 聖學輯要　一三卷　李珥著　板本

本書は宣祖八年李珥か弘文館副提學たりし時聖學に益し治道に補あらしむる爲に撰進したるものにして眞西山の大學衍義を以て簡要を缺きたるものとなし直に大學の本旨に據りて次序を立て聖賢の言を引いて之を考證し更に說明を加へたり分ちて五篇となす第一篇統說第二篇修己第三篇正家第四篇爲政第五篇聖學道統是なり此の書は同人著擊蒙要訣と共に朝鮮に於て最も廣く讀まれたるものにして英祖の序文あり李珥の小傳は史部甲戌萬言封事に出つ

○ 聖學要語　四卷　編者未詳　寫本

本書は聖經賢傳中の修養に資すへき語類を集めたるものにして敬の工夫を以て終始せり編者詳ならす

○ 聖賢道學淵源　一卷　編者未詳　寫本

本書は書經の精一執中人心道心の語を冒頭とし以下四書及程朱の語に及ひ以て道學の淵源を示せるものなり編者を詳にせす

○ 心經釋疑　四卷　李滉述　板本

本書は李滉か宋の眞西山の心經を講義の際其の字句に就き解釋を下せるを門人李德弘、李咸亨等の手記せるものなり後此の書江湖に傳播し筆寫

の際往往にして眞を失ひ謬を傳ふ孝宗最も心經を愛讀し顯宗亦之を喜ぶ肅宗に至りて宋時烈等盛に宋學を皷吹するあり終に時烈朴世采等に命して心經釋義を官刊せしむ時烈等因りて李德弘の子孫より古正本を獲て更に之を校正し繁雜を去りて簡明となし以て定本となす字句の澁晦なるものは別に諺文を以て解釋を施せり

李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

○ 心經質疑考誤　一冊　曹好益著　板本

本書は曹好益か心經質疑の誤謬を攷正せるものなり心經質疑は李退溪の門人受業質疑の際師の答を錄したりと稱するも曾て退溪の校閲を經たるものに非す往往誤謬を傳へたり是れ考誤の著ありし所以なり

曹好益の小傳は經部家禮考證に出つ

○ 心經標題　一冊　著者未詳　寫本

本書は著者明ならざるも李退溪の心經講義を原とし更に諸書を參考し難字難句を註釋せるものなり

○ 心學至訣　二卷　朴世采編　寫本

本書は朴世采か肅宗の經筵に侍して心經を講せし時其の根本義たる居敬の工夫に最も力を注き心經中の諸文の外に經傳中より居敬に關する語句を捃摭し之か次第を立て其の題目を分てるものにして敬之綱條敬之工夫敬之事義敬之病痛敬之地頭敬之配合敬之管攝敬之功效の目あり

朴世采の小傳は經部範學全編に出つ

○ 天命圖說　一卷　鄭之雲著　板本

本書は鄭之雲か其の弟鄭之霖と學を講し之霖か性理の說に通曉し難きを虞り朱子の書に基きて天命圖說を作り以て研鑽に資し同時に其の師金慕齋及金思齋に是正を乞ひ兩士未た之を果さすして歿す其の後李退溪と相知るに及ひ舊稿を出して校閲を乞ひ反覆質疑考訂して成本となし剞劂に付す而して本書の天命圖說は朱子の主張と逕庭なしと雖も四端理之發七情氣之發と道破せるは退溪の創見に出てたり遂に之に由りて當時學界の論爭を惹起し後世退溪派と栗谷派と鼓るるの因となるに至れり

鄭之雲字は靜而秋巒と號す慶州の人慕齋金安國、思齋金正國兄弟の門に學ひ意を仕途に絶ち窮居道を樂しむ明宗己巳に生れ辛酉に歿す

○ 三峯心氣理篇　一卷　鄭道傳著　寫本

本書は心難氣氣難心心問天答の三篇より成り心難氣は佛氏修心の旨を述へて老氏を非とし氣難心は老氏養氣の法を擧けて釋氏を非とす要するに儒家は心理氣の三者を說き不偏不易なるか故に三敎中第一なりといふに歸着す心問は心か上天に對して善惡吉凶の報酬屢顚倒することを擧けて質問し天答は上天之に答ふる語にして天定りて人に勝つの意を發揮す蓋し鄭道傳は麗末上下佛老に浸淫せるを慨し屹然として排佛斥老尊儒の旗幟を樹てたるものなり楊村權近本書に序し又註を施せり

鄭道傳の小傳は史部經國六典に出つ

○ 退溪高峯往復書　三卷　李滉著　奇大升著　板本

本書は李滉と奇大升との性情辨難往復書を集めたるものにして退溪集及高峯集の拔萃と云ふへし退溪と高峯とは其の太極に關する說と四端七情に關する說とに於て各意見を異にし數回書を往復して辨難せり本書には四端七情に關する部分は未た悉ささる所あるか如し詳しくは退溪集高峯集及四端七情分理氣往復書を看るへし

奇大升字は明彦高峯又存齋と號す幸州の人なり中宗丁亥に生る宣祖の時に登科し經幄に侍して屢嘉謀を進め官副提學大司憲に至り宣祖壬申に歿し文憲と諡す嘗て李退溪の門に遊ひ聲名あり

高峯集五冊あり

李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

○ 四端七情分理氣往復書　二卷　李滉著　奇大升著　板本

本書は退溪李滉と高峯奇大升との四端七情に關する辨論書を集めたるものなり四端は孟子の所謂惻隱羞惡辭讓是非にして七情は子思の所謂喜怒哀樂愛惡欲なり此の辨論の起りは鄭之雲の天命圖說に李退溪か後叙を書して世間に發表せるに在り退溪の主張は四端は理よりして發し七情

は氣よりして發すと斷し四端七情に理氣を區別するに在り高峯の見地は四端七情は初より二義あるに非す要するに理氣の共發にして四端は理、七情は氣なりと强ひて區別を立つへきに非すとするに在り而して二氏の論爭は結著を見すして終りたり

李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

奇大升の小傳は子部退溪高峯往復書に出つ

○ 四七續篇　一卷　李成渾著　寫本

退溪李滉と高峯奇升大とか四端七情に關する辯論を開始してより端なく朝鮮學界の問題となり爾後歷代の鉅儒最も力を之に傾注せり本書は退溪の說に牛溪成渾、栗谷李珥の說を加へ明宗より宣祖に亘りての三儒宗の說を一冊中に網羅したるものなり附錄として英宗の時の李東の題、林趙の理氣辨後あり

成渾字は浩源、牛溪と號す昌寧の人聽松成守琛の子なり中宗乙未に生れ年十餘にして文才あり遂に意を擧業に絕ち專ら力を道學に效し又休庵白仁傑に就きて學ふ宣祖戊辰遺逸を以て薦められ癸酉持平を拜し官左參贊に至り戊戌六十四を以て歿す謚して文簡と曰ひ文廟に從祀せらる朝鮮の碩儒を論する者多く退、栗、牛を推す而して牛溪は栗谷に長すること二年相俱に道義の交をなし最も親善なりしといふ

李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

李珥の小傳は史部甲戌萬言封事に出つ

○ 旅軒性理說　八卷　張顯光著　板本

本書は張顯光の集中性理に關する文を集めしものなり李退溪と同しく醇乎たる朱子派にして理本氣末太極卽理の理一元論を主張す而して四端七情に關しては退溪に反し却て奇高峯に合せり

本書には圖書發揮篇題、易卦總說、太極說、諸說會通、經緯說總論、經緯排說帖序、曉學要篇、宇宙說を收む

張顯光の小傳は經部易學圖說に出つ

○ 性理淵源撮要　一卷　柳崇祖編　板本

本書は易の一陰一陽之謂道を初め儒家の性理篇及佛氏、老氏、告子等の各派の性理說中殊に其の淵源を道破せるものを采摭せるものなり叙述は極めて簡單なるも頗る要領を得たるものにして性理の學說を知るには便利の書なり

柳崇祖の小傳は經部周易諺解に出つ

○ 宋季元明理學通錄　一一卷　李滉著　板本

本書は退溪李滉の未定稿にして篋底に藏せしを歿するに及ひ門弟遺稿を檢して之を得遂に宣祖九年安東府をして刊刻せしめたるものなり宋の朱子より以下明の蔡虛齋、鄒立齋に至る朱子學派に屬する儒者の行狀、傳記及語錄を最も簡明に列記したり未た以て學案とは看做す能はさるも宋季元明理學派の簡要なる列傳と謂ふを得へし

李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

○ 性理遺編　一卷　李楨編　板本

本書は李楨か性理の群書を讀みて其の中より贊、銘、箴、詩、序、記、文、說、賦、論、行實諸篇を摘出彙輯して一帙とせるものなり明宗十九年刊行す

李楨の小傳は史部景賢錄に出つ

○ 性理管窺　四卷　蔡之洪著　板本

本書は古經傳中の性理に關する諸說を收錄して之に著者の私見を附記せるものなり

蔡之洪字は君範、三患齋と號す仁川の人塞水齋權尙夏の高弟なり顯宗壬寅に生れ官縣監に至る德行あり詩文を善くす別に天文集の著あり英祖壬子に歿す

○ 求仁錄　四卷　李彥迪著　板本

本書は李彥迪か平安道江界に配せられて勉學求道の志愈堅く泰然として講誦に從事す謂へらく仁、義、禮、智、信は五達德にして仁之か首たり所謂仁は萬善の本なり孔門の千萬語要は求仁を說ける に外ならすと因りて四書五經より程、朱、張、眞等宋儒の仁を說ける章句を摭集して之に註釋を加へ以て四卷となし之を求仁錄と名つく書の成りしは明宗五年に在り

李彥迪の小傳は經部奉先雜儀に出つ

○ 百行源　一卷　英祖製　板本

本書は英祖孝道を崇尙し孝は百行の本にして百姓必す行ふへき所以を說き別に諺文を以て譯を

し命して刊行せしめ以て諸道に頒賜したるものなり

○ 孝悌編　一卷　英祖製　板本

景宗英祖の兩代は老少論者の黨爭紛糾し爲に名教の分明ならざるもの多く竟に闡義昭鑑嚴辨錄等の編纂あるに至れり本書は英祖の製にして孝悌の大義を講述し人道の大綱を闡明し以て其の意のある所を示せり

○ 孝行錄　一卷　權溥權準編　板本

本書は權溥老境に躋りし時其の子權準畫工に命し二十四孝の圖を描き益齋李齋賢に乞ひ之が贊を作らしめ之を父に獻し以て慰安に供す溥自ら三十八孝行を選ひ又益齋をして贊を作らしむ前二十四贊は十二句後三十八贊は八句なり後權近之に註解を施し跋文を加へて剞劂に付し孝行錄と名け童蒙をして詠歌諷誦せしめ以て孝道皷吹の資となせしものなり

權溥字は齊萬菊齋と號す高麗忠烈王の時の人官大提學政丞に至り永嘉府院君に封せらる

權準字は平仲松齋と號す忠宣王の時官贊成に至り吉昌府院君に封せらる

○ 敦孝錄　五七卷　朴聖源編　板本

本書は朴聖源が古今經史の中孝行に關する文を拔萃して編せるものなり孝經孝義孝敎生事喪事奉祭孝感顯美繼述廣孝の目あり英祖五十二年に脫稿す正祖の序文あり

朴聖源の小傳は經部禮疑類輯に出つ

○ 敦孝須知　二卷　熙政堂編　寫本

本書は孝を以て德の總稱となし百行の本を孝に歸一し古來の孝に關する言說を撫集し部門に分ちて排列せるものなり孝の本然孝の體より孝と各德目との關係を說き終に孝行の例を擧げたり

○ 孝說　一卷　朴敦行著　板本

本書は朴敦行か年七十三の時の撰述にして事親の節を十三段に分ち古書を引用して之を說明し以て人子の爲に鑑戒を垂示したるものなり

朴敦行字は愼吾純祖の時に生れ李太王の時歿す志を官途に獲さりしと雖も至性篤孝の士なり

○ 廣孝錄　二卷　編者未詳　板本

本書は英祖四十一年既に高齡に達し世子諸臣屢進宴を請ふの疏を奉り遂に受爵の典を行ふに至りたる事實を錄せり傳敎御製文別單其の他廷臣の謝箋上疏箚子を列記す

○ 三綱行實圖　三卷　世宗命撰　板本

本書は世宗十三年集賢殿副提學偰循等に命して支那朝鮮の書傳中より君臣父子夫婦三倫の模範となるへき忠臣孝子烈女を選拔して編輯せしめたるものにして各事實に圖を配し漢文を以て說明し次に七絕二首を以て詠歌に便にし更に四言一句の贊を加へ圖の上欄には諺文を以て漢文と同意味を書き添へたり收むる所孝子三十五人忠臣三十五人烈女三十五人なり三綱行實出てて後中宗九年に續三綱行實成り同しく十三年に二倫行實圖成り正祖二十一年に及ひ三綱行實圖と二倫行實圖とを集め修整を加へて五倫行實となし此に倫常圖の完成を見るに至れり

偰循は慶州の人なり慶壽の子にして太宗戊子生員文科に中り丁未重試に登り官吏曹參議に至る博學能文を以て世に顯る

○ 續三綱行實圖　一卷　中宗命撰　寫本

本書は中宗九年大提學申用漑に命して撰進せしめしものなり蓋し世宗の時三綱行實の命撰ありし以來年代已に久うして其の間又忠孝貞烈の甄錄すへきもの尠からす故に申用漑等は專ら事例を近世に採りて續三綱行實を作れり孝子例三十六人忠臣例六人烈女例二十八人各例の終に七絕二首を附して之を歌誦せしむ

申用漑字は漑之二樂亭又松溪と號す高靈の人保閒齋申叔舟の孫なり世祖癸未に生れ成宗戊申の文科出身たり成宗龍山に讀書堂(湖堂)を叛設し文學の士を精選し以て修養の所となすや用漑首として其の選に入る一時之を榮とす中宗の時文衡を典り士林の領袖たり遂に相國を拜し能く姦黨を斥退す中宗己卯に歿し文景と謚せらる

○ 二倫行實圖　一冊　曹伸撰　板本

本書は金安國か中宗の經筵に侍講たりし時長幼

朋友の二倫を撰し之を三綱行實に加へて世に行はむことを進言し王の嘉納する所となりたるも未た行ふに及はすして慶尙道觀察使に轉す因りて之を司譯院正曹伸に囑して撰次せしめ印行して管內に頒つ體裁は三綱行實に似て長幼朋友の德行を圖に描き其の上に諺文を以て說明し終りに同意味の漢文を添へたり收むる所兄弟圖二十五人家族圖七人朋友圖十一人師生圖五人後正祖二十一年に至り三綱行實圖と合して五倫行實となせり當時童蒙須知、口訣小學、三綱二倫行實、性理大全諺解、正俗諺解、呂氏鄉約諺解、農書、蠶書諺解、瘡疹方等の書籍を刊行頒布せりと云ふ

金安國字は國卿、慕齋と號す義城の人成宗戊戌に生れ燕山君癸亥の文科出身たり官大提學左贊成に至り諡して文敬と曰ふ仁宗廟庭に配享せらる中宗辛卯日本使節朔中來る時接伴官たり使節慕齋に謂て曰く吾れ再ひ明に使し兩度琉球に遊ひ三度朝鮮に來る而して未た君の如きものを見すと弟思齋と共に業を寒暄堂金宏弼に受け兄弟竝に儒林の宗匠たり中宗癸卯に歿す

曹伸字は叔奮、適庵と號す偉の庶弟なり官敎官に至る七たひ燕京に赴き三たひ日本に往く文章を能くし著す所百年錄、謏聞瑣錄等あり

○ 五倫行實圖　五卷　正祖命編　板本

本書の解題は三綱行實圖、二倫行實圖に於て略之を悉せり收むる所孝子三十三人忠臣三十五人烈女三十五人兄弟二十四人宗族七人朋友十一人師生五人なり

○ 槐山郡三綱錄　一冊　尹鑑烈編　板本

本書は忠淸北道槐山郡の三綱錄にして忠臣孝子烈婦百四十九人を收錄す

尹鑑烈は純祖の時の人槐山郡の土班なり

○ 內訓　三卷　仁粹王妃撰　板本

本書は懿敬世子卽ち德宗の妃韓氏の撰なり韓氏は淸州の人左議政韓確の女にして成宗を生む閨德夙に顯れ歷代后妃中其の比類を見す妃嬪の爲に內訓七篇を手書して規箴となしたるもの卽ち是なり

○ 自省編　二卷　英祖撰　板本

○ 續自省編　一卷　英祖撰　寫本

前書は英祖二十二年、後書は同三十五年に於て親ら各內外二編を撰し李喆輔、元景夏、趙明履等をして校考せしめたるものなり其の內編は身心を以て主眼となし外編は鑑戒を以て要旨とし俱に自省に資せしものなり

○ 廣補自警編　二五卷　編者未詳　寫本

本書は序文に採本朝之退溪、栗谷、尤庵三先生之言、以附焉とあり又於宋人自警本編精抄其格言至論、付之篇末、合以名之曰廣補自警編とあれは大體は漢土の學問事業行誼を主とし朝鮮先儒の言論をも採錄したるものにして宋の趙善璙著す所の自警編に倣ひ編纂したるものなり目を分つて修己、識量、出處、格君心、知人、爲政、安民、自警本編鈔となす

○ 後自警編　六卷　金昌集編　寫本

本書は肅宗の時金昌集か宋の趙善璙著す所の自警編の例に倣ひ朝鮮古今人の行誼事業の以て鑑戒となすへきものを集め十二編となしたるものなり李頤命の序文正祖の跋文あり

金昌集字は汝成、夢窩と號す安東の人仁祖戊子に生れ顯宗癸丑進士となり肅宗甲子登科し官右相に拜し尋て領議政に陞る景宗、壬寅建儲の事に關し士禍に遇ひ巨濟島に竄謫せられ竟に死を賜ふ

○ 進修楷範　二卷　柳雲編　板本

本書は柳雲か古書中より修德に資する文句を拔萃して備忘となしたるもの五年を經て裒然冊を成せり中宗十四年之を刊行す事父母、處兄弟、撫宗族、御卑幼等の九門あり

柳雲は文化の人なり燕山君の時に登科し官大司憲に至る己卯の士禍に黜けられ縱飲疾を成して歿す文敬と諡す別に文集あり

○ 歷代修省便覽　二卷　李沃編　寫本

本書は顯宗元年李沃の編次したるものにして其の內容は古帝王の天變地異、其の他水、旱、風、蝗等の災害に遭遇する每に恐懼修省し善言嘉謀を聞いて其の政を改むるあり或は之に反して國家の衰亡を招きたる前後二十五條の例證を春秋列國紀、

西漢紀、東漢紀、六朝紀及ひ唐紀に採り進獻したるものなり

李沃字は文若、博泉と號す仁祖辛巳に生れ顯宗の時に登科し官吏曹判書に至る頗る文名あり尤庵と親しみ善し晩年柳命賢と清濁の論を爲し罪謫せらる肅宗戊寅歿す

○ 古鏡重磨方　一卷　李　滉編　板本

明鏡の本體玲瓏なれとも塵翳之を覆へは則ち其の本體を失ふ人人其の心を磨すること須らく古鏡を磨するか如くなるへし此の見地に於て退溪李滉は支那の古書中より上は湯の盤銘より下は朱晦菴眞西山の述作に至るまて苟も磨心の材料となる可き箴銘を摭錄して以て本書を成せり蓋し學者をして日常反覆玩味して德性の涵養に資せしめむと欲するものなり退溪歿後門人寒岡鄭逑之を刊す時に宣祖四年なり

李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

○ 種德新編　三卷　金　堉著　板本

本書は金堉か幼時小學を讀み感激する所あり遂に道德涵養の要項を主とし此の書を編せり仁祖の序文あり

金堉の小傳は史部己卯諸賢傳に出つ

○ 種德新編諺解　三卷　金　堉著　板本

種德新編に諺文を以て解釋を附したるものなり

○ 關西問答錄　一卷　李全仁編　板本

本書は晦齋李彦迪晩年平安道江界に謫せられ庶子全仁隨ひ行き朝夕側に侍し學問に關する問答をなして教益を受け之を記集して關西問答集と名け全仁の玄孫弘氣、月沙李廷龜の孫李端相に託して之を上梓す顯宗六年なり附錄として李全仁の獻せる進修八規疏を載す疏は全仁か宣祖に上りて父晦齋の忠義を辨明せるものなり

李全仁字は子敬、潛溪と號す晦齋の庶子なり明宗の時に生れ篤學行義を以て聞ゆ官禮賓正に至る外に晦齋言行錄を著す宣祖の時に歿す

○ 溪山記善錄　一卷　李德弘著　寫本

本書は李德弘か其の師事したる朱子學の泰斗李退溪の學問品性より日常瑣事に至るまて親炙指導を仰きたる問答隨筆にして外曾孫の金萬烋之を編次して後進の訓戒に資す

李德弘の小傳は經部周易質疑に出つ

○ 陶菴語錄　一卷　朴大陽編　寫本

本書は陶菴李縡の語錄にして朴大陽の編成せるものなり李縡は肅宗の時登科官副提學に至り致仕して復た出てす帷を下して子弟を敎ふ朝鮮名儒の一人なり本語錄中に言ふあり請曰、於學不知方向、當於何字先用力、先生曰、此難以一字指示、小學要旨不出敬直二字と亦以て其の學風を見るへきなり

朴大陽字は聖中、東岡と號す陶菴の門人なり

○ 大東正路　六卷　許　伋著　板本

本書は李太王四十年許伋か古道の衰亡を嘆し世態人心を矯正せむとして編次したるものなり初に漢、唐、宋、明各代に於て儒敎を尊崇し國家の治平を致せし故實、沿革等を說明し之に次くに朝鮮古今の名臣巨儒の善言德行を附記し以て近時新學の風潮を防止せむとしたる所謂儒生一派の思想に據り論議したる著書なり

許伋は憲宗丙申に生る其の他詳ならす

○ 女四書諺解　四卷　著者未詳　板本

本書は後漢曹大家の女誡、唐宋若昭の女論語、明仁孝文皇后の內訓、明王節婦の女範都合四種の書を集めたる女四書に諺文の句解及解釋を附したるものにして御製序あり

○ 讀書記　四卷　朴世采著　寫本

本書は朴世采か小學、近思錄、大學、中庸を以て道に入るの無二門となし朱子の註釋中猶は未た曉り易からさる所あるを以て普く朝鮮諸儒の說を參考し之に自見を加へ解釋せしものなり顯宗九年に成り肅宗四年更に數言を補記せり讀書の餘成れるか故に之を讀書記と名く

朴世采の小傳は經部範學全編に出つ

○ 困齋愚得錄　三卷　鄭介淸著　寫本

本書は鄭介淸の筆錄にして善惡皆天理論、從陸子者箇々學得不遜悖慢無禮說、論四端七情之發及宣

祖に上れる諸疏文あり

鄭介清字は義伯困齋と號す羅州の人中宗の時に生れ幼にして學に志あり易學律呂に至るまで研鑽遺す所なし中年京城に出てて開城の徐花潭に從學し此に忽然として道の本體を會得する所あり晩年全羅南道務安の淹潭に卜居して道を講す遠近來り學ふ者甚た多し其の學は一に程朱の規に從ひ稱して醇粹となす鄭澈と素と惡し澈の上卿となるに及ひ困齋に排節義說の著ありと稱して之を擠し慶源に謫す終に其地に沒す時に宣祖の十一年なり

○日得錄　六冊　奎章閣編　寫本

本書は正祖か奎章閣の文臣に命し記錄せしめたるものにして政事文學人物評論等あり

○兩賢傳心錄　八卷　正祖命編　板本

本書は正祖の二十年朱熹の封事奏文及賦詩に就き朱子の學說及政論等を見るへきもの及尤庵の封事奏文詩文に就き尤庵の主張人物を見るへきものを集めしめ之を兩賢傳心錄と名け序を冠して國內に行はしむ由りて以て國人をして普く尤庵か朱熹の心法を傳へて其の思想文章一轍に出つるを知らしめたるものなり別に附錄あり朱熹及宋時烈の傳を載せり

○近思錄釋義　一四卷　鄭曄著　板本

本書は鄭曄か近思錄を以て聖學入門第一の書となし最も力を之に注き其の難解の處に至りては諸儒の說を引き併せて己の見を加へ以て之を編成したるものなり其の體裁は近思錄の本文を大字を以て書し之に程朱の釋註を添へ間間按字を以て自己の見解を附せり顯宗二年に至り宋時烈之を精密に校正し多少の改訂を加へて上梓せり鄭曄字は時晦守夢と號す草溪の人明宗癸亥に生れ宣祖十六年に及第し官參贊に至る栗谷の門人にして沙溪金長生と同學なり仁祖乙丑に歿す別に國朝寶鑑錄の著あり

○經史集說　一五卷　編者未詳　板本

本書は經史中の句語を二十四門に分ち各類を以て集めたるものなり編者の姓名刊印の時代共に詳ならす

○小學諺解　六卷　李珥著　板本

本書は栗谷李珥か小學を以て聖學入門の書となし一般婦人童幼の學習に便ならしむる爲諺文を以て解譯を附したるものなり

李珥の小傳は史部甲戌萬言封事に出つ

○小學抄略諺解內篇　一卷　李珥著　寫本

○小學抄略諺解外篇　一卷　李珥著　寫本

本書は栗谷李珥の著したる小學諺解の抄略なり

李珥の小傳は史部甲戌萬言封事に出つ

○朱子書節要　二〇卷　李滉著　板本

本書は退溪李滉か中宗三十八年初めて朱子大全を讀み其の門弟交友と往復の尺牘集四十八卷は特に入學の便に資すへきもの多きを見て略して二十卷となし之を朱子書節要と名けたり然れとも之を筐底に藏して世に公にせす唯門人の傳寫するに任せたるのみなりしか退溪歿して後門人之を梓に上し始めて廣く世に行はる退溪の稿を脫せしは其の五十八歲明宗十三年にして始めて刻に付せしは宣祖五年なり

李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

○朱子書節要講錄　二卷　李滉述　寫本

本書は退溪李滉の朱子書節要の講義を門人艮齋李德弘の記錄せるものなり或は漢文を以てし或は諺文を以てせり

李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

○朱子書節要記疑　二卷　編者未詳　寫本

本書は朱子書節要の難字、難句、難義を拾集し或は漢文を以て或は諺文吏讀を以て註釋せしもの也

○朱子大全拾遺　六卷　朴世采編　寫本

朱學の朝鮮に行はれしより其の著書の編刊せらるるもの極めて多し朱子大全及續大全別大全等何れも宣祖より顯宗の間に刊行せられたり朴世采は以上三書中に撰錄せさりし詩文猶は少なからさるを以て別に此の書六卷を作りて之を收錄せり其の成りしは顯宗十三年なり

朴世采の小傳は經部範學全編に出つ

○朱子大全箚疑　一二一卷　宋時烈著　板本

李退溪朱子書節要二十編を作り又記疑一冊を著し其の後又鄭曄酌海八卷を作りて朱子書節要を補ひ學者をして朱子全集を讀むの勞を省かしむ然れとも退溪の記疑は猶は未た精詳を缺くの嫌あり宋尤庵更に記疑に繼きて朱子大全中の難字難句及疑義あるものを逐卷拾集し時の學者金壽興、金壽增、金壽恒と相質議して之を註解す朱子大全箚疑是なり書成りしは仁祖七年なり

宋時烈の小傳は經部論孟問義通攷に出つ

○ 朱子大全箚疑問目 一二卷 編者未詳 寫本

尤庵宋時烈朱字大全箚疑を著し朱子大全中の難語句を註釋せり然るに其の註釋猶ほ往往にして妥當ならさる所あり因て更に疑問と思はるる節を擧けて尤庵と見を異にする所を說述せり

○ 朱書分類 五四卷 編者未詳 寫本

本書は各種目を以て朱子全集を分類したるものなり編者未詳なれとも蓋し朝鮮人の手に成れるものならむ分類の順序朝鮮儒者の洙學究研凡例に從へるを以て看るへし

○ 朱書百選 六卷 正祖編 板本

本書は正祖か卽位の十八年親ら朱子全集に就き其の延平李先生に上る書陳侍郎陳丞相汪尙書張敬夫其の他と往復せし書等一百篇を選定したるものなり

○ 朱書講錄刊補 六卷 李栽編 板本

朱書中問問難解の語句あり世に退溪門の著として朱書講錄を傳ふるも亦往往にして誤解あり蓋し退溪の校正を經たるものに非されはなり是を以て李栽更に本書を編す概ね講錄を襲踏し諸書を博涉し而も臆斷を加へす講錄の所記に疑しきあれは恐記誤と記し或は當詳之と記入せり書の成りしは肅宗三十九年に在り

李栽字は幼材密菴と號す載寧の人葛菴李玄逸の子なり家庭の訓を受け篤行躬學肅宗の時官主簿に至る

○ 朱文酌海 一六卷 鄭經世編 板本

本書は鄭經世の選定する所なり尤菴宋時烈の跋に曰く朱子大全は浩瀚にして學者窺ふこと易からす愚伏茲に見るあり依て此書を成せり云云と鄭經世字は景仁、愚伏堂と號す晉州の人なり明宗十八年癸亥に生れ早く西厓柳成龍に就いて學ひ宣祖十五年壬午進士となり其の十九年丙戌登科し溯堂に入る光海君の時陳疏して旨に忤ひ禍將に身に及はんとして李恒福等の進言に依り解職に止まりて事なきを得たり仁祖初年大提學を拜し其の十一年癸酉に歿す諡して文肅といひ後文莊と改む

○ 朱文抄選 四卷 編者未詳 板本

本書は朱子の文を抄選したるものなるも編者年代共に詳ならす

○夙興夜寐箴註疏 一冊 盧守愼撰 板本

本書は宋の陳茂卿の原作に係り朝鮮中宗の時盧守愼島配中に在りて之を讀み其の辭旨の簡切にして工夫の周密なる大に聖賢の學に效ありとなし乃ち先儒の成說を援取し逐條註疏を加へ宣祖の時に至りて之を獻せしものなり宣祖嘉納し校書館に命し印行せしめ後僧杜遲更に醵財私刊せり後又正祖の時本書に附するに聖學十圖中に在る箴圖を以てし校書館に命し印行せしめ侍講院文學黃景源の書に係る正祖の序を卷首に冠せり盧守愼の小傳は史部盧蘇齋侍講錄に出つ

○ 敬齋箴集說 一冊 李象靖著 板本

本書は李象靖か宋の朱子敬齋箴を正條とし程朱以下學者の敬に關する諸說を列擧し朝鮮にては李退溪の說を加へ而して按の一字を下して自家の意見を挿入せり卷首に宋の王魯齋の敬齋箴圖を揭け一目瞭然たらしむ蓋し敬を以て聖學の根本義と看做せるものなり

李象靖字は景文大山と號す肅宗辛卯に生れ密庵李栽の門に學ひ英祖乙卯及第し刑曹參議となる後安東に退いて帷を下し子弟を敎育す極めて正統なる退溪派の學者なりと云ふ正祖辛丑に歿す

○ 童蒙先習 一冊 朴世茂著 板本

本書は中宗の時朴世茂の編する所なり五倫の要義を簡短に叙述し而して之か總論を附し更に支那朝鮮の歷代世系歌を錄し以て童蒙の諷誦に便

にし德行の涵養に資せり首に肅宗の序あり後に宋時烈の跋あり蓋し朝鮮の習慣として兒童か書を學堂に學ふは初に千字文次に此の書なり如何に廣く世に行はれたるかを知るへし

朴世茂字は景蕃,逍遙堂と號す咸陽の人成宗丁未に生れ中宗辛卯文科に及第し官檢閱獻納に至る吏院に在る時直言を以て權貴に斥けられ邑倅となる識者目して吏隱と云ふ本書を著し子弟に授け年七十八にして明宗甲午に歿す

道家類

○ 句解南華眞經　一〇卷　編者未詳　板本

本書は林希逸の莊子口義に諺文を以て句解を施したるものなり卷末に敎授李士表の新添莊子十論を附せり著者詳ならす

○ 莊子辨解　一冊　韓元震編　寫本

本書は南塘韓元震か莊子を門人に講せるものを編集したるものなり然れとも南塘の意は莊子を以て學ふへしとなすに非す異端の孔孟の道と異る處を明にし學者をして邪徑に迷はさらしめむと欲するに在り故に內篇各章の大意を說くに止め字解句釋は之を略せり

韓元震字は德昭,南塘と號す淸州の人遂菴權尙夏の門人なり宣祖の時に生れ光海君の時官執義兼經筵官となる文章浩博骨て李巍岩と本然氣質の性を論し往復爭辨せり孝宗の時に歿す文純と謚せらる

○ 三聖訓經　一卷　編者未詳　板本

本書は關聖帝君(蜀漢の關羽),文昌帝君(晋の張亞),孚佑帝君(唐の呂巖)三聖の經文に諺文の譯を附したるものなり三人共に生前の功德に因り仙果を成し天宮に陞り帝君の位を得て下界人間の善惡を監視し禍福を降すと是れ淸の時代に至りて俄に勃興せる道敎の一變態なり儒に似て儒に非す釋に似て釋に非す又老子の敎義に全く依れるにも非す三帝中關帝最も强力にして至上至尊三界伏魔大聖關聖と稱す文昌帝君は擧科の司部神にして司祿職貢擧眞君と稱す孚佑帝君は諸顯成就の神にして四生六道有感必孚,三界十方無求不應と稱す此の經文は李太王故閔妃と共に最も之を信奉したりと云ふ

○ 敬信錄諺釋　一卷　編者未詳　板本

本書は道敎の諸說及各種應報の事蹟を集めたる敬信錄を諺文を以て譯せるものなり道敎の說に據れは禍福は人の自ら招くものにして幽冥に諸神あり各人の行動を玉皇上帝に報し其の裁斷に依りて吉凶の果を下すものとせり諸惡莫作諸善奉行を敎理の第一義として經文,呪文を作りて善を勸め惡を懲すを方便とせり

○ 感應篇圖說　五卷　著者未詳　板本

本書は善惡感應必然の理を圖說したるものなり經典は已に敬信錄に收めたるを以てこの感應篇は漢文に諺文の譯を附し且圖を加へて了解に便せり李太王の命刊に係る

釋家類

○ 禪門拈頌集　三〇卷　釋慧諶編　板本

本書は釋慧諶か高麗高宗十三年海東曹溪山修禪社に在りて編錄せしものなり由來禪門は不立文字と稱するも其の源を得むと欲すれは其の流を尋ぬるに如かさるを以て諸佛祖の拈頌等に就いて凡そ千百二十五則を採集し以て悟宗論道の資となしたり眞に法林の傳燈と謂ふへし朝鮮に至りては仁祖十四年全羅道寶城地大鳳山大原寺に於て開刊す

釋慧諶は眞覺大師と稱し無衣子と號す高麗高宗の時の人佛日禪師の嗣法にて曹洞宗の智識なり

○ 禪門拈頌說話　三〇卷　釋覺雲著　板本

本書は覺雲禪師か禪門拈頌集の拈中の語を摘擧し之に詳密なる說話を施したるものにして拈頌集の註疏と視て可なり高麗にては廣く世間に行はれ禪門必讀の書となれるか如し然るに朝鮮に至り佛敎排斥せらるるや此の書亦世に出てす深く山寺に藏せられたるを天隱子別號三敎了父なる處士之に序を弁して開刊せり

覺雲禪師は龜谷と號し高麗高宗の時の人にして

釋慧諶の門弟なり

○天地八陽神呪經　一冊　編者未詳　板本

三藏法師義淨の釋敎文に諺文を以て句讀を附したるものなり竈王經、歡喜竈王經を附載す

兵家類

○歷代兵要　一三卷　李石亨等編　板本

本書は李石亨か全羅道觀察黜陟使たりし時同僚趙枚、宋休明等と共に編纂せるものなり支那上代より朝鮮太祖に至るまての史冊に現れ兵略上趣味ある戰爭記事を拔萃せるものにして太祖女眞胡拔都を大破するを以て終れり世祖元年光州に於て開刊す

李石亨の小傳は經部大學衍義輯略に出つ

○東國兵鑑　二卷　文宗命編　板本

本書は文宗の命編に係り前漢武帝か朝鮮を滅したる戰役を初とし以下高麗廢王禑の時李太祖か女眞人拔都を擊退せしに至るまて大凡そ朝鮮と支那との間に起れる戰役を列擧せるものなり

○兵將說　一卷　世祖著　板本

世祖は朝鮮歷代中最も兵事に心を用ひ性格剛毅果斷將略あり機に臨み事に應して諸將に訓示する所皆鑿鑿として肯綮に中れり然れとも其の言簡潔にして解し易からさるものあり因りて時の名臣申叔舟、鄭麟趾、姜希孟等之に註釋を施したるもの卽ち本書なり兵說、將說、論將篇、兵法大旨あり簡にして要を得何れも兵家の箴となすに足る

○兵將圖說　一冊　文宗命撰　成宗命訂　板本

本書は文宗の命撰に係る陣法書を修訂せるものなり陣法書は文宗元年初刊の後更に大字小字の二種本あり小字陣法書は端宗三年に成り大字陣法書は世祖四年に成り概ね大差なしと雖も節目に至りては互に出入不同あり成宗之を憾とし其の二十三年柳子光等に命し更に再訂して定本となさしめ之を印行す卽ち本書なり其の體裁を見るに項目內容は初板の陣法と異る所なく唯諸種の圖は卷末に載せしを此には圖を初に載せ文を後に載せたり

柳子光字は于復、靈光の人なり初め甲士として上疏自薦せるを以て世祖其の人と爲りを壯とし擢て兵曹佐郎と爲す戊子文科に登り翊戴功臣となり武靈府院君に封せられ次て中宗反正の際靖社功に錄せらる後臺諫の劾に因り竄せらる

○續兵將圖說　一冊　英祖命撰　板本

成宗の時兵將圖說あり古今の陣法を說けり其の後制度變遷あり英祖己巳趙觀彬、朴文秀、具聖任、金聖應、金尙魯五人に命し更に兵將圖說に續いて本書を成さしむ其の體裁及內容等兵將圖說と大差なし初に武旗を載せ次に九宮八陣、六花圓陣、方陣、直陣、銳陣、疊陣、鶴翼、曲陣、玄武陣等諸種の陣形を載せ終に形名結陣軍令を載す就中軍令を說くこと最も詳し

趙觀彬字は同甫、悔軒又東湖と號す楊州の人二憂堂泰采の子なり肅宗辛未に生れ甲午登科す景宗辛丑建儲の事に關して泰采死を珍島の謫所に賜はるや觀彬亦濟州に流されしか後放還せられ英祖の時三司吏郎を歷て文衡を典し兼禮判に至り丁丑に歿す

○兵學指南　五卷　正祖命編　板本

本書は明の元帥戚繼光の著紀効新書中操練の法を撮要して編成せるものなり正祖十一年新に刊行す五卷より成り旗鼓定法、旗鼓總決、營陣正彀、營陣總圖、揚操程式、城操程式、水操程式を收む

○行軍須知　二卷　金錫胄編　板本

宣祖壬辰役以來朝鮮にては兵學盛に講究せられ種々の支那兵書飜刻せらる本書は肅宗の時の右相金錫胄か兵曹判書たりし時武經總要中より其の兵事に緊要なるものを抄出し單行本として刊行せるものなり正祖命編の兵學指南と相須ちて當時兵家の要書たり

金錫胄字は斯百、息庵と號す淸風の人にして潛谷堉の孫、歸溪佐明の子なり仁祖甲戌に生れ孝宗丁酉進士壯元に顯宗壬寅文科壯元に捷ち肅宗庚申許堧、許璞等の隱謀を密啓したる功に依り保社功臣に錄せられ封を淸城府院君に受け文衡を典り右議政に至る謚して文忠といふ錫胄名門に生れ

高官に陞り爵位人臣を極めしと雖も庚申の事變に關して金益勳と偕に南人の怨府となり又延て西人老少分派の素因を作る殁するの後六年肅宗己巳南人再ひ志を得るや勳功を削り爵號を褫ふ其の子道淵は憤死し夫人黃氏は流に處せられ慘禍を遺したり後又甲戌南人廢せらるるに及ひ官職及勳號を復せらる

○ 兵學通　二卷　正祖命編　板本

本書は正祖卽位の初張志恒等に命し編輯せしめたるものにして大體續兵將圖說、兵學指南に依り又之に現行練習の圖を加へたるものなり收むる所塲操、別陣號令、分練、夜操、城操、水操、陣圖あり皆當時實行せるものに係り今の操典に類せるものなり正祖九年に刊行す

○ 武藝圖譜通志　四卷　正祖編　板本

朝鮮當初の武藝は射の一技に止まりしか宣祖の時壬辰の役ありてより更に各種武技の必要を感するに至れり偶ま明戚繼光の紀効新書を購ひ得て始めて棍棒を加へ十二般となし英祖の時に至り更に長鎗を加へて十八般となし正祖に至り騎藝の六技を加へて二十四般となす本書は此等の武藝を圖に描きて說明せるものなり收むる所長鎗、竹長槍、旗槍、鐵鈀、騎槍、狼筅、双手刀、銳刀、倭劍、提督劍、本國劍、双劍、馬上双劍、月刀、馬上月刀、挾刀、藤牌、拳法、棍棒、鞭棍、馬上鞭棍、擊球、馬上才の二十三技射を加へて卽ち二十四般なり

○ 武藏圖譜通志諺解　一冊　正祖命撰　板本

本書は武藝圖譜通志の諺文解にして正祖の命撰に係る

○ 陣法　一卷　文宗命編　板本

太宗及世宗武を重し河崙、卞季良等に命して陣法に關する古來の諸說を選集せしめたり然るに其の書唯古文に據りて編述せるに過きす因りて文宗更に王弟李瑈後世祖、鄭麟趾、金孝誠等に命して新に陣法を編述せしむ卽ち本書なり收むる所分數形名、結陣、用兵軍令、勇怯之勢、勝敗之形とす而して別に卷末に各編の繪圖を添へて說明せり文宗元年に開刊す

鄭麟趾の小傳は史部高麗史に出つ

○ 陣說　一卷　韓孝純編　板本

本書は韓孝純か當時の武士專ら弓馬の餘技のみを學ひて兵書を講習し戰法を研究する者なきを慨し古今の兵書中陣法及行軍に關する部分を拔萃し又之に諸家兵を論するの語を加へ以て本書を作れり而して序に於て必す實際に行ふへきものなることを論斷せり

韓孝純字は勉叔、月灘と號す中宗癸卯に生れ宣祖丙子文科に登り官左相に至る光海君の時廢母の議を庭請す仁祖立つに及ひ官爵を追削せらる

○ 肄陣總方　一卷　編者未詳　板本

本書は諸種の作陣法を集錄したるものなり多くは金鼓、砲哮、囉喇叭等の樂器と旗幟とを以て號令を傳へ動作を行はしむるものにして方陣、內陣、直陣、銃陣、曲陣、玄武陣、六花陣の圖を添ふ

○ 制勝方略　二卷　金宗瑞著　李鎰增補　板本

本書は太宗、世祖の時の名將金宗瑞か案出し宣祖の時北鎭の勇將李鎰之を增補修正せるものなり初に慶興鎭、慶源鎭、鐘城鎭、穩城鎭、會寧鎭、富寧鎭、吉州鎭、鏡城鎭等八鎭城の部落堡壘等の位置及攻守の要害と用意とを詳記し次に防邊隊の守るへき軍務二十九條禁令二十七條及穩城、鐘城、會寧、慶源、吉州、富寧六鎭の軍官の官名を書し終に宣祖の時の咸鏡北道兵馬節度使李鎰の諸行制勝方略狀と之に對する朝廷の回狀とを附せり咸鏡道胡人の防備は朝鮮の重大軍政なりしを以て金李二名將か之に對して周到なる劃策を立て事あれは六鎭五衞協力して相救援するの制となせしは機宜を得たりといふへし

金宗瑞字は國卿、節齋と號す順天の人太宗乙酉文科に及第し世宗の時咸吉道都節制使となり文宗の時左議政に陞り几杖を賜ふ頗る智略あり時人目して大虎となす世祖癸酉に殁す

李鎰字は重卿、龍仁の人なり明宗戊午武科に中り將略あり尼湯介か慶源、鐘城に亂を起せる時特に慶源府使となり防禦の任に當る宣祖壬辰の役東邊防禦使となり屢戰功あり辛丑に殁し左參贊を

贈らる

○ 風泉遺響　一卷　宋奎斌著　寫本

本書は正祖二年宋奎斌か壬辰の役丙子の變に鑑み國防陣形兵器等に付き私見を縷述したるものにして慷慨の氣淋漓の筆其の人を想見するに足る

宋奎斌は正祖の時の人官正憲大夫行同知中樞府事に至る

○ 民堡輯說　一卷　申觀浩編　板本

李太王三年丙寅佛國軍艦江華島を攻擊し擧國騷然たり申觀浩時勢に鑑み國を守るは人民個個をして守らしむるに如くなきを思ひ翌年此の書を作る伍甲堡制堡器保約に分ち多くの古兵書より抄出せり

申觀浩字は國賓威掌と號す後に名を檍と改む純祖辛未に生れ官兵曹判書に至り李太王戊子に歿す

○ 神器秘訣　一卷　韓孝純編　板本

本書は韓孝純か宣祖三十六年咸鏡道巡察使たりし時當時世に傳れる銃器火藥の用法及製法を記せる書籍中實用に適切なるものを拔集し之に太公兵法孫子兵法尉繚兵法戚繼光兵法を補添せるものなり神器と云へるは銃砲の他の武器に比し神妙の用あるか爲なり

韓孝純の小傳は子部陣說に出つ

○ 馬經諺解　二卷　李曙著　板本

本書は馬經を諺文に抄譯せるものにして仁祖の時李曙の著に係る文中處處圖を挿入せり

李曙字は寅叔月峰と號す孝寧大君補の後なり武科に中り長湍府使となり癸亥兵を募りて義を擧く仁祖親ら曙を延曙に迎ふ靖社元勳に錄し完豐府院君に封せられ忠定と謚す摠戎使を以て南漢山築城を董し積痒鬚髮盡く白し丙子北門を守り忽地に倒れ寓舍に歸り婿蔡裕後に謂つて曰く會稽の恥雪かす吾瞑目する能はすと

○ 全羅兵營吏奴作隊成册　一冊　寫本

本書は全羅道に於て組織せし軍隊の配置地方及將卒の定員を記載せり本隊は當時新設のものに係り其の卒伍は全州監營に屬する吏奴羅卒及管內の居住人民を招集して訓練を加へ一時の防備をなしたるものなり

○ 南漢出鎭軍制釐革成册　一冊　寫本

本書は朝鮮全土の要衝に配置したる兵營烽臺に於ける常備將卒並に武庫兵器等の總數を錄したるものなり

○ 平安監營兵制成册　一冊　寫本

○ 江原道軍丁都數成册　一冊　寫本

○ 忠淸兵營編伍軍總成册　一冊　寫本

○ 平安兵營兵制總錄　一冊　寫本

○ 海西軍兵總錄　一冊　寫本

○ 忠淸監營兵制總錄　一冊　寫本

○ 全羅道各營兵制總錄　一冊　寫本

○ 濟州兵制烽臺總錄　一冊　寫本

○ 全羅道烽臺將卒總錄　一冊　寫本

以上は各道各地の兵營烽臺等に駐紮する將卒の員數を錄せるものにして附近の地形里程を附記せり

農家類

○ 農家集成　一卷　申涣編　板本

本書は世宗の命撰に係る農事直說朱熹の勸農文世祖の時姜希孟の作れる衿陽雜錄及四時纂要を集めたるものなり農事直說は朝鮮水土の支那と異る所あり支那の農書を直に朝鮮に實施する能はさるものあるを以て各道觀察使に命し其の地方老農に就きて實驗方法を尋ね錄して報告せしめ更に詮次を加へて一卷となしたるものなり衿陽雜錄と四時纂要とは四時の農事及農作物に付き注意事項を集錄したるものなり本書の編纂は孝宗乙未の夏に在り

申涣字は浩仲二知堂と號す高靈の人仁祖の時登科し官通政牧使に至り年三十八にして歿す

○ 蠶桑輯要　一冊　著者未詳　寫本

本書は養蠶の百姓に缺くへからさるこを述へ其の方法を平易に說明し更に卷末に養蠶に要す

る諸器械の圖を描き其の用法を說明せり蓋し當時養蠶の必要を感し一般男女に周知せしむる爲諺文を以て本書を作りたるものなり

醫家類

○ 東醫寶鑑　二五卷　許　浚著　板本

本書は宣祖の時の醫官許浚の著なり浚宣祖の知遇を受け其の二十九年古今支那朝鮮の醫書を裒聚して完備せる一書を成すへきことを命せらる是に於て編輯局を設け許浚主任となり他の醫官等と共に編輯に從事す偶ま丁酉の役起り諸醫星散し編輯の業も一時中止の已むを得さるに至り役後更に許浚一人に命して編撰せしむ既にして宣祖薨し光海君三年に至り甫めて完成し其の五年板成り印行す朝鮮に於ける第一の醫書なり篇數二十三內景篇(卽ち內科學)四、外形篇(卽ち外科學)四、雜篇(卽ち流行病、霍亂、婦人病、小兒病)十一、湯液篇(卽ち藥方)三及鍼灸篇一各病下に處方を條記し體裁頗る整然たり且其の說明も甚しく怪誕牽强の弊なく漢方の醫書に在りては翹楚を推すへし許浚字は淸源明宗の時に生れ光海君の時に歿す朝鮮杏林の扁倉なり

○ 濟衆新編　八卷　康命吉編　板本

本書は正祖の時侍醫康命吉に命し古今の醫書を參考して要を撮り繁を削り以て編集せしめたるものなり第一卷は風、寒、暑、溫、燥、火より起る諸病及藥方第二卷は內傷、虛勞、精、氣、神、血、夢、聲音、言語、津液、痰飮より起る諸症及藥方第三卷は五臟、六腑、蟲、小大便、頭、面、眼、耳、鼻、口、舌、齒牙、咽喉の諸症及藥方第四卷には頸、頂、胸、腹、手、足、毛髮、生殖器、肛門、霍亂、咳嗽等の諸症及藥方第五卷は積聚、浮腫、消渴、瘧、疫病、癰疽、諸瘡、解毒、急病の諸症及藥方第六卷は婦人病第七卷は小兒痘疹、痲疹、養老の諸症及藥方第八卷は藥性歌を載せたり就中第八卷の藥性歌は主要なる藥物の效用を四言四句に綴り記憶に便せり康命吉字は君錫昇平の人なり英祖丁巳に生れ醫官となり楊州牧使に至る

○ 鍼灸經驗方　一卷　許　任著　板本

本書は仁祖の時の醫官許任か鍼灸の良書なきを慨み其の經驗せる諸方を基として著述し之を湖南觀察使睦性善に囑して刊刻し世に行はしむ其の內容は初に鍼灸諸穴の大體を述へ次に各症に涉りて鍼灸法を說き終に鍼灸に日を擇ふへき事を說けり

○ 諺解臟藥症治方一卷　編者未詳　板本

本書は諸種の丸藥の服用法及對症效用を記し更に之を諺文を以て註釋せるものなり編者を詳にせす

○ 諺解胎產集要　一卷　許　浚著　板本

本書は東醫寶鑑の作者許浚の著にして胎產に關する諸症及藥方を述へ之に諺文の解を施せり第一求嗣より始め男女の精力を强健にする藥方を說き次に孕胎に遷り妊娠中の諸症、藥方、產前諸症及藥方次に產後の諸症と藥方及臨產豫備藥物を述へ次に產時の方位、避禁日等を述へ最後に附錄として初生兒の救急法を添へたり

許浚の小傳は子部東醫寶鑑に出つ

○ 辟疫神方　一冊　許　浚撰　板本

本書は光海君五年春毒疫盛に行はれ民死するもの多きに因り許浚に命して毒疫の治法及藥方中行ひ易く又效驗あるものを選集せしめ官刻して廣く行はしめたるものなり毒疫の起原、症狀より治法及藥法に至る迄頗る簡にして要を得たり

許浚の小傳は子部東醫寶鑑に出つ

○ 壽民妙詮　四卷　編者未詳　寫本

本書は初に身形、精、氣、神、血等を古書より引いて說明し加ふるに道家養生法を以てし次て五臟六腑、胞、蟲、大小便、頭、面、手、足等の各機關に說及して其の病を惹起する原因及症狀を述へたり編者詳ならす

天文類

○ 天東象緯考　一八卷　崔天壁著　板本

凡そ天變地異は古代に於ける國家の大事件にして天帝之を以て國君を警むと信せられたりされは歷代の史官は必す之を史に記し後世の鑑とな

す崔天壁亦此の主旨に依り肅宗三十四年戊子高麗四百七十五年間の史に見ゆる天地の異象を集めて本書を成せり天變、地變、日變、虹貫日月變、經緯星變、雜變を收む

○國朝曆象考　四卷　正祖命編　板本

本書は正祖十九年曆官成周憙等に命し編集せしめしものにして一部四卷曆法沿革、北極高度、東西偏度、更漏の五目より成れり蓋し朝鮮以前は曆象の制度備らざりしか世宗に至り最も意を曆に用ひ鄭麟趾等に命して曆書七政通軌を校正せしめて官刻し又簡儀器仰儀器を鑄造し漢城の北極星及子午線を測定し以て季節及漏刻の標準を示せり後正祖の時に至り赤道儀地平器を製して眞時刻を示すの機械となし其の算測は皆京城の北極星を標準とせり斯の如く朝鮮は歷代曆象に就きて深く意を用ひしかは其の曆法儀象の制度等見るへきもの多し

○諸家曆象集　四卷　李純之編　板本

本書は世宗か李純之に命し編纂せしめたるものにして古書を檢出して天文一卷曆法一卷儀象一卷晷漏一卷を蒐成せり世宗は朝鮮歷代中最も天文に趣味を有し本書の外其の製作に係る簡儀、日星定時儀、渾天儀及漏刻器等何れも精妙を極め曆も亦大明曆授時曆回回曆等の諸曆及曆法の諸書を參考して別に之を制定せりと云ふ

李純之は世宗の時の人官判中樞院事に至る

○儀器輯說　二卷　南秉哲著　板本

本書は古來朝鮮に於て使用せし天文に關する諸器の構造及理法と其の算法とを說明せるものにして南秉哲の著に係り渾天儀、渾蓋、通憲儀、簡平儀、驗時儀、赤道日晷儀、渾平儀、地球儀、勾陳天樞合儀、兩景揆日儀、量度儀の十儀を收む

南秉哲字は子明、圭齋と號す宜寧の人にして壺谷龍翼の後太華有常の曾孫なり純祖丁丑に生れ純祖及憲宗に歷事し官吏曹判書大提學に至り哲宗癸亥に歿す文貞と謚す

○漏籌通義　一卷　著者未詳　板本

本書は古代よりの漏刻通義を說明し併せて一年四季五更の各更に主たる星宿を擧けたり而して本書の說明する漏籌は十一箭より成り一年を十一に分ち各箭を之に配して一晝夜の比等せる前後二季節を主管せしむ例へは冬至初日より大寒後二日に至る間と小雪前四日より冬至前一日に至る間とは第一箭を用ひて時刻を計り大寒後三日より立春後二日に至る間と立冬前四日より小雪前五日に至る間とは第二箭を用ひて時刻を計るか如し本書の著者及年時詳ならす

○新法漏籌通義　一冊　金泳編　板本

本書は漏器の刻表を記せるものにして正祖の時金泳の編次に係る

○推步續解　四卷　南秉哲著　板本

本書は南秉哲か支那江愼修の著曆象考成に依り日躔、月離、交食及恒星を解したるものなり推日躔用數、推日躔法、推月離用數、推月離法、推月食用數、推月食法、推日食法、及又法、推恒星用數、推恒星法の十目あり哲宗十三年に成る

南秉哲の小傳は子部儀器輯說に出つ

○曆事明原註解　五卷　曹震圭著　板本

本書は正祖の時觀象監曆官曹震圭か曆事明原に註解を施し官に於て上梓したるものなり

○曆象考成　八卷　編者未詳　板本

本書は第一卷に日躔表第二卷及第三卷に月離表第四卷に土星表第五卷に木星表第六卷に火星表第七卷に金星表第八卷に水星表を載せり

○授時曆捷法立成一卷　姜保編　板本

本書は高麗忠惠王の時書雲正姜保か元の王恂の摸せる授時曆立成を節略校訂せるものなり

○時憲紀要　二卷　南秉吉著　板本

南秉吉の天文に於ける天才の稱あり當時天文曆法は科擧の一科なれは中人の子弟之を學習する者多し曆法は淸に至りて西洋曆學をも參斟して時憲法となり從來の曆法に比して最も精緻完備を致し從て學習者は其の難解に苦めり是れ南秉吉の本書を著して時憲法の精要を紀述し後進に

便せし所以なり上卷は七政篇にして曆法沿革、天象、地體、黃赤道、經緯度、曆元、歲實、地半經差、淸蒙氣差、恒星行度、恒星算例、太陽行度、日躔算例、太陰行度、月離算例、五星行度、土星算例、木星算例、火星算例、金星算例、水星算例、五星段目算例を載せ下篇は交食篇にして交食總論、月食算例、月食帶食算例、日食算例、日食帶食算例を載せたり哲宗十一年に成る

南秉吉字は子裳、六一齋と號す哲宗時代の觀象監提調たり天文に精通すること當時第一と稱せらる別に時憲紀要、推步捷例等の著あり純祖庚辰に生れ李太王己巳に歿す

○ 日月交解　一卷　編者未詳　寫本

本書は天體の運行測度より日月蝕の推算を說けるものなり

○ 星鏡　二卷　南秉吉編　板本

本書は支那古來の天文書を本とし旁ら洋人の說をも參照し星宿の圖譜を描きて其の說明を加へたるものなり二十八宿の外紫微垣、太微垣、天市垣、近南極星あり星數は一等星十六二等星五十一三等星百五十九四等星三百四十九五等星三百九十九六等星三百四十三別に卷末に赤道儀圖及其の用法を載せたり哲宗十二年に成る

南秉吉の小傳は子部時憲紀要に出つ

○ 遼海星宗　六卷　著者未詳　寫本

本書は數より易を論じて天文、地理、方位及人事に及ひ天、地、人、三才の關係密切なるを說き終に五福星に及ふ而して五福星の所在は自ら定則あり其の在る所は民壽福にして兵革の災なし卽ち支那河西の乾地、遼東の艮地、東夷の巽地、蜀川の坤地、洛邑の中宮の五地なりと爲す而して暗に朝鮮を以て遼東の艮地に當て福德星の所在地に擬するか如し李太王二十一年に成り著者名を逸す

○ 曆代妖星錄　一卷　金益廉撰　寫本

本書は顯宗五年金益廉が撰したるものにして古來史上妖星現れて國に大凶事起りたる事蹟を蒐錄せるものなり春秋魯文公十四年の彗星より明の神宗萬曆五年の彗星に至る而して著者の特に重を置けるは萬曆五年の彗星か明社の滅亡淸軍入攻の兆なりと云ふに在り

金益廉字は遠明、赤谷と號す光州の人光海君壬戌に生れ孝宗の時に及第し官司諫に至り文名あり顯宗甲寅に歿す

○ 災異考　一冊　編者未詳　寫本

本書は仁祖の二年甲子より丁卯、壬申、癸酉、丙子、丁丑、戊寅、己卯、庚辰、辛巳、壬午、癸未、甲申、乙酉、丙戌、丁亥、戊子、己丑、庚寅、辛卯、壬辰、癸巳、甲午、乙未合計二十四年間に亘る朝鮮各地に於ける天變地異を實錄に依りて收錄せるものなり編者及年時明ならす

○ 細草類彙　二卷　許遠著　板本

本書は著者許遠の自序を按するに從來朝鮮の用曆は王郭の曆法に依りしか肅宗に至り始めて湯若望の西洋曆法を輸入し許遠燕京に赴きて盡く其の法を學へり此の書出てて始めて日月食の差過なきを得たりと

許遠は肅宗の時の人なり官觀象監首任に至る嘗て命を受けて再度北京に赴き淸の曆官何錫に從いて曆法を學ひ盡く其の傳を得たり歸りて學へる所を集成して本書を作れり

○ 海鏡細草解　一二卷　南秉哲編　板本

本書は南秉哲の數理書にして勾股弦の理法を說き更に天體測量をも說けり編者の弟判書南秉吉之を刊行す

南秉哲の小傳は子部儀器輯說に出つ

○ 七政細草　一卷　觀象監編　板本

本書は觀象監曆官の編する所日月と五星とを推步して曆象を測候する要訣を示したるものたり

○ 協吉通義　二二卷　正祖命編　板本

本書は支那梅瑴成の協紀辨方と魏鑑の象吉通書の協字吉字とを取りて名けたるものなり協紀辨方及象吉通書は支那陰陽書中最も根據あり詳精なる二名著なり正祖十九年文臣に命して二書の繁雜を省き訛謬を正して撰進せしむ此の書是なり第一卷及第二卷は本原と稱し河圖、洛書、陰陽五行、干支、納音、納甲を說き第三卷より第七卷は義例と稱し陰陽術の諸神を說き第八、九卷は公規と稱し時候、時刻を擇ひて諸神に祭享を致すことを說

き第十、十一卷は用事と稱し天子より庶民に至るまて事に應して忌むへき月及宜しき日を說き第十三、十四卷は立成と稱し歲月日時の吉凶神殺を說き第十五卷より第十八卷は利用と稱し相山、定墓の法を說けり

○ 選擇要略　三卷　李純之撰　板本

本書は李純之の撰に係り陰陽干支を說けるものにして干支の陰陽生剋より五行の配當に及ひ年、月、日、時刻の各干支か一一有意義なることを述へ一事を成さむとする必す適當なる干支の年、月、日、時刻を擇ふへしとなし事の部門を分ちて之を詳說せり

李純之の小傳は諸家曆象集に出つ

○ 選擇紀要　二卷　南秉吉著　板本

本書は李純之の選擇要略及正祖命撰の協吉通義と同種類の書にして事をなすに年、月、日、時刻の干支を選擇する法を說けるものなり南秉吉觀象監提調として生徒に天文曆法及干支術を敎ふるや適當なる敎科書なし仍て時憲紀要を著し天文曆法の敎科書となし本書を著して選擇干支術の敎科書となせり哲宗十三年に成る

南秉吉の小傳は子部時憲紀要に出つ

○ 天機大要　二卷　池百源編　板本

本書は初め明の林公紹の著す所にして朝鮮に入り英祖の時池百源更に他書を參斟して增刪せるものなり天機は日月星辰の天象を觀及干支を檢して以て人生の吉凶禍福を知り福を湊め凶を避くることを得せしむる術を言ふ池百源の自序に曰ふ仍就正、於旁通、日家之諸需紳、以之成書、此亦國家祈天永命之一助、執藝之臣敢不敬歟と

○ 新刊詳註六壬斷經秘訣　五卷　編者未詳　板本

本書は六壬術の一書にして古來の斯術に關する諸秘訣を集めたり第一卷起課總例は卦を記すの範例を擧け第二卷相克相生は干支生克の理を述へ第三、四、五卷金鎖玉匙總訣は六壬術の術語を列記せるものなり六壬術とは干支一巡六十中壬申、壬午、壬辰、壬寅、壬子、壬戌の六壬を最も重しとし之を以て吉凶禍福の占筮を成すものなり朝鮮に於ては古來將帥の家に多く本法を傳ふと云ふ編者詳ならす

○ 千歲曆　一冊　觀象監編　板本

世宗二十六年朝鮮曆を製作し民間に配布せしか猶ほ精緻を缺き時に差違を生することあり正祖の時に至り更に精密なる支那の曆法朝鮮に傳來し其の六年に至り千歲曆成る世宗二十六年甲子の歲を紀元元年となし以下千百年に及ふ序文に據れは本書に依りて司曆官の奔走驗査改訂の煩勞を省くを得へしと云ふ

○ 萬歲曆　二冊　觀象所編　板本

本書は正祖元年丁酉より光武一百七年癸未まて合せて二百二十七年の陰曆干支と每年十二朔の大小及二十四節候の日時を推算編纂せしものなり

○ 百中曆　一冊　觀象監編　板本

本書は清乾隆四十五年卽ち正祖四年より光武八年に至る曆本なり

譯學類

○ 吏文續集輯覽　二卷　崔世珍編　板本

本書は曩に吏文抄あり其の語數多からす又時用に適せさるものあり崔世珍中宗の命に依り更に時用吏文を輯集し之に註解を加へたるものなり續集の名は舊抄に對して言へるに外ならす其の三十四年己亥の刊行に係る

崔世珍の小傳は經部韻會玉篇に出つ

○ 老乞大　一卷　邊憲編　板本

本書は世宗の命編にして漢語學を攻むるに必要なる讀本なり朝鮮に於て漢譯科の士を取るには此の書を以てしたり然るに傳習久しうして訛舛亦尠からす仍て英祖の時に至り譯官邊憲等新に音義を釋し又方孝彥等之を補足して刊に付す

邊憲字は德章、原州の人なり肅宗丁亥に生れ景宗壬寅譯科に選せられ官正憲同中樞に至る

○ 老乞大新釋　一卷　金昌祚撰　板本

本書は英祖の時判書洪啓禧使命を以て燕京に赴

くや譯官金昌祚等をして老乞大の訛謬を正し新釋を作らしむ蓋し英祖の命に出るなり此の書是なり其の三十七年書成りて官刊す

○ 重刊老乞大　一卷　李洙編　板本

本書は正祖の時司譯院官人に命し老乞大に校讐を加へ重刊せしめたるものなり時に知中樞事李洙等老譯官を以て專ら其の任に膺る其の十九年業を訖へ印行す

李洙字は樂夫、金山の人なり景宗辛丑に生れ英祖辛酉譯科に選せられ官崇祿知中樞に至る

○ 重刊老乞大諺解二卷　李洙著　板本

本書は諺文を以て重刊老乞大に解釋を加へたるものなり

李洙の小傳は子部重刊老乞大に出つ

○ 朴通事諺解附老乞大集覽、單字解　六卷　權大運等編　板本

本書は成宗の時崔世珍の著せる朴通事諺釋一冊ありしも早く兵火に失はれ後周仲なる者あり老朴輯覽なる一書を發見す卽ち老乞大、朴通事二書の要語を集めて之を註解せるものなり附錄として單字解あり是れ亦崔世珍の撰したるものなり肅宗三年丁巳に至り司譯院都提調權大運、院正邊遷、朴世華等に命し此の書を取りて更に攷證修訂を重ねしめ朴通事諺解と名け附するに原書の老乞大輯覽及單字解を以てす官刊して廣く世に行ふ

○ 華語類抄　一卷　編者未詳　板本

本書は清國恒用の物名を分類列記し之に諺文を以て清音及朝鮮音を附したるものなり編者詳ならす

○ 華音啓蒙　二卷　李應憲著　板本

本書は朝鮮に於て支那語通譯の書は數多あれとも古今音聲變して實用に適せさるものあるを以て李太王の時譯官李應憲本書を著し常行實用の支那語を集む卷尾別に千字文、百家姓、十干、十二支、二十八宿の文字を附し並に華音を以て之に註し李太王二十年に開刊す

李應憲字は稚章、金山の人なり憲宗戊戌に生れ官通津府使に至る

○ 華音啓蒙諺解　二卷　李應憲著　板本

本書は諺文を以て華音啓蒙に解釋を加へたるものなり

李應憲の小傳は子部華音啓蒙に出つ

○ 譯語類解　二卷　編者未詳　板本

本書は支那恒用の文字、言語中簡短なるものを取り諺文を以て清音及朝鮮音を附したるものにして編者詳ならす

○ 同文類解附語錄解　三卷　玄文恒編　板本

本書は英祖の時清語物名の頗る訛舛多きを以て之を釐正する爲清學訓長玄文恒に命して撰述せしめたるものなり末尾に添ふるに語錄解を以てす禮曹判書李周鎭奏して官刊す

玄文恒字は汝常、英祖の時の人なり

○ 五倫全備諺解　八卷　司譯院著　板本

本書は清語を攻むるに必要なる敎科書なり伍倫全なる者の自叙傳にして字毎に支那音と朝鮮音とを諺文にて注せり初め肅宗丙子司譯院に於て本書の撰修に著手せしか幾もなくして中廢し己丑に至り復た業を繼き金昌集司譯院提調として特に其の功を董督し書成るや劉克愼財を捐てて刊に付す時に景宗元年なり

○ 捷解新語　一〇卷　司譯院編　板本

本書は司譯院倭學科の譯官等日本語を平假字にて記し諺文を以て讀方及意義を附したるものなり肅宗二年開刊す

○ 語錄解　一卷　南二星、宋浚吉編　寫本

語錄は本と支那宋時の俚諺を輯錄せるものにして宋の諸儒後學を訓誨するに用ひ又尺牘を往復するに用ひられたるものなり然るに朝鮮人に取りては言語風俗の異るより曉り難きもの多し曩に退溪門人の之を解錄せし者ありしも未た精しからす仍て顯宗に至り翰林南二星等に命して更に考校を加へしめ宋浚吉亦之に干與し刪定する所あり書成りて之を献し語錄解と名く顯宗十年なり

南二星字は仲輝、宣拙と號す仁祖乙丑に生れ顯宗の時に登科し官禮曹判書に至り肅宗癸亥に歿す章簡と謚せらる資性和厚詩に工なり

宋浚吉字は明甫、同春堂と號す恩津の人にして清坐窩爾昌の子なり宣祖丙午に生る少時沙溪金長生の門に遊ひ歿後其の子愼獨齋に學ふ仁祖二年進士となり遺逸を以て仁祖、孝宗、顯宗の三代に歷事せしと雖も朝に立つ久しきに亘らす官大司憲を以て顯宗壬子に歿す謚して文正と云ひ文廟に從祀せらる浚吉官に在るや愼獨齋金集、清陰金尙憲及尤菴宋時烈等と齊しく樞機に參し西人中の一元老を以て推重せらる

○ 捷解新語文釋　一二卷　金健瑞編　板本

本書は滿語を解釋したるものなり朝鮮には滿語學修の書に捷語新解ありしも諺文を以て記し漢字を加へす之を學ふ者の不便尠からす金健瑞本書を作り漢字を以て之か解釋を附せり

○ 捷解蒙語　四卷　方孝彥編　板本

本書は嘗て英祖の時司譯院李德成其の訛語を正して之を刊行せしか年所を經る久しくして眞本泯ひたり仍て正祖の時譯學方孝彥新に校讐して完本となし譯學金亨字私財を捐てて鋟梓す時に正祖十五年なり

○ 三譯總解　一〇卷　崔厚澤編　板本

本書は肅宗六年老峯閔鼎重、譯院提調たる時院僚崔厚澤、李濺、李宜白等をして清書三國志を取りて相共に講說せしめ之を編輯して三譯總解と名く蓋し三國志を譯せるの意味なり其の二十九年朴昌裕、吳廷顯等之を刊行す後英祖五十年知中樞金振夏更に訛誤を刪り校正を加へ時の譯院提調金尙喆之を刊行す其の字は卽ち張再成の書する所なり

○ 蒙語類解　二卷　方孝彥編　板本

○ 蒙語類解補編　一卷　方孝彥編　板本

本書は捷解蒙語の編者方孝彥の編する所にして其の由來全く同し補編一卷は類解原本中に漏れたる一千六百餘言を裒集し逐類添載せるものなり開刊は亦正祖十五年なり

○ 八歲兒　一卷　金振夏編　板本

本書は蒙古語の學修書なり今編者を詳にせす字劃音義に多く訛謬あり仍て正祖元年行知樞金振夏に命して嚴密に校訂を加へしめ司譯院判官張再成をして字を書せしめ同年刊行す

○ 隣語大方　一〇卷　編者未詳　板本

本書は明治以前の日本通俗語を草體を以て書し之に諺文を以て解釋を施せるものにして朝鮮司譯院に於ける倭語の學修書なり

類書類

○ 大東韻府群玉　二〇卷　權文海著　板本

本書は權文海の著にして元の陰時夫の韻府群玉に倣ひ韻字に依り事實を分ちて記載し檀君以來宣祖に至る數千年間の一切の史實、人物、地理、文學、藝術等を網羅す其の引用書目を見るに朝鮮各方面の有名なる著書を涉獵して殆んと遺す所なし蓋し朝鮮に於ける個人の著書中最も精力を盡せるものと謂ふへし

權文海字は灝元、草澗と號す明宗の時に登科し官監司に至る嘗て李退溪の門に遊ひ柳成龍、金誠一等と親交あり宣祖の時に歿す

○ 東圃彙言　一四冊　金時敏編　寫本

本書は金時敏の編する所にして分ちて君道、臣道、吏部、戶部、禮部、兵部、刑部、工部、人事の九門となし材料は總て朝鮮の類書隨筆類に採り支那書に及はす是れ他の類書と選を異にする所なり

金時敏字は士修、東圃と號す蕉窓金盛後の子肅宗辛酉に生れ蔭に依りて珍山郡守となる詩を善くし又文集あり英祖丁卯に歿す

○ 芝峯類說　二〇卷　李睟光著　板本

本書は李睟光の著にして天文、時令、災異、地理、諸國、君道、兵政、官職、儒道、經書、文字、文章、人物、性行、身形、語言、人事、雜事、技藝、外道、宮室、服用、食物、卉木、禽蟲の部門に分てり多く古書古聞に採り間間一家言を加ふ奇事逸聞調査の資料とすへきものあり光海君六年に成る

李睟光字は潤卿、芝峯と號す仁宗癸巳に生れ宣祖

及光海君に仕へ官吏曹判書に至る人物閑雅詩文に名あり一時の清流たり

○新補彙語　五九卷　金搢著　板本

本書は金搢の著にして古書中緊要なる文字を拔萃し之を部門に分ちて載錄し註釋を施せるものなり

金搢字は記仲訓齋と號す宣祖乙酉に生れ光海君の時に登科し官牧使に至り仁祖の時に歿す

○類苑叢寶　四七卷　金堉編　板本

本書は金堉か未た朝鮮に完全なる類書の編纂されしものなきを患ひ壬辰役後書籍の焚滅せる後に當り勇を皷して藝文類聚、唐類函、天中記、山堂肆考、韻府群玉等の諸書を參考し互に補闕潤色して編成せしものなり天道、天時、地道、帝王、官職、吏部、戶部、禮部、兵部、刑部、人倫、人道、人事、文學、筆墨、奎印、珍寶、布帛、器用、飲食、冠服、米穀、草木、鳥獸、蟲魚、四夷、神鬼の二十七門に分てり仁祖の時に成る

金堉の小傳は史部己卯諸賢傳に出つ

○星湖僿說　三〇卷　李瀷著　寫本

本書は李瀷か平生の隨錄を輯編したるものにして天地門、萬物門、人事門、經史門、詩文門の五門に分ち著者の蘊蓄を傾注せり其の聞見の博洽考證の明確世人の稱賞する所なり

李瀷字は子新、星湖と號す肅宗の時の人なり官監役に止まる本書の外星湖文集の著あり英祖の時に歿す

○星湖僿說類選　一〇卷　安鼎福編　寫本

本書は安鼎福か李瀷の星湖僿說より煩を删し要を取り更に分編せしものにして僿說の門を篇と改め每篇を門に別ち天地篇を天文門、地理門、鬼神門、人事篇を人事門、論學門、論禮門、親屬門、君臣門、治道門、服食門、器用門、技藝門、經史篇を經書門、論史門、聖賢門、異端門、萬物篇を禽獸門、草木門、詩文篇を論文門、論詩門に分ち更に細目を設け類に依りて輯錄し自己の按說を小註として附記せり僿說に比して複雜の嫌なく考閲に便なり

安鼎福の小傳は史部東史綱目に出つ

○攷事新書　五卷　徐命膺編　板本

本書は英祖の時藝文館に於て魚叔權著す所の攷事撮要の舊本疎略なるを以て增删を謀り年を閲して成らさりしを藝文館提學徐命膺私業として其の繁冗を汰し緊要を補ひ又校理鄭忠彦に屬して叅訂校勘せしめ領議政金陽澤亦損益する所あり凡て十五卷となし攷事新書と名け成本したるものなり天道、地理、紀年、典章、儀禮、行人、文藝、武備、農圃、日月、醫藥の十一部門あり魚叔權の原本に比し體裁完整日用に適切なり出版は英祖四十七年辛卯に在り

徐命膺の小傳は經部易學啓蒙圖說に出つ

○雅言覺非　三卷　丁若鏞著　寫本

本書は丁若鏞の著にして朝鮮流用俗語の原語原字の意義に戻り訛謬尠からさるより確證を擧けて之を訂正せるものなり蓋し亦著者の博學を見るへし

丁若鏞の小傳は經部詩經講義に出つ

○兒戲原覽　一冊　張混編　板本

本書は古今事文を類聚し童蒙初學の覽攷に便せしめたるものにして純祖三年癸亥張混の編次に係る天地形氣より國俗、人事に至り備はらさるものなく附するに數彙及補遺を以てせり

張混字は元一、而己广と號す竹軒友壁の子なり英祖己卯に生れ家世寒微なりしを以て科官を得す正祖の時監印所司準となり御定諸書を校正し純祖戊子に歿す幼より孝を以て聞こえ長して博學强記なり著述に富む詩宗、唐律集英、蒙喩篇、近取篇、切用方、童習數方圖及本書は之を印行せしも篇段集二十卷及古文柯則、庭下至訓、大東故寔、騷壇廣樂、初學字彙、東民須知、文壇姓譜、祭儀圖式等は未た刊行せす

○萬家叢玉　一二卷　編者未詳　板本

本書は編者未詳なるも天道部、君道部、臣道部、政事部、道學部、吏部、戶部、禮部、兵部、刑部、工部、雜部の十二門に分ち各門に關する文字を收錄したるものなり

○新篇玉叢　四卷　編者未詳　板本

本書は天道、君道、朋友、器用等の部門に分ち各部門

に關する語句を拾集せるものなり編者詳ならす

○ 增補山林經濟一六卷 朴世堂著 增補者未詳 寫本

本書は元朴世堂の著にして卜居、治農、種樹、養花、養蠶、牧養、治圃、攝生、種德、治膳、救荒、辟瘟、辟蟲、家政、求嗣、養兒、救急、四時纂要、田家占候、選擇、雜方、格物、清齋位置、棋經、筆訣、山野樂、東國山水等の項に分ち著者の蘊蓄を記述せり補增者詳ならす山林經濟の名は田家に處する者の日常必須なる事項を收載せる意なり

朴世堂字は季肯、西溪と號す潘南の人なり顯宗庚子生員文科に登り官判中樞府事に至る者社に入り致仕す文節と謚す

○ 古今事實類聚 四卷 編者未詳 寫本

本書は宋の祝穆の古今事文類聚中より百官に關する部分を類聚したるものなり

○ 文彙 九卷 著者未詳 寫本

本書は天道門、地道門、人倫門、君道門、臣道門、天官門、春官門、夏官門、秋官門、冬官門、儒道門、人事門の十二門に分ち春官門は教化に關する事を載せ夏官門は軍政に關する事を記し秋官門は司獄に關する事を述へ冬官門は筆硯、書牘、宮室に關する事を收めたり儒道篇を見るに著者は純粹なる朱子派にして李退溪を尊崇して朝鮮の大賢となし嶺南の爲に大に氣を吐き而して一言の李栗谷、成牛溪、宋尤庵等南人以外の學者に及へるものなし

○ 寒暄錄 三卷 編者未詳 板本

本書は朝鮮尺牘用の語類を集めたるものなり編者を詳にせす

○ 寒暄箚錄 五卷 編者未詳 板本

本書は朝鮮公私萬般の消息文に關する用語文例書式を類記せるものなり編者詳ならす

○ 儒胥必知 一卷 編者未詳 板本

本書は通編を上言、擊錚、原情、所志類、單子類、告白類、文券類、通文套、吏頭彙編の八目に分ち各其の書式熟語等を備載せり凡例に曰く文字の體は各自同しからす文章の學を爲す者は文章體を尙ひ功令の學を爲す者は功令體を習ひ吏胥の學を爲す者は吏胥の體を講す所謂文章の學とは序、記、跋、雜著

等の體なり所謂功令の學は詩、賦、表、策、疑、義等の體なり所謂吏胥の學は單に文簿のみにあらす上言、所志、議送等の體皆是れ吏胥の知らさるへからさるもの又獨り吏胥の知るへき所に非さるなり凡そ吏治たる者亦知らさるへからす然れとも是等の文字儒胥に於て最も近し故に之を名けて儒胥必知と云ふと編者詳ならす

○ 新式儒胥必知 一卷 愼村子編 板本

本書は儒胥必知に倣ひ新式に改成せしものなり李太王光武五年に成る編者は愼村子とあれとも何人なるを知らす

叢書類

○ 破閑集 三卷 李仁老編 板本

本書は李仁老の編に係る編者の序に曰く東方代代文豪あり然れとも其の集往往湮滅して傳らす因て豫め自作及當世名著の以て後人の法となすに足るものを收錄せりと記事あり文詩話あり詩あり何れも淸賞の價値あるを見る書成り上木に及はすして歿す其の後五十年子世黃之を刊せり李仁老字は眉叟、雙明齋と號す高麗睿宗の時に登科し翰林院に入り居ること十四年官右諫議大夫に至る弱冠にして文名あり嘗て書狀官として賀正使崔永儒に隨行し燕都に入り詩を賦し詩名金人の間に嘖嘖たり

○ 補閑集 三卷 崔滋編 板本

本書は高麗の李仁老曾て東方古今諸賢の名章秀句を編輯して破閑集の著あり守太尉崔滋其の書の未た廣く世に行はれさるを惜み更に優麗なる近體若干句及俚巷の瑣言乃至趣味ある史實浮屠妓女輩の談柄を收拾せるものなり崔滋は別に家集十卷あるも今傳らす

崔滋字は樹德、東山と號す高麗康宗の時の人なり

○ 櫟翁稗說 一卷 李齊賢著 寫本

本書は益齋李齊賢の隨筆なり史乘に逸したる異聞奇事及人物評、經論、詩文、書畫品評等を隨錄せしもの高麗の事物を知る好資料なり拾遺として其の詩文若干を載す

李齊賢字は仲思、益齋と號す高麗の名臣なり少うして文名あり久しく忠宣王に從ひて支那に在り彼の地の學者文士と詩文を應酬し造詣益深し晩年相國となりて國事の重に任し朝野賴りて以て安す著す所別に益齋集あり

○ **筆苑雜記** 二卷 徐居正著 寫本

本書は四佳徐居正の隨筆にして朝鮮古來の逸事閑話の後世に傳ふるに足るものを編集せるものなり其の事實は或は一一正確ならざるものなきに非すと雖も參考に資すへきもの亦極めて多し文章簡潔自ら大家の作たるを見る

徐居正の小傳は史部東國通鑑に出つ

○ **慵齋叢話** 三卷 成俔著 寫本

本書は成俔の隨筆なり文話あり詩話あり書話あり書話あり人物評あり史話あり實歷譚あり文章穩雅讀みて飽く事を知らさらしむ朝鮮に於ける隨筆中の優品なり

成俔の小傳は經部樂學軌範に出つ

○ **谿谷漫筆** 二卷 張維著 寫本

本書は主として谿谷張維の儒學文章に關する漫錄を集め間間史實人物評を交ふ經傳諸百家に對して縱橫に意見を述へ殊に老子及陽明派を論する所に至りては他朝鮮儒者の如き狹隘なる態度なし朝鮮の學者を評して曰く中國學術多歧「有『正學』焉、有『禪學』焉、有『丹學』焉、有『學』程朱者、有『學』陸氏者、門徑不一、而我國則無論『有識無識』、挾策讀書者皆稱誦程朱、未聞『有他學』焉、豈我國士皆果賢於中國耶、曰非然也、中國有『學者』、我國無『學者』、蓋中國人材志趣頗不碌碌、時有志之士以『實心』向『學』、故隨『其所』好而學不同然往往各有『實得』、我國則不然、齷齪拘束都無志氣、但聞『程朱之學世所』貴重、曰道而貌尊之而已云云と亦以て其の所見尋常に群せさる所あるを見るへし」

張維は月沙李廷龜の門にして孝宗の舅なり字は持國、谿谷と號す宣祖丁亥に生れ光海君の時登第し官右相に至る當時搢紳中文章學問を以て鳴る然れとも申象村と等しく老佛の氣趣を交へ純然たる朱子學派に非す人或は之を以て是非す仁祖戊寅に歿す

○ **潛谷筆譚** 一卷 金堉著 寫本

本書は潛谷金堉の著にして概ね當時の奇事異聞を載す一部は小說の如く一部は逸史の如し當時の事情を調査する好個の史料たり

金堉の小傳は史部己卯諸賢傳に出つ

○ **四部手圈** 二五卷 正祖編 板本

正祖文學を嗜み常に經史百家を繙き會心の處に至り手圈を附したり後之を撫收して一本となし四部手圈と命す本書是なり經に於ては儀禮、周禮、禮記、史に於ては史記、漢書、後漢書、子に於ては周、程、張、朱を採り集に於ては陸宣公、韓文公、柳州、王臨川、歐陽廬陵、蘇老泉、蘇東坡、蘇潁濱、曾南豐を採れり

藝術類

○ **孝宗御筆** 一冊 孝宗書

此の帖は孝宗の眞蹟にして書簡三通及零墨若干を收む書簡には辛巳及壬午の干支あり仁祖十九年辛巳及二十年壬午孝宗儲位に在る時の筆なるへし

○ **御筆懸板帖** 一冊 李太王書

本帖は李太王の眞蹟にして漱芳齋、華岳亭等の大字なり

○ **觀風軒重修記** 一冊 朴基正書 搨本

本帖は觀風軒重修記の搨本にして正祖十五年辛亥輔國崇祿大夫李命植(字は健中、木崖と號す)敎を奉して撰文し通政大夫朴基正の書したるものなり觀風軒は端宗位を遜り寧越に遷されたる時の寢室なり正祖其の頹敗を嘆し重修を命し又此の記を作らしむ

朴基正字は一如、順天の人なり憲宗戊戌に生る朴彭年の祀孫にして正祖甲辰文科に登り官參判に至る

○ **六臣祠記** 一冊 朴基正書 板本

此の帖は世祖の時端宗の復位を圖り成らすして戮に遭ひたる所謂六臣の祠記にして宋時烈の撰文に係り百七年の後正祖十五年辛亥に至り朴基正をして之を書せしめ改刊したるものなり六臣とは朴彭年、成三問、李塏、河緯地、柳誠源、俞應孚の六

人なり帖末成李兩氏の臨命詩權尙夏書する所の題六臣祠記後の文朴泰輔記する所の六臣祠宇記及尹師國書する所の六臣祠宇上樑文等を附錄す」朴基正の小傳は子部觀風軒重修記に出つ

○六先生遺墨　一冊　朴彭年等書板本

此の帖は朴彭年、成三問、李塏、河緯地、柳誠源、俞應孚所謂六臣の斷簡遺墨を刊行したるものにて尹師國の跋文を附記す

○醉琴軒千字文　一冊　朴彭年書　板本

此の帖は醉琴軒朴彭年か草體を以て千字文を書し其の壻永豐君李璟に與へたるを付刊せしなり朴彭年字は仁叟、醉琴軒と號す世宗甲寅文科に中り官副提學、刑曹參判に至り世祖の時端宗復位の獄に係り惡刑を受け獄中に歿す英祖戊寅吏曹判書を贈り忠正と謚す

○河西筆蹟　一冊　金麟厚書　板本

此の帖は河西金麟厚の筆蹟を木版となしたるものにして行體を以て杜詩を書せるものなり金麟厚字は厚之中宗庚子文科に登り明宗の時に歿す

○白下書帖　一冊　尹淳書

此の帖は白下尹淳の墨蹟を一冊となしたるものにして楷行草諸體悉く備り細字殊に多し尹淳字は仲和、白下と號す肅宗庚午に生れ英祖辛酉に歿す李圓嶠の師にして善書を以て聞へたり

○李載恒書帖　一冊　李載恒書　板本

此の帖は李載恒の筆蹟を木版となせるものなり」李載恒字は君望肅宗の時に生れ英宗の時に歿す能筆を以て名あり

○定齋農巖遺墨　一冊　朴泰輔、金昌協書

此の帖は定齋朴泰輔、農巖金昌協の遺墨を集めたるものなり

○村隱故舊眞蹟　一冊　朴東說等書

此の帖は宣祖の時の名流南郭朴東說(字は說之)西坰柳根(字は晦夫)玄翁申欽(字は敬叔)稚川尹昉(字は可晦)月沙李廷龜(字は聖徵)松蘗堂李正臣(字は邦彥)柳川韓浚謙(字は益之)愚伏堂鄭經世(字は景任)芝峰李睟光(字は潤卿)谿谷張維(字は持國)清陰金尙憲(字は叔度)等十一人か村隱劉希慶に寄せたる筆蹟を集め一帖となしたるものなり逸品多し

○簡牘　四冊　金光國編

此の帖は英祖の時葆光堂金光國か燕山君の時より肅宗の時に至る名賢鉅儒の手柬を拮据蒐集し總て四帖となしたるものにして初冊に金光國の小叙を附し每簡筆者の小傳を錄す墨迹文章何れも珍重すへきもの多し

○奎章閣上樑文　一冊　徐有防書

此の帖は奎章閣の上樑文にして英祖の時の人醇庵吳載純(字は文卿)の撰文徐有防(字は元禮)の書なり

徐有防字は元禮、奉軒と號す大邱の人なり英祖辛酉に生れ壬辰文科に登り官吏曹判書に至り戊午歿す孝簡と謚す

○寧越題詠　一冊　尹舜舉等書板本

本帖は江原道寧越郡に在る錦江亭記及題詠、旨德庵重建記を集めたるものにして編者詳ならす錦江亭記は李子三か寧越に郡守たりし時錦江の勝地を卜し其の俸を割いて亭を搆へ扁して錦江亭と云ふ肅宗甲子尤庵宋時烈之か記を作る卽ち是なり書者詳ならす旨德庵重建記は元魯陵(今の莊陵卽ち端宗の陵なり)守護の爲寧越郡望鉢山の西に建てたる旨德庵の由來を記したるものなり顯宗甲辰郡守童土尹舜舉の撰並書に係る旨德庵は元、禁夢庵と稱す建設年時詳ならす壬辰の兵燹後久しく頹廢に歸し光海君庚戌重修し改めて魯陵庵と稱せり後亦荒廢に歸す郡守尹舜舉深く之を慨し僧侶を募り俸を捐てて壬寅其の役を始め癸卯其の功を訖へたり錦江亭の題詠中子規啼歌は端宗寧越に遜居の時の吟子規啼歌の韻に次して集賢殿副提學曹尙治か作りたる詩にして其の十二代孫叅判允亨之を書して正祖壬子東伯(江原道觀察使の別稱)に屬し莊陵齋室に刊揭せしめたるものなり錦江亭の詩は明宗の時退溪李滉か錦江亭に對する感興を述へたるものなり書者詳ならす越山志感は純祖丙寅曹夏望端宗遜居の地たる寧越に遊ひ感慨禁せす遂に此の詩を賦せるものにして書者詳

ならす

○石峰千字文　一冊　韓濩書　板本

此の帖は宣祖の時の名筆石峯韓濩の書する所にして其の三十四年辛丑刊行し後英祖三十年甲戌親しく之に序文を冠し更に精刻して重刊せるものなり

韓濩字は景洪、石峯と號す清州の人なり宣祖の時二十五歳にして進士となり書を以て其の名世に鳴り明將李如松及琉球使梁燦等皆其の筆を要む明王世貞筆談に曰く「石峯書如怒猊抉石渴驥奔川」と朱之蕃も亦賞して王右軍、顏眞卿相優劣すと云へり

○縉紳畫像帖　一冊　筆者未詳

此の帖は正祖時のに於ける縉紳の畫像にして判書尹師國等二十二人あり筆者を詳にせず

○近代畫帖　一冊　鄭歆等畫

此の帖は謙齋鄭歆、眞宰金允謙等の手に成れる小畫片を集めたるものなり

○明將手簡帖附申維翰書簡一冊　僧休靜編　板本

僧休靜曾て明提督李如松か贈れる詩一首都督李如栢か寄せたる書一片、李如松竝に其の幕下諸將聯名の尺牘一通を收めて帖を作り之に短跋を附す後世に至り之を刻せしもの卽ち本帖なり添ふるに申維翰か演初(雪松)に寄せたる書翰を以てす

釋休靜字は玄應、淸虛堂又西山と號す俗姓は崔氏名は汝信光山の人なり中宗十五年庚辰に生れ幼にして父母を喪ひ伶仃流離して智異山に遊ひ忽ち悟る所あり法を靈觀大師に聽き遂に剃髮して名山を遍歷すること七八年明宗の時禪科に中り禪敎兩宗判事に至りしか幾もなくして歸山し復た出てす適ま壬辰の役起るや奮然蹶起軍門に詣り十六宗摠攝を拜し緇流を召集して之を高弟惟政等に附し寇を捍きて功あり因て禪號を賜ひ扶宗樹敎普濟登階尊者と云ふ後數年を經て寂す時に壽八十五卽ち宣祖甲辰なり休靜常に關西寧邊妙香山に居る故に又西山大師と呼ふ詩を善くす

○各樣巾製　一冊　筆者未詳

本帖は各種頭巾の樣式を模寫したるものにて筆者詳かならす

○鑄字事實記　一卷　尹定鉉撰　金炳國書　板本

本書は從來懸板となしたるものを哲宗九年石搨法に依りて摺本に製したるものなり其の內容は太宗癸未の鑄字來歷及世宗庚子、庚寅、正祖丁酉、壬寅、丙辰等に於ける鑄字の沿革より哲宗九年戊午に至る鑄成字數を記したるものにして附するに鑄字監事官の人名錄を以てす

尹定鉉字は鼎叟、檉溪と號す南原の人大提學行恁の子なり正祖癸丑に生れ憲宗癸卯文科に登り吏曹判書を歷て官判義禁に至り李太王甲戌に歿す謚を孝文と云ふ父行恁正祖の時に文名を以て知遇を受け寵を專にせし爲純祖の初死を賜ふ定鉉父の文名を繼くと雖も枳廢すること久しく五十一に及ひ始めて登科し十年內に驟進して崇秩に至れり

小說類

○花史　一冊　林悌著　寫本

子部

本書は著者か各種花卉を以て國家君臣の制度に擬し花に關する故事に據りて治亂興亡の歷史を假作したるものなり其の文章亦豪宕なり著者常に曰く「四夷八蠻皆爲帝國、獨朝鮮不能自立入主中國、吾生何爲也、吾死何恨也」と本書の如きは其の拔越慷慨の意を託したるものなり明人仲遵の撰したる花史二十七卷あるも花の品と候と友と器とを分說したるに止まり本書とは大に其の體裁を異にす

林悌字は子順、白湖又謙齋、嘯痴と號す羅州の人なり明宗己酉に生る宣祖丁丑文科に出身し官吏曹正郎を拜し北評事に迄り其の丁亥に歿す享壽三十九天才絕倫日に數千言を誦し最も詩に長す好みて名山大澤に遊ひ嘗て俗離山に入り大谷成運に師事す李栗谷、李白沙等皆之を稱するに奇男子を以てす

○九雲夢　六卷　金萬重著　金春澤增訂　板本

本書は金萬重か其の母を慰むる爲に草せしものにして後從孫金春澤之を添修潤色せり人世の行

樂は本來定緣あるも一夢に過きさることを比喩せるものなり

金萬重字は重叔、西浦と號す忠烈公金益兼の子なり仁祖丁丑に生れ顯宗の時に登科し孝行卓異なるを以て閭に旌せられ官判書に至り肅宗壬申に歿す謚を文孝と云ひ肅宗廟庭に配享せらる

金春澤字は伯雨、北軒と號す孝宗の時に生れ肅宗の時に歿す兵曹判書金鎭龜の子なり少より才氣爛發往往人を凌き自ら檢束を加へす遂に科擧に及第せす無官の秀才として終れり

○ 謝氏南征記　一卷　金春澤著　寫本

本書は金春澤か勸善懲惡を旨として作れるものにして妖妾か主婦を誣陷して之を逐出し其の家を覆亡せる事を述へたるものなり一說に肅宗の仁顯王后を廢黜するや春澤此の書を宮中に流入せしめ王の三省を促し仍て遂に其の復位を見たりといふ

金春澤の小傳は子部九雲夢に出つ

○ 倡善感義錄　二卷　金道洙著　寫本

本書は金道洙か勸善の意を寓したる說話にして善者惡者より搆誣を被り無限の苦難を受けたるも惡者に對して猶ほ德を以て遇し惡者其の義に感服せる假搆事を叙せるものなり

金道洙は春洲と號す淸風の人なり英祖の時官知禮縣監に止る春洲集を著す

雜書類

○ 存笥新鈔　八卷　著者未詳　寫本

本書は凡そ事物の人生日用生活及經濟衞生等に利効ありと認むる者を列錄せるものなり

集部

別集類

○ 桂苑筆耕集　二〇卷　崔致遠著　板本

新羅崔致遠唐より還り著す所の雜詩賦表集、覆簣集其の他合して八卷及本書桂苑筆耕集二十卷を進獻せり本書の內容は表、狀、檄、書、委曲、擧牒、齋詞、祭文、疏啓狀、雜書、詩等なり徐居正の序に曰く我東詩文集之秖今傳者、不得不以是集爲開山鼻祖、是亦東方藝苑之本始也と以て其の價値を知るへし

崔致遠字は海夫、孤雲と號す新羅憲康王の時の人なり、年十二商船に隨ひ唐に入り十八歲進士に擧けられ官は都統巡官承務郎侍御史內供奉賜紫金魚袋に至る二十八歲命に依り歸國し兵部侍郎に除せらる唐に在るや討黃巢檄一篇を草し文名を天下に馳す東歸の後文學を唱道し朝鮮始めて聖賢道統の曙光を見るを得たり高麗顯宗の時文昌侯を贈られ後又文廟に從祀せらる其の墳墓忠淸南道鴻山郡に在り

○ 梅湖遺稿　一卷　陳澤著　板本

本書は陳澤の排律、古詩、絕句を主とし附錄として事實、評品、酬唱等を載す著者陳澤五世の孫塤の裏集刊行せるものなり

陳澤は梅湖と號す驪陽の人なり高麗神宗三年庚申に及第し官右司諫に至る詩を善くし少時白雲居士李奎報と才名を齊うす不幸にして身世零落し其の傳記及著作の傳はらさるもの多く今存せるもの僅に本集一冊に過きす

○ 東國李相國全集四一卷李奎報著　板本

○ 東國李相國後集一二卷李奎報著　板本

兩書共に李奎報の詩文集にして全集は高麗高宗二十八年辛丑八月後集は同年十二月其の子涵之を編成刊行せり然れとも其の世に行はるる尙しきと共に訛舛脫漏の點亦多し同王三十八年辛亥大藏經の雕造畢を告けたるを以て分司大藏都監に命して雕造せしむ涵當時隣郡河東の監務官たり家藏一本を出して讐校に充つ全集第一卷より

第十八卷まてに年譜,詩各體,第十九卷第二十卷に雜著,上樑文,口號,頌讚銘,韻語,語錄第二千一卷說序第二十二卷雜文第二十三卷より第二十五卷に記,牓文,雜著第二十六卷より第三十二卷まてに書,書狀表,隣國交通所製,表,表牋狀,狀,第三十三,三十四卷に敎書,批答,詔書,麻制,官誥第三十五,三十六卷に碑銘,墓誌,誄言第三十七卷に哀詞,祭文第三十八卷に道場醮疏,祭文第三十九卷に佛道疏第四十卷に釋道疏祭祝第四十一卷に釋道疏を收め後集第一卷より第十卷まて古律詩第十一卷に贊,序,記,雜議,問答第十二卷に書,表,雜著,墓誌を載す高麗著書の乏しき今日に於て當時の史實及事情を調査するに缺くへからさる資料なり

李奎報字は春卿,白雲居士と號す高麗明宗庚戌登科し官平章事大學士に至る當時に於ける文章の大家にして朝廷の辭令は皆其の手に出て著述甚た多し然るに後世唯其の詩賦を贊して文章を稱するもの稀なるは寔に惜むへし

○ 圓鑑國師歌頌　一卷　釋冲止著　板本

本書は海東曹溪宗第六世圓鑑國師の歌頌を集めたるものにして原刻本は高麗忠烈王二十三年に印出せられたるものなり

冲止初の名は法桓,慈庵と號す俗姓は魏氏,定安の人なり魏紹の子にして高麗高宗丙戌に生れ年十九壯元に登第し日本に奉使す其の後僧となり禪源社に於て主法し直造堂を師として受具を爲し四十歲金海縣甘露社に住す忠烈王師の風を聞き師の德を嘉して使を遣はし師を迎へ賓主の禮を以て遇し金襴袈裟,碧繡長衫,白拂一雙を賜ふ其の壬戌寂す行年六十七圓鑑と謚し塔は寶月と稱す

甞て詩あり云く誰知鷄足山中老,曾是龍頭座上賓

○ 止浦集　三卷　金坵著　板本

本書は金坵の詩文集にして絕句,古詩,應製錄,表箋,啓,疏,書,碑文を載し附錄を收む純祖元年著者金坵の後孫東灝の刊行する所に係り湖南扶安の有志之を賁く

金坵字は次山,止浦と號す高麗熙宗辛未に生る高宗の時の文科出身にして吏部尙書政堂文學を經て寶文閣大學士となり平章事を拜し忠烈王戊寅に殁す文貞と謚す嘗て晦軒安裕と道義の交をなし詩賦に長し稼亭李穀常に之を稱推す朝に在りて偉績多く而して佛法を排斥するの故を以て權臣に忤ふ識者爲に益之を重せりと云ふ

○ 益齋亂稿　一〇卷　李齊賢著　板本

本書は李齊賢の詩文集なり就中詩最も妙境に入る其の子彰路及其の孫實林の撫收する所なるも遺稿散佚して盡く錄するに至らす亂稿の名ある所以なり

李齊賢の小傳は子部糅翁稗說に出つ

○ 稼亭集　二〇卷　李穀著　板本

本書は稼亭李穀の詩文集にして嗣子牧隱の妻弟朴尙衷か遺稿を編纂して上梓したるものなり多くの年所を經て原板毀敗せしより仁祖十三年後孫判書基祚之を重梓す載する所雜錄,雜著,記事,碑銘,說,跋,讚,書,啓,序,表,箋,疏,古詩,律詩等なり

李穀字は仲父,稼亭と號す韓山の人なり高麗の忠烈王戊戌に生れ益齋李齊賢の門に遊ひ學業を成就し忠肅王庚申に登科し癸酉の歲元に入り進士出身を以て待ち國史院檢閱を授けられ中書郎中に上る歸來官都僉議贊成事に至り忠定王辛卯に殁す韓山伯に封せられ文孝公と謚す

○ 壎隱逸稿　六卷　田祿生著　板本

本書は壎隱田祿生の後孫萬英か十九史略補,高麗史,東國通鑑,東國史略其の他諸書凡そ四十八種に就き祿生の詩文を拾集し並に家藏の諸牒を添入し以て編次せしものにして第一卷を原集とし批答,辭,疏等を收め第二卷以下を附錄とし本傳,姓貫,扈從錄,功臣錄官跡,應製錄,遺事,世系圖,歷官略,家狀,尊慕錄並に季弟耕隱遺事,孫尉節孝實記,旌閭,遺事,家狀を集め以て全帙となせり猶ほ卷首に陶谷李宜顯及黎湖朴弼周の序文を附す

田祿生字は孟畊,壎隱と號す潭陽の人なり高麗忠肅王戊午に生れ忠敬王の時登科し大司憲等を歷て政堂文學となり兼ねて大君師傅を拜せしか適ま廢王禑元年乙卯朴尙衷等と同しく杖配せられ路に殁す

○ 牧隱稿　五五卷　李穡著　板本

本書は李穡の遺稿を集めたるものにして其の詩文は奔放老蒼李奎報と聯鑣並馳して高麗の二大家を推す其の孫文烈公季甸詩稿を精選して六卷となし上梓せしか後又後孫順天府使德洙本集を刊行す收むる所年譜行狀詩文說表讚箴書頌銘傳等なり

李穡字は潁叔牧隱と號す稼亭穀の子なり高麗忠肅王戊辰に生れ益齋の門に學ひ高麗恭愍王癸巳登科し甲午の年元に往き文科に及第し翰林知製誥を授けらる高麗恭愍王の時官門下侍中に至る李太祖屢徵せしも仕へす太祖丙子韓山伯に封せられ文靖と謚せらる

○ 柳巷詩集　一卷　韓脩著　板本

本書は韓脩の詩集にして宣祖三十五年八世の孫柳川浚謙湖南觀察使たりし時刊行せるものなり韓脩字は孟雲柳巷と號す淸州の人なり高麗忠肅王の癸酉に生る幼より才名あり十五にして登科す時人以て夙成となす又草隸を善くす官判府事大提學に至り廢王禑甲子に殁す謚して文敬と云ひ淸城君に封せらる

○ 圃隱集　四卷　鄭夢周著　板本

本書は鄭夢周の詩文集にして其の子宗誠宗本之を編刊し宣祖の時西厓柳成龍に命して改刊せしめ英祖の時更に改刊し李太王庚子後孫煥翼更に增補改刊せり第一卷第二卷は詩第三卷は雜著拾遺遺墨第四卷は年譜攷異附錄を收む

鄭夢周字は達可圃隱と號す迎日の人なり高麗忠肅王七年に生れ恭愍王庚子科擧に應し三場に連魁して遂に甲科に擢てらる時に士大夫喪祭の禮紊亂し喪は百日にして終り祭は專ら佛式を用ふるを例とせしか圃隱自ら三年の喪に服し祭は朱熹の家禮を用ふ是より禮制舊に復するを得たり朝廷命して其の間に旌表す嘗て大學に敎授するや經義講說人意に超出す牧隱李穡之を稱して東方理學の祖となす詩文豪放峻潔讀者をして忠烈高邁の氣に感せしむ太祖壬申創業の時圃隱豫め其の謀を知り恭讓王に告けて將に之を殺さんとし却て太宗の使趙英珪の爲に路に要擊せられて斃る官は門下侍中に至り忠義伯に封せらる太宗の末年領議政を贈られ益陽府院君に封せられ謚を文忠と曰ふ次いで中宗の時文廟に配享せらる

○ 圃隱集續錄　三卷　鄭夢周著　板本

本書は鄭夢周の詩文にして原集に漏れたるものを十一代の孫讚輝肅宗己亥編集し英祖己亥刊行せるものなり李太王庚子後孫煥翼增修せり卷首に肅宗英祖の詩第一卷に歌詩疏啓墓誌銘第二卷に遺事尙論祠廟褒典第三卷に陳請讚述記題を收む

鄭夢周の小傳は集部圃隱集に出つ

○ 陶隱集　五卷　李崇仁著　板本

本書は李崇仁の遺稿にして太宗の命刊せしめたるものなり

李崇仁字は子安陶隱と號す高麗恭愍王壬寅に登科し官密直副使に至る朝鮮開國の初鄭圃隱に黨したるの故を以て削職杖流せらる當時圃隱牧隱と文名を齊うす太宗經筵に臨み每に悼惜して措かす封を加へ爵を贈る

○ 冶隱續集　三卷　吉再著　板本

本書は冶隱吉再の遺稿にして哲宗九年戊午後孫吉冕周之を集め宋來熙之を編摩せるものなり詩誄贊書行錄を載せ附するに歷代諸王の賜祭文詩傳敎朝野諸名士の祭文祠堂記等を以てす

吉再字は再父冶隱は其の號なり善山の人なり高麗恭愍王癸巳に生れ廢王禑丙辰登科し官門下注書に至る太祖開國の初太常博士に拜し屢徵したるも應せす嘗て鄭圃隱に從ひ性理の學を極め老境に及ふまて實踐彌篤く門に學ふ者甚た多し謚して忠節と云ふ

○ 三峰集　一四卷　鄭道傳著　板本

本書は三峯鄭道傳の詩文集にして曾孫文炯慶尙觀察使たる時始めて開刊し久しく板本散逸せしか正祖の時內閣に命し更に印行せしむ本集載する所詩賦書表の外經濟文鑑經國六典及佛氏雜辨心理氣篇心問天答陣法等あり思想精博筆鋒犀利略ほ其の人となりを窺ふへし

鄭道傳の小傳は史部經國六典に出つ

○陽村集　四〇卷　權近著　板本

本書は陽村權近の詩文集にして四十卷中詩十卷文三十卷なり顯宗十五年甲寅十世の孫權濤が嶺南監司たりし時晋州牧使南夢賚と協力して刊行し時の相國許穆之に序を弁す著す所別に入學圖說、五經淺見錄等あり

權近の小傳は經部禮記淺見錄に出つ

○別洞集　三卷　尹祥著　板本

本書は尹祥の詩文集にして其の子季殷遺稿を收拾し後孫三微に至り始めて刊行せるものなり載する所詩、表、箋、疏、陳言、書、序、說、祭文、策、跋、歌謠等あり

尹祥字は實夫、別洞と號す高麗恭愍王癸丑に生れ太祖丙子に登科し官藝文提學に至る久しく大司成を以て國子監に居り經學に精通し世宗乙亥に歿す

○蘭溪遺稿　一卷　朴埈著　板本

本書は蘭溪朴埈の詩文集にして後孫心學之を收拾し刊行したるものなり載する所詩、疏、雜著なり

附錄には諡狀、神道碑銘等を錄す

朴埈字は坦父、蘭溪は其の號なり高麗廢王禑戊午に生れ乙丑に登科し世宗の時講幄に出入し特に音樂に精通するを以て國樂を整理す官藝文館大提學に至り文獻と諡せらる

○泰齋集　五卷　柳方善著　板本

本書は泰齋柳方善の詩を收錄せるものにして世宗三十二年上刊す

柳方善字は子繼、泰齋は其の號なり高麗廢王禑戊辰に生れ世宗癸亥に歿す詩を以て名あり

○憂堂集　三卷　朴融著　板本

本書は憂堂朴融の詩文集にして後孫星默之を蒐輯し朝鮮李太王乙亥之を刊行したるものにして詩九篇、祭文、居家誡、對策各一篇を載す

朴融字は惟明、憂堂と號す密陽の人松隱翊の子なり太宗戊子生員に中り其の年文科に登り典翰を歷て官郡守に止まり世宗甲辰に歿す圃隱鄭夢周の門人にして輿地勝覽に王佐の才と稱す

○敬齋遺稿　二卷　南秀文著　板本

本書は南秀文の詩文集にして九世の孫熙錫十一世の孫國煥之を編輯す收むる所詩、序、記、跋、墓誌銘、墓表、雜著、敎書、箋、書、契、祭文、祝文、告由文、解怪文、附錄等あり純祖甲子之を刊行す

南秀文字は景質、敬齋と號す固城の人道菴琴の子なり太宗戊子に生れ世宗丙午進士及文科に中り丙辰重試に魁たり文章を能くし高麗史の初草大抵皆其の手に出つ官集賢殿直提學に止まり壬戌に歿す世宗の時湖堂を新設し文學の士を拔選せし時首選の榮を得たり位卑しと雖も死後禮葬致祭の特典を受く

○成謹甫集　四卷　成三問著　板本

成三問は忠節比なく文章亦最も特異なり而も禍亡の餘遺稿の存するもの幾と無し後に尹裕後遺佚せる詩文若干を集めて刊布せり本書卽ち是なり

成三問字は謹甫、梅竹軒と號す昌寧の人なり太宗戊戌に生れ世宗戊午文科に登第し嘗て集賢殿に入直せし時世宗より元孫端宗の事を託せられ朴彭年、申叔舟と共に輔導の任に當りしか後端宗遜位の時朴彭年等の六臣と共に端宗の復位を謀り事覺はれて誅せらる肅宗に至り之を昭雪し吏曹判書を贈られ忠文と諡せらる

○檜軒逸稿　一卷　柳義孫著　板本

本書は柳義孫十二代の孫範休か其の故蘆を輯纂したるものにして收むる所詩、敎書、序、記、跋、碑銘、各若干あり刊行の時を明かにせざるも編者範休の附言中今に至りて四百年云々とあり其の近代に成りしこと明なり卷首に鄭宗魯の序あり

柳義孫は檜軒と號す全州の人にして直提學演の子なり世宗元年己亥生員となり丙午登科し翰林より集賢殿に入り丙辰重試に擢られて直提學を拜し辛酉世子侍講院左輔德を兼ね官吏曹參判に至り端宗の時全州黃方山中に笑臥亭を築きて退居し世祖元年召に背きて赴かず旌義に謫せられて歿す

○漁溪集　二卷　趙旅著　板本

本書は趙旅の遺稿を集めたるものにして其の孫

績等之を登梓し後孫榮祏英祖十八年に之を改刊せり

趙旅字は主翁、漁溪と號す咸安の人なり端宗癸酉進士に中り端宗遜位の後鄕曲に隱遯し遂に復た出てず時に金時習、元昊、李孟專、成聃壽、南孝溫と俱に生六臣と稱せらる正祖の時吏曹判書を贈られ謚して靖節と云ふ

○ 金文節逸稿　三卷　金淡著　板本

本書は金淡の詩文集にして仁祖二十二年六世の孫正郎鑒の刊行する所なり詩、疏、策附錄には行狀、銘、文等を載す

金淡字は巨源、太宗丙申に生れ世宗の時に登科し官吏曹判書に至り世祖甲申に歿す謚を文節と云ふ學問深博最も天文に精し歿後丹溪書院に享せらる

○ 四佳集　五八卷　徐居正著　板本

本書は徐居正の詩文集にして成宗十九年の開刊に係る載する所詩、賦、文、雜著等無慮數百篇あり徐居正の小傳は史部東國通鑑に出つ

○ 梅月堂集　一七卷　金時習著　寫本

本書は金時習の詩文集にして宣祖の時命して登梓せしめ其の後仁祖の時之を改刊せり載する所數百篇就中古今帝王國家興亡論を初人主、天形、性理、修眞外數十篇は大文章にして一讀以て其の抱負を窺ふに足るものあり

金時習字は悅卿、梅月堂と號す、又淸寒子、贅世翁、東峯、雪岑等の別號あり江陵の人世宗乙卯に生れ年五歲神童の稱あり世宗召見し其の才を試み大に褒賞を加ふ弱冠山中に讀書し端宗位を遜るを聞き落髮して僧となり佯狂自放し國內の山川足迹殆と印せざるなく佳境に遇へは輒ち吟咏す年四十七髮を長し妻を娶り幾もなくして妻死す復た山中に入り放浪舊の如し宣祖癸丑に歿す儒臣栗谷李珥に命して傳を作らしむ正祖の時吏曹判書を贈り淸簡と謚す

○ 不憂軒集　二卷　丁克仁著　板本

本書は不憂軒丁克仁歿して三百餘年後孫孝穆其の故藁を收拾印行したるものにして第一卷に詩第二卷に文及歌曲を收め猶ほ行狀、家狀、墓文等を載せたり卷首の序は黃景源及黃胤錫の撰なり

丁克仁字は可宅、不憂軒又茶軒、茶角の號あり太宗元年辛丑に生る世宗十九年太學進士たる時佛に歸依するの非を陳疏し將に罪せられんとして宰相黃喜に救はれ纔に事なきを得たり文宗の時逸を以て舉けられ端宗の時全州府敎授成均館主簿、司諫院正言等を歷て獻納に至り成宗十二年辛丑に歿す壽八十一

○ 太虛亭集　三卷　崔恒著　板本

本書は崔恒の詩文集にして其の妻弟徐居正成宗丙午に之を編次刊行し後宣祖二年己巳曾孫崔興源慶尙道都事たる時重刊し後又仁祖三年乙丑七代孫瀗三度之を刊印せるものなり第一卷に古詩律を收め第二卷に跋、書、表、箋等を載す本集の外又世祖の易學啓蒙要解を補釋したり

崔恒の小傳は經部易學啓蒙要解に出つ

○ 訥齋集　六卷　梁誠之著　板本

本書は梁誠之の詩文集にして孫大樹か錦山郡守たる時刊板し正祖十五年奎章閣に命して改印せしめたるものなり載する所奏議及雜著、古今詩あり附錄は金守溫、徐居正等の詩文にして梁誠之と關係あるもの數篇を載す

梁誠之字は純父、訥齋と號す南原の人なり太宗乙未に生れ世宗辛酉に登科し五世に歷事して官吏曹判書に至り又文衡を典り南原君に封せらる成宗壬寅に歿し文襄と謚せらる其の官に在るや贊劃建白甚た多く奏議稿、五朝實錄、日記、麗史節要等著作亦舉て數ふへからす

○ 止止堂詩集　一卷　金孟性著　板本

本書は金孟性の詩集にして燕山君の朝、金應箕嶺南に府伯たる時刊行せしものなり

金孟性字は善源、止々堂と號す善山の人なり世宗丁巳に生る早歲孝を以て聞ゑ遺逸を以て薦めらる成宗丙申文科に中り官銓郎に止まり丁未に歿す

○ 虛白堂集　附虛白堂風雅錄、虛白堂拾遺　三五卷　成俔著　寫本

本書は成俔の詩文集にして其の子世昌の編次に係る詩集十四卷詩各體を收め文集十三卷文各體を載す別に補集五卷あり詩各體を收む又附錄虛白堂風雅錄二卷虛白堂拾遺一卷倶に成俔の詩各體を收む尙ほ卷末に門人金安國の成俔行狀を添ゆ

成俔の小傳は經部樂學軌範に出つ

○保閒齋集　一七卷　申叔舟著　板本

本書は申叔舟の詩文集にして成宗特に命して之を登梓し仁祖二十三年後孫泓更に改板重印せしものなり

申叔舟の小傳は經部國朝五禮儀に出つ

○佔畢齋集　二五卷　金宗直著　板本

本書は金宗直の詩文集にして絕句、律詩、排律、古詩、賦、謠、樂府、冊文、祭文、書、序、說、跋、記、銘等あり

金宗直の小傳は史部彛尊錄に出つ

○秋江集　五卷　南孝溫著　板本

本書は秋江南孝溫の遺集にして外曾孫判書兪泓之を刊布し後兵火に罹りて燒失し肅宗三年後孫枋更に改刊せしものなり

南孝溫字は伯恭、秋江と號す生六臣の一にして宜寧の人なり端宗甲戌に生る嘗て佔畢齋金宗直に從學す宗直之を視るに弟子を以てせず名を呼はすして號を稱したりと云ふ成宗の時疏請して昭陵を復せんとして用ひられず遂に意を科宦に絕ち文酒自放し成三問、朴彭年等六臣の傳を述ふ庚子に至り母命に依り勉めて進士に中り成宗壬子に歿す後燕山君の時復昭陵疏の事を以て禍泉壤に及ひ其の子忠世亦禍に死す正祖の時に至り特に吏曹判書を贈られ文貞と謚す別に秋江冷話の著あり

○風月亭集　二卷　李　婷著　板本

本書は李婷の遺稿にして初め成宗命して上梓せしも兵火に燒失し後孫夏相居昌に守たる時更に刊行せるものなり

李婷字は子美、風月亭と號す成宗の弟なり端宗甲戌に生る賢にして才あり時人漢の河間王德と東平王蒼とを以て之に比す成宗卽位するや之に事へて尤も謹み唱和甚た多く湛樂の情を極む其の作る所の詩明國に流播せるものあり富林君湜と翰墨の友なりしか惜むへし天年を二公子に假さす成宗戊申に歿せり謚して文孝と曰ふ

○四雨亭集　二卷　李　湜著　寫本

本書は李湜の遺集にして其の子道安副正李輙かゝを裒輯刊行せるものなり

李湜字は浪翁、四雨亭と號す世宗の孫なり世祖戊寅に生れ富林君に封せらる王孫の貴を以て天性淡泊惟た文字を喜ふ尤も詩詞に工にして往往警句絕唱あり然れとも壽三十に止る惜むへし

○山堂集　五卷　崔忠成著　板本

本書は崔忠成の文集にして後孫鍾翼の編輯したるものなり收むる所雜著、書、序、記、墓誌、疏、傳、附錄等あり李太王丙寅後孫秉潤之を刊行す

崔忠成字は弼卿、山堂と號す全州の人烟村德之の孫なり世祖戊寅に生れ成宗辛亥に歿す寒暄堂金宏弼の門に入り學に淵源ありと雖も年僅に三十に過きす處士を以て終れり

○寒暄堂集　一卷　金宏弼著　板本

本書は金宏弼の詩十三首を載す總て景賢錄中に收むるものなり

金宏弼字は大猷、寒暄堂と號す瑞興の人なり端宗甲戌に生れ成宗庚子生員に中り遺逸を以て擧られ官佐郎に至る燕山君戊午の史禍に當り佔畢齋金宗直の門徒たるの故を以て熙川に杖配せられ甲子竟に刑せらる沐浴冠帶して刑に臨み顏色常の如し學問精明踐履眞實にして一蠹鄭汝昌等と志を同うす中宗の時右相を贈られ文敬と謚し文廟に從享せらる

○錦南集　五卷　崔　溥著　板本

本書は崔溥の文集にして宣祖の時外孫眉巖柳希春か刊行せるものなり載する所疏、記、銘、論等なり就中漂海錄は支那へ漂流せる當時の境遇を記したるものにして一部の風俗史と謂ふへし

崔溥字は淵淵、錦南と號す耽津の人なり端宗甲戌に生る成宗壬寅文科に中り選れて湖堂に入り公務を以て濟州に赴き風波の爲支那浙江省に漂到

し誤つて寇賊と認められ僅に生還するを得たり上命に依り漂海錄を撰す嘗て佔畢齋文集を藏せしより燕山君戊午の史禍に遭ひ杖流せられ甲子殺害せらる官司諫に止まり中宗反正の後承旨を贈らる

○ 月軒集　五卷　丁壽岡著　板本

本書は丁壽岡の詩文集なり載する所賦、詩、律、祭文、傳、記、論、書、序、表、箋、制、表頌等あり

丁壽岡字は不崩、月軒と號す羅州の人なり端宗甲戌に生る成宗丁酉文科に中り官大司成に至る兄壽崑と俱に才名あり子玉亨、孫應斗皆當時に名あり

○ 濯纓集　六卷　金馹孫著　板本

本書は金馹孫の文集にして顯宗の時搢紳學者相議して刊行せるものなり載する所賦、雜著、文、書、跋、序、記、辭、銘、對策、誌、銘、詞等あり

金馹孫字は季雲、濯纓と號す金海の人なり世祖甲申に生れ成宗丙午文科に中り官銓郎に至る燕山君戊午の史禍起るや佔畢齋金宗直の弟子として其の義帝を吊ふ文に賛し以て忠憤を寓す云々の語あり之か爲に亂逆の罪に問はれ極刑に處せらる中宗の初め承旨を贈らる

○ 睡軒詩集　三卷　權五福著　板本

本書は權五福の遺稿にして孫文海燕山君禍後殘簡零墨を拾集したるものなり附錄として文十餘篇及柳子光傳並に柳西厓か錄せる戊午史禍事蹟、戊午黨籍等を載す

權五福字は耀之、睡軒と號す安東の人なり兄弟五人中其の第三に居る世祖十二年丁亥に生れ成宗十七年丙午司馬試に中り尋て登科し翰苑を歷て弘文館に入り燕山君二年丙辰校理に至り便養を乞ひ出てて野城に宰たること三年戊午の禍起るや佔畢齋金宗直の門下たるの故を以て鞫庭に拿致せられ金馹孫、權景裕と共に拷殺せらる時に年三十二中宗の時承旨を贈らる五福學行高潔交遊する所は皆當世の清流にして特に金馹孫と最も莫逆の交あり俱に極禍に罹りて終る行義一世に推重せらるるのみならず文章亦著名なり

○ 忘軒集　一卷　李胄著　寫本

本書は李胄の詩集にして宣祖の時其の姪孫輒の登梓せるものなり

李胄字は胄之、忘軒と號す固城の人にして左相原の曾孫なり世祖の戊子に生る蚤歲より才名あり又詩を能くす成宗戊申の文科出身にして官正言に至る燕山君戊午史禍起るや絕島に杖流せられ甲子に殺さる

○ 虛庵遺稿　三卷　鄭希良著　板本

本書は鄭希良の遺稿にして中宗七年友人青海君李堣等之を收拾し鋟梓せるものなり

鄭希良字は淳夫虛庵と號す海州の人なり成宗乙卯に登科し燕山君の時翰林を以て戊午の史禍に坐し遠竄せられ幾もなくして放還に逢ひしも江に沉みて死す

○ 挹翠軒遺稿　二卷　朴闇著　板本

本書は朴闇の遺稿にして容齋李荇之を收錄して刊行せしも後刻板損滅し竹南吳竣、樂靜趙錫胤等相議して之を重刊し統制使鄭弘佐、判書俞得一等更に之を改刊せり

朴闇字は仲悅、挹翠軒と號す高靈の人なり成宗己亥に生れ燕山君丙辰の文科出身たり風神異常にして當時の文壇に馳騁す經筵に在るや事に遇ふて言はさるなく直聲宮廷に振ふ燕山君之を憚り甲子の史禍起るや東萊に竄し尋て擊殺を加ふ刑に臨み顏色を變せさりしと云ふ時に年僅に二十六中宗の初都承旨を贈る

○ 李評事集　三卷　李穆著　板本

本書は李穆の遺稿にして仁祖の時曾孫久澄之を刊行せり附錄として南袞撰柳子光傳、燕山君四年戊午士禍金宗直以下二十餘名の處罰事蹟及其の略歷、金尙憲の撰文に係る李穆の墓表陰記及補遺一篇を添ふ

李穆字は仲雍、寒齋と號す完山の人なり少にして佔畢齋金宗直に學ひ成宗の時生員の試に魁たり性硬直峻烈時流の推す所となる曾て大學に遊ひし時成宗病み大妃巫をして禱らしむ穆諸生を率ひ杖して之を逐ふ尹弼商相臣たる時天會ま大に

旱す穆上疏して曰く弼商を烹れは乃ち雨降らんと燕山君乙卯に登科し北評事に至る戊午の史禍起るや金宗直に黨するの故を以て斬らる中宗の初特に吏曹判書を贈られ貞簡と謚す

○ 篠叢遺稿附佛頂稿　一卷　洪裕孫著　板本

本書は洪裕孫の遺稿にして後孫洪益中之を收拾刊出したるものなり秋江南孝温嘗て其の詩文を評し詩は山谷に涉り文は漆園に似たりと稱す附するに其の子至誠の詩集佛頂稿を以てす

洪裕孫字は餘慶、篠叢又狂眞子と號す世宗辛亥に生る家世世寒微なりしも才思絶倫にして五歲早く斯文の先輩に逼謁し異器を以て遇せらる中宗の時進士の試に中りしも爾來意を仕途に絶ち專ら詩文に耽り秋江南孝温と友とし善し中宗己丑に歿す

洪至誠字は剛中、佛頂と號す亦詩を能くす然れとも遺稿零散して多く傳はらす

○ 懶齋集　二卷　蔡壽著　板本

本書は蔡壽の詩文集にして顯宗十五年後孫之沇の刊行したるものなり

蔡壽字は耆之、懶齋と號す仁川の人なり世宗己巳に生れ睿宗己丑に登科し謹直を以て聞ゆ燕山君の時奸臣を糾摘し死地に置かれたるも毫も意とせす中宗靖難後仁川君に封せられ官知事に至り其の乙亥に歿し襄靖と謚す

○ 鄭文翼遺稿　一卷　鄭光弼著　板本

本書は鄭光弼の遺稿にして肅宗二十八年子孫等の哀集開刊せしものなり曾孫昌衍の上疏一首を附載す

鄭光弼字は士勛、守夫と號す東萊の人にして東萊君蘭宗の子なり世祖壬午に生れ成宗壬子の文科出身たり官領議政に至る謚して文翼と云ふ中宗廟庭に配享し燕山君の暴逆に對し抗疏して遠竄せられ又己卯の士禍起るや中宗の褫を牽き泣諫し爲に一時清流の網打を免れしむ中宗戊戌に歿す朝鮮名相中に於て世宗の時の黃翼成喜と竝ひ推さる孫林塘惟吉亦文集あり

○ 二樂亭集　一五卷　申用漑著　板本

本書は申用漑の文集にして嘗て板本ありしも兵亂に遭ひ散失し肅宗の時に至り六代の孫醒齋翼相全羅監司たる時之を重刊す

申用漑の小傳は子部續三綱行實に出つ

○ 聾巖集　五卷　李賢輔著　板本

本書は李賢輔の詩文集にして顯宗六年外孫金啓光の開刊せるものなり

李賢輔字は棐仲、聾巖と號す永川の人なり世祖丁亥に生る燕山君戊午の文科出身にして官知中樞事に至り謚して孝節と云ふ嘗て正言たる時事を論し燕山君の怒に觸れ獄に投せらるるに際し彼れ鐵面面髯者と錄せられたるより時人號して燒酎陶瓶となす蓋し外暗にして內烈なるをいふなり晚に鄕里に退さて親を養ひ農を勗む士大夫其の行を高しとせさるなし明宗乙卯に歿す

○ 三可集附四休堂遺稿、龍軒事蹟　一卷　朴遂良著　板本

本書は朴遂良の遺稿にして後孫時赫之を收拾刊行し從姪朴公達の遺稿及從子朴億秋の事蹟を附す

朴遂良字は君、擧、三可亭と號す江陵の人なり成宗庚寅に生れ中宗の時孝行を以て閭に旌せられ遺逸を以て縣監を拜す己卯の士禍起るや官を罷めて歸鄕し詩酒自ら樂む時に其の從姪四休堂公達亦俱に嘉遯し唱和多し明宗辛亥餘年を終る其の從子億秋字は德叟、龍軒と號す郡守となり時望あり

○ 十淸集　四卷　金世弼著　板本

本書は金世弼の遺稿にして明宗の士禍に際し文書を搜索沒收せし時十淸軒金世弼の遺稿亦其の中に在り殘すところ僅に二卷に過きす英祖の時後孫光岳宗族と相議し之を刊行す

金世弼字は公碩、十淸軒又知非翁と號す慶州の人なり成宗癸巳に生る燕山君丙辰の文科出身にして中宗の初選れて湖堂に入り官吏曹參判に至り謚して文簡と云ふ嘗て經幄に侍し周易に精しと稱せらる己卯の士禍に當り靜庵趙光祖を匡救したるを以て遠竄せられ中宗癸巳に歿す子儲亦明宗乙巳の士禍に刑せらる

○ 安分堂詩集　二卷　李希輔著　寫本

本書は李希輔の詩集にして題古詩、賦、歌、律等を收む

李希輔字は伯益、安分堂と號す平壤の人にして成宗癸巳に生れ燕山君辛酉の文科出身たり選れて湖堂に入り官大司成に至る明宗戊申に歿す

○ 訥齋集　一三卷　朴祥著　板本

本書は朴祥の詩文集にして明宗の時朴祥の弟六峰祐の開梓する所に係る奏議、雜著、詩等を收む邊備十策、君道、勸農、軍政等は著者の最も力を致したるものなり續集は肅宗の時相國崔奎瑞か湖南按察使たる時刊布せるものに係る兄生員禎、弟參判祐、子進士敏中、祐の子烟波慨の著を集末に附せり朴祥字は昌世、訥齋と號す忠州の人なり成宗の時出てて潭陽府に在り冲庵金淨と俱に上疏して愼妃を復せんことを請ひ因て竄逐せられ中宗庚寅に歿す後學行を以て特に吏曹判書を贈られ謚を文簡と云ふ

○ 憂亭集　五卷　金克成著　板本

本書は金克成の詩文集にして律、古詩、雜著、書、祭文、挽章等を收む

金克成字は成之、蘿軒又憂亭と號す光州の人なり成宗甲午に生れ燕山君戊午の文科出身にして文武兼備を以て稱せらる中宗の靖難に靖國功を策せられ光城府院君に封せらる官右議政に至り中宗庚子に歿す謚を忠貞と曰ふ

○ 慕齋集　一五卷　金安國著　板本

本書は金安國の文集にして宣祖の時眉庵柳希春、玉溪盧禛、黃岡金繼輝、榮川許忠吉、義城盧從元等相謀りて之を開刊し後肅宗十三年相國金構、龍岡縣に宰たる時之を重刊せり

金安國の小傳は子部二倫行實圖に出つ

○ 容齋集　一一卷　李荇著　板本

本書は李荇の遺稿にして仁祖十二年其の孫眉江景曾か淸州の牧使たる時開刊したるものなり

李荇の小傳は史部新增東國輿地勝覽に出つ

○ 冲齋逸稿　一卷　權撥著　板本

本書は權撥の文集なり著者の文稿は遭禍の時多く散佚せしか顯宗十二年宗孫參奉霖か同堂諸族及金秋吉、南亨會兩進士と共に裒集編刊せり

權撥字は仲虛、冲齋と號す安東の人なり成宗戊戌に生れ中宗丁卯の文科出身たり官參判に至り北門の禍作るに及ひ罷めて歸り明宗乙巳左贊成を以て柳灌を力救し朔州に謫せられ遂に歿す宣祖の初特に左相を贈られ忠定と謚す

○ 靜庵集　一五卷　趙光祖著　板本

本書は趙光祖の詩文集にして原集五卷附錄六卷續集四卷なり舊本嶺板完板俱に刓缺甚しきに至り李太王二十九年綾州の儒林等相議して重刊に付せり載する所賦、詩、對策、疏、啓辭、書、箴、誌、辭、經筵陳啓、拾遺等二百餘篇就中對策、陳啓等は文辭未た巧ならすと雖も識見卓拔尋常儒流の企て及はさるものあり

趙光祖字は孝直、靜庵と號す漢陽の人なり成宗壬寅に生る年十七八にして父元綱の魚川の任所に隨往し適ま寒暄堂金宏弼の熙川に謫居せるを以て往いて之に學ひ經術行誼一時の冠冕たり中宗の時遺逸に擧られ文科に登り幾もなくして官大司憲に至る期する所其の君を堯舜にするに在りしか竟に群奸の爲に誣構せられ己卯十月北門の禍に遇ひ領相鄭光弼泣諫力救し幸に死を減せられ綾州に謫せられしも光弼亦逐はるるや遂に死を賜はる後特に上相を贈られ謚號を文正といひ文廟に從祀せらる

○ 思齋集　四卷　金正國著　板本

本書は思齋金正國の詩文集にして宣祖の時其の孫堯立か永柔縣に宰たる時平安道伯尹斗壽助力して之を刊行し縣令尹孝先其の誤を正せり載する所絕句、律詩、古詩、排律、跋、序、記、書、疏、祭文、策、題、論、銘、撫言等なり

金正國の小傳は史部警民編に出つ

○ 冲庵集　五卷　金淨著　板本

本書は金淨の詩文集にして明宗の時其の從姪天宇か牧使許琦と力を併せて刊行し後仁祖の時曾孫聲茇錦山郡守たる時重刊せり

金淨字は元冲、冲庵と號す慶州の人なり成宗丙午

に生る十歳にして四書に通し弱冠文科に魁たり時に中宗初年なり中宗愼妃を廢し章敬后を立つ章敬后逝去の後冲菴上疏して愼妃を復せんと請ひ罪を獲て報恩縣に配流せらる己卯の獄起るに及ひ將に構殺せられんとし領相鄭光弼の爲に救はれ濟州島に杖配せられしか翌年竟に死を賜ふ官刑曹判書に至り宣祖の初謚して文簡といふ

○ 石軒實紀　二卷　柳沃著　板本

石軒柳沃の詩文は大抵兵燹に罹り傳はるもの尠し十二世の孫壤僅に家庭に殘りし殘篇を取りて刊行す本書是なり收むる所古詩、賦、疏、律詩、誌、年譜、野史、銘、歌及雜著等あり

柳沃字は啓彥、石軒と號す文化の人なり成宗丁未に生る十五歳にして進士に中り中宗丁卯に登第し官府使に止る弱冠既に文名あり中宗己卯三十餘にして終る

○ 學圃遺集　三卷　梁彭孫著　板本

本書は梁彭孫の詩文集にして憲宗の時後孫續永か收輯刊行したるものなり

梁彭孫字は大春、學圃と號す濟州の人なり成宗戊申に生れ中宗丙子の文科出身にして己卯の士禍に趙靜庵を救ひて黜けられ末路爲に振はす校理に終る後特に吏曹判書を贈られ謚を惠康と云ふ

○ 自庵集　二卷　金絿著　板本

本書は金絿の詩文集にして孝宗十年外玄孫安應昌義城に宰たる時刊行せしものなり

金絿字は大柔、自庵と號す光山の人なり生員進士に中り中宗癸酉の文科出身にして官副提學に至る己卯の禍作るや趙靜庵及金冲庵と同しく捕へられしか首相鄭光弼に賴りて救はれ極邊に杖流せらる其の甲午に歿す宣祖の時吏曹判書を贈られ文懿と謚す書を善くし人多く之に倣ふ

○ 立巖集　六卷　閔齊仁著　板本

本書は閔齊仁の詩文集にして律詩、絶句、古詩、辭、銘等あり光海君二年孫汝仁か興海郡守たりし時刊行したるものなり

閔齊仁字は希仲、立巖と號す驪興の人なり成宗癸丑に生る中宗庚辰の文科出身にして官左贊成に至る甞て乙巳の僞勳に參し後に削らる

○ 獨菴遺稿　一卷　趙宗敬著　板本

本書は趙宗敬の遺稿にして宣祖二十年丁亥其の子廷樞溫陽郡守たりし時始めて印出し仁祖二十一年重刊せしか歳月を經て刊本傳はらす是に於て後孫曦慶、尙道に觀察使たる時舊本を采り猶ほ墓文及遺蹟の家に藏せしものを附し以て三たひ鋟梓せり收むる所詩數百首に上る

趙宗敬字は孝伯、獨菴と號す豐壤の人なり燕山君元年乙卯に生れ中宗十一年丙子司馬に就き其の十五年庚辰別試に登科し弘文館に入り淸官を歷て其の名愈顯はれ世の推許する所となりしか其の二十五年金安老の事を論して彈劾せられ致仕して果川の靑溪山下に居り田夫村翁と遊ひ三十年乙未病みて其の地に歿す享年纔に四十一

○ 石川集　五卷　林億齡著　寫本

本書は林億齡の詩文集なり載する所律詩、絶句、古詩、歌、碑銘、賦、排律、記等なり

林億齡字は大樗、石川と號す善山の人なり燕山君丙辰に生る中宗乙酉の文科出身にして官監司に至る蚤歳にして弟百齡と學を訥齋朴祥の門に受く祥甞て億齡に謂て曰く爾必す文章の士たらんと仍て莊子を授けたりと云ふ後文章行誼俱に世に稱せらる

○ 汲古遺稿　三卷　李洪男著　板本

本書は李洪男の遺稿にして光海君の時其の孫廷紳か嘉山郡守たりし時刊行せしものなり

李洪男字は士重、汲古子と號す廣州の人樽巖若氷の子なり中宗乙亥に生れ文科に登り選はれて湖堂に入り父若氷の寃死に際し之に坐して寧越に竄せらる弟洪胤と隙あり依て叛を謀ると譏し洪胤遂に斬せらる洪男其の功を以て召還せられ工曹參議となる人痛憤せさるなし宣祖の時事蹟初めて分明となり職を削らるるに至れり

○ 訥齋遺稿附江叟遺稿　二卷　朴增榮著　板本

本書は朴增榮の詩文集にして附するに其の子朴薰の江叟遺稿を以てす後孫廷龍、廷鱗、廷彪等か蒐集刊行したるものにして憲宗壬寅後孫永文之を

續刊す收むる所詞賦操詩疏應製文表祭文書墓碣禮辭等なり

朴增榮字は希仁納齋と號す密陽の人存誠齋楣の子なり世祖甲申に生れ成宗丁酉進士に中り癸卯文科に登り丙午重試し湖堂に入り壬子に歿す年僅に二十九なり文行を以て一世の盛名を負ふ明使董越其の詩文を賞揚し成宗龍硯を賜ひて其の才を奬勵す

朴薰字は馨之江叟と號す納齋の子なり成宗甲辰に生れ燕山君甲子進士に中り中宗丙子に薦を以て直に義盈主簿を授けられ持平を拜し己卯賢良科に陞り檢詳を歷て官承旨に止まり庚子に歿す己卯名賢中の一人にして英祖辛亥吏曹判書を贈られ丙寅文度と謚せらる

○ 逍遙堂逸稿　五卷　朴河淡著　板本

本書は朴河淡の詩文集にして後孫時默廷瑛等の蒐輯したるものなり賦詞詩書序記跋箴銘贊上樑文祭文碑銘附錄等あり憲宗戊戌之を刊行す

朴河淡字は應千逍遙堂と號す密陽の人忠順公承元の子なり成宗己亥に生れ中宗丙子生員に中り己卯賢良に薦せられて赴かす明宗庚申に歿す

○ 眞一齋集　一冊　柳崇祖著　板本

本書は柳崇祖の後孫時亨等か蒐輯したるものにして詩疏各一篇及年譜附錄を載す八世の孫剡の刊行せしものなり

柳崇祖の小傳は經部周易諺解に出つ

○ 大峰集　四卷　楊熙止著　板本

本書は楊熙止の詩文集にして外裔孫李天燮の蒐輯したるものなり收むる所詩疏箚書序祭文墓碣記科製附錄等にして李敏輔の序あり十世の孫濮正祖丁未に刊行す

楊熙止字は可行大峰と號す中和の人郡守孟淳の子なり世宗己未に生れ世祖壬午生員及進士に中り成宗甲午文科に登り翰苑に入り銓郎を歷て湖堂に選せられ官大司憲に至り中宗甲子に歿す登科の後成宗の命を以て名を稀枝字を楨父と改めしか後本名に復せり其の正言直諫の事と北邊籌略の事に至りては史乘に灼然たるものあり成宗河嶽間氣文武全才と稱す蓋し間世の人なり

○ 灌圃詩集　一卷　魚得江著　板本

本書は魚得江の詩文集なり

魚得江字は子游灌圃又混沌山人と號す咸從の人なり明宗丙辰の文科出身にして官大司諫に至る後冠を挂けて鄉に還り屢徵せしも起たす特に嘉言善を加へらる詩文を善くし尤も詩律に長す明宗庚戌に歿す

○ 企齋集　二四卷　申光漢著　板本

本書は申光漢の賦古詩排律絕句行狀辨記銘箚祭文箋表等を輯錄せるものにして別集には詩類を載す

申光漢字は漢之企齋又駱峯石仙齋と號す高靈の人なり成宗甲辰に生る中宗庚午の文科出身にして文衡を典り官左贊成に至り明宗乙卯に歿す謚を文簡と云ふ文章を能くし事務の才幹之に伴はすとの評あり

○ 花潭集　一卷　徐敬德著　板本

本書は徐敬德の詩文集にして載する所原理氣理氣說太虛說鬼神生死論復其見天地之心聲音解溫泉辨等の外銘詞帖古詩絕句等あり就中原理氣理氣說太虛說最も著者の造詣を見る

徐敬德字は可久花潭又復齋と號す唐城の人なり成宗己酉に生る世世開城に居り中宗の時嘗て母命を以て司馬試に赴き後復た科擧に應せす心を道義に潛め窮理の學を修む中宗の時參奉に擬せられたるも起たす明宗丙午遺逸を以て終る遊門の弟子頗る多し宣祖の時特に右相を贈られ文康と謚す

○ 晦齋集　一四卷　李彦廸著　板本

本書は晦齋李彦廸の遺稿にして其の孫浚の編刊せしものなり第一卷より第四卷に詩第五卷に賦雜著書序論第六卷に箴銘記祭文行狀碣銘第七卷及八卷に疏(一綱十目疏 進修八規疏)第九卷以下に箋狀箚大學章句補遺序中庸九經衍義序求仁錄序奉先雜儀序等を收め附錄に世系圖年譜行狀(李滉撰)神道碑銘(奇大升撰)墓誌(李恒福撰)玉山書院記(許曄撰)江界府祠廟記(朴承宜撰)等を載せり

李彦廻の小傳は經部奉先雜儀に出つ

○ 聽松集附節孝先生稿　一卷　成守琛著　板本

本書は成守琛の遺稿にして收むる所但た詩詞數篇のみ附錄せる節孝先生稿は其の弟守琮の遺稿なり

成守琛字は仲玉、聽松と號す昌寧の人にして思肅公世純の子なり成宗癸丑に生る業を趙靜庵に受け學行大に進み中宗の時遺逸を以て薦められ屢縣官に除せられしも就かず明宗甲子に歿す專ら力を實學に用ひ著作を喜はす故に遺集は詩詞數篇に過きす而も皆是れ有道者の言なり又書を以て世に名あり

成守琮字は叔玉中宗己卯の文科出身にして士禍に遭ひ削科の後意を世に絶ち兄と共に孝養に勗め誠を盡し學を講して倦ます慕齋金安國其の墓面に題し節孝先生と云ふ

○ 龍巖集　四卷　朴雲著　板本

本書は朴雲の詩文集にして正祖三年後孫之を收拾し承旨鄭翰之を編刊す載する所詩、賦、書、雜著、序、祭文、墓表、行狀、擊蒙篇、紫陽心學至論等なり

朴雲字は澤之、龍巖と號す密陽の人なり成宗癸丑に生る少にして松堂朴英に學ひ晩に李退溪の門に遊ひ學問益進む中宗の時進士に中り明宗壬戌師に先て沒す其の墓誌は退溪李滉の撰する所なり

○ 武陵雜稿　一六卷　周世鵬著　板本

本書は周世鵬の詩文集にして宣祖の時其の子校理博之を編次登梓せしか兵火に失せしを以て哲宗の時に至り後孫秉恒族人相玹と力を協せて更に收輯刊行せり

周世鵬字は景遊、愼齋と號す漆原の人なり燕山君乙卯に生る中宗壬午に登科し湖堂に選れ諫院に入り奸臣金安老を彈劾して直聲あり後大司成となり闢佛の疏を上る明宗甲寅に歿す別に竹溪誌、武陵集の著あり

○ 拙翁集　一〇卷　洪聖民著　板本

本書は洪聖民の詩文集にして仁祖十年其の孫命耆安東府に宰たる時之を梓行す載する所多くは

詩賦にして六卷以下に對、說、論、序、書、疏、銘等あり

洪聖民字は時可、拙翁と號す南陽の人なり燕山君丁巳に生る明宗甲子の文科出身にして官吏曹判書、大提學に至り益城君に封せられ明宗戊申に歿す文貞と謚す石壁春卿の子にして栗亭天民は其の弟なり七世文科に連中し綸旨の起草を掌り父子兄弟俱に選れて湖堂に入る

○ 龍門集　六卷　趙昱著　板本

本書は趙昱の遺稿にして正祖三年其の後孫時簡の刊行したるものなり載する所賦、詩、辭、書、雜著等あり

趙昱字は景陽、愚菴又葆眞庵と號す平壤の人なり燕山君戊午に生る早歲趙靜庵に師事し中宗己卯靜庵禍を被るや遂に意を科擧に絶ち其の兄養心堂晟と龍門山中に隱れ道義を講修し從學する者日に多し遺逸を以て屢官を授けられ長水縣監に至る明宗丁巳に歿し後吏曹參議を贈らる

○ 長吟亭遺稿　一卷　羅湜著　板本

本書は羅湜の遺稿にして士禍の餘草稿の存するものなく祇た詩、賦數十篇あり肅宗四年に至り五世の傍孫明村良佐收拾刊行せり

羅湜字は正源、長吟と號す羅州の人なり早歲趙靜庵の門に遊ひ性理の學を窮め時人大儒と稱す遺逸を以て薦められ參奉を授けらる明宗乙巳弟副提學淑と俱に慘禍を被りて死す

○ 河西集　二三卷　金麟厚著　板本

本書は金麟厚の遺稿にして賦、古詩、律詩、絶句、箚、雜著、家禮考誤、書、序、箋、記、啓、疏、文、贊、銘、墓誌、頌等を載せ別集には賦、詞、古詩、律、挽、墓銘等あり

金麟厚字は厚之、河西又湛齋と號す蔚山の人なり中宗庚午に生れ其の庚子に登科し選れて湖堂に入り春坊を兼ぬ時に仁宗東宮に在り契遇尤も厚かりしか卽位未た幾なくして薨す河西遂に意を世に絶ち山に入りて慟哭せりと云ふ明宗庚申に歿す後に大官を贈られ文靖と謚し文廟に從祀せらる蓋し河西は全羅道に於ける學問の宗匠なり

○ 錦湖遺稿附觀海稿二卷　林亨秀著　板本

本書は林亨秀の遺稿にして肅宗七年外玄孫柳應

壽の收輯したるものに係り文谷金壽恒之を編次し西河李敏叙之を登梓す載する所絶句、律詩、古詩、排律、歌、冊文、誌、雜著等にして附錄觀海稿は其の從子林檜の遺稿なり

林亨秀字は士遂、錦湖と號す中宗甲戌に生れ乙未の文科出身にして才、文武を兼ねたりと稱せらる明宗の初黜せられて濟州に牧たりしが罷歸の後丁未の士禍に死す李退溪嘗て其の人と爲りを稱して曰く奇男子なりと其の詩を評して風檣陣馬の如しと從子檜字は公直、觀海と號す光海君の文科出身にして仁祖甲子李适の難に廣州の牧使たりしが賊の爲に執へられ屈せずして死す

○林塘遺稿　二卷　鄭惟吉著　板本

本書は鄭惟吉の遺稿にして其の詩文は兵火の爲に大抵亡失せしが外孫仙源金尙容、淸陰金尙憲等の誦記せしもの及家中存餘のものを合して二卷となし仁祖の時曾孫領議政太和忠淸道伯たりし時之を刊行せるものなり應制錄、酬唱錄、題咏錄、東槎錄、賓接錄、傷悼錄、雜吟錄、表箋文の九門に分類し殊に賓接錄は光彩を集中に放てり

鄭惟吉字は吉元、林塘又尙德齋と號す文翼公光弼の孫なり中宗乙亥に生れ弱齡を以て戊戌の文科に魁たり選れて湖堂に入り文衡を典ること二十餘年宣祖の時相に拜せられ老を以て几杖を賜ふ明使屢至るに際し每に其の接伴使たり文章風標時人の推す所となる宣祖戊子に歿す

○蘇齋集　一七卷　盧守愼著　板本

本書は盧守愼の詩文集にして孝宗三年曾孫峻命之を編輯し景命奉化に宰たる時之を登梓す

盧守愼の小傳は史部盧蘇齋侍講錄に出つ

○寓菴遺集　七卷　金澍著　板本

本書は金澍の詩文集にして六代の孫秩の蒐集したるものなり詩、序、記、銘、墓誌銘、論、策、敎書、表、遺事、諡狀等を收む英祖己酉の刊行に係る

金澍字は應霖、寓菴と號す安東の人安原君公亮の子なり中宗壬申に生れ辛卯進士に中り己亥の別試に文科壯元に登り湖堂に選せられ官禮曹參判に止まる明宗癸亥に瑞系辨誣の事を以て明國に使し王命を辱しめず病みて燕京の館舍に歿す宣祖庚寅光國勳に策せられ花山君に封せらる著者文章言議を以て退溪李滉、河西金麟厚、錦湖林亨秀と友とし善し

○聾齋逸稿　二卷　李彦适著　板本

本書は李彦适の遺稿にして十一代の孫能燮其の同族の者と謀りて刊行したるものなり僅に詩文若干篇を載す

李彦适字は子容、聾齋と號す驪州の人晦齋彦迪の弟なり成宗甲寅に生れ中宗辛丑蔭仕を以て參奉を拜し官察訪に止まり明宗癸丑に歿す正祖甲辰持平を贈らる

○花山逸稿　一卷　權柱著　板本

本書は權柱の遺稿にして後孫榘が蒐輯したるものなり僅に詩、序、書、雜著十數篇を收む英祖辛亥刊行す

權柱字は支卿、花山と號す安東の人宗廟令邇の子なり世祖丁丑に生れ成宗甲午進士に中り戊戌文科に登り燕山君甲子士禍に罹り平海に流され其の年死を賜はる官觀察使に止まり中宗丙寅參贊を贈らる夙に直節を以て盛名あり文章は特に其の餘事のみ

○大谷集　三卷　成運著　板本

本書は成運の遺稿にして宣祖三十六年其の門人金可幾之を收輯し可幾の子德民、西堌柳根等と謀り之を刊行す、載する所詩、詞、賦、說、記、文、疏、銘等なり

成運字は健叔、大谷と號す昌寧の人なり明宗乙巳其の兄遇が士禍に寃死せるを以て以後意を世途に絶ち門を杜ちて道を求め造詣精深屢徵せられたるも起たず官司贈正に至り宣祖己巳に歿す承旨を追贈せらる

○葛川集　四卷　林薰著　板本

本書は林薰の詩文集にして顯宗の時曾孫之を刊行せり

林薰字は仲成、自怡堂又枯査翁と號す平澤の人なり世稱して葛川先生と云ふ燕山君庚申に生れ明宗及宣祖の時遺逸を以て屢徵召せらる進言して修身正心を勸め且李滉を去る勿れと請ふ其の學

問に醇なる知るへきなり官判決事に至り宣祖甲申に歿す

○ 退溪集　五六卷　宣祖命編　板本

本書は宣祖敎を下して退溪李滉の片言隻字皆後世に傳ふへしとなし有司に命して裒集刊行せしむ然るに兵亂踵て起り未た成るに至らす後門弟月川趙穆等之を大成して刊行す

李滉の小傳は經部啓蒙傳疑に出つ

○ 北厓詩稿　一卷　李增著　板本

北厓李增の著述は盡く兵火に失ひ僅に其の子節度使慶深か誦得せる詩八首あり南窓金玄成之を書し後に孝宗十年孫佐郎讜、曾孫大司成廷夔又詩二十九首を得白軒文忠公李景奭之を書し以て登梓せるもの卽ち本書なり

李增字は可謙、北厓と號す韓山の人なり燕山君辛酉に生れ明宗庚申の文科出身なり官參贊に至る宣祖庚寅平難の功を錄せられ鵝川君に封せらる其の庚子に歿し謚を懿簡と曰ふ平素清儉謙退人多く之を敬す

○ 蓀谷集　六卷　李達著　板本

本書は李達の詩文集にして光海君十年喜叟許穎の編輯に係り肅宗十九年之を印出せり

李達字は益之、蓀谷と號す洪州の人なり雙梅堂詹の庶裔にして宣祖の時の人なり家世世寒微にして終に官に就かす然れとも詩名一世に振ひ孤竹崔慶昌、玉峰白光勳と友とし善し時人之を呼ふに三唐を以てす其の詩數篇明の尙書牧齋錢謙益の撰中に收むるものあり

○ 溪堂遺稿　一卷　崔興霖著　板本

本書は崔興霖の草稿多く逸して傳はらす純祖の時に至り後孫學洙家藏の文字及諸家の文集に散見するものを收集して刊行したるものなり

崔興霖字は賢佐、溪堂と號す中宗丙寅に生る夙に時事の憂ふへきを見て報恩郡金積山に隱遯し竟に仕へす嘗て大谷成運の門に遊ひ東洲成悌元、南溟曹植と交遊し宣祖辛酉に歿す

○ 守菴遺稿　二卷　朴枝華著　板本

本書は金構か龍岡に守たる時守庵朴枝華の詩集の謄本を得て之を愛玩し遂に上梓せしものにして但た殘稿數十首を收むるに過きさるも格調清高にして雅醇誦すへきものあり西河李敏叙序を弁し峒隱其の他の追悼詞を附す

朴枝華字は君實、守菴と號す旌善の人なり中宗癸酉に生る家世世寒微なり嘗て吏文學官を拜したるも就かす花潭徐敬德に從ひて學ひ專ら禮律を窮め詞藝群を拔き明宗宣祖の時其の名一世に高く諸老の敬する所たり年八十にして壬辰の役に値ひ避けて楊根に在りしか一日水濱に至り木を斫りて杜詩白鷗元水宿、何事有餘哀の二句を書し水に投して死す好事者以て水仙となすと云ふ

○ 聽天堂詩集　一卷　沈守慶著　寫本

本書は沈守慶の詩集にして守慶は頗る詩作に耽りしと雖も今は唯本書一卷あるのみ

沈守慶字は希安、聽天堂と號す豐山の人なり中宗丙子に生れ明宗丙午の文科出身にして八道の方伯を歷て官右議政に至る嘗て溯堂に入り清白吏に選せらる宣祖壬辰の役に義兵を倡起し國事に勤む同己亥に歿す

○ 嘯皐集　一〇卷　朴承任著　板本

本書は朴承任の文集なり

朴承任字は重甫、嘯皐と號す潘南の人なり中宗丁丑に生れ早く文科に出身し官大司諫に至る幼時史略を讀み問て曰く武王天下の爲に暴紂を伐つ何そ殷宗室に於ける賢微子の如きを擇ひ之を立てすして乃ち自ら取るやと父大に之を異とす宣祖丙戌に歿す別に孔門心法、洞目心法等の著あり

○ 土亭遺稿　二卷　李之菡著　板本

本書は李之菡の詩文集にして肅宗四十八年玄孫模翊か慶州府尹たりし時開刊したるものなり詩、辭、說、疏を收む附するに遺事、朝野諸名士の祭文、墓碣銘、謚狀等を收む

李之菡字は馨仲、土亭と號す韓山の人なり中宗丁丑に生る少時徐花潭に從ひ性理の學を窮む諸家雜術通曉せさるなく其の言往往人の意表に出るものあり時に之を目して異人と云ふ栗谷李珥曰く之菡は奇花異艸珍禽怪石なりと宣祖の初牙山

縣監を拜し亦良吏を以て稱せらる其の戊寅に歿す

○ 瞻慕堂集　三卷　林芸著　板本

本書は林芸の詩文集にして絶句、律詩、排律、古詩、賦、記、策問等を載す

林芸字は彦成、瞻慕堂と號す葛川薫の弟なり中宗丁丑に生る兄と俱に學行を以て名あり又俱に孝を以て旌閭せらる宣祖の時薦められて屢參奉を授けられ壬寅に歿す

○ 錦溪集　五卷　黄俊良著　板本

本書は黄俊良の詩文集にして律、絶句、排律、古詩、書、文、疏、辨等を載す

黄俊良字は仲舉、錦溪と號す平海の人なり中宗丁丑に生れ庚子の文科に出身し官牧使に至る嘗て李退溪の門に學ひ明宗癸亥退溪に先して歿す退溪爲に其の行を述へ祭るに文を以てせり曹郎たるの時闢佛の疏を進め是より名益重し

○ 頤庵遺稿　一二卷　宋寅著　板本

本書は宋寅の詩文集にして律詩、絶句、排律、古詩、歌詞、銘、表、行狀、祭文、跋等を收め續集あり律詩、絶句、排律、古詩、誌銘、表、其の他說、簡牘、實記、狀、記、書、禮詩章等を載す

宋寅字は明仲、頤庵又鹿皮翁と號す礪山の人にして丞相軼の孫なり中宗丁丑に生れ駙馬を以て礪城尉に封せられ宣祖甲申に歿す謚を文端と曰ふ

頤庵都尉の貴を以て專心學を講し經を窮め禮を明にし晩に山水を喜ひ亭を漁濱に作り逍遙以て終る又善書を以て名あり詩文流暢にして凝滯の痕を留めす頗る朝誦するに足る

○ 蓬萊詩集　附楓皐集、青溪集　三卷　楊士彦著　板本

本書は楊士彦の詩集にして載する所の詩賦甚た多からさるも而も字字仙氣を帶ひ煙火人の口吻に非さるを思はしむ士俊、士奇二弟の遺稿楓皐集、青溪集を附錄とす

楊士彦字は應聘、蓬萊と號す能詩、能書を以て鳴り仙風道骨と稱せらる中宗丁丑に生れ明宗丙午の文科に登り官府使に止る一代の奇傑を以て落拓

振はす宣祖甲申歿す人皆之を惜む弟士俊字は應擧楓皐と號す官僉正に至り次弟士奇字は應遇、青溪と號す文科に登り官府使に至る皆詩を能くす

○ 玉溪集　七卷　盧禛著　板本

本書は盧禛の遺稿にして子焰之を抄錄し鋟梓せしも兵火に遭ひ仁祖十年孫脊之を重刊す

盧禛字は子膺、玉溪と號す豐川の人なり中宗戊寅に生れ明宗の初に登科し宣祖の時官吏曹判書に至り其の戊寅に歿す內外に歷官すること三十餘年なるも實際に公事を視しは三年に滿たすと云ふ其の恬澹知るへきなり幼より孝を以て聞ゆ竟に謚を文孝と贈らる

○ 習齋集　四卷　權擘著　板本

本書は權擘の遺稿にして子石洲韓遺稿を收輯刊行するに際し偶ま禍に遭ひ稿本散逸せしか孝宗四年曾孫諱星州に牧使たる時更に之を刊行せり

權擘字は大手、習齋と號す陽村權近五世の孫なり詩を以て名あり中宗庚辰に生れ其の癸卯に登科し官禮曹參判に至り宣祖癸巳に歿す政治に恬淡にして唯た詩作を喜ひしと云ふ

○ 德溪集　八卷　吳健著　板本

本書は吳健の詩文集にして賦、表、敎書、祝文、祭文、絶句、排律、古詩、行狀、行錄、言跡、遺事、疏、啓、狀、問答、書、序、論、策、題等を載せり

吳健字は子强、德溪と號す寧城の人なり中宗辛巳に生る明宗戊午文科に登り官典翰に至る嘗て南冥曹植に從學し後經幄に居り啓沃甚た多し詮郎となり身を持する謹嚴公直にして世に容れられす官を棄て鄕里星州に歸り子弟を敎え復た出てて仕へす宣祖甲戌に歿す

○ 思庵集　六卷　朴淳著　板本

本書は朴淳の詩文集にして歿後六十年を經て徐必遠等之を刊行す載する所詩篇多し文中退溪李滉の墓誌一篇は退溪門の物議を起せるものなりと雖も大文字と稱するを妨けす

朴淳字は和叔、思庵と號す忠州の人なり中宗癸未に生れ明宗の時甲科に中り文衡を典り領相に至る文學行義一代の賢相と稱せられ宣祖己丑に歿

す諡して文忠と曰ふ嘗て學を花潭徐敬德に受け釋褐して尹元衡を彈劾し朝野に重せらる

○月川集　六卷　趙穆著　板本

本書は趙穆の詩文集にして顯宗七年子錫朋遺稿を收集し禮安縣監李碩寬之を刊行す載する所詩、疏、書、跋、祭祝文、銘等にして卷末の苟彧論、蒯蜀洛三黨論の如きは著者の識見を窺ふに足るものなり趙穆字は士敬、月川と號す横城の人なり中宗甲申に生る幼にして穎悟五歳既に大學を受け長して科擧の業を廢し李退溪に就き學術を研鑽せり其の著困知雜錄等學者の矜式たるものあり明宗壬子司馬に中り宣祖の時參判に至り其の丙午に歿す

○松塘集附慵隱集　四卷　俞泓著　板本

本書は俞泓の詩文集にして仁祖の時孫伯曾遺稿を收拾し梓に付するに際し其の父慵隱大逸の遺稿數篇を卷末に附錄す

俞泓字は止叔、松塘と號す景安公汝霖の孫なり中宗甲申に生れ明宗癸丑文科に登り官左議政に至り光國平難二勳に策せられ杞城府院君に封せらる宣祖甲午に歿し忠穆と諡す嘗て明國に使し國譜辨誣の功あり又宣祖壬辰の役に西幸を力贊し世子に隨行す季子大逸字は德林、慵隱と號す官參判に至る伯曾は大逸の子なり

○柏潭集　一〇卷　具鳳齡著　板本

本書は具鳳齡の詩文集なり顯宗十一年後學金啓光豐基郡守たりし時鋟梓せしものにして載する所詩、律、絶句、類、疏、啓、文、書等あり擬弘文館陳弊疏一篇は編中の大文字にして其の識見を窺ふへし

具鳳齡字は景瑞、柏潭と號す清城の人なり中宗丙戌に生る明宗庚申文科に登り官藝文提學に至る幼時風采既に成人の如し長して李退溪の門に學ひ其の高足と稱せらる

○高峯集　五卷　奇大升著　板本

本書は奇大升の詩文集にして仁祖七年玄洲趙纘韓が嶺南善山に守たる時遺稿を收得して登梓す載する所詩、表、疏、辭、記、文、銘、序、行狀、跋等にして續集論思錄上下二卷を附錄とす

奇大升の小傳は子部退溪高峯往復書に出つ

○白麓遺稿附丫湖稿五卷　辛應時著　板本

本書は辛應時の詩文集にして孫喜季、靈巖郡守たる時登梓し其の後後孫致復丫湖慶晋の遺稿をも續刊し合して一帙となせり

辛應時字は君望、白麓と號す寧越の人なり中宗戊子に生る明宗己未文科に登り選れて湖堂に入り副提學に至る嘗て李栗谷、成牛溪に從學し時望甚た高し其の子慶晋字は用錫、丫湖と號す宣祖の時文科に登り官大司憲に至り清白吏に選はれ壬辰の役に都體察使柳成龍の幕下に在り獻策頗る多し

○喚醒堂遺稿　三卷　朴演著　板本

本書は朴演の遺稿にして詩、書、雜著及附錄あり

朴演字は濟仲、喚醒堂と號す中宗己丑に生る父巖學行を以て稱せられしか演能く之を繼述せり宣祖辛卯に歿す

○清虛堂集　二卷　釋休靜著　板本

○清虛堂集　四卷　釋休靜著　板本

此の二書は共に釋休靜の遺稿を集めたるものにして法弟彦機、霎信等の蒐輯印出したるものなり前書は全部詩を集め卷首に澤堂李植等の序を附す後書は詩及書、記、銘、序、芙蓉、行蹟、敬聖堂行蹟、疏緣文等を收め卷首に正祖の西山大師畫像堂銘並序、畫像、賜祭文其の他を載せ終に彦機の撰に係る休靜の行狀を附せり

休靜の小傳は子部明將手簡に出つ

○八谷集附竹窓遺稿五卷　具思孟著　板本

本書は具思孟の詩文集にして長子綾海君宬之を編次し次子統制使宏之を上梓す然るに未た布行するに至らす丙子の難に値ひ板本を散失せしか仁祖二十六年外孫沈長世榮川に守たる時重刊に付す第三子竹窓容詩を以て名あり外孫婿澤堂李植其の詩を彙分し序を撰して卷末に附錄す

具思孟字は景時、八谷と號す中宗辛卯に生る明宗戊午文科に登り官左贊成に至り宣祖甲辰に歿す仁祖の外祖たるを以て綾安府院君を贈らる諡を文懿と曰ふ宮禁に連姻すと雖も富貴の氣なく文

識餘あり其の子容字は大受、竹窓と號す

○ 芝川集　六卷　黄廷彧著　板本

本書は黄廷彧の遺稿を集めたるものにして仁祖十年外孫完南李厚源の開刊せしものなり載する所律詩、絶句の外敎書、書契等あり書契には答日本書契、擬與日本關白書、擬進日本檄書其の他日本に關するもの尙は數篇あり

黄廷彧字は景文、芝川と號す長水の人にして翼成公喜の後なり中宗壬辰に生る明宗戊午に登科し宣祖の時光國勳に錄せられ長溪府院君に封せらる官大提學判中樞に至り宣祖丁未に歿す詩を以て一代に鳴り湖陰鄭士龍、蘇齋盧守愼等と名を齊うす

○ 霽峯集　六卷　高敬命著　板本

本書は高敬命の詩文集にして光海君十年季子用厚南原府に宰たる時之を登梓す載する所古詩、律詩、絶句、賦、銘、誌、說等にして就中詩尤も多し

高敬命字は而順、霽峯又苔軒と號す長興の人なり中宗癸巳に生る明宗戊午甲科に擢てられ東萊府使となる後宣祖壬辰の難に遭遇し子從厚、因厚と共に義旅を倡へて起ち檄を四方に馳せ竟に錦山の戰に殉節す後贈成を贈られ謚して忠烈といふ次子因厚亦死を同うし長子從厚は義を晉州に起し遂に戰死す

○ 梧陰遺稿　四卷　尹斗壽著　板本

本書は尹斗壽の遺稿にして長子稚川昉之を刊行せしものなり斗壽は壬辰兵禍の際文事を以て明の諸將と交りしを以て其の詩文當時の事件に關するもの尠からず別に正氣錄、成仁錄、平壤誌等の著あり

尹斗壽の小傳は史部成仁錄に出つ

○ 峒隱稿　三卷　李義健著　板本

本書は李義健の遺稿にして李厚源か象村及畸庵に刪定を請ひて印行したるものなり收むる所五七言古詩、近體、絶句、排律總て三百三十篇外に誌、銘等を附す卷首の序は白軒李景奭及東溟鄭斗卿の撰にして跋は李厚源の書なり

李義健字は宜仲、峒隱と號す全州の人廣平大君李

璵の後孫なり中宗癸巳に生る少時任俠後節を折りて道に志し名利を見ること糠粃の如く恬憺冲雅親に事へて至孝なり年三十二母の命に從ひ始めて試に赴き明宗十九年甲子進士となるや當時廟堂諸卿頻に推薦せしも謝して就かず晩に敦寧府直長となり精勵甚た力む幾もなく親の喪に遇ひて任を致し復た仕官を思はす光海君十三年辛酉壽八十九にして歿す牛溪成渾、思菴朴淳、松江鄭澈、月汀尹根壽、守菴朴枝華、古玉鄭碏等は皆其の親友にして特に牛溪、松江と最も莫逆の交あり白沙李恒福、象村申欽、月沙李廷龜等亦傾嚮したりと云ふ

○ 龜峰集 附雲谷集一、一卷　宋翼弼著　板本

本書は宋翼弼の詩文集にして初め門人沈宗直詩集を刊出し金長生の後孫金相聖又其の全集を合編改刊す收むる所賦、詩、雜著、玄繩篇、禮問答、家禮註說等あり弟翰弼の遺稿雲谷集を附錄とせり

宋翼弼字は雲長、龜峯と號す中宗甲午に生る祀連の子にして雜科出身なり家世世微賤士大夫の間に齒する能はすと雖も七八歲の頃筆を下せは輙ち人を驚かし長するに及ひ學識富贍を以て知られしか賤流不可赴舉を論する者あり遂に停舉せられ科官を得すして宣祖己亥に歿す李山海、崔慶昌、白光弘、崔岦、李純仁、尹卓然、河應臨と共に八文章家の稱あり後李珥及成渾に從ひ道學を講論し是より門を開きて徒に授け金長生父子及徐渻、鄭曄の輩皆其の門に出つ英祖の時持平を贈られ隆熙四年正卿を加贈し文敬と謚せらる弟翰弼字は季鷹、雲谷と號す亦兄と名を齊うす

○ 桑楡集　二卷　柳思規著　板本

本書は柳思規の詩文集にして光海君十年其の子參判舜翼黄海道觀察使たる時遺稿を收輯して刊行せるものなり

柳思規字は汝憲、桑楡と號す晉州の人なり中宗甲午に生れ明宗壬戌文科に登り官參議に至る屢出てて州牧となり治行第一と稱せらる性恬澹惟た吟詠を喜ふ

○ 牛溪集　六卷　成渾著　板本

本書は成渾の詩文集にして第一卷を詩第二卷を奏章第三卷を疏章第四,五卷を簡牘第六卷を雜集となし奏章に己卯封事,辛巳封事,簡牘に栗谷其の他と往復したる書を收め特に栗谷と往復せしものは其の原書とも併載したり

成渾の小傳は子部四七續篇に出つ

○松江集 附華谷遺稿 一二卷 鄭澈著 板本

本書は鄭澈の詩文集にして仁祖十年其の子宗溟之を編刊す第一卷には詩,雜著,祭文,書,策第二卷以下には年譜,行狀,輓章,祭文,誄狀,墓表,傳,疏,記,述,雜錄等を收め長子華谷起溟の遺稿數篇を附錄せり

鄭澈字は季涵,松江と號す迎日の人なり中宗丙申に生る早歲河西金麟厚に從ひて學ひ長して栗谷李珥,牛溪成渾と親善なり明宗壬戌甲科に擢てられ持平となるや退溪李滉古諫臣の風ありと稱す時に東西の黨論大に熾にして鄭澈深く東人を憎み宣祖己丑の獄に崔永慶を誤殺せるを以て東黨最も之を仇視す官左相に至り宣祖癸巳に歿し誄を文靖と曰ふ長子起溟字は鵬擧,華谷と號す才ありて天す

○清江集 四卷 李濟臣著 板本

本書は李濟臣の詩文集にして光海君二年其の子潛窩命俊の編刊する所なり

李濟臣字は夢應,清江と號す全義の人なり中宗丙申に生る明宗戊午司馬に中り甲子文科に登り官咸北兵使に至り宣祖癸未に歿す後領議政を贈らる幼にして學を龍門趙昱に受け長して尙震の門に遊ひ尙震大に之を器重す乙巳士禍の後官に在るを樂まず詩酒に放情して世を終る

○栗谷全書 三八卷 李珥著 板本

本書は李珥の全集にして初め英祖十八年陶菴李縡之を刪定し其の二十五年拾遺六篇を合せ又別に言行に關するものを附錄となし之を續篇と名け活字を以て印布し後純祖十四年重刊す第一卷以下第十八卷は辭,賦,詩,疏,箚,啓,議,書,應,製,文,序,跋,記,贊,銘,祭文,雜著等第十九卷以下第二十七卷は聖學輯要第二十八卷以下第三十卷は經筵日錄第三十一卷及三十二卷は語錄而して第三十三卷以下を附錄及續篇となし世系圖,年譜,院享錄,門人錄,行狀,誄狀,神道碑銘,墓誌銘,墓表記,追記,紫雲書院廟庭碑,賜祭文,御製歌祭文,敎書,祭文,哀詞,挽詞,挽辭,諸家記述,雜錄等を收む別に四書及小學諺解の著あり李珥の小傳は吏部甲戌萬言封事に出つ

○月汀集 七卷 尹根壽著 板本

○月汀別集 四卷 尹根壽著 板本

本書は尹根壽の文集にして根壽文學淵博著述亦多かりしも多く兵火に失ひ仁祖廿五年に至り其の孫丹陽郡守挺之從孫咸鏡監司履之と相謀りて殘稿を開刊す後英祖四十九年六世の孫得觀更に徧く遺文を拾收して四卷となし之を別集と名く」

尹根壽字は子固,月汀と號す梧陰尹斗壽の弟なり中宗丁酉に生れ幼にして聰明絕倫明宗の時登科し官左贊成大提學に至り光海君丙辰に歿す宣祖壬辰の役に當り刑曹判書を以て三度廣寧に至り六度遼東に赴き勳勞甚た多し光國勳に策せられ海平府院君に封せらる誄を文貞と云ふ

○月篷集 二卷 柳永吉著 板本

本書は柳永吉の遺稿を集めたるものにして仁祖二十四年其の子恒の輯刊する所なり多く律詩絕句の類にして卷末記す所に據れは猶ほ著述幾百ありしも壬辰の兵燹に失ひ唯人口に膾炙するものを刊行するに止めたりといふ

柳永吉字は德純,月篷と號す全州の人,春湖永慶の兄なり中宗戊戌に生れ明宗己未文科に登り官參判に至り宣祖己,亥に歿す才氣甚た高く詩に於て最も工なり子惺司諫院司諫を以て光海君の時禍を被り子恒亦文科出身にして寧謐十餘年に及ひ官監司に止まる

○鶴峯集 九卷 金誠一著 板本

本書は金誠一の文集にして仁祖二十八年庚寅金孝徵の開刊する所なり集中與對馬島主書の如き當時兩國使臣の交涉事蹟を徵考するに足るものなり

金誠一字は士純,鶴峯と號す義城の人なり中宗戊戌に生れ早歲にして李退溪に學ひ宣祖戊辰文科に出身す撰れて湖堂に入り副提學を經て日本に

使し亢直を以て稱せらる壬辰の際慶尙右道兵馬使たるや招諭使を授けられ慶尙監司を拜し列邑を召募し成功を期せしも癸巳遂に任所に歿す正卿を贈られ諡を文忠と曰ふ

○ 孤竹遺稿 附 櫟村遺稿 一卷 崔慶昌著 板本

本書は崔慶昌の遺篇を集めたるものにして附錄に其の孫櫟村振海の詩を載す

崔慶昌字は嘉運、孤竹と號す中宗己亥に生れ宣祖戊辰に登科し官府使に至る天資豪爽器識絕高詩を以て世に鳴り又弓矢の法と琴笛の律に精妙なり宣祖嘗て文武の才ありとし大に用ひんとせしも物議の阻する所となり竟に振はす其の癸未に歿す孫振海櫟村と號す亦詩を善くす振海の孫奎瑞に迨ひ賢相を以て稱せらる

○ 鵝溪遺稿 六卷 李山海著 板本

本書は李山海の遺稿にして箕城錄以下律詩、古詩、絕句、雜著、疏類等を載し多くは壬辰陣中の手記に係る

李山海字は汝受、鵝溪と號す中宗己亥に生る五歲

已に神童の稱あり明宗辛酉に擢科せられ文名大に振ふ文衡を典り官領議政に至る光國平難の二勳に策せられ鵝城府院君に封せられ宣祖己酉に歿す諡を文忠と曰ふ壬辰の役西幸を力贊し爲に遠竄に處せらる當時東西二黨あり山海は東人の主たり常に西人に忌疾せられ屢彈劾に遭ふ或は曰ふ陰に宮禁に連結し爲に淸議に譏らると

○ 東岡集 一七卷 金宇顒著 板本

本書は金宇顒の詩文集にして載する所詩、詞、賦、箴、疏、箚、啓、辭書、雜著、祭文、誌、行狀、經筵講義等あり就中經筵講義は著者の學識を發揮せり

金宇顒字は肅夫、東岡と號す義城の人なり中宗庚子に生れ宣祖丁卯文科に登り官吏曹參判に至る其の癸卯に歿す後特に吏曹判書を贈られ諡を文貞と曰ふ少時西厓柳成龍之を見て曰く我輩の君に於ける正に壤蟲の黃鵠に於けるか如しと其の推重せられしを見るへし

○ 四留齋集 一二卷 李廷馣著 板本

本書は李廷馣の詩文集にして孫聖龍か黃海道觀察使たりし時鋟梓せるものなり載する所詩六百首器皿、禽獸、魚鳥殆と吟哦の材たらさるなく雜著には倭將に答ふるの書、義兵を募るの檄、海西結義錄等の外壬辰遺事日記を附錄す

李廷馣字は仲薰、四留齋又退憂堂と號す慶州の人なり中宗辛丑に生る明宗辛酉に明經を以て登科せしか屢權臣の爲に仕路を塞かれ出てて延安府使となり民望あり壬辰の役母に陪して難を避け路延安を過く延安の民驚喜して迎へて曰く是れ我使君なりと遂に檄を傳へ數千人を招集し城に據りて死守し機に隨ひ變に應したるを以て宣武勳に錄せられ月川府院君に封せらる官知中樞事に至り宣祖庚子に歿す諡を忠穆と曰ふ

○ 西厓集 二〇卷 柳成龍著 板本

本書は柳成龍の文集にして奏、疏、書、啓、狀、牒の如きは以て壬辰役當時の狀況を窺ふに足るへきもの多し別に懲毖錄の著あり

柳成龍の小傳は史部懲毖錄に出つ

○ 南冥集 一四卷 曹植著 板本

本書は曹植の詩文集にして絕句、律、古詩、賦、銘、書、跋、疏、誌、記、論、雜著、學記、言行錄、敎旨等を載す第三卷及第四卷に載する致知、存養、治道、治法等の十有餘篇は悉く著者の心血を灑きたる大作なり

曹植字は楗中、南冥と號す昌寧の人なり中宗癸卯に生る少時豪氣絕倫奇才自ら負ふ二十餘歲にして學術大に進み知る所必す之を行はすんは已ます明宗、宣祖の際屢遺逸を以て召さるるも起たす官終に判官に止まる光海君庚申に歿す領相を贈られ諡を文貞と曰ふ時に李退溪師道を以て嶺南の一方に霸たり而して曹植之と竝峙し往復問難して屈せさりき

○ 寒岡集 一二卷 鄭逑著 板本

本書は鄭逑の詩文集にして別に家禮集覽補註、五先生禮說、心經發揮、洙泗言仁錄、五服沿革圖、歷代紀年、武夷志、太極問辨、五先生禮說分類、文獻公實記等の著あり

鄭逑の小傳は經部太極問辨に出つ

○ 重峯集 二〇卷 趙憲著 板本

本書は趙憲の詩文集にして詩、賦、疏、啓、書、雜著、日記、記、題跋、表、狀、文、檄、辭、告諭文等を收め世德年譜、狀錄、碑表、遺事、詩等を附錄とす別に東還封事、抗義新編の著あり

趙憲の小傳は史部抗義新編に出つ

○ 久菴集　二卷　韓百謙著　板本

本書は韓百謙の遺稿を集めたるものにして上卷には箕田遺制說、深衣說、四端七情說、東史纂要後跋、潮汐辨、接木說、勿移村久菴說下卷には疏及行狀を收む仁祖庚辰嗣子柳市與一の編に係る其の跋に曰く百謙の遺稿嘗に之に止まらざるも兵火に佚し此の篇僅に知舊門人傳寫の餘に出つるものを收む云云と別に著はす所箕田攷、東國地理誌あり韓百謙小傳は史部東國地理誌に出つ

○ 沙村集　四卷　張經世著　板本

本書は張經世の詩文集にして純祖甲申後孫炕收輯上刊す律詩、古詩、絶句、詞、記、書、說、序、跋、銘、等を載す張經世字は兼善、沙村と號す明宗丁未に生れ宣祖乙丑文科に登り官縣令に至り光海君乙卯に歿す

○ 梧里續集　六卷　李元翼著　板本

本書は李元翼の遺稿を集めたるものにして肅宗三十一年參判李瑞雨江原道觀察使たる時之を刊行し後玄孫存道佚篇を裒輯して之を繼刊す

李元翼字は公勵、梧里と號す太宗王子益寧君裕の玄孫なり明宗丁未に生れ宣祖の時文科に出身す性簡にして容貌振はす惟た柳成龍は夙に其の異材を知り之を敬せりと云ふ壬辰の役に吏曹判書を以て平安都巡察使を兼ね勳勞顯著なりしより完城府院君に策封せられ遂に相國を拜す光海君政を亂し弟を殺し母を廢するに際し直諫して斥けられ仁祖反正の時領揆に召用せらる朝野之を慶せさるなし仁祖甲戌に歿す諡を文忠と曰ふ

○ 一松集　八卷　沈喜壽著　板本

本書は沈喜壽の詩文集にして仁祖二十七年其の孫儒行の刊行したるものなり詩、書、箚、封事、論、議、祭文、序、墓誌等を載す

沈喜壽字は伯懼、一松と號す青松の人なり明宗戊申に生る宣祖壬申に登第し遷れて湖堂に入り文衡を典り相國を拜し光海君壬戌に歿す廉謹吏に錄せられ諡を文貞と曰ふ嘗て盧守愼海島に謫居する時鯨濤を冒し往て學ふ後に館閣の領袖を以て稱せられ內には辭命を掌り外には賓使に接し一世之を仰くと云ふ

○ 勿巖集　五卷　金隆著　板本

本書は金隆の詩文集にして正祖元年五世の孫尙建の收輯刊行する所なり

金隆字は道盛、勿巖と號す咸昌の人なり明宗己酉に生る早歲嘯皐朴承任に從學し弱冠又李退溪の門に遊ひ尤も禮に深し壬辰の役列邑に檄し以て忠憤を激發す翌年參奉を拜したるも仕へす尋て甲午に歿す孝宗の時承旨を贈らる

○ 林白湖集　四卷　林悌著　板本

本書は林悌の詩文集にして光海君十四年從弟晉晉州牧使たりし時刊行す絶句、長律、古詩、賦、箋、表、文、誌等を收む

林悌の小傳は子部花史に出つ

○ 荷谷集　四冊　許筠著　板本

本書は許筠の詩文集にして別に著す所朝天記あり

許筠の小傳は史部荷谷朝天記に出つ

○ 晩翠逸稿　二卷　金盖國著　板本

本書は金盖國の詩文を集めたるものにして五世の孫進士相玄之を收刊せり

金盖國字は公濟、晩翠と號す延安の人なり明宗壬子に生る少時業を嘯皐朴承任に受く宣祖の時文科に登第し官郡守に止まる幼にして至孝の名あり壬辰の役に義兵を募り斬獲多數因て承旨を追贈せらる

○ 健齋逸稿　二卷　朴遂一著　板本

本書は朴遂一の遺稿にして肅宗四十六年宗孫思沃收拾刊行し收むる所詩、書、祭文、雜著、附錄等なり

朴遂一字は純伯、健齋と號す龍巖雲の孫なり明宗癸丑に生る早歲退溪李滉に謁し經義を辨論す退溪曰く龍巖孫有りと感嘆措かす後年壬辰の役に遭ひ敬菴盧景任と義を結ひ兵を募り參奉を授けられ丁酉遂に戰死す

○ 體素集　三卷　李春英著　板本

本書は李春英の詩文集にして仁祖丁亥其の子時材、時楷か編刊せしものにして原集に詩、賦、記、書、序、補遺に詩を收めたり

李春英字は實之、體素齋と號す全州の人にして宗室の出なり明宗癸亥に生る宣祖庚寅に登科し官僉正に止まり丙午に歿す人と爲り疎豪放逸にして詩詞も亦激烈慷慨の語多し故を以て時人に擯斥せられ振展することを得さりしといふ

○ 海狂集　二卷　宋齊民著　板本

本書は宋齊民の遺稿にして正祖七年後孫正郎益中之を刊行す

宋齊民字は士役、海狂と號す洪州の人なり土亭李之菡に從學す壬辰の役萬言疏を呈し容れられす遂に世と絶ちて山中に入り宣祖壬寅に歿す其の子柁は丁酉の難、節に死せり事蹟は集末附錄に在り

○ 青溪集　五卷　梁大樸著　寫本

本書は梁大樸の詩文集にして光海君十一年子慶

遇の編輯したるものなり律詩、絶句、古詩、書、文、記、論、金剛山紀行、頭流山紀行等を收む

梁大樸字は士眞、青溪又松巖と號す南原の人にして葵軒艤の子なり明宗の時に生れ官學官に止まる壬辰の役首として義を倡へ霽峯高敬命の如きも亦風を聞いて起ち一檄飛傳して四方響應し撓を得ること屢なり遂に兵馬の間に死す然れとも外家微なるの故を以て追錄の典なし其の詩文は明人に贊揚せられ熊化序を爲りて讃嘆を極む子の慶遇、亨遇俱に文名あり

○ 蘭雪軒集　一卷　許氏著　寫本

本書は西亭金誠立の妻許氏の詩集にして弟蛟山筠之を裒輯したるものなり收むるに詩各體を以てし終に廣寒殿白玉樓上梁文を附す卷首の序は明使翰林梁有年の撰に係る

許氏は蘭雪軒と號し宣祖の時の人草堂許曄の女にして岳麓箋、荷谷筠、蛟山筠と兄弟たり俱に詩を以て名あり而も許氏女流を以てして之か冠たり出てて西亭金誠立に嫁せしも天齡を假さすして早折せり

○ 鳴皐集　八卷　任鎭著　板本

本書は任鎭の詩集にして肅宗の甲申外玄孫朴權か故藁を拾收編刊したるものなり

任鎭字は寬甫、鳴皐と號す豐川の人なり仁宗の時に生れ牛溪成渾に從ひて學ふ成渾、鎭を呼ふに慕學善士を以てす宣祖壬辰の役に方り明都督李如松の幕府に投して從事となり二十韻排律を草して歎賞せらる而も仕路塞りて申ふるを得す不平の氣一に之を詩に發して自ら慰む官僅に參奉に止りて歿す

○ 龍菴集　五卷　馬應房著　板本

本書は馬應房の詩文集にして憲宗十一年後孫祥麟等の刊出に係り多くは壬辰役中の諷詠記事、書狀等なり

馬應房字は靖叔、龍菴と號す宣祖の時蔭仕を以て縣監たりしか壬辰の役に値ひ義を倡へて旅を募り丁酉西原の戰に殉節し特に參判を贈らる

○ 鶴巖集　二卷　朴廷璠著　板本

本書は朴廷璠の遺稿を集めたるものにして九代の孫時源、造源等か蒐輯したるものなり僅に詩、祭文等十一篇を收む李太王庚午の刊行に係る

朴廷璠字は君信、鶴巖と號す高靈の人樂文堂澤の子にして判官溢の後を繼く明宗庚戌に生れ宣祖の時行誼を以て薦せられ直に禮賓主簿を拜す官郡守に止まる廷璠學問を以て一時の名賢碩儒と交游し壬辰の役軍功あり爲に仁祖丙子承旨を追贈せらる

○ 聚遠堂集　二卷　曹光益著　板本

本書は曹光益の詩文集にして八代の孫緯文の蒐輯したるものなり詩、書、記、科製、遺錄、年譜附錄等を收む李太王の時後孫漢奎刊行す

曹光益字は可晦、竹窩又聚遠堂と號す昌寧の人持平孝淵の孫なり中宗丁酉に生れ明宗戊午生員進士の兩試に中り甲子文科に登り官平安都事に止まり宣祖戊寅に歿す文學あり孝行を以て旌閭せらる

○ 謙菴集　八卷　柳雲龍著　板本

本書は柳雲龍の詩文集にして弟西厓成龍の編次せしもの水害に漂失し曾孫悔堂更に之を蒐集し英祖壬戌に刊行す後宗孫宗睦純祖癸亥に重刊せり收むる所詩、疏、書、雜著、記、論、識、跋、祭文、遺事、世系錄、行年記、年譜、附錄等なり

柳雲龍字は應見、謙庵と號す豐山の人立菴中郎の子なり中宗己亥に生れ宣祖丙子蔭仕を以て禁府都事を拜し光國原從功臣に錄せられ官通政牧使に止まり宣祖辛丑に歿す扈聖原從功臣を追錄し吏曹參判を贈らる退溪李滉の高足にして經學行義共に一世に推重せらる

○ 鳳溪逸稿　二卷　洪世恭著　板本

本書は洪世恭の遺稿にして後孫の蒐輯したるものなり詩、啓、狀、書、雜著、附錄等を收む李太王庚子之を刊行す

洪世恭字は仲安、鳳溪と號す南陽の人郡守愼の子なり中宗辛丑に生れ明宗丁卯生員に中り宣祖癸酉文科に登り官觀察使に止まり戊戌に歿す世恭壬辰の役再ひ調度使となりて軍功多く爲に扈聖

一等功を錄し領議政を贈らる

○ 孤潭逸稿　五卷　李純仁著　板本

本書は李純仁の詩文集にして十世の孫鎭玉の蒐輯したるものなり詩、疏、敎文、祭文、科體賦、詩、表、策、附錄等を收む李太王辛卯に從弟鎭琦等之を刊行す

李純仁字は伯生、孤潭と號す全義の人縣令弘の子なり中宗癸巳に生れ甲子進士に中り宣祖壬申文科に登りて翰院に入り官都承旨に止まる壬辰に歿す弱冠より栗谷李珥及南溟曹植の門に遊ひ壬辰の役西幸に扈從し功勞多く不幸にして病死するや宣祖震悼して衣を脫し襚を作れりと云ふ後一等衛聖の勳に追錄して全陵君に封し又吏曹判書を贈る

○ 桃灘集　三卷　邊士貞著　板本

本書は邊士貞の詩文集にして七世の孫穗の蒐輯したるものなり詩、雜著、策、祭文、疏、書、附錄等を載し英祖戊子之を刊行す

邊士貞字は仲幹、桃灘と號す長淵の人水亭處厚五世の孫なり中宗己丑に生れ宣祖癸未學行を以て薦められ叅奉を授けらる丙申に歿す壬辰の役義兵大將として功勞あり丙午に宣武原從勳に錄し掌令を贈らる

○ 慵齋遺稿附訥齋遺稿　一卷　李宗準著　板本

本書は李宗準の遺稿にして後孫昌郁及權思浹、李野淳等の蒐輯したるものなり詩、疏、雜著、附錄等を收む純祖甲申之を刊行す附するに李弘準の詩文集訥齋遺稿を以てす

李宗準字は仲鈞、慵齋と號す慶州の人琴湖時敏の子なり成宗丁酉進士に中り乙巳文科に登りて湖堂に選せられ官檢詳に止まり燕山君戊午史禍に死し肅宗己巳副提學を贈らる佔畢齋金宗直の門人にして詩、文、書、畫を以て名あり

李弘準は訥齋と號す宗準の弟にして進士たり

○ 溪東集　二卷　全慶昌著　板本

本書は全慶昌の詩文集にして門人孫處訥の蒐輯したるものなり賦、詩、跋、雜著等僅に七篇に過きす

李太王癸未榜後孫致賢之を刊行す

全慶昌字は季賀、溪東又晩悟と號す慶山の人文平公伯英五代の孫なり中宗壬辰に生れ明宗乙卯進士に中り宣祖癸酉文科に登りて翰院に入り官正郎に止まり乙酉に歿す嘗て國系辨誣の事に對して功勞あり原從勳に錄し應敎を贈らる

○ 萬竹軒集　二卷　徐益著　板本

本書は徐益の詩文集にして曾孫六谷必遠の蒐集に係り載する所詩、科體、疏、墓銘、疑、附錄等なり正祖庚戌七代の孫鎭恒之を刊行す

徐益字は君受、萬竹軒と號す扶餘の人進士寬の孫なり中宗壬寅に生れ明宗甲子生員に中り宣祖己巳文科に登り舍人を歷て官府尹に止まる平生栗谷李珥と友とし善し其の北路に宣撫たる時建議せし十二策は以て其の經綸を槩知するに足る

○ 鰲峰集　三卷　金齊閔著　板本

本書は金齊閔の詩文集にして收むる所詩、跋、記、墓誌、墓碣、疏、祭文等なり上刊年月詳ならす

金齊閔字は士孝、鰲峰と號す義城の人校理運秋の曾孫なり中宗丁亥に生れ明宗戊午進士に中り宣祖癸酉文科に登り官承旨に止る己亥に歿す少時

一齋李恒の門に遊ひ經學を受け壬辰の役戰功多く其の保邦要務疏の如きは以て其の人を見るへし

○ 李忠武全書　一四卷　正祖命編　板本

本書は李舜臣の遺稿全書なり正祖尹行恁に命して之を編次せしむ蓋し尙忠報功旌武彰烈の意に出てたるものにして局を校書館に開き檢書官柳得恭をして監督の任に當らしめたり卷首に正祖の綸音を揭け敎諭、圖說、世譜、年表、詩、雜著、狀啓、亂中日記及附錄等を收む

李舜臣字は汝諧、德水の人にして文靖公邊の五世孫なり明宗乙巳に生れ宣祖丙子武科に及第し造山萬戶となり屯田を鹿屯島に設く虜來り侵す舜臣擊て之を破る又反胡を擊て功あり時の領相柳成龍と里閭を同うす柳相其の賢を知り力薦して僉使に陞し尋て全羅水軍節度使に擢拜す窃に國防の急なるを思ひ備禦を講し又龜甲船を創造せり壬辰の役水軍統制使を拜し閑山島前洋に大捷す明の水軍都督陳璘其の器を借しみ上書して曰く舜臣は經天緯地の才補天浴日の功ありと露梁の役飛丸に中りて斃る時に宣祖戊戌なり仍て宣武功臣に錄し領議政を贈り德豐府院君に封し忠武と謚す舜臣忠勇義烈又學問に篤く稀世の名將と稱せらる

○ 敬菴集　七卷　盧景任著　板本

本書は盧景任の詩文集にして正祖八年後孫澹の編刊に係り收むる所詩、辭、書、雜著、序、記、說、辨、識、遺事、祭文等あり附錄に行狀、墓誌銘、祭文、詞等を收め續集に詩、書、雜著、遺事、祭文、墓誌等を載す

盧景任字は弘仲、敬庵と號す旅軒張顯光の甥なり宣祖己巳に生る早歲旅軒に學ひ西厓柳成龍の姪女を娶る宣祖辛卯文科に登り翌年壬辰の兵禍に遭ひ義を唱へ旅を募り南方の鎭たり官校理に止まる嘗て扈聖の勞を以て承旨を贈らる

○ 久庵集　附眞樂堂遺稿　三卷　金就文著　板本

本書は金就文の詩文集にして正祖の時其の後孫印行する所なり附するに其の兄就成の詩文集なる眞樂堂遺稿を以てす

金就文字は文之、久庵と號す中宗己巳に生る兄就成と俱に業を松堂朴英の門に受く學行世の稱する所たり就成字は成之、眞樂堂と號す屢參奉を授けられしも起たす竟に處士を以て終る弟就之は登科して官監司に至り仁祖の初國喪を三年に復せんことを奏請し因て名愈重し

○ 簡易集　九卷　崔岦著　板本

本書は崔岦の文集にして載する所奏、封事、陳言、辭、疏、箋、表、檄、策、評、說、誌、記、序、識、跋、錄等あり雄篇大作亦尠からす別に周易本義口訣、漢史列傳抄の著あり崔岦の小傳は周易本義口訣に出つ

○ 柏巖集　七卷　金功著　板本

本書は金功の詩文集にして英祖壬辰六世の孫銓郎瑋之を刊行す辭、賦、詩、敎書、疏、箚、啓、辭、狀啓、呈文、書、雜著、序、箋、祭文等を收む

金功字は希玉、柏巖と號す禮安の人なり中宗庚子に生る少時李退溪に學ひ宣祖丙子の文科出身たり壬辰の役嶺南右道觀察使を拜し勞勳甚た多く官參判に至り光海君丙辰に歿す後に宣武勳に錄せられ又吏曹判書を贈らる謚を敏節と曰ふ

○ 松厓集　四卷　朴汝龍著　板本

本書は朴汝龍の文集にして後孫の刊行に係り第一卷に石潭語錄、第二卷に疏、序等數篇を收む第三第四卷は附錄にして閔鼎重、李敏輔、趙寅永、洪直弼其の他の撰に係る年譜、行狀、謚狀、墓碣銘、神道碑銘、祭文等を集め終に洪祐健の跋を載せり

朴汝龍字は舜卿、松厓と號す沔川の人なり中宗辛丑海州の立巖村に生る栗谷李珥石潭に在りて學徒を敎養す乃ち就て學ひ栗谷の歿するや其の文集編成に力むること數年遂に之を完成し又其の祠宇建設に力を盡せり宣祖の時參奉を拜し尋て正郎に至り光海君辛亥に歿す吏曹判書を贈られ謚を文溫と賜はる

○ 南窓雜稿　一卷　金玄成著　板本

本書は金玄成の詩集にして天波吳翻黃海道觀察使たりし時登梓せしものなり

金玄成字は餘慶、南窓と號す金海の人なり中宗壬寅に生る明宗の時文科に出身し官敦寧府同知事に止まる詩は其の長所にして書は趙子昂を學ひ嘗て平壤箕子廟の碑文を書す天性孝友にして學を好み又酷た山水を愛したりと云ふ光海君辛酉に歿す

○息庵集　五卷　黃暹著　板本

本書は黃暹の詩文集にして肅宗三十五年後學申景濬の刊する所なり

黃暹字は景明、息庵又遯庵と號す昌原の人なり中宗甲辰に生る宣祖の時甲科に登第し壬辰の役兵曹參知を以て義州に扈從し又世子に江界に從ふ歸還の後將に大に用ひられんとせしか時事日に非なるを見て豐基の舊居に退き終に官大司憲を以て光海君丙辰に歿す

○四溟堂集　七卷　釋惟政著　板本

本書は僧松雲の詩集にして光海君四年門徒惠球等始めて裒萃印出し孝宗の時公峯山人性一等更に舊本に就いて重刊したるものなり收むる所詩數百首に過きす蓋し兵燹の殘篇を集めしものなり卷末に海眼の撰に係る四溟の行蹟を載す序は蛟山許筠の撰にして跋は性一の書せしものなり

釋惟政字は離幻、四溟堂又松雲と號す俗姓は任氏豐川の人樂正孝昆の曾孫なり中宗甲辰に生れ十三歲の時黃嶽山に投して剃髮し明宗辛酉十八歲にして禪科に中り嘗て朴思菴、李鵝溪、高霽峯、崔嘉運、許美淑、林子順、李益之等と酬唱往來し詩名漸く詞林に傳はりしか翻然悟る所あり宣祖乙亥妙香山に入り清虛大師に從ひ益禪を窮め遂に妙諦を得たり壬辰の役起るや師清虛の旨を承けて大衆を統へ各地に轉戰して功あり尋て丁酉國使を奉して日本に入り使命を全うして還る是に於て功を論し官知中樞府事を授けられ且禪號四溟大師を賜ふ光海君庚戌に寂す私謚して慈適弘齋尊者と云ふ

○芝山集　五卷　曹好益著　板本

本書は曹好益の詩文集にして絕句、律詩、古詩、賦、祭文等を收む雜著には太極論、其の他見るへきもの多又妙香山遊錄、遊香楓山錄等の名勝紀遊あり外に心經質疑、家禮考證、周易釋解、易象推說、大學童子問答等を著す

曹好益の小傳は經部家禮考證に出つ

○一齋集　一卷　李恒著　板本

本書は李恒の詩文集にして顯宗十四年玄孫星益之を收輯刊行し又肅宗二十五年其の孫邃之を追刊し續錄を附す

李恒字は恒之、一齋と號す驪州の人なり少にして弓馬を事とす年三十にして節を折り書を讀み深く經術に通す明宗の初經明行修の士を擧くるや恒其の首たり經幄に入り郡守を超授せられ後掌樂正に至る

○沙溪遺稿附近思錄釋義　一四卷　金長生著　板本

本書は金長生の遺稿にして肅宗の時校書館に命して刊行せしめたるものなり載する所疏、啓辭、奏草、狀、啓、書、辨、說、序、記、跋、祭文、詩、墓誌銘、行狀、筵席對問、語錄等なり

金長生の小傳は經部疑禮問解に出つ

○獨石集　一卷　黃赫著　板本

本書は黃赫の詩文集にして後孫璿慶尙道觀察使たりし時刊行せり

黃赫字は晦之、獨石と號す芝川廷彧の子なり明宗辛亥に生れ宣祖の時文科に出身し官承旨に至る壬辰の難日本軍切に勸降せしも死を期して屈せす光海君壬子誣ひられて獄に下り遂に死す仁祖の初左贊成を贈り長川君に封せらる

○忘憂集　二卷　郭再祐著　板本

本書は郭再祐の詩文を集めしものにして集中倡義時自明疏、備邊司關等あり又卷首に表大維の撰に係る世系、年譜及傳を載す

郭再祐字は季綏、忘憂堂と號す玄風の人にして監司越の子なり明宗壬子に生れ早く擧業を棄て仕宦を欲せす壬辰の役家財を散し鄕兵を募り自ら天降紅衣將軍と稱し挺身して各地に戰ひ功あり後右兵使を授けらる嘗て朋黨の弊を論して靈巖に謫せられ光海君の時上疏し永昌大君の死を救はんとして得す遂に山中に入り方術を學ひ火食

を絶ち其の九年丁巳に歿す歿後壬辰功臣の策勳に錄せられ正卿を贈られ謚して忠翼と云ふ

○ 百拙齋遺稿　二卷　韓應寅著　板本

本書は韓應寅の遺稿にして肅宗二十八年曾孫聖佑湖南按察使たりし時之を刊行す

韓應寅字は春卿、百拙齋又柳村と號す淸州の人なり明宗甲寅に生る宣祖丁丑の文科に出て平難光國兩勳に策せられ淸平府院君に封せらる官右相に至り光海君甲寅に歿し忠靖と謚せらる居常事に臨みて明敏の稱あり素と漢語を學ひしを以て明の都督李如松の來るや漢陰李德馨と共に接伴使たり

○ 白沙集　三〇卷　李恒福著　板本

本書は李恒福の詩文集にして初、蒼谷李顯英、潛窩李命俊及錦南鄭忠信等の上刊せし江陵本及晉州本あり內容を一にせず英祖の時五代の孫梧川宗城兩本を合せ更に逸詩凡そ四十首文凡そ十五篇を追收して全集となしたるもの卽ち本書なり第一卷以下第四卷に詩第五卷以下第八卷に箚第九卷以下第十二卷に啓第十三、十四の二卷に議第十五卷に箴、銘、序、記、跋第十六卷に雜著第十七卷以下第二十二卷に神道碑銘、墓碣銘、墓誌銘、墓表、行狀、遺事、祭文、書牘第二十三卷に朝天記聞、朝天日乘附錄には年譜、家狀、神道碑銘、墓表、賜祭文、祭文、挽詞、畫像、贊、書院上梁文其の他知友後人等の選述、記識等を集めたり又四禮訓蒙、魯史零言の著あり

李恒福の小傳は經部四禮訓蒙に出つ

○ 五山集　車氏三世文章錄、滄州集　八卷　車天輅著　板本

本書は車天輅の詩文集にして天輅の歿後久しく刊行せられさりしか正祖之を惜み平安監司洪良浩に命して遺文を蒐集校讎せしめ筭營に於て印出せしむ是れ卽ち本書なり附するに車氏三世文章錄及滄州集を以てす原集第一卷以下第四卷には天輅の詩文を收め附錄車氏三世文章錄には廣運の詩、軾の詩、文、般輅の詩を載し滄州集には雲輅の詩文を收めたり跋は洪良浩の撰にして本書印行の首末を記して詳なり

車天輅字は復元、五山と號す延安の人にして軾の子廣運の孫なり明宗丙辰に生れ宣祖丁丑文科に登り丁酉重試に擧げられ官僉正に至り光海君乙卯に歿す祖廣運父軾俱に文名ありと雖も家世世寒微にして振はす然るに天輅俊秀異凡天授の詩才を發揮し崔簡易と頡頏し又柳西坰、金淸陰等と共に屢外來使臣の迎接に任し其の名異邦に傳播し東方第一の詩人を以て許さるるに至れり父軾字は敬叔、頤齋と號す長子を般輅と云ふ能文にして夭す次は金輅出てて僉使希呂の後を繼く其の次は天輅又其の次は雲輅なり雲輅字は萬里、滄州と號す

○ 於于集　一卷　柳夢寅著　寫本

本書は柳夢寅の遺稿を集めたるものにして一門慘禍に罹り遺篇極て少なく唯其の文數篇を收むるのみ別に於于野談あり閭巷に膾傳す

柳夢寅字は應文、於于堂又昆菴と號す興陽の人にして忠寬の孫なり明宗己未に生れ宣祖癸丑登科し官吏曹參判に至る仁祖反正の後老寡婦の詩を作りて曰く七十老孀婦、端居守閨闥、傍人勸之嫁、有郎顏如槿、白首作春容、寧不愧脂粉、と此を以て獄に投せられて死す兄弟父子叔姪俱に才名あり多く顯要に登りしか皆連坐し或は遠竄せられ或は死を賜はる

○ 漢陰文稿　一二卷　李德馨著　板本

本書は李德馨の詩文集にして宗孫象鼎の編刊に係る第一、二兩卷に詩を收め第三卷以下第十二卷に表、敎書、疏箚、啓辭、簡牘、雜著等を收む序は龍洲趙絅の撰する所なり

李德馨字は明甫、漢陰又雙松と號す廣州の人にして民聖の子領議政克均五代の孫なり明宗辛酉に生れ十一歲辭を吐きて人を驚かしむ蓬萊楊士彥嘗て相酬唱し嘆賞して曰く君は實に我師なりと宣祖庚辰登科し湖堂に入り辛卯三十一歲にして大提學を拜す壬辰の役東西に馳驅して功あり時に明の御史楊鎬之を異とし謂つて曰く李德馨中朝に在りと雖も當に廟堂を委すへきなり而も下僚に屈す惜哉と宣祖之を聞き右議政となし尋て

左相に陞す時に年三十八なり壬寅入りて領議政となり癸卯策勳に方り辭して許されず光海君の斁倫を論し正を守りて變せず竟に其の鄉廣州の龍津に退歸し癸丑に歿す年五十三謚して文翼といふ

○月沙集　七五卷　李廷龜著　板本

本書は李廷龜の詩及各種の著作を集めたるものなり總て當時の國事に關係し史料として貴重なるものあり別集一卷を附す

李廷龜の小傳は史部朝鮮國辨誣奏文に出つ

○睡隱集　四卷　姜沆著　板本

本書は姜沆の詩文集にして孝宗九年門人童土尹舜舉の纂輯したるものなり原集四卷附するに看羊錄一卷附錄一卷を以てす

姜沆字は太初、睡隱と號す晉州の人にして希孟五世の孫なり明宗丁卯に生れ宣祖癸巳に登科し官佐郎に至る丁酉父と俱に李舜臣の營に赴かんと欲し二船を艤して到るや適ま風伯の襲ふ所となり船相失し遂に拿へられて日本に至り大阪を歷て伏見城に送られ居ること四年輿地官號及强弱の勢を錄し密に之を宮廷に致せり宣祖見て嘉賞すと雖も終に大に用ひられず光海君戊午に歿す

○玉峯詩集　三卷　白光勳著　板本

本書は白光勳の詩集にして其の子振南之を編纂刊行せるものなり

白光勳字は彰卿、玉峰と號す海美の人なり明宗の時に生る宣祖の時明使來るあり蘇齋盧守愼接伴たり最も詩を善くする者を選ひ之と俱にせんとし白光勳を上請す光勳白衣を以て製述官となり詩名此より重し又筆藝に工なり官參奉に止まり光海君の時に歿す

○鳳村集附鳳洲稿　五卷　朴東說著　板本

本書は朴東說の詩文集にして從孫玄石朴世采の蒐輯したるものなり收むる所詩、敎書、呈文、啓辭、啓、疏、書、跋、祭文、行狀、雜文等あり肅宗丁巳に刊行す附錄鳳洲稿は弟朴東亮の詩文集なり

朴東說字は說之、南郭又鳳村と號す潘南の人拙軒應福の子なり明宗甲子に生れ宣祖甲午進士を以て文科に魁たり官大司成に止まり光海君壬戌に歿す

朴東亮の小傳は史部寄齋雜記に出つ

○霽湖集附伊村集　一一卷　梁慶遇著　板本

本書は梁慶遇の詩文集にして仁祖二十五年其の曾孫燾の纂輯せしものなり詩、詩話、雜著、記行錄續集に詩、誌銘等を收め伊村集に詩文を收む本書刊板の外寫本十卷あり但た終りに畸庵、東溟、鶴泉、象村、橘屋、晴沙、東岡、玄谷、竹陰、澤堂、北渚、道章、五山、醉軒其の他か寄せし詩を附するのみ蓋し霽湖集は元と六卷に易學便覽七卷に讀易會疑を輯せしか丁未火災に失し遂に其の編次を改めしものに似たり

梁慶遇字は子漸、點易齋と號す南原の人なり梁大樸の子にして宣祖丁酉文科に登り丙辰重試に中り官奉常僉正に止る

○石洲集　八卷　權韠著　板本

本書は權韠の詩文集にして仁祖十年參判洪靈か公州に尹たりし時上刊せしものなり外集一卷を附す

權韠字は汝章、石洲と號す習齋擘の子にして草樓韐は其の弟なり宣祖己巳に生る貌偉氣豪にして言論人を動かす年二十二壬辰の役に遭遇し行在に上書して李山海竝に柳成龍を斬らんことを請ふ敎官を拜して仕へず光海君の時妃兄柳希奮か事を用ひ任疎庵を削科せるを傷み詩を以て之を諷し獄禍を被り壬午に歿す人之を寃とせり

○惺所覆瓿稿附閑情錄四二卷　許筠著　寫本

本書は許筠の詩文集にして光海君三年筠自ら編次せしものなり第一、二卷詩第三卷賦第四卷以下第二十一卷文第二十二卷說を載す閑情錄は隱遁、高逸、閑適、退休、游興、雅致、崇儉、任誕、曠懷、幽事、名謙、靜業、玄賞、清供、攝生、治農の十六門となし別に詩賦、雜文及瓶花史、觴、書畫、金湯等を錄末に附せり

許筠字は端甫、蛟山と號す陽川の人なり宣祖己丑生員に中り甲午文科に登り官判官に至る詩文を善くし名國中に鞏し常に無據の言を幻作して朝野をして顚倒せしむ晩年李爾瞻の手足となり力

を光海君廢母の事に盡し戊午誅せらる

○柳川遺稿　二卷　韓浚謙著　板本

本書は韓浚謙の遺稿なり浚謙の著述は多く兵火に罹り仁祖十七年其の子會一林川郡守たりし時若干篇を餘燼中に收拾して刊行せしものなり

韓浚謙字は益之、柳川と號す清州の人なり世宗丁巳に生る仁祖の舅にして久庵百謙の弟なり光海君の時都元帥を拜し後に西平府院君に封せられ仁祖丁卯に歿す

○村隱集　三卷　劉希慶著　板本

本書は劉希慶の詩集にして孫自勗之を集收し農巖金昌協をして選定せしめ自勗の子泰雄湖南萬戶たりし時上梓せしものなり

劉希慶字は應吉、村隱と號す江陵の人なり仁宗乙巳に生る其の家世世微賤なりしと雖も至孝天性に出て長するに及ひ讀書を好み特に禮學に精通したり壬辰の役義旅を起し光海君廢母の時節を守つて屈せす仁祖初年嘉義に陞されしか退きて枕流臺に居り唱酬以て自ら娛み其の丙子に歿す

○西坰集　四卷　柳根著　板本

本書は柳根の詩文集にして顯宗三年其の外孫吳挺緯忠淸道觀察使たりし時刊行せしものなり

柳根字は晦夫、西坰と號す晉州の人なり明宗己酉に生る宣祖壬辰忠淸監司より五道兵馬副體察使を拜し尋て運餉檢察使を拜し明軍に糧百萬石を運送し特に勳勞を賞せられ扈聖功に策せられ晉原府院君に封せらる官文衡贊成に至り仁祖丁卯に歿す諡して文靖と云ふ

○靑陸集　六卷　金德謙著　板本

本書は金德謙の詩文集にして詩凡そ四百五十九外に記、說、論、傳、跋、帖、封事、箴、詞、賦、箋、文、啓、上梁文等の雜著三十三篇を收輯せり

金德謙字は景益、靑陸と號す商山の人なり明宗壬子に生れ宣祖癸未に登科し丁酉重試を經て終に壽職を以て嘉善に陞り同中樞府事となり仁祖癸酉に歿す仕路振はさりしと雖も其の弟醒翁德誠と俱に行義を以て聞へ仁祖の初屢封事を上り悉く時弊に切實にして採納せられし所少からす

○五峯集　一五卷　李好閔著　板本

本書は李好閔歿後の三年子景嚴及姪景義か遺文を收拾印出したるものにして第一卷以下六卷に五七絕、五七律、古詩等を第七卷以下に賦、表、箋、論、策文、序、記、跋、說、贊、銘、書、疏其の他を收め猶ほ下に東洲李敏求撰諡狀、李埈撰墓誌銘を附す

李好閔字は孝彥、五峯又睡窩と號す延安の人なり明宗癸丑に生れ宣祖己卯進士壯元たり癸未殿試に赴き翌甲申擧けられて成均館に入り尋て注書を拜す壬辰の役宣祖義州に在るの時禮曹判書を以て經幄に參し絲綸を代草す時に奏請訓諭、檄其の他諸軍門往復書の如き大抵皆其の手に成らさるはなし役後扈聖功に策せられ延陵府院君に封せらる壬寅兩館大提學となり後致仕して仁祖甲戌に病歿す諡して文僖と云ふ

○芝峯集　三四卷　李睟光著　板本

本書は李睟光の全集にして子汾沙聖求及東州敏求の編次し上梓したるものなり第一卷より第七卷までは絕句、律詩、排律、古詩第八卷には安南使臣唱和錄第九卷には琉球使臣贈答錄第十卷には朝天錄第十一卷には東槎錄第十二卷には鶴城錄第十三卷には洪陽錄第十四卷には皇華集次韻第十五卷には禁中錄第十六卷には續朝天錄第十七卷には新恩唱和錄第十八卷には昇平錄第十九卷には皇華集次韻第二十卷には別錄第二十一卷より第二十三卷には雜著第二十四卷には采薪雜錄第二十五卷には讀書錄解第二十六卷には題辭第二十七卷及第二十八卷には采摘雜記第二十九卷には警語雜篇第三十卷及第三十一卷には剩說餘論を收む但多くは詩集にして文は雜著以下數篇に止まる別に附錄三卷あり張維撰芝峯行狀、金尙憲撰墓誌銘其の他神道碑銘、祭文等を載す別に類說二十卷の著あり

李睟光字は潤卿、芝峯と號す全州の人なり明宗癸亥に生れ宣祖壬午進士と爲り乙酉登科し官翰林、吏郎、副學を經て吏曹判書、弘文館提學に至り仁祖戊辰六十六歲を以て歿す諡を文簡といふ學識淹博文章富贍なり

○ 旅軒集　一一卷　張顯光著　板本

本書は張顯光の詩文集なり載する所詞、賦、詩、疏、書、問答、雜著、序、記、跋、論、銘、文、誌銘及行狀等あり就中性理論及理氣經緯說は其の蘊蓄を窺ふに足るへし」張顯光の小傳は經部易學圖說に出つ

○ 楸灘集　三卷　吳允謙著　板本

本書は吳允謙の詩文集にして其の孫吳道一か編刊したるものなり絕律、古詩、疏、箚、啓、辭、議、呈文、書、祭文、策等を收め附錄に墓碣銘、年譜、祭文、賜祭文、不允批答等を載せり

吳允謙安は汝益、楸灘と號す海州の人にして監役希文の子なり晩に廣州の先塋下に居り因て又土塘と號せり明宗己未に生れ既に冠して牛溪成渾に學ひ科擧を以て意となさず宣祖壬午司馬試に中り尋て丁酉別試に登り光海君癸丑廢母に際し敎倫を力爭して屈せず丁巳通信使を以て日本に入り仁祖の初年官領議政に至り後者社に入り丙子に殁す謚して忠貞と云ふ

○ 龍溪遺稿　四卷　金止男著　板本

本書は金止男の詩文集にして外孫李觀夏遺篇を收拾し肅宗二十三年外曾孫判書李善溥之を印刊したるものなり

金止男字は子定、龍溪と號す光州の人にして縣監彪の子世愚の孫なり明宗己未に生れ宣祖辛卯に登科し正言を以て經筵に侍し名諫官の稱あり官監司に至り仁祖辛未に殁す其の弟梁山偉男と俱に文名あり

○ 醒翁遺稿　四卷　金德誠著　板本

本書は金德誠の詩文集にして肅宗丙戌宗孫演か殘稿を收拾印出したるものなり原集を第一、二卷となし詩、賦、儷文、雜著、疏、箚、啓、辭を收め別集を第三、四卷となし筵中奏事、醒翁年譜、行狀、神道碑銘、墓誌銘、墓表陰記、賜祭、謚狀、祭文、挽詞等を收む

金德誠字は景和、醒翁と號す青陸德謙の弟にして其の先は商山の人なり明宗壬戌に生れ宣祖戊子進士となり翌年己丑拔かれて成均館に入る光海君丁巳廢母の事に關し李恒福、鄭弘翼等と齊しく直言して明川に流され尋て極北の穩城に又極南の南海島に移配せらる仁祖初年放還せられ執義となり尋て大司成に陞り副提學、吏曹參議を歷て大司憲に至り丙子に殁す年七十五清白吏に選錄せられ謚して忠貞といふ

○ 愚伏集　三二卷　鄭經世著　板本

本書は鄭經世の詩文集にして初孝宗丁酉に上刊し憲宗甲辰重刊し光武三年後孫夏默更に別集を追刊して體裁內容共に備はるに至れり原集第一、二卷に辭、詩第三卷に奏文、敎書、咨帖、疏、箚、第四卷以下第七卷に疏、箚、第八卷に議、啓、辭、呈文、第九卷以下第十三卷に書第十四卷に雜著、第十五卷に序、記、跋第十六卷以下第二十卷に表、箋、啓、檄、上樑文、祝祭文、碑銘、碣銘、墓表、墓誌、行狀等を收め別集第一卷に詩、敎書、咨帳、疏、箚、辭狀、啓、辭、書、序、論、拾遺第二卷に思問錄、養生篇第三卷に經筵日記を收め第四卷以下を附錄となし愚伏堂年譜、言行錄、墓誌銘、神道碑銘、墓表、行狀、謚狀、賜祭文、挽詞、奉安文、常享祝文等を載す

鄭經世の小傳は子部朱文酌海に出つ

○ 水色集　八卷　許　穆著　板本

本書は許穆の詩文集にして詩、賦、疏、挽詞等を收む孝宗九年の刊行に係る眉叟許穆の跋あり

許穆の小傳は吏部寧社原從功臣錄に出つ

○ 洛涯遺稿　二卷　金安節　板本

本書は金安節の詩文集にして後孫濟默か上梓したるものなり賦及詩若干を收む附錄一卷あり行狀、墓表等を載す

金安節字は子亨、洛涯と號す尙州の人なり明宗壬寅に生れ幼時健齋朴守一に學ひ稍長して業を板谷成允謙に受く宣祖の時進士に中りしも光海君の敎倫後擧業を廢して野に處り仁祖壬申に殁す安節志高く鄭愚伏李蒼石等と最も親善なり

○ 農圃集　二卷　鄭文孚著　板本

本書は詩文若干を收む詩は以て北路の風光を詠し文は以て當時の情勢を窺ふに足る

鄭文孚字は子虛、農圃と號す海州の人にして府使愼の子彥慤の孫なり明宗乙丑に生れ戊子に登科し辛卯出てて北評事となり鏡城に在りし時適ま壬辰の役に遭ひ儒生李鵬壽、崔配天等と兵を起し

て吉州に戰ひ功あり因て吉州牧使に陞る仁祖甲子將に重用せられむとし不幸其の詩句を訐き獄案をなし捕へられて鞫拷に死す後北人等寃を雪き祠を鏡城に立て彰烈の號を賜ひ謚して忠毅といふ

○ 象村集　六三卷　申欽著　板本

本書は申欽の詩文集にして初其の子樂全堂翊聖輯して印行し當時詞壇の諸老之に序せり既にして後集續集相繼きて刊出せられしも未た以て遍く傳ふるに足らすとなし從弟翊亮と謀りて更に删定を加へ遂に湖南の詩山に於て鋟梓するに至れり本書は其の重刊に係り收むる所詩、賦、文より雜著に渉り欽の造詣を知るに足る

申欽字は敬叔、象村と號す平山の人にして瑛の孫なり明宗丙寅に生る幼にして聰慧人に絶し經傳子史既に遍覽して象緯、律曆、算數、蓍卜の書亦悉く渉獵せさるなし宣祖乙酉進士となり壬寅丙戌登科し頗る推重せられしも光海君の時志を得す春川の昭陽江上に退居す仁祖癸亥吏曹判書を以て召され尋て文衡を典り相府に入り其の戊辰病歿す謚して文貞と云ひ仁祖廟庭に配食す學行純醇能文を以て知られ月沙李廷龜、谿谷張維、澤堂李植と竝に文章四家と稱せらる而して其の文は初昌黎を嗜み晩に百氏に出入し詩は唐人を取り又頗る明の諸家を愛せり

○ 玄軒和陶詩　一卷　申欽著　板本

本書は潛窩李命俊か申欽の象村集中より和陶詩のみを分離して改刊したるものなり欽の子翊聖の跋あり

申欽の小傳は集部象村集に出つ

○ 石樓遺稿　四卷　李慶全著　板本

本書は李慶全の遺稿を集めたるものにして收むる所律詩、絶句、疏、祭文、記、跋、說、銘、歌謠、敎書、上梁文、序等あり

李慶全字は仲集、石樓と號す韓山の人にして豐溪山海の子なり宣祖庚寅文科に出身し選はれて湖堂に入り官判中樞に至り韓平君に封せらる

○ 楓巖集　一卷　金終弼著　板本

本書は金終弼の詩文集にして仁祖の時傍孫潛谷堉其の遺稿を收拾して刊行す

金終弼字は諧中、楓巖と號す清風の人なり宣祖の時に生れ少年進士となり尤も詩を善くす仁祖の時に歿す

○ 靑霞集　七卷　權克中著　板本

本書は權克中の詩文集にして肅宗三十年弟子金遇澄か全羅監司閔鎭遠に囑して開刊せしめしものなり全篇七卷雜書中に讀書錄あり太極理氣陰陽動靜に關する諸論は集中の主たるものとす

權克中字は擇甫、靑霞又花山と號す安東の人にして鰲峰權克中と同名異人なり十九歲の時論語を讀み感發する所あり後牛溪成渾に就きて道を學ひ刻苦勵精光海君の初洗馬に除せられしも旬日ならすして官を棄て專ら經典に沈潛して復た出てす詩名あり性孤潔恬靜人と交るに久くして益敬すへきを見る宣祖の時に生れ孝宗の時に歿す

○ 磨鏡軒集　一卷　洪九淵著　板本

本書は洪九淵の詩文集にして仁祖十三年其の父茂績之を開刊す澤堂李植の序あり

洪九淵字は而靜、磨鏡軒と號す南陽の人にして白石茂績の子なり光海君壬子に生る幼にして奇才あり仁祖乙亥齡二十四を以て夭す人之を嗟惜せさるなし遺詩數百篇世に行はる皆選體なり父白石其の墓に銘す

○ 水北亭集　一卷　金興國著　板本

本書は金興國の詩集にして後孫浩、詣、秉度、載鍊等か蒐輯したるものなり純祖壬辰の刊行に係る

金興國字は景仁、水北と號す順天の人平陽府院君承霍六代の孫なり明宗丁巳に生れ宣祖己丑文科に登り南床を歷て官副提學に止り仁祖癸亥に歿す興國文行を以て沙溪金長生、秋浦黃愼、象村申欽、藥峰徐渻諸公と交游し仕へすして節義の名甚た高し

○ 痴巖逸稿　二卷　裵尙益著　板本

本書は裵尙益の遺稿にして其の後孫漢奎、漢周、永協等か蒐集し成鍾震に托して編次したるものなり收むる所詩の外記文一篇のみ李太王辛未之を

刊行す

裏尙益字は益哉、痴巖と號す達城の人牧使應の子なり宣祖辛巳に生れ光海君丙辰生員に中り仁祖甲子文科に登りて官判官に止まり辛未に歿す丁卯清亂の時江都に扈從し史官を以て權臣李貴の闕失を直書したる爲怒に觸れ官途振はす子幼華亦文學を繼述し八斯遺稿あり

○ 潛窩遺稿　四卷　李命俊著　板本

本書は李命俊の詩文集にして子顯基等か蒐輯したるものなり收むる所年譜、詩、疏、箋、書、祭文、策、序、雜著、附錄等あり刊行年時詳ならす

李命俊字は昌期、潛窩と號す全義の人清江濟臣の子なり宣祖壬申に生れ辛丑進士に中り癸未文科に魁たり官刑曹參判に止まり仁祖庚午に歿す名士の子にして牛溪成渾の門に遊ひ出てては吏治を以て公平廉直の稱あり入りては正言直諫を以て名あり

○ 石溪集　四卷　閔昱著　板本

本書は閔昱の遺稿にして八代の孫致鍾の蒐輯したるものなり收むる所詩と日記のみ李太王辛未之を刊行す

閔昱字は晦叟、石溪と號す驪興の人文兵使安迪の玄孫なり明宗己未に生れ仁祖乙丑に歿す重峰趙憲及沙溪金長生の門に從遊し學問深淵又直聲を以て稱せらる

○ 雪汀詩集　六卷　曹文秀著　板本

本書は曹文秀の詩集にして詩各體を收む刊行年時詳ならす

曹文秀字は子實、雪汀と號す昌寧の人判書光遠の孫なり宣祖庚寅に生れ仁祖甲子蔭縣監を以て文科に登り官戶曹參判に止まり承襲して夏寧君に封せられ乙酉に歿す詩筆を以て盛名あり

○ 孤松遺稿　一卷　崔纘著　板本

本書は崔纘の詩集にして後孫興翰、基正等か遺稿を蒐輯編次したるものなり哲宗癸亥七代の孫承翰、九代の孫碩鉉等門中に謀りて之を刊行す

崔纘字は伯承、孤松と號す水原の人三洲希說の子なり明宗甲寅に生れ仁祖甲子に歿す光海君の時永昌大君の害に遭ふや哀大君歌を作りて之を傷み爲に久しく縲絏の中に在り仁祖改玉の後禮賓直長を授けられしも敎旨下るの前既に屬纊せり

○ 月峰集　九卷　高傅川著　板本

本書は高傅川の詩文集にして玄孫萬紀之を蒐輯し六代孫時佐又之を編次す詩、程文、疏、箚、啓辭、應製錄、祭文、祝文、敎書、墓碣、附錄等を收め哲宗庚申後孫勉鎭之を刊行す

高傅川字は君涉、月峰と號す長興の人霽峯敬命の孫鶴峯因厚の子なり宣祖戊寅に生れ乙巳進士に中り光海君乙卯文科に登りて靖社原從一等勳に錄せられ官掌令に止まり仁祖丙子に歿す傅川一家三節の門に出て布衣の時より正言直諫を以て盛名あり文章は特に其の餘事なり

○ 丹圃遺稿　一卷　趙希進著　板本

本書は趙希進の遺稿を集めたるものにして孫德常之を輯集し詩、賦、策、墓碣等を收む英祖辛巳に刊行す

趙希進字は與叔、丹圃と號す林川の人承旨瑗の子竹陰希逸の弟なり宣祖己卯に生れ丙午進士に中り光海君丙辰文科に登り官掌樂正に止まる仁祖甲申に歿す其の兄竹陰と名を齊うす

○ 苦泉集　附龍巖實記　八卷　閔仁伯著　板本

本書は閔仁伯の詩文集にして後孫璣容の編輯に係る收むる所賦、詩、表、頌、疏、祭文、跋、碑銘、師友錄、討逆日記、頒敎文、龍蛇日錄、龍蛇追錄、朝天錄、邦禮同異、家史、擴言、記聞、遊賞、等あり附するに其の子埈の龍巖實記を以てす李太王甲戌之を刊行す

閔仁伯字は伯春、苦泉と號す驪興の人副正思權の子なり明宗壬子に生れ宣祖癸酉進士に中り甲申文科に魁たり驪陽君に封せられ官知中樞府事に至り仁祖丙寅に歿す左贊成を贈られ諡を景靖と云ふ牛溪成渾の門人にして文學を以て盛名あり又吏治に嫻へり

閔埈字は載萬、龍巖と號す苦泉仁伯の子なり仁祖丙子江都に入り丁丑全家十三人皆節に殉す一門忠烈古今に稀なりと云ふ正祖己酉戶曹判書を贈られ庚戌諡を忠愍と賜ふ

○南坡相國集　六卷　沈悅著　板本

本書は沈悅の詩文集にして顯宗乙巳趙遠期、任義伯等之を編刊す主として疏箚を收め但た第一卷に詩若干を集むるのみ

沈悅字は學而、南坡と號す靑松の人なり養生堂忠謙の子にして出ててて府使禮謙の後を繼いり宣祖己巳に生れ癸巳登科し史局に入り三司を歷て仁祖の初年戶曹判書となりて成績あり仍て右相を拜し尋て領議政に至り耆社に入る丙戌に歿す諡して忠靖と云ふ蓋し沈悅の長所は文藝に在らすして寧ろ吏務に在り僚友金北渚、洪鶴谷等の錬達を以てして尙は事を理するの敏速なるを讓りしと云ふ

○敬亭集　一三卷　李民宬著　板本

本書は李民宬の詩、記、賦、序、啓、辭、論、題、跋、表、祭文、襍著、上樑文、銘等を收む論に東海無潮汐論、守道不如守官論、孟子不尊周論、階伯論等あり階伯は唐、新羅と合して百濟を討ちし時の將なり其の論は當時の事實を記し併せて其の人に及ふ本集は顯宗甲辰

其の子廷機か刊出せしものなり

李民宬字は寬甫、敬亭と號す永川の人にして鶴洞光俊の子なり詩文に長し曾て使を奉して燕京に入り文墨の名を馳す宣祖丁酉登科し湖堂に入り宣祖仁祖兩代に歷事して官承旨に止まる

○淸陰集　四〇卷　金尙憲著　板本

本書は金尙憲の詩文集にして第十一卷より十三卷に至る三卷は仁祖丙子の難に當り晦谷曹漢英等と瀋陽の獄に投せられし時の唱酬なり時に四壁雪厚きこと尺餘仍て名けて雪窖集といふ生前の自編なり又朝天錄の一篇あり是れ亦丙子の自編にして自序及李康先其の他の序を載す

金尙憲の小傳は經部讀禮隨鈔に出つ

○九曉集　四卷　李春元著　板本

本書は李春元の詩集にして各體見るへきもの多し附錄及補遺を添へたり

李春元字は元吉、九曉と號す咸平の人にして縣監允宇の孫なり初名を信元、字を玄之といふ宣祖辛未に生れ庚寅進士となり丙申登科し光海君に歷

事し直節を以て著はれしか官監司に至りて罷められ仁祖甲戌に歿す春元六歲能く文を屬す思庵朴淳相を罷めて永平に退居す春元就て學ひ其の蘊奧を窮め終に文名を博するに至れり

○慕夏堂集　三卷　金忠善著　板本

本書は金忠善の遺稿にして憲宗八年編刊し李王隆熙二年更に之を重刊せり收むる所第一卷に疏、狀、書、記、雜著第二卷に年譜第三卷附錄に諸家寄稿の詩及書並に行錄、行狀、墓誌碣、傳其の他祭文等を載す

金忠善字は善之、慕夏堂と號す傳へ云ふ元、日本人にして姓を沙也可と稱す壬辰の役加藤淸正の部下に屬し兵三千を領して來る朝鮮仁義の俗を見て兵を加ふるに忍ひすとなし金應瑞の軍門に投し屢戰功あり因て姓名を賜ひ金忠善と曰ふ後大邱の三聖山下友鹿村に卜居し優遊日を送りしか李适の變出ててて功あり仁祖丙子淸軍の京城に入るや勇氣老ひて衰へす晝夜兼行して京に上る時に王既に南漢城に遷れり乃ち雙嶺に至り大に戰

ひ殺傷無數南漢に達する時和議已に決せり是に於て大に哭して曰く豈に禮義の邦を以て膝を醜酋に屈すへけんやと劒を投して友鹿村に歸り堂に匾して慕夏といひ其の壬午に歿す五男一女あり長を敬元次を敬信、右祥、繼信、敬仁といふ

○東岳集　二七卷　李安訥著　板本

本書は李安訥の詩文集にして仁祖十八年澤堂李植か具鳳瑞、吳端、韓興一等と同編共刊したるものなり載する所北塞錄、遠征錄、朝天錄、東槎錄、湖西錄、端州錄、洪陽錄、萊山錄、潭州錄、錦溪錄、月城錄、江都錄、關西後錄、關西續錄、東還錄、江都後錄、咸營錄、朝天後錄、湖營錄、拾遺錄、集字體、賦、鈔、雜著鈔等あり

李安訥字は子敏、東岳と號す德水の人にして容齋荇の曾孫なり宣祖辛未に生る幼時神童を以て稱せられ宣祖己亥登科し官兩館提學禮曹判書に至る適ま仁祖甲子李适の獄に坐し慶源に配せられ居ること二年にして洪州に移配せられ其の五年宥されて還る壬申使命を奉して燕京に入り還りて正憲に陞り丁丑に歿す諡して文惠といふ詩を

以て當時に知らる

○北渚集　九卷　金　鑾著　板本

本書は金鑾の詩文集にして孝宗九年其の孫震標か清州に宰たる時編刊せしものなり詩、祭文、疏箚、碑銘、雜著等を收む

金鑾字は冠玉、北渚と號す順天の人にして坡裘汝畝の子なり宣祖辛未に生れ丙申登科し光海君の時私親追崇の議に赴かず仁祖癸亥默齋李貴、谿谷張維等と義を擧げ反正に依りて靖社功臣一等勳に錄せられ昇平府院君に封せらる官右相を拜し尋て領議政に至り後文衡を典り耆社に入り戊子に歿す謚して文忠といひ仁祖廟庭に配食す

○鶴谷集　八卷　洪瑞鳳著　板本

本書は洪瑞鳳の詩文集にして絕句、律詩、排律、疏、箚、銘、祭文、應　等を收め行狀、墓表、請謚行狀等を附せり

洪瑞鳳の小傳は史部寧社原從功臣錄に出つ

○海峯集　三卷　洪命元著　板本

本書は洪命元の詩文集にして壬辰の役に遭逢し

屢文事を以て明將等と酬酢す故に本集載する所の詩文亦之に關するもの多し

洪命元字は樂天、海峯と號す南陽の人なり宣祖癸酉に生れ丁酉に登科し官京畿監司に至る石壁春卿の曾孫にして家世世文學を崇尙し弟無適堂命亨と共に名聲あり仁祖癸亥に歿す

○潛冶集　一〇卷　朴知誠著　板本

本書は朴知誠の詩文集にして英祖四十二年元景淳全羅觀察使たりし時刊行す載する所疏、書、祭文、雜著、墓碣、禮、辨、箚、錄等あり

朴知誠字は仁之、潛冶と號す咸陽の人にして逍遙堂世茂の孫なり宣祖癸酉に生る幼より至孝長して學問に篤く山林に隱棲して承旨の徵に就かず仁祖乙亥に歿す文穆と謚し牙山書院に配享せらる

○茶山集　二卷　睦大欽著　板本

本書は睦大欽の詩集にして肅宗十一年猶子存善の編刊したるものなり

睦大欽字は湯卿、茶山又竹塢と號す泗川の人參判

詹の子にして梅溪叙欽及孤石長欽の弟なり宣祖乙亥に生れ乙巳登科し仁祖に事へて官承旨に至り戊寅に歿す最も詩に長し五山車天輅の如きも猶ほ時に讓歩したりといふ

○竹陰集　一六卷　趙希逸著　板本

本書は趙希逸の詩文集にして其の孫景望之を編刊し肅宗十一年曾孫正萬更に重刊す收むる所賦、辭、詩、應、製文、上樑文、啓、表等にして神道碑銘、祭文等を附せり

趙希逸字は怡叔、竹陰と號す林川の人にして雲江瑗の子なり宣祖乙亥に生れ辛丑進士壯元に捷ち翌壬寅登科し尋て復た戊申重試に中る官禮曹參判に至り戊寅病に歿す少時家庭に學ひ長して淸陰金尙憲、守夢鄭曄等の推許する所となり時望籍甚たりしも官途振はすして終る詩文の外經史質疑の著あり

○溪巖集　六卷　金　玲著　板本

本書は金玲の詩文集にして英祖四十八年後學大山李象靖の付梓刊行する所なり

金玲字は子峻、溪巖と號す光州の人にして雪月堂富倫の子なり宣祖丁丑に生る父富倫、退溪李滉に學ひ踐履篤實なりしか金玲亦庭訓に擯染して操守堅確なり光海君の時文科に出身し官司諫に至る朝政の亂るるや高翔遐蹈復た世事に意なし仁祖中興の後遺斥せられし者及自避せし者を召用するに際し堅く執りて應せす英祖の樹立を嘉尙し殷の三仁に比す仁祖辛巳に歿す

○月塘集　一〇卷　姜碩期著　板本

本書は姜碩期の詩文集にして英祖の時後孫命達之を哀聚刊行し集末に疑禮問解二卷を附す

姜碩期字は復而、月塘と號す衿川の人にして東郭燦の子なり宣祖庚辰に生る少にして沙溪金長生の門に學ひ最も禮說に嫻熟す光海君丙辰文科に登第し未た幾もなくして廢母の事作り爲に世と絕ちしか仁祖反正の初庶事草創に際し主として整理に鞅掌し其の功多きに居る官右相に至り甲戌に歿す文貞と謚す

○崎菴集　一二卷　鄭弘溟著　板本

本書は鄭弘溟の詩文集にして孝宗四年子澄及姪濬の編刊する所なり原集十卷詩、賦、表、箋、敎書、上樑文、檄疏、祭文、哀辭、誌銘、書、跋、記、辨を收む續錄二卷疏書、誌銘、祭文、記、雜著、問目、漫述等を載せ尙ほ附するに墓誌銘及朝野名士の祭文挽詞を以てせり

鄭弘溟字は子容、畸菴と號す松江澈の子なり宣祖壬午に生る少にして龜峰宋翼弼に從學し長して沙溪金長生の門に遊ふ光海君の時登科し官大提學に至る谿谷張維、白軒李景奭と文章の交をなし互に相推許す

○孤靑遺稿　一卷　徐起著　板本

本書は徐起の詩を集めたるものにして英祖庚午判書洪啓禧か遺稿を散佚の餘に集めしものなり著者の詩は纔に數首に止まり全卷殆と附錄より成る而して附錄には守菴朴枝華撰墓碣銘、屛溪尹鳳九撰行狀、顧菴宋寅、重峯趙憲、西溪李得胤其の他門人等撰祭文並に晦谷申愈撰墓文等を載し洪啓禧跋を附せり

徐起字は待可、孤靑、頤窩、龜堂の號あり利川の人宣祖癸未に生る家寒微なれとも丰標秀英にして百家諸書を涉獵し特に釋氏を好みて大乘を究めたり又山水を愛し各地を周遊し名勝殆と歷訪せさるなし晩に公州の孤靑峯下に卜居して身を講學に委ね竟に仕へす孝宗辛卯に歿す

○南磵集選　一卷　羅海鳳著　板本

本書は羅海鳳か仁祖甲戌の歲第二子休に命し其の詩文を哀集繕寫せしめ正祖の時に至り六世の孫學愼か谿磵酬唱と共に上梓したるものなり

羅海鳳字は應瑞、南磵と號す羅州の人にして忠烈公德憲の從子なり宣祖甲申に生れ仁祖の初年遺逸を以て參奉に除せられたるも就かす後別提に至り戊寅に歿す睡隱姜沆に就學し文辭甚た優婉なり

○澤堂集　三四卷　李植著　板本

本書は李植の詩文集にして顯宗十五年完伯李東植、南平郡守宋杰と協力して上刊す

李植字は汝固、澤堂と號す容齋荇の玄孫なり宣祖甲申に生る光海君庚戌の文科に出身し仁祖の時文衡を典り官吏曹判書に至り丁亥に歿す謚を文靖と云ふ乙亥より以後事大交隣に關する文書浩繁を極めしか澤堂承文院有司堂上を以て專ら撰述を擔當し文名を海外に馳せ谿谷張維と竝に二大文豪と稱せらる

○白石遺稿　五卷　柳楫著　板本

本書は柳楫の遺稿にして後孫訥隱處士光德の裏輯に係り純祖壬辰光德の子命基之を上梓せり詩文各體を收め附するに行狀及誌銘を以てす

柳楫字は用汝、白石と號す沙溪金長生の門人なり宣祖乙酉に生れ光海君丙辰生員となり仁祖の初年其の師沙溪の推薦に因り察訪に拜せられたるも幾許もなくして官を棄てて鄕に歸り己丑に歿す

○遲川集　一九卷　崔鳴吉著　板本

本書は崔鳴吉の詩文集にして其の孫明谷錫鼎弟損窩錫恒と俱に編刊したるものなり

崔鳴吉字は子謙、遲川と號す全州の人なり宣祖丙戌に生れ乙巳に登科し仁祖反正の時延平府院君李貴の大義を策するや謀劃多くは其の手に出つ遂に靖社功一等に錄せられ完城府院君に封せらる又文衡を典り官領議政に至り其の丁亥に歿す謚を文忠と曰ふ仁祖丙子の難に當り衆議皆和を斥けしも鳴吉獨り和議を主張し淸陰金尙憲和書を裂きし時之を拾補して曰く裂く者無かるへからす而も亦補ふ者無かるへからすと遂に和議を定め宗社生靈全きを得たるは實に鳴吉の力なり文章最も疏箚に長し唐の陸贄、宋の李綱に比す本集を讀む者其の眞に李朝中有數の大手筆なるを知るへし

○龍洲遺稿　二三卷　趙絅著　板本

本書は趙絅の遺稿を集めたるものなり載する所絕句、律詩、古詩、疏、箚、啓、辭、跋、說、記、辨、襍著、文、敎書、誄、誌、銘及東槎錄等あり

趙絅字は日章、龍洲又柱峯と號す漢陽の人なり宣祖丙戌に生る仁祖丙寅に登科し文衡を典り官判中樞府事に至り淸白吏に撰せられ謚して文簡と曰ふ釋褐前既に士望あり李爾瞻之と結はんとし

て斥絶せらる仁祖丙子の難斥和十臣中の一なり

○谿谷集　三四卷　張維著　板本

本書は張維の詩文集にして仁祖二十一年子善徵之を刊行す

張維の小傳は子部谿谷漫筆に出つ

○谿磵酬唱　一卷　張維　羅海鳳撰　板本

本書は谿谷張維及南磵羅海鳳の酬唱數十首を集めたるものなり維曾て羅州に左遷せられし時海鳳と相親しみ詩牘を往復し既に歸還せるも仍ほ廢せず後海鳳の孫時達、金壽恒と謀り之を裒輯して家藏す正祖の時に至り維の後孫學愼印行を企て遂に己未の春谿磵書院に於て鋟梓せり卷首に宋浚吉の題字及附言宋時烈の跋金壽恒の序卷尾に李縡、吳載純、李書九等の跋を附せり

張維の小傳は集部谿谷漫筆に出つ

羅海鳳の小傳は集部南磵集選に出つ

○翠軒集　三卷　俞伯曾著　板本

本書は翠軒俞伯曾の疏箚を集む皆當時の大臣宰相を彈劾せるものなり

俞伯曾の小傳は史部翠軒疏箚に出つ

○樂全堂集　一五卷　申翊聖著　板本

本書は申翊聖の詩文集にして孝宗五年其の子冕及最之を蒐集し撰定を東洲李敏求に請ひ以て上印したるものなり收むる所詩各體、小傳、序、記、傳、雜著、跋、疏、箚等あり

申翊聖の小傳は史部皇極經世書東史補遺通載に出つ

○樂全歸田錄　一卷　申翊聖著　板本

本書は申翊聖か歸田後の詩を集めたるものにして樂全堂集に收めす肅宗十五年外孫金錫胄一卷となして印出せり收むる所古律各體にして其の顚末は書末に叙して詳なり

○玄谷集　七卷　鄭百昌著　板本

本書は鄭百昌の詩文を集めたるものにして孝宗元年子善興之を刊す載する所絶句、律詩、排律、古詩、帖、批答、書、表、箋、啓、序、疏、墓表、誌、祭文等あり

鄭百昌字は德餘、玄谷又谷口と號す晉州の人にして燕山君の時直節の名ありし誠謹の玄孫なり宣祖戊子に生れ孝を以て聞に旌せらる光海君の時文科に出身し廢母の時諫臣多く禍を被むるに際し百昌復た免かれす官を奪はれて退去し澤堂李植、疎菴任叔英等と山水の間に娛遊せしか仁祖卽位の後召用せられ湖堂に入り官觀察使に至り其の乙亥歿す

○浦渚集　三五卷　趙翼著　板本

本書は浦渚趙翼の遺稿を收輯せしものにして詩、疏、箚、啓、辭、書、雜著、序、記、跋等を收む別に孟子淺說の著あり

著者の小傳は經部孟子淺說に出つ

○天坡集　四卷　吳翻著　板本

本書は吳翻の詩文を集めたるものにして仁祖二十四年弟鄰晉州牧使たる時刊行す載する所絶句、律詩、排律、古詩、銘、序、記、疏等あり

吳翻字は肅羽、天坡と號す海州の人なり宣祖壬辰に生る幼にして神童の稱あり光海君の時文科に出身す榮達を欲せす山中に讀書したりしか仁祖反正の後撰はれて湖堂に入り官黃海道觀察使に止まり其の甲戌に歿す子斗寅肅宗乙巳に抗疏し名臣の稱あり

○汾西集　一六卷　朴瀰著　板本

本書は朴瀰の詩文を集めたるものにして肅宗八年孫泰斗か編刊せしものなり原集十五卷附錄一卷あり古詩、律詩、排律、七絶、序、記、墓誌、銘其の他文各體文を收む

朴瀰字は仲淵、汾西と號す潘南の人にして冶川紹の曾孫なり少より敏達にして業を白沙及玄軒に受け長して宣祖の駙馬となり因て錦陽尉に封せらる時に樂全申翊聖亦同しく駙馬たり谿谷張維曰く究心求作して一家言を成すは樂全に若かす而も才力は汾西勝れるものありと仁祖三年歿す

○東溟集　一一卷　金世濂著　板本

本書は金世濂の詩文集にして子弼相之を收輯し曾孫一基之を刊行す載する所詩、雜著、疏、箚、啓、辭、狀、敎書、祭文、序、說、跋、碑、銘、誌、表、海槎錄及附錄あり其の海槎錄は從事官として日本に使したる時の日記にして家光將軍たりし時なり

金世濂字は道源、東溟と號す善山の人にして省菴孝元の孫なり宣祖癸巳に生る幼にして才藝煥發し光海君の時登科し湖堂に入り官戶曹判書に至り仁祖丙戌に歿す諡を文孝と曰ふ光海君廢母の時諫者多くは逐竄せられ世濂亦禍に遭ふ嘗て日本に使し嘘を辭して受けず關西、海西の兩道に按察使となり治績克く著はる文章典雅北渚愚伏之を稱許す

○ 白洲集　二〇卷　李明漢著　板本

本書は李明漢の詩文集にして仁祖の時子一相の編する所に係り絕句、律詩、排詩、古詩、記文、應制錄、帖、冊文、書、疏、序、跋、銘、狀等を收む

李明漢字は天章、白洲と號す月沙廷龜の子なり宣祖乙未に生れ天縱の才を以て兼て家庭の訓を受け夙歲にして聲譽蔚然たり光海君丙辰に登科し史局に入り湖堂に撰せられ官大提學吏曹判書に至り仁祖乙酉に歿す諡を文靖と曰ふ子一相亦文衡を繼く

○ 家州集附道村稿　六卷　李尙質著　板本

本書は李尙質の詩文集にして肅宗の時子蹇が收輯する所に係り東溟鄭斗卿之を刪定し孫判書肇之を刊行す卷末に其の子道村蹇の遺稿を附す

李尙質字は子文、家州と號す李氏の宗室なり宣祖丁酉に生れ仁祖の時登科し湖堂に入り玉堂に在りしか元宗追崇の事に値ひ上箚極諫して邊地に竄せられ乙亥宥を蒙り未た還るに及はすして途に歿す子蹇道村と號す

○ 玄洲集　七卷　李昭漢著　板本

本書は李昭漢の詩文集にして顯宗の時子提學般相の刊行する所なり

李昭漢字は道章、玄洲と號す月沙廷龜の子にして白洲明漢の弟なり宣祖戊戌に生る幼より神童の稱あり克く父兄の美を趾く世人三蘇を以て之に比せり光海君の時登科し仁祖の初湖堂に入り儐使北渚金瑬の從事たり當時北渚の幕下多士濟濟を以て稱せられ玄谷鄭百昌、畸庵鄭弘溟、霽湖梁慶遇等と與に唱酬徵逐す官參判に至り仁祖乙酉に歿す

○ 疎菴集　八卷　任叔英著　板本

本書は任叔英の詩文集にして原集八卷拾遺及附錄あり原集に詩、賦、序、制、箋、啓、書、碑、銘、墓誌、上梁文、疏を拾遺に五七絕、五七律詩、記、序を附錄に應酬の詩及祭文等を收む

任叔英字は茂叔、疎菴と號す豐川の人にして竹厓說の曾孫なり宣祖丙子に生れ辛丑擧に赴き進士に中りしも科擧を以て意となさす光海君辛亥別試對策に宮闈の弊を指陳すること數千言考官沈喜壽之を奇とし擢して甲科第一となすや同列聽かす之を丙科の末に置く光海君亦試官を峻責し且叔英の名を削るへきを命す領相李德馨等切諫纔に其の名を復することを得たり壬子承文院に入りしか癸丑廢母の議に赴かす仍て職を罷められ家居すること十年仁祖の癸亥反正の時未た擢用を得すして沒す官脩撰に止まる叔英甚た四六文に長す明使之を歎賞し遂に彼國に傳播するに至れりと云ふ

○ 忠烈公遺稿　二卷　吳達濟著　板本

本書は吳達濟の遺稿を集めたるものにして肅宗丁丑孫遂一輯刊す上卷は詩、賦、表、對策、疏、雜著、簡牘を收め下卷は附錄にして其の事蹟を載す

吳達濟字は季輝、秋潭と號す海州の人にして楸灘允謙の姪なり宣祖丁酉に生れ仁祖甲戌文科に登第し仁祖丙子の難に校理たり斥和の故を以て翌年尹集、洪翼漢と共に淸人の爲に捕へられ遂に害に瀋陽に遇ふ時に年二十九諡して忠烈といふ世達濟の節を知るも其の能文を知る者鮮なし其の敵中に在りて家人に寄せたる詩の如き甚た見るへきものあり

○ 仙源遺稿　二卷　金尙容著　板本

本書は金尙容の遺稿を集めたるものにして子光燦、光炫等か印出したるものなり收むる所五絕、長律、古詩、雜著、墓銘、祭文等若干に過きさるも行文簡潔誦すへきもの少からす又集中に寬懷錄の序あり光海君壬戌の作にして交遊相識六十餘人の姓名を載せり

金尙容字は景擇、仙源又楓溪と號す安東の人にし

て四味堂克孝の子林塘鄭惟吉の外孫なり明宗辛酉に生れ宣祖壬午進士に中り庚寅登科し史局に入りて檢閲となり累進して仁祖壬申相府に入る丙子の難陪して江都に入り翌年江都守を失ふや自ら火藥を以て焚死す時に年七十七謚して文忠といふ曾て牛溪成渾の門に遊ひ栗谷李珥を景慕し弟子の禮を執る其の交遊する所は悉く一時の名流にして李恒福、申欽、吳允謙、李廷龜、黃愼、鄭曄の如き最も親善なり

○ 滄洲遺稿　一八卷　金益熙著　板本

本書は金益熙の詩文集にして其の孫鎭玉か龍潭に宰たる時刊行す載する所應制錄、古詩、律詩、排律、絶句、封事、疏、箚、啓、行狀、雜著及附錄等あり

金益熙字は仲文、滄洲と號す沙溪長生の孫なり光海君庚戌に生る幼にして詩禮の家敎を承け又谿谷張維、畸菴鄭弘溟に從ひ古文を學ふ仁祖癸酉に登科し經幄に在り啓沃する所多し丙子の後春秋の大義を講し孝宗の眷遇益厚く文衡を典り官吏曹判書に至る其の丙申四十七歲にして歿す謚して文貞と曰ふ

○ 竹堂集　一〇卷　申濡著　板本

本書は申濡の詩文集にして誦すへきもの少からす申濡字は君澤、竹堂と號す高靈の人にして叔舟七世の孫なり光海君庚戌に生れ仁祖庚午進士となり丙子、登科し昭顯世子に陪して瀋陽に入り復た使を奉して日本に往き官參判に至り能文の名あり顯宗乙巳に歿す

○ 久堂集　二四卷　朴長遠著　板本

本書は朴長遠の詩文集にして收むる所詩七百八首及疏、箚、啓、辭箋、敎書、墓誌、行狀、書、論、策、問、箚、錄、記、聞等なり附錄に神道碑銘、謚狀、行狀、言行錄、祭文、挽詞等を載す卷尾附記して庚戌(英祖六年)四月達館開刊、海印寺藏板とあり

朴長遠字は仲久、久堂と號す高靈の人なり光海君壬子に生れ幼時外祖沈諿に就いて學ひ神才を以て稱せらる仁祖丁卯生員となり丙子に登科し吏曹禮曹判書を歷て顯宗辛亥に歿す謚して文孝といふ天性純孝にして屢閭に旌せらる又深く性理

禮學を究め文章を以て能となさす而も其の詩文皆典雅にして誦すへく又著述に富む

○ 魯西遺稿　三六卷　尹宣擧著　板本

本書は尹宣擧の遺稿を集めたるものにして子明齋拯之を編次せり原集三十卷續集三卷別集一卷附錄上下二卷收むる所詩文各體にして就中疏、箚及書最も多し而して續集に栗谷牛溪年譜、愼獨齋遺事、別集に江都日記附錄は拯の撰にして宣擧の年譜等なり

尹宣擧の小傳は史部栗谷牛溪年譜に出つ

○ 春沼子集附四雅子遺稿九卷　申最著　板本

本書は英祖癸丑門人息菴金錫胄か申最の遺稿を編次し曾孫致謹之を印行したるものなり申最の遺詩、遺文各體を集め附錄に子儀華の遺稿賦、辭並に最の行狀、墓碣銘、墓誌銘、儀華の墓誌銘を載す

申最字は季良、春沼と號す平山の人にして樂全翊聖の次子象村欽の孫なり光海君己未に生れ弱冠にして文名あり仁祖戊子大君師傅に薦められ尋て登科し官南床翰林に至り孝宗戊戌に歿す長子儀華字は端明、四雅と號す仁祖十五年喬桐の寓舍に生れ孝宗甲午進士に中り顯宗壬寅槐院に登り權知副正字となり其の年を以て歿す僅に二十六亦才名あり

○ 松溪集　八卷　李潛著　板本

本書は英祖の時玄孫鎭翼命を受けて李潛の遺稿を進め校書館に於て刊行したるものなり

李潛字は用涵、松溪と號す仁祖の子孝宗の弟なり光海君壬戌に生れ麟坪大君に封せらる偶ま國家多難清の壓迫日に加はるに臨み屢使命を膺け功を社稷に樹つ古より宗室の子弟にして斯の如きは稀なり且詩律清麗貴人の口氣に似す其の自序に徵するも才藝の超倫を窺ふへし孝宗戊戌に歿す謚して忠敬と曰ふ

○ 竹窓集　一〇卷　姜籀著　板本

本書は姜籀の詩文集にして子栢年か蒐輯したるものなり詩、賦、序、記、說、敎書、祭文等なり孝宗甲午の上刊に係る

姜籀字は師古、竹窓と號す晉州の人雲祥の子なり

明宗丙寅に生れ宣祖乙酉進士に中り丙申文科に登り翰苑に入り光海君の時仕へすして官僉知中樞府事に止まり孝宗庚寅に歿す子雪峰栢年文名あり

○ 冶谷集　十卷　趙克善著　板本

本書は趙克善の詩文集にして明齋尹拯藥泉南九萬等之を蒐集し八代の孫鍾瀛李太王癸巳に刊行す收むる所詩、疏、書、序、記、議、論、箴、說、雜著、祝文、祭文、墓碑記、行狀、三官記等あり別に永日錄、疑禮問答、朱子大全疑義等の著あり

趙克善字は有諸、冶谷と號す漢陽の人漢川府院君温の八代孫なり宣祖乙未に生れ仁祖の時遺逸を以て童蒙教官を拜し孝宗己丑經學精明を以て薦せられ掌令を拜し戊戌に歿す克善病篤に在る時特に毛衣を賜はり內醫を遣し診せしむ哲宗の時吏曹判書を贈られ文穆と謚せらる潛冶朴知誡及浦渚趙翼に師事し學問の淹博なる三官記を見て槩知すへし

○ 秋山集　二卷　朴弘中著　板本

本書は朴弘中の詩文集にして七代の孫東奎の蒐輯したるものなり收むる所詩序、記、疏、書、墓誌、祭文、雜著、傳、表、啓、策等あり憲宗丙午之を刊行す

朴弘中字は子建、秋山と號す慶州の人松溪好謙の曾孫なり宣祖壬午に生れ庚子進士に中り戊申蔭仕を以て洗馬を拜し仍て抄選せられ官掌令に止まり孝宗丙戌に歿す文章器局を以て一時の名碩と交遊し光海君の時李爾瞻を疏擊し又沈礦金振直と潛に西宮に糧を納めし爲再度遠島に流さる

○ 四友堂集　九卷　宋國澤著　板本

本書は宋國澤の詩文集にして後孫之を蒐輯せり載する所詩、疏、啓、書、雜著、跋、祝文、祭文、行狀、墓誌、賦、疑、附錄等なり李太王庚寅八世の孫寅植等之を刊行す

宋國澤字は澤之、四友堂と號す恩津の人雙清堂愉七世の孫なり宣祖丁酉に生れ光海君己未生員に中り仁祖甲子文科に登り翰苑に入り官禮曹參議に止まり孝宗己亥に歿す贊成を贈られ謚を孝貞と云ふ

○ 逸翁集　二卷　崔希亮著　板本

本書は崔希亮の詩文集にして五代の孫翊東の編輯に係り收むる所詩及雜著若干篇なり憲宗丙午五代の孫齊東及從姪光億、族孫麟國相謀りて之を刊行す

崔希亮字は景明、逸翁と號す水原の人濟用監正樂窮の子なり明宗庚申に生れ宣祖甲午武科に登り宣傳官を歷て官縣監、階嘉善に止まり孝宗辛卯に歿す武人にして詩名あり壬辰の役忠武公李舜臣の幕下に屬し戰功多く英祖甲午兵曹判書を贈らる

○ 寒沙集　七卷　姜大遂著　板本

本書は姜大遂の詩文集にして七代孫秉和の蒐輯に係る收むる所賦、詩、挽詞、不允批答、教書、疏、箚、啓、辭、書、箋、啓、序、記、跋、上樑文、雜著、祭文、碑碣銘、墓誌、行狀、附錄等あり李太王庚午諸族相謀りて之を刊行す

姜大遂初名は大進字は學顏、秋磵又寒沙と號す晉州の人戀龍翼文の子なり宣祖辛卯に生れ光海君庚戌生員及進士に中り壬子文科に登り官承旨に止まり孝宗戊戌に歿す光海君の時永昌大君の殺さるるに當り直諫する所あり世人之を三代遺直と云ふ

○ 遯峰集　三卷　金寧著　板本

本書は金寧の詩文集にして後孫等の蒐輯したるものなり收むる所詩、賦、疏、書、奉安文、祝文、祭文、銘、墓碣、附錄等あり純祖己巳に刊行す

金寧字は汝和、遯峰と號す善山の人習該崇烈の子なり明宗丁卯に生れ光海君庚戌進士に中り壬子文科に登り官副護軍に止まり孝宗庚寅に歿す寒岡鄭逑及旅軒張顯光の門に遊ひ經學あり光海君の時權奸の勢焰を顧みす再ひ上疏して事を論する所あり亦以て其の氣節を知るへし

○ 隱峰全書　三八卷　安邦俊著　板本

本書は安邦俊の製述全部を集めたるものにして凡例に曰く元牛山集と題せしもの今改むるに隱峰全書を以てす蓋し牛山は地名にして隱峰は自扁の號なるか故なりと又舊本は五代の孫昌賢活字を以て印行したるものなるも後六代の孫壽祿

粹繕寫して全書となし而して原集五冊、己卯錄二冊、混定編九冊、抗義編二冊凡そ十八冊を合せたりと云ふ後八代の孫相か俞達煥の幇助を得て李太王甲子に刊行したるものなり多く壬辰役の記事を收む頗る參考に資すべきものあり

安邦俊字は士彦、牛山隱峰、氷壺の號あり竹山の人宣祖癸酉に生れ少時竹川朴光前蘭溪朴宗挺に學ひ十五歲の時李大源傳を著す戊子鄉擧に趣き紛擾喧聒の狀を見るや心甚た之を恥ち遂に意を科擧に絶つ是より專ら心を性理の學に潛め辛卯坡山に往き牛溪成渾に贄禮し身を講學に委ね孝宗甲子に歿す謚して文康といふ

○ 愼獨齋遺稿　一五卷　金　集著　板本

本書は金集の遺稿を集めたるものにして原集に詩、疏、經筵奏辭、書、沙溪、月塘、臨汀等の行狀附錄に鳴祭文、孝宗大王廟庭配享敎書、謚狀、神道碑銘、墓誌銘、墓表、遺事等を收む

金集の小傳は經部疑禮問解に出つ

○ 化堂集　五卷　申敏一著　板本

本書は申敏一の詩文集にして肅宗の時曾孫判書鉦之を編次し後湖南按察使たる姪思詰に送本して上梓せしめたるものなり

申敏一字は功甫、化堂と號す平山の人なり宣祖丙子に生れ光海君乙卯文科に登第し官大司成に至る甞て牛溪成渾の門に遊ひ牛溪其の學問夙就を愛し孫女を以て之に娶はす潛谷金堉、浦渚趙翼と莫逆の交あり孝宗庚寅に歿す

○ 潛谷遺稿　一一卷　金　堉著　板本

本書は金堉の遺稿にして收むる所詩、賦、疏、箚、啓辭、書、應製錄、墓誌、表箋等百篇に上る尙ほ附するに別稿及補遺一冊を以てし別稿には表、箋、賦、策、補遺には疏、箚、錄、策題、詩を載す

金堉の小傳は史部己卯諸賢傳に出つ

○ 時菴集　七卷　趙相禹著　板本

本書は趙相禹の詩文集にして憲宗乙巳六代の孫橡圭か纂輯したるものなり古詩、絶律、乙丑封事、丁卯封事、書、雜著、序、箴、贊其の他を收め附錄に行狀、遺事、誌銘を收む

趙相禹字は夏卿、時菴と號す楊州の人なり宣祖壬午溫陽の梅谷に生る少時至孝を以て聞え稻や長して沙溪、金長生に師事し又學行の譽あり孝宗の時參奉に除せられたるも就かす其の八年丁酉に歿し特に閭に旌せらる

○ 白江集　一五卷　李敬輿著　板本

本書は李敬輿の詩文集にして肅宗十年子敏叙の哀輯印刊したるものなり詩、疏、箚、啓辭、收議、呈辭、祭文其の他を收め卷首宋時烈の序は本書編刊の首末を明にせり

李敬輿の小傳は史部仁祖實錄に出つ

○ 竹南堂稿　一二卷　吳　竣著　板本

本書は吳竣の詩文集にして肅宗十五年外孫李鳳朝か杆城に守たる時刊行せるものなり絶句、律詩、排律、古詩、疏、箚、祭文、銘、雜著等を收め附錄あり

吳竣字は汝完、竹南と號す同福の人にして默齋百齡の子なり宣祖丁亥に生る光海君の戊午に登科し官判中樞事に至る詩文は當時名匠の推許する所にして又筆翰を善くす東皐李浚慶の詩に曰く一洗詞林百鳥啾と雪峯姜栢年の詩に曰く筆法鐘王以後無と蓋し溢美にあらさるなり顯宗丙午に歿す

○ 孤山遺稿　六卷　尹善道著　板本

本書は尹善道の遺稿を集めたるものにして多く詩歌賦辭を載せ第六卷に隱居中の作に係る俗歌を錄せり景に托して思を發し頗る其の氣格を見る

尹善道字は約而、孤山と號す海南の人にして駱村毅中の孫なり宣祖丁亥に生れ光海君の壬子進士となり權臣李再瞻等を疏斥し極邊に竄せられ仁祖反正後始めて赦され麟坪大君師傅となる癸酉遂に文科に登り官參議に至る禮議を以て又北邊に竄せられ宥還未た幾ならすして顯宗辛亥に歿す正卿職を贈られ忠憲と謚す

○ 東洲集　四三卷　李敏求著　板本

本書は李敏求の詩文集にして仁祖十九年子李元揆の編輯したるものなり前集八卷詩集二十四卷文集十卷別集一卷とす

李敏求字は子時、東洲又觀海道人と號す芝峯李睟光の子汾沙李聖求の弟なり宣祖己丑に生る光海君の壬子登科し仁祖反正の初湖堂に入り官江華留守に至る適ま丁丑の變難に値ひ江華陷落したる時死を免れ脱して歸る是を以て寧邊に責配せられ終に永廢して顯宗庚戌に歿す二子元揆、重揆共に江都の難に殉せり

○ 童土集　六卷　尹舜舉著　板本

本書は尹舜舉の詩文を集めたるものにして弟宣舉の子明齋拯の輯次せしものなり詩文各躰を載す就中學問時事に關する質問應答の書多し附錄に拯の撰に係る舜舉の行狀等を收む

尹舜舉字は魯直、童土と號す坡平の人八松煌の子なり出てて雪峯燧の後を繼く宣祖辛丑に生れ仁祖癸酉生員及進士に中り顯宗の初遺逸を以て薦められ掌令に歿す幼時睡隱姜沆に從學し禮を沙溪金長生に學ひて賤履愈篤し仁祖丁丑下城の後舉業を廢し鄉里に歸りて道義を講論す屢徵命ありしも起たす兄石湖文舉、弟魯西宣舉と與に道德節義を以て士林に景仰せらる

○ 東溟詩集　一一卷　鄭斗卿著　板本

本書は鄭斗卿の詩集にして別に時務に關する陳疏甚た多し

鄭斗卿字は君平、東溟と號す溫陽の人叢桂堂之升の孫なり宣祖丁酉に生る當時詩人輩出し斗卿亦早歲にして藻譽あり北渚金塗憤相となるや白衣を以て從事となる仁祖己巳登科し官禮曹參判弘文館提學に至り顯宗癸丑に歿す顯宗嘗て斗卿賦する所の域中王亦大、天下佛爲尊の句を讀み曰く斗卿此を以て終に大提學となるを得す豈に寃ならすやと特に文衡を贈る

○ 松坡集　七卷　李海昌著　板本

本書は李海昌の詩文集にして肅宗の時其の孫必相及必重の刊行する所なり

李海昌字は季夏、松坡と號す韓山の人なり宣祖己亥に生る仁祖の時登科し官舍人に止る性硬直にして古諫臣の風あり是を以て時に容れられす嘗て業を疎菴任叔英に受け詩文富艶にして尤も駢儷に長す孝宗乙未に歿す

○ 湖洲集　七卷　蔡裕後著　板本

本書は蔡裕後の詩文集にして肅宗三十一年從孫彭胤之を刊行す

蔡裕後字は伯昌、湖洲と號す平康の人なり宣祖乙亥に生る仁祖癸亥生員を以て文科に登り官吏曹判書に至り文衡を典り顯宗甲子に歿す諡して文惠と云ふ嘗て自ら許して曰く朝鮮に三文章あり一は徐四佳一は李澤堂而して一は則ち我なりと其の自負する斯の如し

○ 西歸遺稿 附雲巖逸稿　一〇卷　李起滓著　板本

本書は李起滓の遺稿を集めたるものにして詩、記、疏、書、序及雜書、墓誌銘、祭文、問答等あり附錄に家狀、行狀、墓表、墓誌銘、年譜等を收め兄興滓の雲巖逸稿を附す

李起滓字は沛然、西歸と號す韓山の人なり宣祖壬寅に生れ癸亥鄉試に應し翌甲子生員となり名聲京華に振ふ丁卯文科に登第し越えて己巳成均館博士を拜す丙子仁祖の南漢に圍まるるや起滓兄興滓及梁曼容、崔澐、柳楫等と檄を飛し義兵を礪山に集め南漢を距る五里に前進せり後居を全州の黃方山下に卜し堂に扁するに西歸の二字を以てし屢召されたるも竟に起たす顯宗壬寅に歿す兄興滓字は油然、雲巖と號す亦節義の士なり仁祖の時仕へて司諫に至り丙子官を棄てて鄉に還る

○ 鶴洲全集　一五卷　金弘郁著　板本

本書は金弘郁の詩文集にして初め肅宗戊戌に上印し李太王癸酉七代の孫萬載逸詩を收拾し且附錄を補ひ之を重刊せり第一卷以下第六卷に詩稿第七卷以下第十卷に文稿を收め附錄に碑銘、行狀、敎書、尊周彙編、年譜等を載す

金弘郁字は文叔、鶴洲と號す慶州の人なり宣祖壬寅に生れ仁祖甲子進士に、乙亥文科に登り官翰林三司を歷て孝宗甲午黃海監司となり上疏して蒙咎し鞫拷に死す後吏曹判書を贈られ文貞と諡す

○ 漫浪集　九卷　黃　杲著　板本

本書は黃杲の詩文集にして顯宗九年子應老の收拾に係り嶺南伯沈梓の刊行する所なり絕句、古詩

律詩、排律、賦、辭、表、箋、敎書、批答、玉冊文、疏、箚、雜著、行狀等を載す

黄泉字は子由、漫浪と號す昌原の人なり宣祖甲辰に生る仁祖甲子に登科し官左尹に止る少にして聰明人に絶し藻譽嘖嘖たり釋褐の後日本に使し又燕都に至り到る處に詩才を揮ふ嘗て文衡に薦められしか未た拜するに及はす孝宗丙申に歿す

○ 東江遺集　一九卷　申翊全著　板本

本書は申翊全の遺稿を集めたるものにして顯宗四年子晟全羅觀察使たる時刊行す

申翊全字は汝萬、東江と號す象村欽の子なり宣祖乙巳に生る沙溪金長生曾て象村を往訪す時に翊全僅に十歳應對成人の如し沙溪之を歎異せりといふ仁祖丙子に登科し官禮曹參判に至り孝宗辛卯に歿す翊全文藝に夙就し兼て筆翰に工なり父子兄弟俱に名聲重し

○ 樂靜集　一四卷　趙錫胤著　板本

本書は趙錫胤の詩文集にして肅宗の時門人等の裒輯刊行する所あり絶句、律詩、排律、冊敎文、批答、箋文、疏、箚、啓等を收む

趙錫胤字は胤之、樂靜堂と號す白川の人にして南溪廷虎の子なり宣祖丙午に生れ仁祖戊辰に登科し湖堂に入り文衡を典り吏曹判書に至り淸白吏に錄せられ孝宗乙未歿す諡して文孝と曰ふ嘗て直言を以て屢斥窟に遭ふと雖も諱避せり謨猷風采共に一時の典型たり

○ 同春堂別集　九卷　宋浚吉著　板本

本書は孫樸泉明欽か更定せしものにして宋浚吉か師友と學術時事に關し講論したる書等を收め附錄に遺事、墓誌、墓表、陰記、祭文等を載す外に同春堂集二十卷十八冊あり

宋浚吉の小傳は子部語錄解に出つ

○ 市南集　二七卷　俞棨著　板本

本書は俞棨の詩文集にして肅宗二年其の孫相基之を編刊したるものなり詞賦、詩各體、敎書、疏、箚、啓書、雜著、序、記、說、上樑文、表、箋、祭文、墓誌銘、行狀等を集め附錄には俞棨の行狀、墓表陰記、神道碑銘、墓誌銘及朝野諸名士の祭文、挽詞等を載す別に家禮源流、麗史提綱等の著あり

俞棨の小傳は經部家禮源流に出つ

○ 宋子大全　二一五卷　宋時烈著　板本

本書は宋時烈歿後二十八年肅宗丁酉命して故藁を蒐集刊行せしめたるに始まり別集經禮問答、附錄、年譜等次第に追錄印出せられ卷帙完備するに至れり之を舊本といふ後舊本を本とし之に黄江本を合せて抄刪攙添し憲宗丁未に印行す是れ今本なり黄江本とは肅宗丁酉刊行の原集に先ち門人權尙夏か哀粹繕寫したるものにして今本纂輯の當時に在りて既に其の半を逸したりと云ふ而して舊本は編次の法を南軒文集に取りしと雖も今本は朱子大全の例に倣ひ力めて攷閱の便を圖れり卽ち第一卷以下第四卷に賦、詩第五卷に己丑丁酉封事第六卷以下第二十一卷に疏文、疏箚、啓辭第二十二卷以下第二十五卷に書啓第二十六卷に獻議第二十七卷以下第百二十九卷に書第百三十卷以下第百三十六卷に雜書第百三十七卷以下第百三十九卷に序第百四十卷以下第百四十五卷に記第百四十六卷以下第百四十九卷に跋第百五十卷以下第百五十五卷に銘、箴、贊、上樑文、祝文第百五十二卷以下第百五十三卷に祭文、哀辭第百五十四卷以下第百七十一卷に碑第百七十二卷以下第百八十卷に墓碣第百八十一卷以下第百八十八卷に墓誌第百八十九卷以下第二百一卷に墓表第二百二卷以下第二百五卷に諡狀第二百六卷以下第二百十五卷に行狀、傳等を載し附錄に權尙夏、金榦、金鎭玉、崔愼等の語錄、記述、雜錄を載す又別に論孟問義通攷、經禮問答、三學士傳、咸興志、朱子大全箚疑、六臣祠記等の著あり

宋時烈の小傳は經部論孟問義通攷に出つ

○ 尤庵集　一五八卷　宋時烈著　板本

本書は宋時烈の遺稿にして肅宗四十三年丁酉校書館に命し活字を以て印刊せしめたるものなり收むる所賦、詩、疏、箚、奏、議、書、序、記、跋、雜著、箴、銘、狀、誌、傳、贊、碑文、祭文等あり後宋子大全に之を合收せり

宋時烈の小傳は經部論孟問義通攷に出つ

○ 尤庵後集　四〇卷　宋時烈著　寫本

本書は尤庵宋時烈の遺稿中尤庵集に逸したるものを輯錄せるものにして收むる所第一卷に詩、疏箚、書啓第二卷以下第二十八卷に書、雜書、呈文、序、記跋、銘、祝文、祭文、辭、碑、墓碣、墓誌、墓表、諡狀、行狀、傳なり宋時烈の小傳は經部論孟問義通攷に出つ

○宋書百選　六卷　李勝愚編　板本

本書は李勝愚か朱子百選の例に倣ひ尤菴宋時烈の全集及宋子大全に就き學問、義理、時事に關するもの總て一百篇を抄出し之に註解を附したるものなり勝愚少時より宋子大全を讀み高山景行の念遂に此の編をなすに至りしといふ

李勝愚字は復汝、石耘と號す延安の人なり蔭仕を以て官郡守に止る

○晦谷集　一二卷　曹漢英著　板本

本書は曹漢英の詩文集にして孫女壻滄溪林泳か編次入梓したるものなり初卷に祭文、挽詞、神道碑銘、墓誌銘等を載せ以下各卷に詩文各體を集めたり

曹漢英字は守而、晦谷と號す昌寧の人夏寧君文秀の子にして澤堂李植及沙溪金長生の門人なり宣祖戊申に生れ仁祖丁卯進士となり丁丑庭試に擧らる仁祖丙子和を絕つことを上疏して金尙憲と偕に淸人の拿捕する所となり送られて瀋陽に幽せらるゝや日に尙憲と唱和し積みて巨帙を成す尙憲之に題して雪窖集といふ居ること三年放たれて還り顯宗庚戌に歿す官參判に止まる諡して文忠といひ夏興君に封せらる

○南谷集　六卷　權尙吉著　板本

本書は權尙吉の詩文集にして純祖丙戌玄孫の收拾印布したるものなり弟尙任の序に見れば尙吉の詩文合して一千餘篇猶ほ虎書集ありしも不幸火に失し此の集僅に數百篇を存するのみと

權尙吉字は子貞、南谷又近裏齋と號す光海君庚戌に生れ乙亥進士に中り仁祖丙子の難崔鳴吉和を主とするを聞き之を斬らんことを上疏し阻せられて果さず顯宗甲寅南谷の精舍に歿す純祖の時特に正卿を贈らる

○藏六堂集　二卷　趙龜錫著　板本

本書は趙龜錫の詩文集にして肅宗戊午子秦東の印布したるものなり收むるに詩、祭文、疏、啓、書、簡牘等を以てす其の執義時辭職仍陳時弊疏の如き龜錫平日の志節を窺ふに足る卷尾に南九萬撰墓表陰記及姨弟朴世采の跋を附せり

趙龜錫字は禹瑞、藏六堂と號す楊州の人にして藥泉啓遠の子、象村申欽の外孫なり光海君乙卯に生れ仁祖乙亥生員となり戊子に登科し顯宗の初年執義を以て脩德行政十一條を疏陳し出て丶全羅監司となる後幾もなく事に坐して罷め歸り其の乙巳に歿す

○歸溪遺稿　二卷　金佐明著　板本

本書は金佐明の詩文を收め遺稿補遺を附し淸風金氏の世系考を載す編者及刊出年時明ならず

金佐明字は一正、歸溪と號す淸風の人にして潛谷堉の子なり光海君丙辰に生れ幼にして聰明强記倫を絕つ仁祖癸酉進士となり甲申登科し孝宗の時重試に魁たり官輔國吏曹判書に至り顯宗壬子に歿す諡して忠肅といふ顯宗廟に配享せらる

○東里集　一六卷　李殷相著　板本

本書は李殷相の詩文集にして肅宗の壬午外孫金鎭華か入梓したるものなり收むるに詩文各體を以てし就中詩尤も多し卷首に掲くる農巖金昌協の序は殷相の人と爲りを記し併せて本書刊出の始末を詳述せり

李殷相字は說卿、東里と號す延安の人にして玄洲昭漢の子月沙廷龜の孫なり靑湖一相、靜觀齋端相等と從兄弟たり光海君丁巳に生れ孝宗辛卯に登科し湖堂に入り其の七年重試に中り刑曹判書を歷て肅宗戊午に歿す諡して文良といふ月沙の孫八名皆文名あり就中殷相最も推重せらる少時尹鑴と親善なりしも鑴先輩を排して自說を立つるに及ひ數次書を寄せて之を責め遂に之と絕つ

○淸溪集　八卷　洪葳著　板本

本書は肅宗乙亥子天叙か編刊したるものにして洪葳の詩文各體及雜著を集め附錄に金壽恒、金壽興、洪命夏等の祭文を收む

洪葳字は君實、清溪と號す南陽の人なり光海君庚申に生れ孝宗庚寅に登科し湖堂に入り後廟薦を以て嶺南伯に任せられ顯宗庚子年四十にして歿す少時舅氏樂靜趙錫胤に就いて學ひ文辭言論酷た相肖似する所あり嘗て時弊を疏陳して朋黨を打破せんことを企て將に重用せられんとして果さず朝野之を惜む

○竹西集　四卷　李敏廸著　板本

本書は李敏廸の文集にして肅宗甲子其の子師命、か湖南を按する時刊出せしものなり收むるに疏箚啓辭等奏議の文を以てす

李敏廸字は惠仲、竹西と號す白江敬輿の子にして宗室の系に出つ仁祖乙丑に生れ丙戌進士となり孝宗丙申殿試に壯元に捷ち官大司憲に至り顯宗癸丑に歿す

○退憂堂集　一〇卷　金壽興著　板本

本書は金壽興の詩文集にして肅宗庚寅女壻李喜朝之を收輯し子昌說之を刊出す宋尤菴を遠島に救はんとして上疏したる奏議文亦載せて書中に在り

金壽興字は起之、退憂堂と號す安東の人、清陰尙憲の孫なり仁祖丙寅に生れ戊子進士となり孝宗乙未登科し翌年重試に中り弟壽恒と聯璧の稱あり顯宗癸丑右相を拜せしも其の昇遐と共に春川に謫せらる肅宗の初年釋放せられて還り庚申復官せしも己巳尤菴か元子冊立に關して濟州に竄せらるゝや之に坐して長鬐に貶せられ翌庚午其の地に歿す謚して文翼といふ

○靜觀齋集　一九卷　李端相著　板本

本書は肅宗壬戌子喜朝か北伯尹趾善に編次を請ひ印出したるものなり李端相の詩文各躰を收む

李端相字は幼能、靜觀齋と號す延安の人にして月沙廷龜の孫、白洲明漢の子なり仁祖戊辰に生れ戊子進士となり己丑登科し選はれて湖堂に入り三司を歷て副提學に至り顯宗己酉に歿す謚して文貞といひ正卿を贈らる端相文獻の家に生れ幼にして警穎絕倫長して學行愈進み時望愈著はれしも天壽厚からず惜むへし

○文谷集　二八卷　金壽恒著　板本

本書は金壽恒の詩文集にして子夢窩昌集、農巖昌協等之を刊行し後肅宗二十五年安世徵の增刪を經たり載する所詩、疏箚、啓議、碑銘、墓表、行狀、祭文、頒敎文、冊文、敎命文、傳旨、表箋、上梁文、序、記、題跋、雜著、書牘等なり

金壽恒の小傳は史部松江行狀に出つ

○南溪外集　一六卷　朴世采著　板本

本書は南溪文集の外集にして僅に十六卷九冊に過きざれとも各體詩文、雜著其の他先祖潘南朴尙衷事蹟、沈澤傳等を集め時事研究に資すへきものあり特に尙衷事蹟に至ては記甚た詳なり外に範學全編、春秋補編、六禮疑輯、三禮儀、南溪禮說、時務萬言封事、心經標題、心學至訣、讀書記、朱子大全拾遺等著書甚た富む

朴世采の小傳は經部範學全編に出つ

○瑞石集　一八卷　金萬基著　板本

本書は金萬基の詩文集にして肅宗辛巳孫春澤か檢校して印出したるものなり附錄として敎書、祭文、碑銘、家狀等を收む

金萬基字は永叔、瑞石又靜觀軒と號す光州の人にして沙溪長生の曾孫なり仁祖癸酉に生れ五歲の時父益兼清人の難に殉節して孤となり外祖尹墀に就きて學ひ孝宗壬辰進士となり翌年登科し領敎寧府事兼大提學を拜す國舅たるを以て肅宗の初光城府院君に封せらる庚申の變訓鍊大將となり軍門に入りて功あり許堅等誅に伏するや保社功臣に錄せられ丁卯に歿す謚して文忠といふ領相を贈られ顯宗廟庭に配享せらる

○葵窓集　五卷　李健著　板本

本書は李健の詩文集にして子花陵君洮の蒐輯したるものなり第一卷より第四卷に詩第五卷以下に疏、序、跋、墓誌、行狀、雜著等を載す肅宗壬辰之を刊行す

李健字は子强、葵窓と號す仁城君琪の子宣祖の孫なり光海君甲寅に生る仁祖戊辰仁城君罪を以て珍島に謫せらるる時坐して濟州に流配せられ丁丑宥を蒙り海原君を襲封し顯宗壬寅に歿す葵窓

綺紈公子を以て學を好み詩に巧なり蓋し稀に見る所なり

○六谷遺稿　六卷　徐必遠著　板本

本書は徐必遠の遺稿を集めたるものにして六代の孫榮智の編輯に係る收むる所詩、表、碣銘、跋、書例、啓辭、疏章、年譜附錄等あり刊行は李太王乙丑にあり

徐必遠字は載邇、六谷と號す扶餘の人萬竹軒益の曾孫なり光海君癸丑に生れ仁祖癸酉進士に中り癸未蔭仕を以て叅奉を拜し戊子文科に登り翰苑に入り銓郎を歷て官兵曹判書に至り顯宗辛亥に歿す諡を貞毅と云ふ清名直節其の功績は史冊に昭載す文章は特に餘事のみ

○八斯遺稿　二卷　裵幼華著　板本

本書は裵幼華の遺稿なり七代の孫相善之を編次し李太王己丑刊行す詩、書、雜著、祭文、附錄等を收む裵幼華字は華隱、八斯軒と號す逸城の人痴巖尙益の子なり光海君辛亥に生れ顯宗丁未蔭仕を以て察訪を拜し官主簿に止まり癸丑に歿す文學あり且孝行を以て稱せらる

○騏峰集　四卷　李時省著　板本

本書は李時省の詩文集にして明谷崔錫鼎の刪定したるものなり收むる所詩、序、記、說、書、論、策、附錄等あり正祖乙卯後孫箕煥之を刊行す

李時省字は子三、騏峰と號す慶州の人白沙李恒福の從孫なり宣祖戊戌に生れ蔭叅奉を以て孝宗庚寅文科に登り官僉知中樞府事に止まり顯宗戊申に歿す幼にして從祖白沙の薰陶を承け文行を以て稱せらる

○簡齋集　一卷　邊中一著　板本

本書は邊中一の詩文集なり後孫道新、正基等之を收輯し哲宗庚申之を刊行す收むる所詩、書、記、祭文、附錄等あり

邊中一字は可純、簡齋と號す原州の人東湖永清の孫なり宣祖乙亥に生れ顯宗庚子に歿す薦を以て叅奉を授けらしも仕へず肅宗丙寅按廉使其の忠孝實蹟を以て朝に聞し閭に旌す

○商谷集　三卷　姜瑜著　板本

本書は姜瑜の詩文集にして正祖戊午六世の孫弼健、弼徵等之を編刊す附錄に遺事及行狀等を收む

姜瑜字は公獻、商谷と號す晉州の人にして居禮五世の孫なり宣祖丁酉に生れ仁祖甲子登科し嘗て京畿水使を拜し燕京に使せしことあり後顯宗丙申戶曹參判を授けられ其の年を以て歿す吏曹判書を追贈せられ諡を忠宣と云ふ

○梧灘集　一四卷　沈攸著　板本

本書は沈攸の詩文集にして第一卷以下第十二卷は詩集第十三第十四の二卷は文集なり

沈攸字は仲敏、梧灘と號す青松の人にして晴峯東龜の子なり光海君庚申に生れ孝宗庚寅登科し官副提學に至り肅宗戊辰に歿す

○泛翁集　附臨湖遺稿　三卷　洪柱國著　板本

本書は洪柱國の詩文集にして肅宗丙寅子萬選が農巖金昌協に刪定を乞ひ上梓したるものなり上卷に各體詩及應製文を集め下卷は附錄にして行狀庭試韻文若干を收む

洪柱國字は國卿、泛翁又竹里と號す豐山の人にして慕堂履祥の孫月沙李廷龜の外孫なり仁祖癸亥に生れ戊子進士に中り顯宗壬寅登科し掌令となり尋て禮曹參議に至る仁祖大妃國恤の事に關し奏議して効せられ久しく錦籍に擢りしか肅宗己未安岳縣監となり肅宗庚申に歿す幼にして穎悟類を出つ鄭畸翁に就いて學ひ特に詩を以て聞えたり其の子萬廸字は士吉、臨湖と號す亦能く文事に長す

○暘谷集　四卷　吳斗寅著　板本

本書は吳斗寅の詩文集にして英祖二十二年子海昌尉泰周女壻陶庵李縡と謀り之を刊行す

吳斗寅字は元徵、暘谷と號す海州の人にして天坡翻の子なり仁祖甲子に生れ戊子進士に中り己丑文科狀元となり肅宗己巳中宮閔妃を廢するや李世華、朴泰輔と共に諫めて梏せられ遠竄の途に歿す官判書に至り忠貞と諡せらる詩文は餘事に過ぎざるも亦篇篇誦すへきものあり

○谷雲集　六卷　金壽增著　板本

本書は金壽增の詩文集にして其の歿後十七年從

子三淵昌翁輯印し各體詩、家記、書祭文、狀、誌、雜著等を收む雜文中に法性傳、武金事實等あり

金壽增字は廷之、谷雲又雲水居士と號す安東の人にして壽興の兄なり仁祖甲子に生れ孝宗庚寅進士となり官工曹參判に至る肅宗乙卯弟壽恒、宋時烈と共に竄せらるるや壽增も亦禍に坐す後俗塵を避けて春川の谷雲に卜居し文墨を友として歿す年七十二

○ 畏齋集　一一卷　李端夏著　板本

本書は李端夏の各躰詩、疏箚、應製文、序、記、跋、書、墓誌銘、言行錄、遺事、祭文、雜著等を收む

李端夏の小傳は史部宣祖實鑑に出つ

○ 松月齋集　六卷　李時善著　板本

本書は李時善の遺集にして英祖戊辰孫仁求、仁堂、仁山等か李光庭に編次を託して刊行したるものなり大別して荷華篇、內外篇及雜となす荷華篇は時善生前に輯せしものにして周易傳義、駢枝、跋、詩傳濫涂、跋、書傳參評序、讀春秋、願天明頌並序、宙合頌並序、箕子贊並序、陰德頌並序、觀物訓、農訓、史撰序、天命論、五嶽志、遊俗離山記、凌虛臺記等を收む附錄に行狀、墓碣銘、墓誌銘等時善の生涯を錄して詳なり

李時善字は子修、松月齋と號す李氏宗室の系に出つ仁祖乙丑に生れ幼より學を嗜み學識淹博にして著述に富む性豪放山水を愛し半島の江山勝地遍歷せさるなし老後安東の春陽に隱居し塵外に超然たること十數年肅宗乙未に歿す

○ 老峯集　一二卷　閔鼎重著　板本

本書は閔鼎重の詩文集にして英祖甲寅從子丹巖鎭遠之を輯す、辭賦、詩、疏箚、書、行狀及筵中說話、啓、牒、狀、啓、祭文、墓表、遺事等を收む

閔鼎重字は大受、老峯と號す驪興の人、監司光勳の子なり仁祖戊辰に生れ少時學を市南俞棨に受け戊子進士となり己丑文科に魁たり三司吏郎を歷て官左相に至る謚して文忠といふ孝宗の時宋浚吉、宋時烈と齊しく重用せられ時烈の禍に遇ふや每に之に同坐し肅宗己未長興に己巳碧潼に貶謫せられ遂に壬申碧潼の配所に歿す

○ 壺谷集　一八卷　南龍翼著　板本

本書は南龍翼の遺詩、遺文各躰を收めたるものにして參考に資すへきもの少からす

南龍翼字は雲卿、壺谷と號す宜寧の人なり仁祖戊辰に生れ丙戌進士となり戊子庭試に登り選れて湖堂に入る孝宗丙申重試壯元に擧られ肅宗の時元子冊立に關して抗言し其の己巳西人の黨禍に遇ふや龍翼亦明川に遠竄せられ壬申に歿す謚して文憲といふ官吏曹判書大提學に至る

○ 錦江集　六卷　張璶著　板本

本書は張璶の詩文集にして英祖四十八年後學朴履章等協力刊行せしものなり

張璶字は仲溫、錦江と號す仁祖己巳に生れ肅宗の時學行を以て薦められ參奉を拜し官縣監に至る居常孝友鄉黨の矜式たり官に居るや亦實心直行苟も本領を曲けす辛卯に歿す

○ 明齋遺稿　五〇卷　尹拯著　板本

本書は英祖壬子從孫東洙か編成する所にして原集四十六卷二十二冊別集四卷二冊目錄一卷一冊合せて五十一卷二十五冊とす而して第一卷以下第四卷に辭賦、詩第五卷以下第八卷に疏狀、書啓第九卷以下第二十九卷に書第三十卷及第三十一卷に雜書第三十二卷以下第四十六卷に銘、序、記、跋、祝告文、書院祝文、墓表其の他を集め別集には專ら宋時烈と往復せし書を收めたり蓋し拯父宣擧の墓銘を尤菴に乞ふ文成るや意に適はさる所あるを以て屢改訂を求め遂に師弟の義を絕ち茲に老少論分黨の源を開きしは李朝政爭史上に於て尤も著名の事蹟たり本書別集に收むる所のもの卽ち是なり又疑禮問答、浦渚先生年譜等の著あり

尹拯の小傳は經部明齋疑禮問答に出つ

○ 損菴集　八卷　趙根著　板本

本書は趙根の遺著にして英祖己巳從子榮祏か編刊したるものなり疏、雜著、詩等を集め別に附錄として年譜、遺事、祭文等を收む

趙根字は復亨、損菴と號す咸安の人初名は之蘭字は謙仲といふ漁溪旅の後にして同知逢源の子なり仁祖辛未に生れ庚寅生員となり顯宗丙午文科に登第して校理に擧らる嘗て尤菴宋時烈に師事

す肅宗五年宋尙敏の獄事に坐して慶興に遠竄せられ幾もなく釋放の命に接し翌庚申歸途に病死す

○南岳集　六卷　趙宗著著　板本

本書は趙宗著の詩文集にして肅宗甲申子儀徵儀祥等の編次刊出したるものなり

趙宗著字は裴叔漢陽の人なり初め艮齋と號す晩に終南山下の靑鶴洞に卜居し因て南岳と改む仁祖辛未に生れ顯宗の時登科し官淮陽府使に止まり肅宗庚午に歿す宗著記性人に過ぎ特に史學に長し歷代の沿革典故法律より山川の狀態險易等に至る迄悉く通曉せざるなし

○西河集　一七卷　李敏叙著　板本

本書は李敏叙の詩文集にして辭賦詩律疏箚辭箋冊文序銘表傳行狀等を載せたり

李敏叙字は彛仲西河と號す全州の人にして白江敬輿の子なり仁祖癸酉に生れ孝宗壬辰に登科し兄竹西敏廸と迭に時名あり官吏曹判書に至り文衡を典り肅宗戊辰に歿す諡して文簡と曰ふ

○息庵遺稿　二三卷　金錫胄著　板本

本書は金錫胄の詩文集にして肅宗丁丑門人洪鑢之を編刊し第一卷以下第三卷に辭賦詩第四卷以下第二十三卷に傳說題跋疏箚啓辭收議書狀祭文行狀諡狀等を收め別稿に賦殿策執策等を收む息庵の文元と幹局あり而して特に疏箚文を能くし世に遲川藥泉農巖と合せて四家疏箚と稱す

金錫胄の小傳は子部行軍須知に出つ

○竹室集　四卷　任弘望著　板本

本書は任弘望の詩文集にして憲宗甲辰七代の孫憲晦之を編刊し詩疏啓跋祭文墓表墓誌行錄雜書及年譜行狀等を收む雜書は甲己錄先蹟雜記等にして甲己錄は經筵日記なり憲晦附言して曰く弘望の作本書の外に全集ありしと雖も回祿の災に罹りて餘すなし無名傳築城設鎭方略等の作傳ふへくして傳はらす云云と

任弘望字は德章竹室居士と號す豐川の人なり仁祖乙亥に生れ丁酉生員會試を歷て丙午別試文科に登第し槐院に入る庚申通政大夫を拜して濟州牧使となり乙丑禮曹參議となりしか尋て黃海監司を拜し後忠淸監司又は慶州府尹となり出てて牧民に力むること數年乙未知中樞府事を拜し者社に入り肅宗乙未に歿す

○雩沙集　一〇卷　李世白著　板本

本書は李世白の詩及疏箚文啓辭議題跋表等を收む序は內弟三淵金昌翕の撰なり

李世白字は仲庚雩沙と號す龍仁の人なり仁祖乙亥に生れ孝宗八年丁酉進士となり肅宗元年乙卯文科に登第し吏曹判書を經て戊寅右相を拜し尋て左議政に陞され癸未に歿す諡を忠正といふ己巳一時退きて楮島（鐵島附近）に處り優遊漁釣し觀復齋金崇謙の風を慕ふ後京に還るに及ひ追懷の情禁する能はす竟に雩沙を以て號となす

○游齋集　二四卷　李玄錫著　板本

本書は李玄錫の詩文を集めたるものにして第一卷より第十一卷に坡西錄隨城錄舟橋錄禁中錄北征錄東征錄鐵城錄優遊錄南征錄花山錄嶺南錄南隱錄聞韶錄東遊錄寒暑錄築城錄閑居錄鶴城錄等の詩集第十二卷以下第二十四卷は疏書序跋祭文記說雜著易義窺斑讀書雜錄觀省雜錄等の文集なり別に明史綱目の著あり

李玄錫の小傳は經部易義窺斑に出つ

○西浦集　一〇卷　金萬重著　板本

本書は金萬重の詩文集にして子鎭華か義城縣令たる時刊行す載する所詩疏箚祭文批答冊文表箋跋記行狀等なり

金萬重の小傳は子部九雲夢に出つ

○恬軒集　三五卷　任相元著　板本

本書は任相元の詩文を集めたるものなり第一卷以下第二十五卷は總て詩集にして實に二千九百餘首に達し第二十六卷以下は文集なり

任相元字は丞輔恬軒と號す豐川の人にして竹厓說の後なり仁祖戊寅に生れ顯宗乙巳文科壯元に擢ち肅宗の時重試に登り累官禮曹判書に至りて丁丑に歿す詩を以て知らる

○泛虛亭集　七卷　宋光淵著　板本

本書は宋光淵の詩文集にして孫寅明か編次印行

したるものなり

宋光淵字は道深、泛虛亭と號す礪山の人にして雪村時喆の子なり仁祖戊寅に生れ顯宗丙午文科に登り官吏曹參判に至りて致仕し室を高陽の杏湖に築き亭に泛虛の二字を扁して優游風月を樂しむ肅宗乙亥に歿す

○ 拙修齋集　一二卷　趙聖期著　板本

本書は趙聖期の詩文及雜著等を集めたるものにして卷末に庚寅奉化縣刊太白山覺華寺藏と附記す蓋し肅宗庚寅なり雜著中に退溪栗谷四端七情人道理氣說、後辨理氣說等あり

趙聖期字は成卿、拙修齋と號す林川の人にして知足堂之瑞六世の孫、一峯顯期の弟なり仁祖戊寅に生れ孝宗の時進士となり文科に登第す學問深遠常に心を格物致知に竭せり肅宗己巳に歿し司憲府執義を贈らる

○ 迂齋集　一一卷　趙持謙著　板本

本書は趙持謙の詩、疏、序、敎書、勸善文、上樑文、祭文等を集めたるものなり

趙持謙字は光甫、迂齋又鷗浦と號す豐壤の人にして浦渚翼の孫なり仁祖己卯に生れ顯宗庚戌に登科し遷れて溯堂に入り官副提學兼大司成に至り肅宗丙寅に歿す西坡吳道一、是窩韓泰東等と共に少論派の領袖たり文章直道を以て推重せられしと雖も壽を得すして終る

○ 遁翁集　七卷　韓汝愈著　板本

本書は韓汝愈の詩文集にして純祖の時後孫弼悌の刊行に係る

韓汝愈字は尙甫、遁翁と號す嶺南の人なり仁祖壬午に生れ夙に徐花潭、宋尤庵の道を悅ふ易に於て最も造詣あり肅宗己丑に歿す英祖の時特に持平を贈らる

○ 西坡集　三〇卷　吳道一著　板本

本書は吳道一の詩、文、雜著を集めたるものにして英祖五年其の第三子遂燁永柔郡守たる時鐵字を以て印出す詩賦八卷、疏箚、奏議八卷、序、記、雜著二卷、祭祝文二卷、書二卷、狀、銘、表、誌二卷、館閣文一卷、雜識一卷、因得編二卷、外に附錄二卷あり

吳道一字は貫之、西坡と號す海州の人なり仁祖乙酉に生れ顯宗癸丑文科に及第し官大提學に至り肅宗癸未に歿す西坡は少論黨の領袖にして才思敏洽學識淹博一時匹敵なく唯農巖金昌協之と名を齊うす當時生西坡、死農巖の語あり蓋し生時詩文に敏速なるは農巖能く西坡に及はす死後不朽に傳ふへきは西坡終に農巖に若かさるを謂ふなり

○ 睡谷集　一九卷　李畬著　板本

本書は李畬の詩及疏箚、筵奏、冊文、敎文、樂章、祭文、序、記、跋、說、論、雜著等を收載す

李畬字は治甫、睡谷又浦陰と號す德水の人澤堂植の孫なり顯宗壬寅生員となり肅宗庚申に登科し文衡を典りて官左議政に至る戊戌に歿す謚して文敬といふ

○ 是窩遺稿　八卷　韓泰東著　板本

本書は韓泰東の詩文集にして英祖乙未孫德弼の編刊したるものなり賦、疏、啓、序、記、跋等を收む疏、啓中參考に資すへきもの尠からず

韓泰東字は魯詹、是窩と號す淸州の人掌令縝の子なり仁祖丙戌に生れ顯宗丙午生員と爲り己酉文科壯元に擢ち官應敎に止まり肅宗丁卯に歿す一時文章淸望を以て西坡吳道一、迂齋趙持謙と共に少論黨の領袖たり

○ 夢窩集　附竹醉稿　一〇卷　金昌集著　板本

本書は金昌集の詩文集にして洪鳳漢の出捐に依り英祖戊寅其の子濟謙の次子漢湖元行の編刊したるものなり燕行塤篪錄、南遷錄及疏箚、議を收め濟謙の詩文若干を附す

金昌集の小傳は子部後自警編に出つ

金濟謙字は必亨、竹醉と號す昌集の子なり肅宗乙酉進士となり乙未登科し景宗辛丑承旨となり翌年父昌集と同しく蔚山に竄謫せられ翌年富寧に移配尋て死を賜ふ

○ 滄溪集　二七卷　林泳著　板本

本書は林泳の詩文並に經筵錄、讀書箚錄、日錄等を編次し猶ほ附錄に祭文、挽詞等を收載せり

林泳字は德涵、滄溪と號す羅州の人なり仁祖己丑

に生れ顯宗辛亥登科し選れて湖堂に入り官大司憲に至り肅宗丙子に歿す學行醇篤にして文章亦博雅なり而も是れ自得にして師受に非らす農巖金昌協曾て泳に謂て曰く見る所大にして存する所實なりと以て其の人と爲りを知るへし

○ 明谷集　三四卷　崔錫鼎著　板本

本書は崔錫鼎の詩文集にして景宗元年弟子相國趙泰億か慶尙道觀察使たる時刊行せるものなり其の著禮記類編は當時中外に刊布し法筵に進講せんことを請ひしも彈劾に遭ひて果さす別に左氏輯選の著あり

崔錫鼎の小傳は經部左氏輯選に出つ

○ 槎川詩抄　二卷　李秉淵著　板本

本書は李秉淵の詩集にして洪樂純の跋に據れは秉淵の手抄せしものに若干首を增し合せて五百餘篇となし之を刊行したるものにして其の全集の行はるるは後の君子を俟つと云へり正祖戊戌の出版なり

李秉淵字は一源槎川と號す仁祖の時の人なり其の事蹟鄕貫官歷等は參考するに由なし但詩を以て一世に鳴り享年八十餘英祖の時に歿す

○ 農巖集　三六卷　金昌協著　板本

本書は金昌協の詩文各體雜著雜識等を集めたるものにして歿後門人金時保等之を裒輯し肅宗己丑始めて上刊す英祖の時安東府使趙暾重刊を企て其の甲戌に至り年譜を合せて再印せり

金昌協の小傳は史部江都忠烈錄に出つ

○ 遂初堂集附淵西遺稿　七卷　權　怍著　板本

本書は權怍の詩文集にして英祖の己巳後胤思健の印刊したるものなり從叔躋敏の淵西遺稿を附錄とす

權怍字は怡叔遂初堂と號す安東の人執義讓の子なり孝宗辛卯に生れ肅宗辛酉司馬兩試に中り己巳登科せしも不幸適ま瑤華の變あり怍義を引きて仕官を絕ち連りに除命せられしも辭して就かす晩に工曹參議大司諫副提學同副承旨等を拜し英祖乙巳嘉善に陞り尋て弘文館提學大司憲に至り丙午に歿す謚して文貞とゐふ

○ 晩靜堂集　一八卷　徐宗泰著　板本

本書は徐宗泰の騷賦玉堂故事雜著等各十數篇を收む

徐宗泰字は魯望晩靜堂と號す大邱の人文尙の子なり孝宗壬辰に生れ肅宗乙卯生員となり庚申登科し文衡を典り官領議政に至り己亥に歿す謚して文孝といふ

○ 定齋集　一四卷　朴泰輔著　板本

本書は朴泰輔の詩文集にして前集に詩文及簡牘別集斷訟案增損投壺儀追心錄坎流編等を收め後集に疑義搢紳號禁府文案己巳愍節錄臨終記言事實記略等を聚む愍節錄事實記略は泰輔か禍に遇ひし顚末を記して詳なり

朴泰輔の小傳は史部周書國編に出つ

○ 竹泉集　三五卷　金鎭圭著　板本

本書は金鎭圭の詩文集にして英祖四十九年子領相陽澤之を印行するに臨み英祖奎章閣に命して其の業を助けしめ序を卷首に冠す

金鎭圭字は達夫竹泉と號す光山の人瑞石萬基の子なり孝宗戊戌に生る肅宗丙寅に登科し魁に居る文衡を典り官禮曹判書に至り丙申に歿す文靖と謚せらる少にして宋尤庵の門に遊ひ文學に名あり且藻鑑に明なり掌試公平と稱せらる

○ 老稼齋集　五卷　金昌業著　板本

本書は金昌業の詩集なり昌業嘗て兄夢窩に隨ひて燕京に遊ふ故に集中當時の作少からす其の刊役に當りしは玄孫祖淳にして純祖庚辰なり

金昌業の小傳は史部老稼齋燕行錄に出つ

○ 疎齋集　二〇卷　李頤命著　板本

本書は英祖己卯判書洪鳳漢か李頤命の遺著後世に傳らさるを歎き禍餘の散帙を掇拾印出したるものにして後序は孫鳳祥の撰に係り本書印出の顚末竝に頤命進退屈伸の事實を記して詳なり

李頤命字は養叔疎齋と號す全州の人敏廸の子出て持平敏采の後を繼けり孝宗戊戌に生れ肅宗庚申登科丙寅重試に中り翌丁卯通政に叙せられしか幾もなく己巳の士禍に遭ひ寧海に竄せられ壬申南海に移配し甲戌放還せらる尋て嘉善に陞

され戊寅復た公州に配せられしか途に宥免の命に接し辛巳正卿となり丙戌相府に入り右相を歴て領議政を拜し茲に政權を握るに至れり然れとも當時黨爭激烈を極め累拜累罷す景宗辛丑建儲の事に坐して夢窩金昌集、二憂堂趙泰采、從父弟寒圃齋李健命等と南海に流され翌壬寅送還せられ漢江の河岸に到り遂に死を賜はる英祖登極して壬寅冤死諸臣の官を復するや顧命又恩命に浴し忠文と諡せられ江上に祠祀せらる

○ 修山集　一四卷　李種徽著　板本

本書は李種徽の詩文集にして子東煥か芸閣の活字版を以て印行したるものなり詩文の外東史、東國輿地雜記及漫筆を載す

李種徽字は德叔修山と號す全州の人判府事廷喆の子なり孝宗の時に生れ蔭仕を以て官公州判官に止まり肅宗の時に歿す

○ 采眞子遺稿附惺齋遺稿　一卷　金聖甲著　板本

本書は金聖甲の遺稿にして弟范甲之を采輯し三淵金昌翕之を删定したるものなり附するに惺齋遺稿を以てす

金聖甲字は時中、采眞子と號す安東の人なり孝宗の時に生る其の從弟致甲字は用極、惺齋と號す共に詩才あり肅宗己丑相尋て夭死す

○ 二憂堂集　六卷　趙泰采著　板本

本書は趙泰采の詩文集にして第二卷以下載する所の疏箚に依り當時の事情及泰采の事蹟を知るへし

趙泰采字は幼亮、二憂堂と號す楊州の人藥泉啓遠の孫なり顯宗庚子に生れ肅宗丙寅に登科し官右議政に至る景宗壬寅建儲の事を以て死を賜はる英祖の初伸寃を得て忠翼と諡せらる

○ 壽谷集　一三卷　金柱臣著　板本

本書は金柱臣の詩文を集む英祖庚辰孫判書孝大の上梓したるものにして本集、別稿、附錄に分てり

金柱臣字は厦卿、壽谷又洗心齋と號す慶州の人野塘南重の孫なり顯宗辛丑に生れ肅宗丙子生員となり庚辰工曹郎より出てて順安縣監となる壬午肅宗の舅たる故を以て官領敦寧府事に進み景宗辛丑に歿す諡を孝簡といふ嘗て一牛重荷を負ひ嶺を踰ゆるに會ひ喘息の狀を見るや惻然として曰く既に其の力を食ふ何ぞ其の肉を食ふに忍ひむやと遂に終身牛肉を食はす又不殺耕牛辨を作る載せて本集に在り

○ 圃陰集　六卷　金昌緝著　板本

本書は金昌緝の詩文集にして英祖丙午門人俞拓基役を監し活字を以て之を印行す

金昌緝字は敬明、圃陰と號す安東の人壽恒の第五子にして夢窩、農巖三淵、老稼齋等皆其の兄なり顯宗壬寅に生る歳十三趙逢源に就いて學ひ二十歳の時澄懷錄を輯す肅宗甲子生員に中り敎官を拜したるも就かす癸巳に歿す

○ 松巖集　六卷　李載亨著　板本

本書は李載亨の詩文雜著等を收む雜著中に性命圖說等あり

李載亨字は嘉會、松巖と號す定宗の別子德泉君厚生の後なり顯宗己巳に生る七代の祖世良事に坐して鏡城に謫せられ子孫遂に其の地に住す稍や長するに及ひ適ま農巖金昌協鏡城に至るあり仍て就いて學ふ肅宗庚申持平を以て召されたれとも至らす英祖辛酉に歿す學術高明、規模嚴正平生の用工は自得に出つるもの多し

○ 澤齋遺唾　一卷　金昌立著　板本

本書は金昌立の古體詩、律詩等數十首を集めたるものなり

金昌立字は卓爾、澤齋と號す文谷壽恒の末子なり顯宗丙午に生れ年十八肅宗癸亥に歿す人と爲り沈勇特に詩に長す

○ 昆侖集　二〇卷　崔昌大著　板本

本書は崔昌大の詩文雜著等を集めたるものなり崔昌大字は孝伯、峴崙と號す全州の人明谷錫鼎の子なり顯宗己酉に生れ肅宗甲戌登科し官副提學吏參に至り肅宗庚子に歿す資性正直簡亢にして文學盛名あり著述に富む

○ 北軒集　二〇卷　金春澤著　板本

本書は金春澤の詩文集なり孫斗秋の編刊に係る其の跋に曰く此の書は元と北軒自ら選輯して初

年因海鷺山恩歸拾遺の七冊となし其後又た蘆山錄二冊を加へ通して九冊となせしか其の最も關係あるものに就き七冊を印す云々收むる所第一卷以下第六卷に詩第七卷以下に書序記辨錄祭文論疏終事志慨誌文言行錄散藁說策問答等を載す

金春澤の小傳は子部九雲夢に出つ

○ 耐齋集　五卷　洪泰猷著　板本

本書は洪泰猷の詩文集にして英祖庚戌の開刊なり

洪泰猷字は伯亨耐齋と號す南陽の人懶齋の玄孫なり顯宗壬子に生れ肅宗乙未に歿す少にして豪縱科擧に應せす好みて詩文を作る奇才あり金昌翕甚た之を重したりと云ふ歿後持平を贈らる

○ 恕菴集　一六卷　申靖夏著　板本

本書は申靖夏の各體詩文及雜著雜記を收む

申靖夏字は正甫恕庵と號す平山の人絅菴琓の子なり肅宗辛酉に生れ乙酉登科し翰林を歷て官修撰に止る農巖金昌協の門人にして官低く又閑職なりしを以て專ら文事を娛み丙午に歿す

○ 清冷子遺稿　二卷　崔守哲著　板本

本書は崔守哲の遺稿を集めたるものにして肅宗の時に至り遺詩若干篇を蒐めたるものなり附錄として其の祖明谷か撰せる墓誌銘及祭文等を載す

崔守哲字は伯幾清冷子と號す全州の人にして運川鳴吉の玄孫明谷錫鼎の孫なり肅宗癸亥に生れ家學を承け早歲より文名あり不幸短命にして壬辰に歿す享年僅に三十

○ 觀水齋遺稿　二卷　洪啓英著　板本

本書は洪啓英の遺稿を集めたるものにして律排律科體詩等若干あり

洪啓英字は汝豪觀水齋と號す南陽の人なり肅宗丁卯に生れ僅に十九歲乙酉に夭す

○ 一峰集　附一默軒遺稿　一三卷　趙顯期著　板本

本書は趙顯期の遺稿にして收むる所詩錄銘書序雜著祭文疏論行狀行錄封事別集等なり附するに其の子正緯の遺稿を以てす刊行年月は詳ならす

趙顯期字は揚卿一峰と號す林川の人郡守時馨の子なり仁祖甲戌に生れ肅宗丙辰薦を以て義禁府都事に除せられ官府使に止まり乙丑に歿す少より學術治具あり其の萬言封事を見て抱負を知るへし然れとも大用せられす世之を惜む

趙正緯字は象之一默軒と號す一峰の第一子なり孝宗己亥に生れ肅宗辛酉進士に中り甲戌文科に登りて翰苑に入り官正言に止り癸未歿す

○ 壺隱集　六卷　洪受疇著　板本

本書は洪受疇の詩文集にして子禹哲の編輯したるものなり收むる所詩疏不允批答敎書箋致祭文祭文雜著等あり景宗壬寅從姪禹傳慶尙道觀察使たる時之を刊行す

洪受疇字は九言壺隱と號す南陽の人安分齋處尹の子なり仁祖壬午に生れ蔭仕を以て縣令を拜し肅宗壬戌文科に登り官兵曹參判に止まり甲申に歿す詩と四六文を以て齋名あり明齋尹拯人言に遭ひし時上疏して救護する所あり爲に北道慶興に謫せられしか幾もなくして宥さる

○ 楓厓遺稿　三卷　金必振著　板本

本書は金必振の遺稿を集めたるものにして詩各體序祭文言行錄科體賦附錄等あり刊行年月は詳ならす別に楓厓亂稿及人鑑三十卷あり

金必振字は大玉楓厓と號す慶州の人野塘南重の子なり仁祖乙亥に生れ孝宗丁酉進士に中り顯宗己酉蔭仕を以て永庫別檢を拜し官府使に止まり肅宗辛未に歿す文識淹博にして又筆名あり

○ 直齋集　十卷　李箕洪著　板本

本書は李箕洪の詩文集にして李太王丁亥七代の孫承根の蒐輯刊行したるものなり詩疏書序記跋雜著祭文墓誌墓碣墓表行狀等を收む

李箕洪字は汝九直齋と號す全州の人龜川君晬の曾孫なり仁祖辛巳に生れ肅宗丁卯參奉を拜し甲戌遺逸を以て薦せられ侍講院諮議を歷て官執義に止まり戊子に歿す箕洪宋時烈に師事し時烈罪竄の時屢抗疏して匡救する所あり爲に北道會寧に竄せられ幾もなく宥を蒙る

○ 晩隱遺稿　一卷　洪冑華著　板本

本書は洪冑華の遺稿を集めたるものにして曾孫

宗善之を蒐輯し純祖壬戌に刊行す收むる所詩、疏、祭文、雜著、附錄等あり

洪冑華字は君實、晩隱と號す南陽の人牧使錫武の孫なり顯宗庚子に生れ肅宗戊戌に歿す尤菴宋時烈の門人にして孝行を以て聞ゆ

○ 園翁集　二卷　李宜繩著　板本

本書は李宜繩の詩稿を從子普赫か蒐輯したるものにして英祖己酉の刊行なり哲宗丙辰に至り曾孫在沆茂朱府使たる時之を重刊し板を赤裳山城に藏す

李宜繩字は繩兮、園翁と號す龍仁の人白痴後天の曾孫なり顯宗乙巳に生れ肅宗戊寅に歿す詩を以て盛名あり當時文苑の宗匠たる西坡吳道一の褒奬せる文字に徵するも以て其の才調學識を推知すへし享年僅に三十餘功業の見るへきなし世之を惜む

○ 西巖遺稿　二卷　李震白著　板本

本書は李震白の詩文集にして子澤、沇等の蒐輯したるものなり收むる所詩、儷文、哀詞、雜著、科製詩科製表、附錄等あり刊行年時詳ならす

李震白字は太素、西巖と號す全州の人宣城君茂生七世の孫なり光海君壬戌に生れ孝宗丁酉進士に中り顯宗甲辰蔭仕を以て恭奉に拜し官同知中樞府に止まり肅宗丁亥に歿す詩名あり筆法又一家體を成す居官の時清白を以て稱せらる

○ 絅菴集　八卷　申琓著　板本

本書は申琓の遺稿にして其の孫曙の蒐輯に係る收むる所賦、辭、詩、疏、箚、啓、議、家狀、諡狀、墓誌銘、墓碣銘、祭文、哀辭、雜著、書牘等あり英祖丙戌之を刊行す

申琓字は公獻、絅菴と號す平山の人領相景禛の曾孫なり仁祖丙戌に生れ顯宗壬子文科に登り副提學を歷て官領相に至り平川君に襲封せられ肅宗丁亥歿す諡を文莊と云ふ琬文章を以て當時に推重せらる其の萬言封事は以て著者政治上の抱負を見るへし

○ 楓溪集　三卷　李景華著　板本

本書は李景華の詩文集にして六世の孫東奎の蒐輯に係り李太王戊辰之を刊行す

李景華字は汝夏、楓溪と號す振威の人愛日堂宗彥の孫にして尤菴宋時烈の門人なり仁祖己巳に生れ顯宗庚子生員に中り肅宗丙戌に歿す

○ 養窩集　一三卷　李世龜著　寫本

本書は李世龜の詩文集にして收むる所詩、疏、書、說、祭文、墓誌、墓表、家狀、跋、題書後、識、傳、贊、序、銘、雜著等あり

李世龜字は壽翁、養窩と號す慶州の人白沙恒福の曾孫なり仁祖丙戌に生れ顯宗壬子進士に中り蔭仕を以て官牧使に至り遺逸を以て薦められ掌令となり肅宗庚辰に歿す經術文行を以て盛名あり其の子雲谷光佐は一代の名相にして世之を山河間氣と稱す

○ 草廬集　二六卷　李惟泰著　板本

本書は李惟泰の詩文集にして鹿門任聖周、溪室金砥行等之を叅校訂正し過齋金正默更に之を刪定したるものなり疏、書、啓、獻議、登對、禮辨、詩、書、祭文、墓誌、墓表、雜著、祝文、納幣文、經義問答、易說、別集、附錄等を載す李太王乙丑七代の孫鏡之を刊行す

李惟泰字は泰之、草廬と號す慶州の人司議鰐の曾孫なり宣祖丁未に生れ仁祖甲戌學行を以て薦められ叅奉を拜し丁亥諮議に除せられ官大司憲に至り肅宗甲子歿す諡を文憲と云ふ愼獨齋金集の弟子にして同門同春宋浚吉、尤菴宋時烈と名を齊うす別に四書註辨疑四卷、四禮笏記一卷、敎書二十一首、批答五十首及年譜等の著あり

○ 洞虛齋集　一卷　成獻徵著　板本

本書は成獻徵の詩文集にして從孫宇柱、國柱等の蒐輯したるものなり收むる所詩、書、記、策、雜著等あり英祖己丑之を刊行す

成獻徵字は文式、洞虛と號す昌寧の人聽竹澆の玄孫なり孝宗甲午に生れ肅宗丙辰に歿す幼より聰悟八九歲にして辭を吐き人を驚かす年僅に二十三にして夭し人之を惜む

○ 月洲集　五卷　蘇斗山著　板本

本書は蘇斗山の詩文集にして五世の孫洙憲之を蒐輯し裔孫等刪定刊行す收むる所は詩、疏、啓、書、雜著、附錄等あり刊行は李太王丙寅に在り

蘇斗山字は望如、月洲と號す晉州の人同知中樞府使東鳴の子なり仁祖丁卯に生れ孝宗壬辰進士に中り顯宗庚子文科に魁し官平安兵使に止まり肅宗癸酉に歿す尤菴宋時烈の門人にして吏治に長したるも黨論に偏するの謗あり

○ 正庵集　二〇卷　李顯益著　板本

本書は李顯益の詩文集にして孫商進の蒐輯に係り收むる所詩、書、序、記、跋、雜著、祭文、誌銘、雜識等あり英祖癸巳に刊行す

李顯益字は仲謙、正庵と號す全州の人郡守泓の子なり肅宗戊午に生れ戊子生員に魁たり遺逸を以て諮議を拜し官縣監に止まり肅宗丁酉に歿し祭酒を贈らる

○ 德浦遺稿　四卷　尹搢著　板本

本書は尹搢の遺稿を集めたるものにして玄孫憲圭之を編次し純祖癸巳に刊行す收むる所詩、疏、書、雜著、祭文、科體論策、附錄等あり

尹搢字は子敬、德浦と號す坡平の人童土舜擧の子なり仁祖辛未に生れ孝宗壬辰生員に中り顯宗壬寅薦仕を以て氷庫別提を拜し丙午文科に魁たり官副提學に止まり肅宗戊寅に歿す名家の子姪にして經學行義一世に稱せらる

○ 禮谷集　二卷　具文游著　板本

本書は具文游の詩各體を收む李太王辛丑六代の孫然升之を刊行す

具文游字は士雅、禮谷と號す綾城の人明谷鋈の子なり仁祖甲申に生れ肅宗庚午進士に中り四山監役を授けられ官翊贊に止まり戊戌に歿す

○ 閑隱集　四卷　高汝興著　板本

本書は高汝興の詩文雜著を集めたるものにして曾孫漢德之を蒐輯し正祖壬子に刊行す收むる所聞見錄、大學輯要、家禮釋義、詩、附錄等あり

高汝興字は賓擧、閑隱と號す濟州の人なり光海君丁巳に生れ肅宗戊午に歿す魯西尹宣擧の門人にして經學行義を以て稱せられたりと雖も處士にて終れり

○ 漁隱遺稿　五卷　吳國獻著　板本

本書は吳國獻の遺稿を集めたるものにして八世の孫麟善の蒐輯に係り辭、詩、書、箴、銘、序、記、說、雜著、祭文、附錄、子姓墓文、傳記等を收む刊行は李太王癸酉なり

吳國獻字は仲賓、漁隱と號す海州の人同中樞府事山立の子なり宣祖己亥に生れ肅宗壬子に歿す壬辰戶曹佐郎を贈らる沙溪金長生の門人にして孝行を以て一鄉に譽あり

○ 敞帚遺稿　四卷　任弘亮著　板本

本書は任弘亮の遺稿を集めたるものにして六世の孫聖模の蒐輯に係る收むる所詩、書、雜著、序、跋、上樑文、祭文、行狀等あり李太王戊辰之を刊行す

任弘亮字は士寅、敞帚と號す豐川の人司藝義の孫なり仁祖甲戌に生れ孝宗丁酉進士に中り顯宗壬寅文科に登り官牧使に止まり肅宗丁亥に歿す

○ 觀瀾齋集　八卷　高晦著　板本

本書は高晦の遺文を集む六代の孫命麟の蒐輯に係り書、序、記、告文、行狀、祭文、附錄等あり哲宗壬戌之を刊行す

高晦字は汝根、觀瀾齋と號す長興の人なり肅宗の時侍直を拜し同春宋浚吉及尤菴宋時烈の門人なり

○ 朴正字遺稿　一五卷　朴泰漢著　板本

本書は朴泰漢の遺稿を集めたるものにして弟師漢之を輯編す收むる所學則、治法、章疏、書牘、賦、詩、序、說、祭文、雜著、科製、讀書箚記、附錄等あり

朴泰漢字は喬伯、高靈の人久堂長遠の孫なり顯宗甲辰に生れ肅宗甲戌文科に登り官承文副正字に止まり丙子に歿す明齋尹拯の門人にして經術文章を以て當時に盛名ありしも年僅に三十四にして夭し蘊抱を展施する能はず世之を惜む其の子文秀官兵曹判書に至り靈城君に封せられ英祖の時勳業宰相中第一人物と褒許せられたり

○ 懶隱集　九卷　李東標著　板本

本書は李東標の詩文集にして玄孫漢膺の蒐輯したるものなり收むる所詩、疏、箚、啓、書、序、記、雜著、上樑文、祝文、祭文、行錄、附錄等あり李太王庚辰之を刊行す

李東標字は君則、懶隱と號す眞寶の人參奉三馨の

孫なり仁祖甲申に生れ肅宗乙卯生員に中り癸亥文科に魁たり舍人を歴て官承旨に止まり庚辰に歿す英祖辛酉吏曹判書を贈られ謚を忠簡と云ふ退溪李滉の旁孫にして經學文章の外正意直諫を以て一世に推重せられ小退溪の稱あり

○霽月堂集　七卷　宋奎濂著　板本

本書は宋奎濂の詩文集にして玄孫基鼎の蒐輯したるものなり收むる所辭詞、詩、疏、啓、行狀、墓誌、墓碣、祭文、序、上樑文、銘、雜著、附錄等あり純祖己卯の刊行に係る

宋奎濂は道源、霽月堂と號す恩津の人松潭枏壽の曾孫なり仁祖庚午に生れ戊子進士に中り孝宗甲午文科に登りて翰苑に入り官禮曹判書に至り肅宗己丑に歿す經術文行を以て同春宋浚吉、尤菴宋時烈と名を齊うし三宋と謂ふ其の子相琦は大提學となり玉吾齋集の著あり

○南坡集　一三卷　洪宇遠著　板本

本書は洪宇遠の詩文雜著を集めたるものにして正祖壬寅玄孫福全か白峯書院に於て印出したるものなり各體詩、疏、文、行狀、謚狀、講義、啓、說、書、策、題其の他を集め附錄に世系、年譜、祭文、遺事等を載す

洪宇遠字は君徵、南坡と號す南陽の人にして晩全可臣の孫なり宣祖乙巳に生れ仁祖乙酉登科し顯宗の時孝宗の喪に關し服制を論して尤菴宋時烈と合はす肅宗の初年南人時を得るや超遷して吏曹判書となりしか後又西人の爲に誤禮を以て禍を買ひ竟に其の十三年北道の謫所に歿す謚して文簡といふ

○晩洲遺集　八卷　洪錫箕著　板本

本書は洪錫箕の遺稿を集めたるものにして正祖癸丑曾孫天瑞、泰厓之を輯刊す尊周錄、檄、露布、絕句、律詩、應製文、序、記、祭文等を收載し祭文、輓詞、墓碣銘、家狀等を附錄とせり

洪錫箕字は元九、晩洲又後雲と號す南陽の人なり仁祖丁卯進士となり辛巳庭試に魁たり年七十五肅宗庚戌に歿す常に正義を守り仕路振はす屢州郡を歴て參議に止まる詩を能くし東溟鄭斗卿、松谷趙復陽等も一頭地を讓りしと云ふ尤菴宋時烈と親善なり

○三淵集　三六卷　金昌翕著　板本

本書は金昌翕の名山大川、樓臺、寺刹等に關する吟詠を集めたるものにして當時盛に傳誦せられしものなりと云ふ

金昌翕字は子益、三淵と號す文谷壽恒の子なり孝宗癸巳に生れ仲兄農巖昌協と俱に文名あり農巖は文に勝り三淵は詩に勝る遺逸を以て官進善に至り景宗壬寅に歿し謚を文康と云ふ

○玉吾齋集　一八卷　宋相琦著　板本

本書は宋相琦の詩文集にして英祖庚辰子必煥之を編次し孫載禧か印出したるものなり編を分ちて詩四卷文十二卷となし附するに漫錄一卷附錄一卷を以てす

宋相琦の小傳は史部端宗實錄附錄に出つ

○竹軒集 南默齋遺稿　五卷　金民澤著　板本

本書は金民澤の詩文集にして英祖三十六年子善材か編刊したるものなり附するに從侄楚材の遺稿を以てす

金民澤字は致仲、竹軒と號す判書鎭龜の子にして瑞石萬基の孫北軒春澤の第四弟なり肅宗戊午に生れ兄春澤に學ひて己亥別試に登り尋て殿試に擧けられ官校理に至り景宗壬寅士禍に罹りて獄中に歿す年四十五性豪爽闊達にして文章贍敏なり

金楚材字は汝用、默齋と號す健庵の子にして竹軒の從侄なり才名ありしと雖も夭折せり

○丈巖集　二六卷　鄭澔著　板本

本書は鄭澔の遺稿にして子醉石之を編輯し孫寀か刊出したるものなり疏箚文、辭書、啓議、書、雜著等を收む

鄭澔字は仲淳、丈巖と號す延日の人にして松江澈の玄孫なり仁祖戊子に生れ肅宗壬戌進士となり甲子登科し景宗辛丑の士禍に罹りて翌壬寅楚山に謫せられ放釋歸還し夢窩金昌集を祭る文を作りて復た薪智島に流さる英祖乙巳右相を拜し尋て領議政に至り上箚して壬寅士禍に罹りし諸士の伸寃に力めたり其の丁未又事に坐して榮川に

竄せられしか謫に在ること一年有餘己酉耆社に入り丙辰に歿す謚して文敬といふ嘗て尤菴に學ひ丹巖閔鎭遠等と俱に老論派の主論者たり本集の如き其の主張を見るへし

○寒水齋集　三四卷　權尙夏著　板本

本書は權尙夏の詩文雜著を集めたるものにして英祖辛巳門人南塘韓元震屛溪尹鳳九等遺稿を校讐し外曾孫黃仁儉之を刊出せしものなり著名なる江上問答は本書に載せす

權尙夏字は致道遂菴又寒水齋と號す安東の人なり仁祖辛巳に生る尤菴宋時烈の高弟にして顯宗壬寅進士に中り後遺逸を以て薦められ官右議政に至り謚を文純といふ天姿高明學問醇篤にして師傅の正統を繼き曉に黃江の上に卜築して學徒と講討す故に世人黃江先生と稱す

○約軒集　一四卷　宋徵殷著　板本

本書は宋徵殷の詩文經筵講說雜著其の他を收む別に歷代史論禮說輯錄東國名臣錄等の著あり

宋徵殷の小傳は史部歷代史論に出つ

○柳下集　一四卷　洪世泰著　板本

本書は洪世泰の詩文各體を載す景宗四年甲辰自ら編次印行せるものなり

洪世泰字は道長柳下と號す孝宗癸巳に生る家極めて微賤なりしも夙慧にして辭を吐けは人を驚かす長して經史を淹貫し詩に於て最も善し肅宗壬戌使節に陪して日本に赴くや其の詩名を聞き揮毫を求むる者多かりしと云ふ官僅に察訪に止まり英祖乙巳に歿す

○瓶窩集　一八卷　李衡祥著　板本

本書は李衡祥の詩文集にして英祖甲午其の孫晩松か編刊したるものなり

李衡祥字は仲玉瓶窩又順翁と號す全州の人孝寧大君の後なり肅宗丁巳司馬に中り庚申別試に登り或は濟州に牧となり或は慶州に尹となり嘉善に陞りて致仕し英祖癸丑に歿す衡祥朋黨の弊を慨歎して之を打破せんことを期し又其の子孫を戒む故に嘗て黨禍の累なし晩に永川に退き浩然亭を築き優游自適するもの三十年亦當世稀に見る所の潔士と謂つへし

○芝村集　三二卷　李喜朝著　板本

本書は李喜朝の詩文集にして英祖三十年其の子亮臣先人の門弟と俱に之を編次し三山李台重か平安道觀察使在任の時開刊廣布したるものなり別に續經筵故事東賢奏議の著あり

李喜朝の小傳は史部續經筵故事に出つ

○茅洲集　一〇卷　金時保著　板本

本書は金時保の詩文を收む其の孫履復か正祖庚戌に編次刊行せしものなり

金時保字は士敬茅洲と號す安東の人水北光玹の曾孫なり孝宗戊戌に生れ官都正に至り英祖甲寅に歿す農巖三淵等と往來して詩名あり

○本菴集　一二卷　金鍾厚著　板本

本書は金鍾厚の詩文集なり弟鍾秀の哀集に係り門人任熺羅州に宰たる時之を印行す

金鍾厚の小傳は經部家禮集考に出つ

○后溪集　八卷　趙裕壽著　板本

本書は趙裕壽の詩文集にして英祖丁卯江陵府に於て印刊し其の板は之を原州雉嶽山龜龍寺に藏めたり收むる所詩文雜著等なり

趙裕壽字は毅仲后溪と號す豐壤の人翠屛珩の孫なり顯宗癸卯に生れ肅宗癸亥進士に中り官判決事に至り英祖辛酉に歿す

○芸窩集　六卷　洪重聖著　板本

本書は洪重聖の詩文集にして正祖八年孫大提學良浩之を編輯し判書明浩之を印行す

洪重聖字は君則芸窩と號す無何堂永安尉柱元の孫なり顯宗戊申に生る幼にして神童と稱せられ長して文詞を善くす三淵金昌翕許すに知音を以てし昆侖崔昌大と文契最も深し肅宗丙子進士に中り洗馬を拜し官江華經歷に止まる英祖乙卯に歿す

○陶谷集　三二卷　李宜顯著　板本

本書は李宜顯の詩文を集めたるものにして英祖丙戌申國晦之を編刊せり雜著中燕行雜識あり長篇にして二卷に亘る

李宜顯字は德哉陶谷と號す龍仁の人雪沙世白の

子なり顯宗己酉に生れ肅宗甲戌別試に登科し官副提學となり文衡を典る適ま景宗元年建儲の事に因り竄謫せられ英祖初年釋放に遇ひ右相を拜し尋て領議政に至り致仕して其の乙丑に歿す謚して文簡といふ

○希菴集　二九卷　蔡彭胤著　板本

本書は蔡彭胤の詩文集にして英祖乙未從孫樊巖濟恭か刊行したるものなり

蔡彭胤字は仲耆希菴と號す平康の人湖洲裕後の從孫なり顯宗己酉に生れ肅宗丁卯進士となり己巳登科し兄明胤と俱に薦められ檢閲を歷て官參判提學に至り英祖辛亥に歿す詩名あり

○兢齋編錄　四卷　魚有龜著　板本

本書は魚有龜の疏箚啓辭所懷書啓奏事博考日記及漫錄を輯め附するに行狀賜祭文及輓詞を以てす正祖壬寅子判書錫定之を刊行す

魚有龜字は聖則兢齋と號す咸從の人にして漢城右尹史衡の子なり肅宗乙卯に生れ己卯生員進士に中り丁亥文科に登り景宗の國舅たるを以て咸原府院君に封せらる性篤實にして文學あり英祖庚申に歿す謚して翼獻といふ

○寄翁集 附省齋零藁　六卷　南漢紀著　板本

本書は南漢紀の詩文雜著を輯めたるものにして附錄省齋零稿は其の孫南岳老の詩文集なり

南漢紀字は國甫寄翁と號す宜寧の人にして壺谷龍翼の孫基峯正重の子なり肅宗乙卯に生れ庚寅進士となり官同知に至り英祖戊辰に歿す

南岳老は省齋と號す雷淵有容の子なり景宗辛丑に生れ丁卯進士となり翌年祖父漢紀と相前後して歿す

○順菴集　六卷　李秉成著　板本

本書は李秉成の詩文集にして英祖辛酉に印行す附錄に兄槎川秉淵の撰したる秉成の遺事を載す

李秉成字は子平順庵と號す韓山の人鳴谷山甫五代の孫なり肅宗乙卯に生れ稍や長して農巖に師事し壬午進士となり官郡守を歷て後に工部郎に除せられ英祖乙卯に歿す詩才あり三淵頗る之を稱す

○巍巖遺稿　一六卷　李東著　板本

本書は李東の遺稿にして詩文數百篇あり

李東字は公舉巍巖と號す禮安の人にして水使璞の孫なり肅宗丁巳に生れ三十四歳の時參奉を拜したるも就かず後六年侍講院諮議となり懷德縣監を拜し又經筵官となり英祖丙子忠淸都事海運判官翊衞等に叙せられ丁未に病歿す謚して文正といふ學行あり黃門（逢庵權尙夏黃江の上に居す故に黃江先生と呼ふ）八賢の一にして洛學の始祖なり

○陶菴集　五〇卷　李縡著　板本

本書は李縡の詩文集にして多くは神道碑墓碣墓表の類なり別に四禮便覽三官記の著あり

李縡の小傳は經部四禮便覽に出つ

○東圃集　八卷　金時敏著　板本

本書は金時敏の詩文集にして正祖辛巳其の子勉行之を蒐輯印行せり

金時敏字は士修東圃と號す安東の人竹所光煜の曾孫なり肅宗辛酉に生れ英祖の時蔭仕を以て官纔に郡守に止まり丁卯に歿す時敏卑官に終りしと雖も天性至孝にして世の推服する所となりしを以て吏曹參議を褒贈せられ榮譽を子孫に遺せり其の學行に至りては族叔農巖昌協に就き經書を窮格涵養し詩文は餘事に過ぎざりしも亦誦すへきもの尠からす

○觀復庵詩稿　一卷　金崇謙著　板本

本書は金崇謙の詩稿を集めたるものにして友人等其の輯刊を圖り三淵昌翕之を删撰して三百餘首となし肅宗己丑に刊行し英祖己未復た之を重刊す卷首三淵の序は其の人と爲り竝に印行の首末を記して詳なり

金崇謙字は君山觀復庵と號す農巖昌協の子なり肅宗壬戌に生る天性雋邁にして童丱の時より已に詩を以て聞えしも不幸壽を得す其の庚辰纔十九にして夭折す

○鳳巖集　一七卷　蔡之洪著　板本

本書は蔡之洪の詩文集にして正祖七年其の子百休之を剞劂に付せり收むる所の詩文に據るも其の學術の一斑を窺ふに足る殊に雜著易學十二圖

の如き圖解を示して詳說し研鑽精微を極む外に讀書續補、性理管規等の著述あり

蔡之洪字は君範、鳳巖又三患齋と號す仁川の人なり肅宗癸亥に生る肅宗の時王子師傅又諮議に除せられたるも辭して就かす家を挈けて九雲山中に入り後進を誘掖するを以て務となす英祖の時亦特に召し扶餘縣監に除したるも踰月にして棄てて歸れりと云ふ夙に程朱の學を崇尙し力を性理の學に注き發明する所甚た多し英祖辛酉に歿す

○ 鳳巖集　五卷　韓夢麟著　板本

本書は韓夢麟の詩文學則雜著、道臣前後筵奏事實、請配院事呈文等を收載せり學則及性命理氣說の諸篇は夢麟か最も力を盡したる著作にして其の性理學に傾注せしを窺ふに足るものあり

韓夢麟字は泰瑞、鳳巖と號す淸州の人なり肅宗甲子に生る鍾城に世居し學問高く松庵李載亨と與に稱せられ北方の科第多く其の門に出つ官參奉を拜して就かす經傳及程朱全書を講究し英祖壬午に歿す年七十九

○ 老隱集　四卷　任適著　板本

本書は任適の詩文集にして正祖甲寅其の子靖周之を編刊せり收むる所詩一百餘首及文三十餘篇あり

任適字は道彦、老隱と號す豐川の人にして竹厓說六世の孫今是義伯の曾孫なり肅宗乙丑に生れ早く孤となりて力學し權尙夏に就きて質疑し頗る他日の大成を期せられたり庚寅進士となり參奉を授けられ官判官に止まり英祖戊申に歿す年四十六五男二女あり仲鹿門聖周、季雲湖靖周尤も著はれ女允摯堂淑德學行並ひ具はり朝鮮閨秀詩家の一人として有名なり

○ 牧谷集　一〇卷　李箕鎭著　板本

本書は李箕鎭の詩文集にして英祖四十三年其の任潭か印布せしものなり集むる所詩三百十六篇文一百篇あり

李箕鎭字は君範、牧谷と號す德水の人澤堂植の曾孫にして遂庵權尙夏の門人なり肅宗丁卯に生れ丁酉進士及文科に連捷し翰苑を歷て吏曹判書に至りしも幾もなく時事一變し砥平の山中に遁れ室を牧谷松楸の下に築き文事を以て樂しみ絕えて知聞を世に求めす竟に其の地に歿す時に英祖乙亥なり

○ 華谷集　四卷　黃宅厚著　板本

本書は黃宅厚の詩文集にして正祖甲寅其の子德諄之を裒輯刊行せり收むる所詩を主とし文は僅に行狀一篇雜著四篇のみ

黃宅厚字は子和、華谷と號す昌原の人なり肅宗丁卯に生れ初名を宅中といふ家元と微賤にして禁衞營の書吏たりしか讀書を喜ひ昆侖崔昌大に師事して頗る歎賞せらる英祖戊申淸州の變起るや海恩吳命恒に從ひ畫策して功あり事平らきて策勳一等に錄せられ年五十一丁巳に歿し漢城左尹を贈らる嘗て梧川李宗城の幕下に在り最も翊贊に力め當時應酬の吟詠亦少からす名けて瀟幕鳴酬錄といふ

○ 菊圃集　一二卷　姜樑著　板本

本書は姜樑の詩文集にして肅宗乙未樊巖蔡濟恭等之を蒐輯鋟梓したるものなり

姜樑字は子淳、菊圃と號す晋州の人東皐紳の玄孫なり肅宗庚午に生れ乙未登科し三司を歷て堂上府使に止まり英祖壬戌に歿す

○ 悔軒集　二〇卷　趙觀彬著　板本

本書は趙觀彬の詩文集にして遊漢拏山記及露梁六臣墓碑銘等一讀するに足る

趙觀彬の小傳は子部續兵將圖說に出つ

○ 知守齋集　一五卷　俞拓基著　板本

本書は俞拓基の詩文集にして李太王の時其の孫致益平壤庶尹たりし時印行せしものなり

俞拓基字は展甫、知守齋と號す杞溪の人醉翁檄の孫なり肅宗辛未に生れ甲午に登科す景宗壬寅建儲の事を以て海島に竄せられ英祖初年放還せらる官領議政に至り戊子に歿す謚を文翼と曰ふ器局あり加ふるに文識を以て時人宰相の材ありと稱す

○ 東溪集　附南谷遺稿 聽涼軒遺稿　一二卷　趙龜命著　板本

本書は趙龜命の詩文集にして英祖辛酉同族の纂

輯せしものに係る收むる所東溪遺稿序記、墓誌銘、墓表、行狀、傳說、銘、賛、跋、雜著、日錄、靜謐、論禪諸篇、焚香試筆、祭文、哀辭、書牘、論、策、賦、詩等ありて附するに趙啓命の南谷遺稿趙九鎭の聽凉軒遺稿及各其の小傳を以てす

趙龜命字は錫汝、東溪と號す豐壤の人泰壽の子東岡相愚の孫翠屏珩の曾孫なり一字を寶汝といふ肅宗辛卯生員となり英祖壬寅參奉を拜し尋て別提、工曹佐郎、泰仁縣監等に除せられしも皆就かず後翊衞司に入り侍直翊衞となり丁巳に歿す東溪始め性理の學を修め既にして老佛に汎濫し世故に於て泊然累する所なし文章又妙悟玄解脫俗の概あり

趙啓命字は士心、南谷と號す東溪の再從弟なり肅宗戊子に生れ英祖乙卯生員となり丁巳三十歳を以て東溪に先ちて歿す

趙九鎭字は汝重、聽凉軒と號す東溪の三從孫なり景宗癸卯に生れ英祖丁巳十五歳を以て夭死す

○ 貞庵集　一六卷　閔遇洙著　板本

本書は閔遇洙の詩文集なり詞藻豐富にして就中文を以て勝る編成年時詳ならず

閔遇洙字は士元、貞庵又蟾村と號す驪興の人趾齋鎭厚の子なり肅宗甲戌に生る少より文名藉藉たり業を農巖金昌協の門に受け遺逸を以て官大司憲に至る英祖丙子に歿す謚して文元と云ふ

○ 太華子稿　四卷　南有常著　板本

本書は南有常の遺稿にして英祖丙辰友人閔遇洙李天輔、吳瑗等之を刪定し、弟有容之を刊布したり收むる所詩文若干篇にして就中詩多きを占む

南有常字は吉哉、太華と號す宜寧の人壺谷龍翼の曾孫にして寄翁漢紀の子雷淵有容と兄弟なり肅宗丙子に生れ癸巳進士となり英祖丁未殿試乙科に擧けられ纂輯部に入り肅廟實錄編纂に從事す既にして事を以て竄謫に遇ひ幾もなく歸還す壓戊申に歿し弘文館副修撰を贈らる性至靜にして境に隨ひ妄動せず而も自然に規度備はる詩才あり

○ 蒼霞集　一〇卷　元景夏著　板本

本書は元景夏の詩文を集めたるものなり

元景夏字は華伯、蒼霞と號す原州の人參判萬里の曾孫なり肅宗戊寅に生れ景宗辛丑進士となり英祖丙辰文科に登第し兵曹判書を以て致仕す其の戊辰に歿す謚して文忠といふ

○ 晋菴集　八卷　李天輔著　板本

本書は李天輔の詩文集にして英祖壬午に刊行す之を輯次せしは從兄鼎輔及從父弟益輔にして之を刪定せしは內弟金陽澤及友人黃景源なり

李天輔字は宜叔、晋菴と號す延安の人青湖一相の曾孫なり肅宗戊寅に生れ英祖己未文科に登第し壬申兵曹判書より右相に進み遂に領議政に至り其の辛巳に歿す謚を文簡といふ少にして豪縱不羈長して節を折り學を修め特に詩を以て知らる月谷吳瑗、雷淵南有容、江漢黃景源等は皆其の同遊なり

○ 雷淵集　三〇卷　南有容著　板本

本書は南有容の詩文集なり正祖師禮を重し奎章閣諸員に命して之を纂輯せしめ且序を辨す英祖及正祖の祭文を以てす

南有容字は德哉、寄翁漢紀の子太華有容の弟なり肅宗戊寅に生れ初に少華と號し晩に雷淵と改む景宗辛丑進士初試に壯元となり尋て會試二等に擧けらる長く正祖の師傅となり刑曹判書大提學を以て致仕し英祖癸巳年七十六にして歿す謚して文靖といふ

○ 月谷集附白雲遺稿　一四卷　吳瑗著　板本

本書は吳瑗の詩文を集めたるものにして附するに從姪載弘の白雲遺稿を以てす

吳瑗字は伯玉、月谷と號す海州の人醉夢軒泰周の子にして暘谷斗寅の孫なり肅宗庚辰に生れ戊申登科し三司を歷て參判に至り庚戌に歿す天資聰明にして文章亦警拔なり雷淵南有容、江漢黃景源、晋菴李天輔等皆其の詞友たり

吳載弘字は聖仁、白雲と號す瑗の從姪なり早歳詩名ありしも夭死す

○ 渼湖集　二〇卷　金元行著　板本

本書は金元行の詩文集にして第一及二卷に詩第

三卷以下第十卷に書第十一卷以下に序、記、行狀、祭文、其の他の文を收む

金元行字は伯春、渼湖と號す安東の人竹醉濟謙の子にして出でて農巖金昌協の養孫となれり天姿篤厚にして學問純粹なり英祖の時遺逸を以て擧られ官贊善に止まる壬辰に歿す文簡と謚す

○ 櫟泉集　一九卷　宋明欽著　板本

本書は宋明欽の雜著、遺事、行狀其の他各體詩文を收む時事に關するもの少からず

宋欽明字は晦可、櫟泉と號す恩津の人同春浚吉の孫なり肅宗乙酉に生る景宗辛丑の士禍に關して科擧の業を廢し默翁に隨ひ沃川塗谷に到り心を性理に潛めて成業す後遺逸を以て召され官贊善に止まる英祖戊子に歿す其の人方面長身豐額烱眸にして風采衆に殊なり時人之を文正公時烈に酷肖すといふ

○ 鳳谷遺集　一二卷　桂德海著　板本

本書は桂德海の遺稿にして其の孫南龜之を蒐輯刊行せり第一より第五は易及書詩の解說第六は春秋、論語、中庸第七は孟子第八は山海經等の評釋なり第九以下は詩文、雜著、雜錄にして附するに言行錄、行狀、事蹟及京中諸公酬和詩、送序等を以てす

桂德海字は元涉、鳳谷と號す宣川の名族なり肅宗戊子に生れ英祖癸亥文學拔群を以て禮賓寺參奉に薦除せられ甲午道科壯元に及第す世稱して桂壯元と云ふ成均典籍を拜し尋て禮曹佐郎に遷り翌年乙未幽谷丞に除し又靑丹に換除し乙未遂に官に歿せり

○ 大山集　五二卷　李象靖著　板本

本書は李象靖の詩文集なり五十二卷中第三十九卷より第四十一卷までは雜著にして理氣四端七情心動靜等の諸篇は退溪派の正統を繼き自ら栗谷派と旨趣を異にするを見るへし

李象靖字は景文、大山と號す韓山の人睡隱弘祚の玄孫なり肅宗辛卯に生る業を外祖密庵李栽に受け遂に巨儒となる嶺南の學者稱して小退溪となす英祖乙卯に登科し官大司諫に至る

○ 鳳麓集　四卷　金履坤著　板本

本書は金履坤の詩文集にして正祖戊戌の輯刊に係る

金履坤字は原哉、鳳麓と號す安東の人茅州時保の孫にして仙源の後なり肅宗壬辰に生れ英祖甲午六十三歲にして始めて新溪に令たり後數月にして歿す

○ 靑川子稿　三卷　任敬周著　板本

本書は任敬周の遺稿にして正祖甲寅季弟雲湖靖周が父の遺稿老隱集に繼き印出したるものなり詩文各體雜著等を收む

任敬周字は直中、靑川子と號す老隱適の第三子にして鹿門聖周の弟なり肅宗戊戌に生れ年二十八を以て英祖乙丑に歿す

○ 保晩齋集　一六卷　徐命膺著　板本

本書は徐命膺の詩文集にして憲宗四年其の孫楓石有榘の編印せしものなり卷首に正祖の序を揭く別に叢書六十卷及啓蒙圖說、易學啓蒙集箋、箕氏外紀、攷事新書等の著あり

徐命膺の小傳は經部易學啓蒙集箋に出つ

○ 老村集　一〇卷　林象德著　板本

本書は林象德の詩文及經筵錄、讀書箚錄等を集む文論、佛論、老子論、莊周論、原性辨、伍員復讐辨、漢婆姑傳、上明齋尹先生書、與尹士昌書竝に大極圖、近世錄等何れも一讀するに足るものあり又別に東史會綱の著あり

林象德の小傳は史部東史會綱に出つ

○ 燕超齋遺稿　五卷　吳尙濂著　板本

本書は吳尙濂の遺稿を集めたるものにして英祖二十一年其の姪判書李益炡の刊行する所なり

吳尙濂字は幼淸、燕超齋と號す同福の人なり肅宗の時に生る吳氏は晩翠億齡、默齋百齡より以來世々文名あり尙濂は默齋の孫を以て絕世の才慧あり風神秀明神仙中の人の如し早歲家庭の訓を襲き詩賦文辭人口に膾炙す三田渡の詩及二毛營記の如き世之を千歲の絕調と稱す年二十八にして英祖初年に歿す

○ 南塘集　五〇卷　韓元震著　板本

本書は韓元震の詩雜著を集めたるものにして中

に經義記聞錄、朱子言論同異攷あり記聞錄は肅宗乙未の著にして同異攷は英祖辛酉の著なり元震同門の李東と持說相反し此に湖洛の分派を開けり本書は以て其の所說を窺ふに足る

韓元震字は德昭、南塘と號す淸州の人なり肅宗の時に生れ英祖の時官執義に至りて歿す正祖に至り學行を以て判書を贈られ諡して文純といふ嘗て寒水齋權尙夏の門下に在り俊才を以て鳴り八學士の一に數へらる湖學の始祖と云ふ

○遜齋集　八卷　朴光一著　板本

本書は朴光一の詩文及雜著を集めたるものにして詩文雜著の外尤菴語錄、近思錄箚記等を收む正祖壬寅其の孫夏鎭の輯刊に係る

朴光一字は士元、遜齋と號す肅宗の時に生る順天の人寓軒尙玄の子にして尤菴宋時烈の門人なり深く窮理の學を脩め內侍官翊衛、王子師傅、侍講院諮議等を拜したるも皆就かず智異山下に卜築して山水を樂しみ講討嘯詠して英祖の時に歿す諡を文肅といふ

○冠峯遺稿　一〇卷　玄尙壁著　板本

本書は玄尙壁の詩文集にして書牘最も多し

玄尙壁字は彥明、冠峯と號す寒水齋權尙夏の門人なり肅宗の時に生る少時專ら性理の書を學ひ又禮記を窮めたり英祖の時官纔かに洗馬に至りて致仕す

○戒懼菴集　一四卷　尹衡老著　板本

本書は尹衡老の遺稿にして曾孫守淵之を裒輯して十四卷となし上梓す第一卷は雜詩第二卷より第五卷は書及辨第六卷より第九卷は論語、中庸の箚錄第十卷より第十二卷は尊性錄の原性篇上中下第十三卷は尊性錄の復性篇第十四卷は祭文、家訓とす衡老程朱の學に沈潛し造詣する所甚た深く本書收むる所の諸篇皆性理の奧旨を發明せり

尹衡老戒懼菴と號す坡平の人なり肅宗の時に生れ水原郡に隱居し英祖の時隱逸の士を以て叅奉を授けられたるも就かす窮居して道を樂しみ壽を以て世を終ゆ

○丹陵遺集　三卷　李胤永著　板本

本書は李胤永の遺稿にして正祖三年友人金鍾秀平安監司たりし時之を裒輯し俸を捐てて上梓したるものなり

李胤永字は胤之、丹陵と號す韓山の人なり肅宗の時に生れ隱居して仕へす故に其の事蹟傳ふるものなし但た金鍾秀の跋に胤之天性峻潔自ら世と合はざるを知り蚤く舉業を謝し自ら山水文墨に放情すとあり

○鶴沙集　一〇卷　金應祖著　板本

本書は金應祖の遺稿にして英祖の時其の曾孫牧使敏之を勘訂し鄕人合力して之を鋟梓す

金應祖字は孝徵、鶴沙と號す肅宗の時に生る豐山の人虛白堂楊震の玄孫なり業を旅軒張顯光の門に受け又西厓柳成龍愚伏鄭經世に親炙し學一時に秀て嶺南士林の宗匠たり仁祖癸亥に登科し官左尹に止まる英祖の時に歿す

○允摯堂遺稿　二卷　任氏著　板本

本書は申光裕の妻任氏の遺稿を集めたるものにして正祖丙辰季弟任靖周及夫弟申光祐等か編刊したるものなり跋に曰ふ遺稿は本四十篇なりしも删して三十篇となし又五篇を追入し總て三十五篇となす云々と

任氏允摯堂と號す鹿門任聖周の妹なり景宗辛丑に生れ出てて申光裕に嫁す性聰穎にして少時兄鹿門に學ひ早く已に堂に昇る性理仁義の論の如き古今閨閤中第一と稱せらる

○退軒集　七卷　趙榮順著　板本

本書は趙榮順の詩文集にして子元喆蒐集して上梓したるものなり

趙榮順字は孝承、退軒と號す楊州の人二憂堂泰采の孫なり英祖乙巳に生れ二十七年文科に登り諸官に歷任したるも黨論に强硬なりしを以て屢英祖の怒に觸れ諸處に貶竄せらる乙巳備局に除し西樞に除せられたるも拜せす是の歲遂に歿せり

○安窩遺稿　六卷　洪樂仁著　板本

本書は洪樂仁の遺稿にして詩文の視るへきもの多し

洪樂仁の小傳は史部洪翼靖遺事に出つ

○五龍齋遺稿　一卷　南溟學著　板本

本書は南溟學の遺稿にして正祖二十四年其の子陽龍之を上梓す

南溟學の小傳は史部五龍齋錄に出つ

○雨念齋詩稿　一卷　李鳳煥著　寫本

本書は李鳳煥の詩綴に若干篇を收む刊行年時詳ならず

李鳳煥字は聖章、雨念齋と號す全州の人なり英祖の時官縣監に至り庚寅寃獄に死す子明五泊翁と號す孫晩用東樊と號す亦俱に詩名あり

○夢囈集　二卷　南克寛著　板本

本書は南克寛自編の詩文集なり

南克寛字は伯居、謝施子と號す宜寧の人英祖の時に生る樂泉南九萬の孫にして晦隱南鶴鳴の子なり聰明人に絶す不幸二十六歳にして夭折す

○李參奉集　四卷　李匡呂著　板本

本書は李匡呂の遺稿を集めたるものにして奎章閣に命して印版せしめ純祖の初に至り業を畢ふ載する所詩、賦、雜著等なり

李匡呂字は聖載、月巖と號す全州の人にして西澗眞洙の子なり英祖の時に生れ文章學問悉く家庭に受け士林の冠たり文獻公李晩秀文集に叙して曰ふ國朝三百年の文敎を受けて李參奉先生を生むと其の門人にして成就したる者甚衆く宛丘申大羽最も典型を得たり

○桐江遺稿　五卷　李漢著　板本

本書は李漢の遺稿にして其の子奎彬之を蒐輯したるものなり收むる所書牘、墓表、墓誌銘、行狀、祭文、雜著等なり刊行年月時は詳ならず

李漢字は子浩、桐江と號す德水の人芸齋坪の孫なり辛巳に生れ英祖己卯に歿す漢實踐の學あり又文章に長し禮說に深し然れども少より舉業を廢し處士を以て終れり

○兼山集　二〇卷　俞肅基著　板本

本書は俞肅基の遺稿にして其の子彦傅之を蒐輯し其の門人金載順慶尙道觀察使たりし時之を刊行す卽ち英祖乙未なり收むる取詩、書、序、記、題、跋、說、祝辭、贊、銘、傳、雜著、祭文、哀辭、行狀、墓表、墓誌、墓碣、箚疑等なり

俞肅基字は子恭、兼山と號す杞溪の人竹里命弘の從子なり嘗て三淵金昌翕の門に游ひ蔭仕を以て官判官に止まる

○拙隱遺稿　八卷　李漢輔著　板本

本書は李漢輔の遺稿にして其の子芋亭德胄之を蒐輯せり收むる所賦、詩、雜著にして刊行時詳ならず

李漢輔拙隱と號す全州の人景淵堂玄祚の子なり肅宗乙卯に生れ英祖戊辰に歿す芝峰李睟光より世世文學行義を以て稱せられ漢輔亦善く遺業を繼述せり然れども處士を以て終り人之を惜む

○虛舟窩遺稿　六卷　金錫一著　寫本

本書は金錫一の遺稿にして收むる所詩、祭文、哀辭、行狀、疏、傳、記、題、後、雜著、附錄等なり編者の名は詳ならず

金錫一字は壽彦、虛舟窩と號す淸風の人晩香堂斗明の子なり肅宗甲戌に生れ乙未進士に中り英祖辛亥文科に登り官府使に止まり壬戌に歿す錫一文行あり又直諫を以て稱せらる

○鄭進士遺稿　一卷　鄭錫慶著　寫本

本書は鄭錫慶の遺稿にして蒐輯者の名を缺く收むる所は但た詩律のみ卷末に祭文一篇あり

鄭錫慶字は士膺、東萊の人陽坡太和の曾孫なり肅宗己巳に生れ己亥生員に中り英祖己酉に歿す

○雲湖集　六卷　任靖周著　板本

本書は任靖周の遺稿にして其の子杰之を蒐輯し英祖丁丑從子照青山縣監たりし時之を刊行す收むる所書、雜著、告文、祭文、墓誌、行狀、遺事等なり

任靖周字は稚共、雲湖と號す豐川の人老隱適の子にして鹿門聖周の弟なり英祖丁未に生れ壬午進士に中り蔭仕を以て官縣監に止まる

○閒靜堂集　八卷　宋文欽著　板本

本書は宋文欽の詩文集にして從子時淵之を蒐輯し正祖戊申女婿金光默慶尙道觀察使たりし時之を刊行す收むる所詩、書、雜著、序、記、跋、銘、贊、頌、祭文、哀辭、墓誌、行狀、傳、述等なり

宋文欽字は士行、閒靜堂と號す恩津の人櫟泉明欽

の弟なり肅宗庚寅に生れ英祖癸丑進士に中り己未蔭仕を以て叅奉となり侍直を歴て官縣令に止まり壬申に歿す其の高祖同春浚吉の學問を繼述し又其の兄櫟泉に薫陶して經明行修の名あり

○ 百弗庵集　八卷　崔興遠著　板本

本書は崔興遠の詩文集にして收むる所詩、狀、書、雜著、箴、銘、祝文、祭文、碑碣、行狀等なり刊行年時詳ならず

崔興遠字は太初又汝浩、百弗庵と號す慶州の人なり隱居篤學世呼んで漆溪先生と稱す正祖戊戌莊陵叅奉に除し壬寅掌樂主簿となり王世子冊封の際左翊賛となる孝行を以て聞に旌す

○ 棄棄齋集　五卷　金尙埏著　板本

本書は金尙埏の詩文集にして六世の孫述鉉之を蒐輯し李太王己亥五世の孫在定諸族と謀りて之を刊行す收むる所詩、書、行狀、墓誌、遺事、序、記、銘、祭文、雜著、附錄等なり

金尙埏字は汝和、棄棄齋と號す光山の人艮谷用兼の子なり肅宗己巳に生れ英祖戊子に壽職を以て通政に陞り官同知中樞府事に至り甲午歿す

○ 黄皐集　八卷　愼守彝著　板本

本書は愼守彝の詩文集にして曾孫必祐之を蒐輯し憲宗乙巳刊行す收むる所詩、書、序、跋、記、說、上樑文、祭文、哀辭、告祝文、雜著、墓碣銘、墓表、行狀等なり

愼守彝字は君叙、黄皐又就閒堂と號す居昌の人樂水權五代の孫なり肅宗戊辰に生れ英祖己巳に薦を以て童蒙敎官を拜し屢桂坊の職に任せられしも仕へず官僉知中樞府使に止まり戊子に歿す遂庵權尙夏の門人にして經學行義を以て一鄕に稱せらる

○ 芋亭集　八卷　李德胄著　板本

本書は李德胄の詩文集にして本集拾遺各四卷なり詩文雜著錯然として順次無く又刊行年月考ふる所なし

李德胄字は直心、芋亭と號す全州の人拙隱漢、輔の子にして芝峰晬光五代の孫なり肅宗丙子に生れ英祖辛未歿す名家に生れ文章盛名あり而して處士を以て終る世人之を惜む

○ 圃巖集　二二卷　尹鳳朝著　板本

本書は尹鳳朝の詩文集にして詩、疏、箚、啓、議、書、序、記、說、箴、應製文、雜著、祭文、祝文、哀辭、碑銘、墓碣、墓誌、墓表、行狀、謚狀等を收む編者及刊行年時詳ならず

尹鳳朝字は鳴叔、圃巖と號す坡平の人竹齋仁涵五世の孫なり肅宗庚申に生れ乙酉生員を以て文科に登り銓郎を歴て文衡を典り官判敦寧府事に至る文章贍富なるのみならず性亦恬雅なり英祖辛巳歿す

○ 藥圃集　二卷　鄭道吾著　板本

本書は鄭道吾の遺稿にして玄孫東璡之を蒐輯し純祖甲子刊行したるものなり詩文混雜して編次なし

鄭道吾字は一貫、藥圃と號す河東の人孝友齋績の曾孫なり仁祖丁亥に生れ肅宗庚寅才行を以て薦められ特に僉知中樞府事を授けらる英祖丙辰に歿す尤庵宋時烈の門人にして肅宗己巳廢妃の時上疏し爲に直聲を獲たり

○ 松湖集　六卷　兪彦述著　板本

本書は兪彦述の詩文集にして其の子漢緯等蒐輯し純祖壬辰秉柱が尙州牧使たりし時之を刊行す收むる所解、詩、疏、啓、辭、箋、文、序、記、跋、墓表、行狀、雜著、附錄等あり雜著中の燕京雜識は嘗て使命を帶ひ燕京に到りし時の紀事なり

兪彦述字は繼之、松湖と號す杞溪の人府尹命一の孫なり肅宗癸未に生れ英祖己酉進士に中り丙辰文科に登り官知敦寧府事に至り癸巳に歿す謚を靖憲と云ふ彦述文學あり吏治を以て著はる性剛介にして簡默言笑苟もせず淸貧に安し富貴を思はず官を退くや城外僻巷に卜居し扁するに知是聖の三字を以てす

○ 石北集　一六卷　申光洙著　板本

本書は申光洙の詩文集にして懶雲蕉石の二人之を蒐輯し李太王丙午五世の孫觀休之を刊行す詩、書、祭文、序、雜著等あり

申光洙字は聖淵、石北と號す高靈の人僉知懋の子なり肅宗壬辰に生れ英祖庚午進士に中り辛巳寧陵叅奉を授けられ壬辰耆老科に登り官承旨に止

まる科體詩を以て名あり

○南忠壯詩稿　一卷　南延年著　板本

本書は南延年の詩稿にして洪啓禧之を蒐輯し英祖丁卯に刊行す

南延年字は壽伯、宜寧の人贈承旨斗明の子なり孝宗癸巳に生れ肅宗丙辰武科に登りて宣傳官を拜し官清州營將に止る英祖戊申李麟佐の亂に清州營將を以て屈せすして殺さる兵曹判書を贈られ謚を忠壯と云ふ武人にして詩名あり

○悔窩集　八卷　安重觀著　板本

本書は安重觀の遺稿にして六代の孫鍾學蒐輯し、李太王壬寅之を刊行す詩、序、題跋、記、論、說、雜著、行錄、行狀等を收む

安重觀字は國賓、悔窩と號す順興の人なり肅宗癸亥に生れ進士に中り蔭仕を以て桂坊の職となり官縣監に止まり英祖壬申に歿す

○在澗集　六卷　任希聖著　板本

本書は任希聖の詩文集にして希聖自ら蒐輯し詩を土木窩崔重純に文を族子窮悟天常に刪定せしめ純祖癸酉孫百禧沃溝縣監たりし時之を刊行せしものなり載する所詩、辭、書、記、序、題跋、箴、銘、雜著、祭文、哀辭、壙銘、墓誌、墓碣、墓表、行狀等なり

任希聖字は子時、在澗と號す豐川の人應教珖の子なり肅宗壬辰に生れ英祖辛酉生員に中り己丑孝陵參奉を拜し官直長に止まり癸卯に歿す名家に出て文才ありと雖も功名振はす人之を惜む

○節谷集　四卷　金時觀著　板本

本書は金時觀の遺稿にして玄孫彥根之を蒐輯す李太王乙丑の刊行に係る收むる所詩、書、序、記、跋、雜著、祭文、行狀、附錄等あり

金時觀字は莊叔、節谷と號す安東の人晩休壽昌の孫なり肅宗乙巳に生れ英祖庚申に歿す嘗て農巖金昌協に從學す農巖之を奬許して曰く資高見明吾道有托と以て其の才を見るへし

○六化集　附六峯集　五卷　梁居安著　板本

本書は梁居安の詩文集にして從孫在慶之を蒐輯し李太王癸卯之を刊行せり收むる所賦、詩、書、雜著、箋、序、記、跋、祝文、祭文、墓誌、行狀、遺事、傳、附錄等なり

梁居安字は遷伯、六化と號す濟州の人杏村禹主の子なり孝宗壬辰に生れ進士に中り英祖辛亥歿す西溪朴世堂及明齋尹拯の門人にして經學に深く文章は特に其の餘事なり

○晦隱集　五卷　南鶴鳴著　板本

本書は南鶴鳴の詩文を集めたるものにして子夢蘿克寬之を輯編す收むる所詩、賦、記、序、題跋、祭文、書、雜文、行狀、遺事、墓文等にして刊行年時詳ならす

南鶴鳴字は子聞、晦隱と號す宜寧の人藥泉九萬の子なり

○菊軒集　二卷　蘇始萬著　板本

本書は蘇始萬の詩文を集めたるものにして其の孫煥逑之を蒐輯し純祖戊辰に刊行せり數理、著說、書、策及詩二篇を收む

蘇始萬字は元甫、菊軒と號す晉州の人月洲斗山の玄孫なり英祖甲寅に生れ乙酉に歿す始萬三歲より書を讀み十二歲の舉文を以て大に鳴り易象皇極の數、律曆醫卜の學洞徹せさるものなし後に意を四書を專にして四書箚類を著す年僅に三十二にして夭す人皆之を惜む

○回甲編錄　一卷　英祖著　板本

本書は英祖甲戌の歲肅宗妃壽七十にして英祖華甲に恰當せしを以て此の書を作り回甲編錄と題し敬天、奉先、恤民、祛黨、抑奢等の五則を訓諭したる外特に容直言、樂聞過の六字を自書して德器涵養の主要を簡明に垂示したるものなり

○光國志慶錄　一卷　肅宗命編　板本

本書は宣祖二十二年明の續纂會典成り朝鮮の宗系を認めたる謝恩使として派遣したる俞泓か山海關の主事馬維銘と贈答せし五言律詩に次韻したる宣祖及諸人の作を採錄し其の光慶を謳歌したるものにして肅宗二十七年更に舊本を添補して此の名を附せり

○凌虛關漫稿　七卷　莊獻世子著　板本

本書は莊獻世子の遺稿を輯めたるものにして詩賦、批判、書批、達批、敦諭、令旨、答官僚故事、題序、碑銘、陵誌、致祭文等あり

莊獻世子諱は愃字は允寬、毅齋と號す英祖の子正

祖の父にして李太王は實に其の玄孫なり光武三年莊祖懿皇帝と追尊せらる

○ 東村遺稿　二卷　柳帶春著　板本

本書は柳帶春の詩文集にして後孫曾て之を刊行し後純祖丁卯信川郡守趙鎭球重刊せり收むる所詩、書、疏、祭文、附錄等なり

柳帶春字は榮叔、東村と號す瑞山の人僕正堰の子なり宣祖癸卯に生れ仁祖癸酉生員及進士に中り壬午蔭仕を以て禮賓奉事に拜せしも仕へず肅宗辛未に歿す牛溪栗谷に學ひ孝を以て旌閭せらる

○ 杜律分韻　三九卷　正祖命編　板本

本書は杜詩五七律を韻字の次第に依り分類し摘文院に於て正祖の命に依り彙編したるものにして同王二十二年戊午活字を以て印行せるものなり

○ 陸律分韻　三九卷　正祖命編　板本

本書は陸放翁の詩五七律を韻字の次第に依り分類したるものにして正祖の命に依り考文館に於て彙編し戊午活字を以て印行せるものなり

○ 弘齋全書　一八四卷　正祖著　板本

本書は正祖の詩文、綸音、敎旨其の他の編著全部を集めたるものにして校正監印を奉せしは金載瓚、金祖淳、沈象奎、南公轍、徐榮輔、朴宗慶、李存秀、金履喬、朴宗薰、李魯益、李龍秀、李光文、鄭元容、朴綺壽、李鶴秀等なり全部一百八十四卷一百冊と爲す第一卷以下第七卷に詩第八卷以下第十三卷に序引第十四卷以下第十六卷に記、碑、誌第十七卷に行錄第十八卷に行狀第十九卷以下第二十五卷に祭文第二十六卷以下第二十九卷に綸旨第三十卷以下第三十六卷に敎第三十七卷に敎諭第三十八卷に諭書第三十九卷以下第四十一卷に封書第四十二卷以下第四十六卷に批第四十七卷に判第四十八卷以下第五十二卷に策問第五十三卷に說、贊、銘第五十四卷以下第六十三卷に雜著第六十四卷以下第百十九卷に經史講義第百二十卷及第百二十一卷に鄭書、春記第百二十二卷以下第百二十五卷に魯論復箋第百二十六卷に僧傳秋錄第百二十七卷及百二十八卷に類義評例第百二十九卷以下第百三十四卷に故實第百三十五卷以下第百六十卷に審理錄第百六十一卷以下第百七十八卷に日得錄第百七十九卷以下第百八十四卷に群書標記を收む

○ 正祖樂章　一卷　正祖編　板本

本書は正祖の時の慈宮臨華城行宮進饌樂章及同周甲進饌樂章を集めたるものにして僅に二葉の小冊子なり

○ 江漢集　三二卷　黃景源著　板本

本書は黃景源の遺集にして景源平生尊明攘淸を以て念とし著述文字の間亦此の語多し其の陪臣傳の如き尤も之を證す

黃景源の小傳は史部明陪臣考に出つ

○ 雲坪集　一〇卷　宋能相著　板本

本書は宋能相の詩文集にして多く學問時事に關するものを收む雜著中に喪禮修要、紙頭私記、禮說辨幷有祖父喪嫡孫代重辨等の類あり

宋能相字は士能、雲坪と號す恩津の人尤菴宋時烈の玄孫にして南塘韓元震の門人なり肅宗庚寅に生れ英祖の時遺逸を以て召され官掌令に止まる其の戊寅に歿す

○ 鹿門集　二六卷　任聖周著　板本

本書は專ら任聖周の文を裒聚し就中學問時事に關する書最も多し雜著中論語中庸、儀禮、周易、尙書大學等の述義及ひ寒泉語錄、玉溜講錄、書筵講義等あり

任聖周字は仲思、鹿門と號す豐川の人なり肅宗辛卯に生れ晩に公州の鹿門に卜居す老隱適の子にして士元の孫なり適五男二女あり鹿門は其の仲なり季弟雲湖靖周、妹允摯堂偕に文名あり年七十八を以て正祖戊申に歿す天質高明にして學問醇篤なり二十四歲の時中庸を携へて獨り華陽山に入り靜坐五十日反復研精し疑義一卷をなす櫟泉宋明欽、其弟閒靜堂宋文欽、渼湖金元行、雲坪宋能相、涵一齋申韶、止庵金亮行等皆其の詞友なり

○ 晩翁集　四卷　徐命瑞著　板本

本書は徐命瑞の遺稿にして曾孫晩輔之を裒輯し李太王光武三年に上木せしものなり初學圖、學約圖等問學工夫の階梯を示し附錄に王世孫進講の

日進對莚話二三を載す
徐命瑞字は伯五、晩翁と號す大邱の人達城尉景震の玄孫なり肅宗辛卯に生れ蔭仕を以て官知中樞府事に至り英祖及正祖の時儒を以て名あり正祖乙卯に歿す

○農叟遺稿　一卷　崔天翼著　板本

本書は崔天翼の詩文集にして正祖甲辰の刊行に係る
崔天翼字は晋叔、農叟と號す興海の人なり肅宗甲午に生る其の先は世世郡の小吏なりしか文翼に至り儒を以て家を成さんと期し刻苦學を力め進士に擧けらるるに及ひ則ち曰く吾分足れりと遂に復た試に應せす家居門生に教ふること三十年正祖己亥に歿す年六十八

○艮翁集　二四卷　李獻慶著　板本

本書は李獻慶の遺稿を集めたるものにして正祖の時畿湖の人士等嶺南諸儒に移文し協力刊行せしものなり
李獻慶字は夢瑞、艮翁と號す坡谷誠中の後なり肅宗己亥に生る六七歳にして既に能く章を成す英祖甲子に登科し官途振はさるもの三十年爲に文學愈進み著述益富む正祖の初驟に正卿に至り辛亥に歿す樊巖蔡濟恭、耳溪洪良浩、豹菴姜世晃と最も親善なり

○性堂集　五卷　鄭赫臣著　板本

本書は鄭赫臣の遺稿を集めたるものにして外孫金博淵之を釐正し景宗乙巳孫浩幹之を印行せり
收むる所詩文雜著等あり終に門人追記、行狀等を附す
鄭赫臣字は明峻、性堂と號す保寧の隱士なり名を德耆と改めしか後初名に復せり肅宗己亥に生れ清國に臣事するを恥ちて科擧に赴かす窮居書を讀むこと五十年正祖の時參奉に拜せしも就かす後老を以て通政を授けらる癸丑に歿す

○有心齋集　六卷　李和甫著　板本

本書は李和甫の文集なり和甫平生實學を務め詩詞を喜はす故に集中に詩なし第五卷の雜著は其の道學の造詣を見るへし

李和甫初の名は濟甫字は汝施次て醇甫字は大和と更め後に和甫字は大醇と改む有心齋は其の號なり太宗の別子讓寧大君譓の後にして肅宗甲午に生れ少にして陶庵李縡に學ひ篤志力學遂に科官を求めす英祖及正祖の際連に參奉を授けられたるも受けす正祖辛丑に歿す

○樊巖集　五九卷　蔡濟恭著　板本

本書は蔡濟恭の遺稿を集めたるものにして純祖二十四年其の子弘遠か判書李鼎運、諫議崔獻重、判書韓致應等と共に編次刊行せしものなり
蔡濟恭の小傳は吏部欽恤典則に出つ

○霽軒集　六卷　沈定鎭著　板本

本書は沈定鎭の詩文を收輯せしものなり
沈定鎭字は一之、霽軒と號す肅宗の時に生れ英祖の時進士に中り官郡守に止まる嘗て副率となるや會ま正祖東宮に在り甚た之に敬事し學術高明にして講說精好なるを稱す然れとも終に大に用ひらるるに至らすして止む

○淩壺集　四卷　李麟祥著　板本

本書は李麟祥の遺稿を集めたるものにして英祖丁丑其の子英章之を刊行す夢梧金鍾秀の跋あり
麟祥の人と爲りを記して詳なり
李麟祥字は元靈、淩壺と號す完山の人白江敬輿の孫なり肅宗の時に生れ英祖に仕へて官縣監に止まる長身瘦癯塵垢の氣なく出れは則ち朗詠して傍ら人なきか如く之を望めは宛も鶴に似たり文藝の外書畫に巧にして特に篆書に長し當時三絶の稱あり正祖の時に歿す

○三山齋集　一二卷　金履安著　板本

本書は金履安の詩文集にして三卷以下七卷までは書牘なり
金履安字は元禮、三山齋と號す安東の人渼湖元行の子なり景宗壬寅に生れ正祖の時閔彛顯、金斗默、曹彝等と齊しく經筵官となり祭酒に至り辛亥に歿す謚を文獻と賜ふ

○海左集　三九卷　丁範祖著　板本

本書は丁範祖の詩文集にして李太王四年刊行せしものなり

丁範祖字は法世、海左と號す押海の人なり景宗癸卯に生る愚潭時翰の後にして儒學の世家たり英祖正祖の間に名を馳せ官弘文館提學に至り純祖辛酉に歿す謚を文憲と云ふ

○耳溪集　三八卷　洪良浩著　板本

本書は洪良浩の詩文集にして憲宗九年癸卯其の孫敬謨之を刊行す初卷より十八卷までは良浩晩年自ら選輯せしものにして以下二十卷は敬謨か追輯せしものなり卷首に清の禮部尚書紀昀の序を載し收むる所辭、賦、歌、謠、詩、序、記、書、題跋、銘、頌、贊、辨、論、解、傳、雜著、疏、箚、啓、議、教命文、頒教文、箋文、致詞、教書、上樑文、進香文、祭文、哀辭、神道碑、墓碣、墓誌、墓表、謚狀等なり外に耳溪外集十二卷叢書二十二卷あり

○耳溪外集　一二卷　洪良浩著　板本

曩に洪敬謨其の祖父良浩の詩文集三十八卷を刊行せるも其の雜著中尚ほ逸するものあり敬謨之を集めて十二卷となす卽ち本書なり其の目次は講說易象、翼傳、羣書發悱、萬物原始、六書經緯、牧民大方、北塞記略等にして其の論理の明晰學識の贍富就て見るへし

○近齋集　三二卷　朴胤源著　板本

本書は朴胤源の遺稿にして詩文及漢湖金元行語錄等を收む

朴胤源字は永叔、近齋と號す潘南の人判官師錫の子なり英祖甲寅に生る聰穎絕倫經學を以て鳴る家貧にして風雨を蔽ふ能はざるも晏然として學徒と講討し終身仕へず正祖己未に歿す

○柯汀遺稿　一〇卷　趙鎭寬著　板本

本書は趙鎭寬の遺稿にして憲宗丁未子雲石寅永か印出せしものなり詩文の外易問を收め篇首に自序を附す

趙鎭寬字は裕叔、柯汀と號す豐壤の人永湖曦の子なり英祖己未に生れ聰悟異凡五歲能く句を作る儼として成人の如し長する及ひ宋閒靜堂に就いて學ひ壬午生員進士兩試に中り侍直を拜して癸未賢良科に登り官吏曹判書に到る純祖戊辰耆社に入り其の年を以て歿す謚して孝文といふ

○醇庵集　一〇卷　吳載純著　板本

本書は吳載純の詩文集にして久しく登梓せさりしか正祖敎を下して剞劂に付すへきを命す純祖八年其の子熙常等相謀りて遺稿を删定し活字を以て印行せり

吳載純字は文卿醇庵と號す海州の人月谷瑗の子なり英祖丁卯に生れ壬辰に登科し兵曹判書を經て文衡を典る正祖甲寅に歿し文靖と謚せらる

○淵庵遺迹　三卷　金若淵著　板本

本書は金若淵の詩文若干篇並に其の妻洪氏の死節本末、臨終告決書、行狀、旌門始末、旌門後記等を載す光山の人金相肅の批點せしものに係る

金若淵字は淵淵淵菴と號す清風の人夢梧鍾秀の子なり英祖庚午に生れ甲午年二十五にして歿す妻は南陽洪氏の女なり夫に殉して死し閭に旌せらる

○金陵集　二四卷　南公轍著　板本

本書は南公轍の詩文集にして生前に刊行せしものなり集中多く古書畫の題跋あり唐宋元明清に渉れるを以て斯道に趣味深かりしを知るへし

南公轍字は元平、金陵又頤翁と號す宜寧の人雷淵有容の子にして壺谷龍翼の玄孫なり英祖庚辰に生れ正祖壬子文科に登り直閣を歷て吏曹判書大提學に至り純祖辛巳右相となり尋て領議政を拜し憲宗庚子に歿す謚して文憲といふ

○頤翁續稿　五卷　南公轍著　板本

○頤翁再續稿　三卷　南公轍著　板本

本書は南公轍の詩文續集にして亦生前純祖壬午の印行に係る續稿及再續稿共に自題の小引を附す前書收むる所詩、應製文、啓、疏、箚、議、序、記、祭文、言行錄、神道碑銘、誌碣、謚狀等にして後書載する所詩、應製文、啓、疏、箚、議、序、記、跋、祭文、誌碣、墓表、謚狀なり

南公轍の小傳は集部金陵集に出つ

○壽齋遺稿　八卷　李崑秀著　板本

本書は李崑秀の遺稿にして皆弱冠の作なるも秀發の氣見るへきものあり

李崑秀字は星瑞、壽齋と號す延安の人湖隱性源の子なり英祖壬午に生れ正祖壬寅庭試に擢けられ奎章閣待敎となりしも纔に二十六歲にして其の

丁未に歿す壽齋は正祖の賜號なり

○海隱遺稿　三三卷　姜必孝著　板本

本書は姜必孝の遺稿にして必孝歿後四十七年子孫弟子相謀りて刊行せしものなり

姜必孝字は仲順、海隱又法隱と號す晉州の人英祖甲申に生る嶺南安東郡に居り經學を講明して聲譽四方に聞ゆ純祖世子の時洗馬に徵せしも起たず益育英に勗め弟子日に進就す官敦寧都正に止まり正祖戊申に歿す

○松穆館集　一卷　李彦瑱著　板本

本書は李彦瑱の遺稿にして彦瑱歿後九十餘年を經哲宗庚申其の孫鎭擧之を搜索し删定印行せしものなり

李彦瑱字は虞裳、松穆館又湘藻と號す英祖の時に生れ惠寰李用休に師事し詩才あり家世世象胥を業とす癸未譯官を以て通信使に隨ひ日本大坂に往き歸りて後幾もなくして歿す年三十有餘なり

○頤齋遺稿　二六卷　黃胤錫著　板本

本書は黃胤錫の遺稿にして純祖己丑其の孫秀瓊繁を删し要を選み剞劂に附したるものなり收むる所詩文雜著等にして雜著中には浹衣會通新制、婦人繒頭制度說、孔子生卒辨、證解石說、錢貨輕重說、華音方言字義解字母辨、國朝喪禮補編後本尺圖說等を載す

黃胤錫字は永叟、頤齋又越松外史と號す英祖の時に生る醉隱世基の孫にして正祖の時の儒者なり少にして洑湖金元行の門に入り詩文を以て知らる本書に附する雲石趙寅永の序は其の人と爲りを知るに足る曰く公厲志道義を窮格し既に成るや其の餘を推し以て曆象、樂律、字義、算術の類に及ぼし著述數十種多くは前人未發のものなり性理釋解、群經講義箚錄の諸篇一に宋紫陽の定論を以て宗となす云云と

○窮悟集　八卷　任天常著　寫本

本書は任天常の遺稿にして詩、序、記、敎書、書、銘、題跋、雜著、祭文、墓誌銘、墓碣銘、墓表、遺事、行狀等あり蒐輯者詳ならず

任天常字は玄道、窮悟と號す豐川の人遯窩守幹の曾孫なり英祖甲戌に生れ正祖丁酉進士に中り甲寅文科に登り官校理に止まる

○天隱亂稿　一卷　趙宗鉉著　寫本

本書は趙宗鉉か自己作る所の詩文を編輯せしものにして收むる所詩、記、說、識、遺事、題、傳、解、序、花月令、祭文等なり稿中北征詩あり以て北關の風俗を知るへし

趙宗鉉字は元玉、天隱と號す楊州の人忠簡公雲逵の子なり英祖辛亥に生れ丙子進士に中り戊子蔭仕を以て文科に登り官禮曹判書に至り正祖庚申歿す謚を孝憲と云ふ

○自齋遺稿　一卷　尹東燁著　板本

本書は尹東燁の遺稿にして其の子光演の蒐輯したるものなり收むる所詩、書、說、銘、附錄等なり純祖庚寅之を刊行す

尹東燁字は德輝、自齋と號す坡平の人克齋三星の孫なり英祖甲寅に生れ正祖癸丑歿す卓犖不羈の志を抱き山水の間に放浪して終れり

○臥雲遺稿　三卷　宋煥經著　寫本

本書は宋煥經の遺稿にして編輯者及刊時詳ならず收むる所詩、賦、書、序、記、論、祭文、上梁文等なり

宋煥經は臥雲と號す恩津の人なり

○韋庵集　六卷　李最中著　板本

本書は李最中の詩文集にして收むる所辭、詩、疏、箚、箋、書、尺牘、記、祭文、祝文、墓表、墓碣、墓誌、行狀、謚狀、遺事、雜著等なり編者及刊時詳ならず

李最中字は季良、韋庵と號す全州の人鹿川潘の孫なり肅宗乙未に生れ英祖辛未直長を以て文科に登り弘文館提學を歷て官吏曹判書に至り正祖甲辰歿す謚を文貞と云ふ

○拱白堂集　八卷　黃德壹著　寫本

本書は黃德壹の遺集にして其の弟德吉の蒐輯したるものなり收むる所詩、書、雜著、序、跋、祭文、哀辭、行狀、附錄等なり

黃德壹字は幸叟、拱白堂と號す昌原の人巴麓汝耆五代の孫なり英祖戊辰に生れ正祖辛酉歿す順菴安鼎福の門人にして早歲より擧業を廢し學問に勤む其の著述を見て其の抱負を知るに足る

○ 默山集　四卷　南基萬著　板本

本書は南基萬の詩文集にして其の從玄孫梨の蒐輯したるものなり收むるところ詩、疏、書、祭文、上樑文、箴、頌、雜著、墓誌、附錄等あり李太王甲戌之を刊行す

南基萬字は伯溫、默山と號す英陽の人なり英祖庚戌に生れ甲午大小科に中り正祖丙辰に歿す經學に深く又星曆度數、參同契、納甲の法に通曉せり

○ 警弦齋集　四卷　姜世晉著　板本

本書は姜世晉の詩文集にして其の子鳳欽の蒐輯したるものなり收むる所詩、書、雜著、序、記、傳、儷文、哀詞、丘墓文、行狀等なり外孫鄭象履等之を刊行す

姜世晉字は嗣源、警弦と號す晉州の人慕軒必愼の子なり肅宗丁酉に生れ英祖癸酉進士に中り正祖丙午に歿す

○ 活山集　八卷　南龍萬著　板本

本書は南龍萬の遺稿にして其の子景采、景羲等か蒐輯したるものなり收むる所賦、詩、疏、書、雜著、說、論、序、記、頌、銘、上樑文、祝文、祭文、碑銘、墓誌、隨錄、附錄等なり正祖癸丑之を刊行す

南龍萬字は鵬路、活山と號す英陽の人なり肅宗己丑に生れ英祖丙子生員に中り正祖戊戌に禧陵參奉を授けられたるも仕へず甲辰に歿す龍萬經學文行を以て一鄉の師表たるのみならず殊に經濟學に深し

○ 石雲集　二卷　尹顯東著　寫本

本書は尹顯東の文集にして收むる所書、序のみ

尹顯東字は誠中、石雲と號す海平の人四休堂得和の子なり肅宗癸巳に生れ正祖壬寅歿す

○ 滄洲閒詠　一卷　趙宗鉉著　寫本

本書は趙宗鉉か自作の詩を輯錄したるものなり

趙宗鉉の小傳は集部天鑑亂稿に出つ

○ 東溪遺稿附大觀遺稿　四卷　李英輔著　板本

本書は李英輔の遺稿にして其の子廣源、述源か蒐錄上梓せしものなり附するに弟文輔の詩集大觀遺稿を以てす

李英輔字は夢與、東溪と號す延安の人なり肅宗の時に生れ甲午進士壯元となり官金城縣令に止まり英祖の時に歿す

○ 荷棲集　一一卷　趙瓛著　板本

本書は趙瓛の詩文、雜著、講說、漫錄等を輯めたるものなり

趙瓛の小傳は史部國朝寶鑑に出つ

○ 青城集　一〇卷　成大中著　板本

本書は成大中の詩文集にして曾孫憲曾之を蒐錄し憲宗庚子に上木せしものなり集中日本往來の雜詠二三あり文は論、說、題、頌、游記、送序等なり

成大中字は士執、青城と號す昌寧の人なり英祖壬子に生れ癸酉生員となり丙子文科に登り曾て通信使趙曮に隨ひ日本に入りたることあり官府使に止まり純祖壬辰に歿す

○ 燕巖集　六卷　朴趾源著　板本

○ 燕巖續集　三卷　朴趾源著　板本

本書は朴趾源の遺稿を集めたるものにして李太王光武五年金澤榮之を精選し六卷を印出し次て續集三卷を繼刊せり續集には熱河日記を載す

朴趾源字は仲美、燕巖と號す英祖丁巳に生る潘南の人にして文章に卓絕す正祖文學を崇尙し重用せられしも不幸當路の嫉視する所となり文科に第せず官僅に府使に止まり純祖乙丑に歿す當時朝鮮人にして泰西地球の說を知る者なかりしか趾源入燕使に隨ひ熱河に至り淸の鴻儒と交遊し書籍を博覽し地球一日一轉の說を倡道し同者をして驚服せしむ獨り文章の大家たるのみならず最も經濟の學に深邃なりしは其の著農政書に見るへし後に正卿を贈られ文度と諡せらる

○ 儉巖山人詩集　二卷　范慶文著　板本

本書は范慶文の詩集にして子潤行之を剞劂に付す大提學徐榮輔の序あり

范慶文字は孺文、儉巖と號す英祖戊午に生れ年十七八既に能く辭を屬し嶄然頭角を見はす純祖辛酉に歿す

○ 錦石集　一二卷　朴準源著　板本

本書は朴準源の遺稿にして純祖十六年從子宗興、著庵俞漢雋の校印せしものなり

朴準源の小傳は經部書傳人物類聚に出つ

○雅亭遺稿　八卷　李德懋著　板本

本書は李德懋の詩文雜著を集めたるものにして其の歿後三年丙辰正祖旨を孤子光蔡に傳へて遺稿を徵し内帑を下して剞劂の費を助け奎章閣諸員をして删定刊行せしめたるものなり收むる所歌詩三百三十二篇書牘一百篇策編五編序記雜書一百三十一篇あり策論中に兵志周軍制論同唐軍制論同明軍制論同倭軍制論等あり別に嬰處稿青莊館稿耳目口心書士小節遺訓清脾錄蜻蛉國志記、盎葉記寒竹堂涉筆禮記臆釋宋史補傳磊々落々書等著作十二種ありと云ふも惜むへし多く傳はらす

李德懋の小傳は經部奎章全韻に出つ

○龜巖集　一六卷　李元培著　板本

本書は李元培の詩文雜著を集めたるものにして歿後五年門人玄翊洙及族子恂等之を輯刊す

李元培字は汝達龜巖と號す鏡城の人なり英祖乙丑に生れ世々北路の大族として學行を以て聞ゆ其の先は公州の人十一代の祖謙事に坐して謫せられ因て終に鏡城に住す天資聰穎經傳を貫穿し百家を涉獵し悉く究通せさるはなし正祖二十二年上問に應へて九經疑義六十二條を釋明し仍て褒賞を受く純祖辛酉義禁府都事に除せられ尋て尙衣院別提となり莊陵令に移り壬戌に歿す

○華泉集　一六卷　李采著　板本

本書は李采の詩文集にして曾孫鎬翼か忠州に牧たりし時印出せしものなり

李采字は季良華泉と號す牛峰の人陶庵縡の孫なり英祖乙丑に生れ進士に中り叅奉に任せられ戶曹叅判に至り純祖庚辰に歿す李太王の時特に贊成を贈る諡を文敬といふ篤學實行陶庵の孫たるに愧ちす

○楓皐集　一六卷　金祖淳著　板本

本書は金祖淳の詩文集にして死後二十三年哲宗甲寅季子左根か鋟梓せしものなり哲宗の序あり

金祖淳の小傳は經部書傳人物類聚に出つ

○臺山集　二〇卷　金遵淳著　板本

本書は金遵淳の詩文集にして詩文十二卷家史二卷闕餘散筆六卷より成る李太王十六年子善根活字を以て印行す別に朱子大全箚問標補二十四卷の著あり世に行はる

金遵淳字は德叟臺山と號す安東の人三淵昌翕の玄孫なり英祖丙申に生れ正祖乙卯に登科し抄啓文臣に選せられ官叅判に至る李太王の時族孫炳學相となり臺山斯文扶翼の功を奏請し遂に上卿を贈られ諡して文淸と曰ふ人と爲り外和內剛文章概ね其の性格に似たり

○太湖集附參三齋詩百選八卷　洪元燮著　板本

本書は洪元燮の詩文集にして哲宗の初年孫叅議鍾遠の編刊せしものなり收むる所詩疏啓狀書序記題跋上樑文雜著行狀墓誌銘墓表碑銘祭文なり附するに其の子顯圭の參三齋詩百選を以てす

洪元燮字は太和太湖と號す南陽の人北谷致中の玄孫なり英祖の時に生れ早く孤となる其の母之を敎ふる嚴なり司馬試に中り蔭仕を以て進み官叅議に至る正祖の時水原判官となり命を承け上樑文を製進す蔭官を以て文苑黼黻に入りし者惟り元燮あるのみ純祖の時に歿す洪顯圭字は公晦參三齋と號す元燮の子なり詩才ありしか夭折す

○靜修齋遺稿　四卷　金應夏著　板本

本書は金應夏の遺稿にして其の子日炯蒐輯し李太王戊寅に孫奎書之を刊行せり載する所詩書序、記跋說辨贊雜著祭文經義問答等なり

金應夏字は時卿靜修齋と號す淸道の人なり正祖癸卯に生れ純祖乙丑進士に中り庚寅に歿す子日炯亦能文にして三好堂集あり

○松窩集　四卷　金相离著　板本

本書は金相离の詩文集にして其の曾孫謹行之を蒐集し李太王辛巳に刊行せり收むる所賦詩說論、辨經義序祝文墓誌銘等なり

金相离字は而洽松窩と號す慶州の人慶福六代の孫なり英祖壬子に生れ丙申薦を以て智陵別檢を拜し官主簿に止にり純祖丙寅に歿す元北方の人にして經學を首倡し北方の文運之より振興せり

○一广遺稿附小安齋遺稿　三卷　金相日著　板本

本書は金相日の遺稿にして其の子慮之を蒐輯し

哲宗癸丑孫在直の刊行に係る收むる所詩、序、記、跋、說、箴、銘、祭文、雜著、附錄等あり子慮の著に係る小安齋遺稿を卷末に附す

金相日字は子山、一、广と號す光山の人沙溪六世の孫なり英祖丙子に生れ純祖壬子に歿す其の子慮字は肅心、小安齋と號す正祖癸卯に生れ哲宗庚、戊に歿す父子儒門に出て能く家學を繼述せり

○ 玉溪遺稿　二卷　姜鳳文著　板本

本書は姜鳳文の遺稿にして其の孫周福蒐輯し純祖己丑之を刊行せり收むる所詩、書序、記、祭文、附錄等なり

姜鳳文字は周瑞、玉溪と號す晋州の人なり英祖乙卯に生れ純祖乙亥に歿す其の門地寒微なりと雖も文學に勤め又孝行を以て稱せらる

○ 歸恩堂集　一〇卷　南公轍著　板本

本書は南公轍自編の詩文集にして收むる所詩、應製文、箋議、啓、疏、箚、書、序、記、題跋、雜著、祭文、碑銘、墓碣、墓誌、行狀、諡狀、年譜等なり純祖甲午に刊行す

南公轍の小傳は金陵集に出つ

○ 蘿山集　一二卷　趙有善著　板本

本書は趙有善の詩文集にして哲宗己未の刊行に係る收むる所詩、書、經義、序、記、跋、引、雜著、上梁文、祭文、告文、祝文、哀辭、傳、附錄等なり

趙有善字は子淳、蘿山と號し開城に居る稷山の人松村翼周の曾孫なり英祖辛亥に生れ正祖戊申經行を以て薦められ叅奉を拜し官郡守に止まり純祖己巳に歿す渼湖金元行の門人にして花潭徐敬德の後最も經學家を以て推さる

○ 老洲集　二六卷　吳熙常著　板本

本書は吳熙常の詩文雜著等を集めたるものにして其の子致成の蒐輯に係り李太王壬辰曾孫俊泳之を刊行す收むる所疏、上書、書、啓、遠辭、議、書、祭文、告文、祝文、哀辭、序、記、跋、墓誌、墓銘、墓碣、墓表、碑、行狀、諡狀、遺事、雜著、讀書隨記、雜識等なり

吳熙常字は士敬、老洲と號す海州の人月谷瑗の孫なり英祖癸未に生れ正祖庚申薦を以て洗馬を拜し官贊善に至り純祖癸巳に歿す吏曹判書を贈られ諡を文元と云ふ熙常名家の孫にして其の兄寧齋允常の薫陶を膺け學問文章並に名あり

○ 菑野集　六卷　韓敬儀著　板本

本書は韓敬儀の詩文集にして其の孫永熙の蒐輯したるものなり收むる所詩、書、序、記、跋、雜著、祭文、行狀、墓碣、墓誌、墓表、附錄等なり刊行年月詳ならず

韓敬儀初名は光祐字は伯慄、菑野と號す清州の人草堂世琦の曾孫なり英祖己未に生れ純祖辛巳に歿す開城に世居し經學深邃且孝行を以て一鄕に稱せらる

○ 惠慶宮樂章　一卷　板本

本書は惠慶宮(即ち正祖の母)回甲進饌の時に於て進奏したる樂章に諺譯を傍注せるものなり

○ 泊翁詩鈔　九卷　李明五著　板本

本書は李明五の詩稿を集めたるものにして哲宗十年子東樊晩用の收集刊行に係る

李明五字は士緯、泊翁と號す全州の人雨念齋鳳煥の子なり英祖庚子に生る家世世詩を以て聞ゆ父雨念齋の寃獄に罹るを痛み藁を薦し衣を換へざるもの數年純祖の時に至り纔に寃を伸ふることを得始めて世に出て從事官として日本に隨往し歸りて蔭官となり老て三品に躋り憲宗丙申歿す

○ 梅山集　五三卷　洪直弼著　板本

本書は洪直弼の遺稿にして李太王丙寅の印行に係り詩文雜著を收む

洪直弼字は伯應、梅山と號す南陽の人なり正祖丁酉に生れ少時業を近齋朴胤源及老洲吳熙常等に受け純祖辛酉進士に登り學を露梁の江畔に講せしか其の甲戌翊衛司洗馬に叙せられ經筵官祭酒を歷て刑曹判書となり哲宗壬子に歿す諡して文敬といふ

○ 屯塢集　一一卷　林宗七著　板本

本書は林宗七の遺稿にして李太王九年門人金璣衡等裒集刊行せしものなり

林宗七字は來卿、屯塢と號す吉州に住せり正祖辛丑に生る關北の地産て松巖李載亨あり農巖金昌協の學を得て之を龜巖李元培に傳へ龜巖は之を屯塢に傳ふ屯塢憲宗の時薦を以て參奉主簿を授けられ其の子翊曾て侍從たるを以て通政に恩陞

せられしも就かず哲宗戊午に歿す

○雲石遺稿　二〇卷　趙寅永著　板本

本書は趙寅永の遺稿にして嗣子秉夔之を蒐輯したるも淨寫未た成らずして歿す因て寅永の女婿松石金學性之を整理し孫寧夏李太王五年刊出したるものなり

趙寅永の小傳は史部憲宗實錄に出つ

○勉菴集　五卷　安英老著　板本

本書は安英老の遺稿にして其の子銓蒐輯し李太王庚子之を刊行せり收むる所詩辭、書、序、記、論、通文、箴、銘、贊、說、跋、祝文、祭文、行狀、附錄等なり

安英老字は晦叟、勉菴と號す耽津の人觀瀾齋處信の子なり正祖丁巳に生れ憲宗丙午に歿す六世七孝の家聲を繼き學行を以て聞こゆ

○警修堂詩選　八五卷　申緯著　寫本

本書は申緯の遺稿にして其の子命衍の蒐輯したるものなり載する所唯詩のみ

申緯字は漢叟、紫霞と號す平山の人叅判大升の子なり英祖己丑に生れ幼より神童の稱あり十四歲

未た冠せざるに正祖宮中に召され文學に叅列するの寵榮を蒙れり己未文科に登り官都承旨を歷て吏曹叅判に止まり憲宗丁未歿す當時詩、書、畫、三絕の名あり朝鮮開國以來專門大家と雖も詩稿殆と四十卷に及ふもの其の儔を見す百年以後の詩人は皆此を學ひて法門初祖と推す又筆法、畫品俱に神境に入り寸墨片紙も寶として世に傳へらる別に焚餘錄四卷の著あり子命準小荷と號し命衍謙春と號す亦皆三絕の譽あり

○竹下集　四卷　金時和著　板本

本書は金時和か自己の詩文を編輯したるものにして收むる所詩、記、序、回文、雜著、行狀、上樑文、傳、說等なり哲宗癸丑其の孫漢永之を刊行す

金時和、竹下と號す江陵の人勉實齋一宇の玄孫なり武科を以て官府使に止まる

○花谷逸稿　一卷　柳鼎漢著　板本

本書は柳鼎漢の遺稿にして其の從孫在浩蒐輯し李太王庚辰之を刊行せり收むる所詩、書、雜著、若干篇のみ

柳鼎漢字は聚汝、花谷と號す瑞山の人東村帶春七世の孫なり正祖庚子に生れ憲宗戊戌に歿す性潭宋煥箕の門人にして經學孝行を以て一鄕に稱せらる

○夢觀詩稿　三卷　李廷柱著　板本

本書は李廷柱の詩稿にして其の子尙益蒐輯し哲宗己未之を刊行せり

李廷柱字は石老、夢觀と號す牛峰の人なり

○畏窩集　一四卷　崔琳著　板本

本書は崔琳の遺稿にして其の孫世顯の蒐輯せしものなり收むる所詩、哀辭、書、序、記、跋、箴、上樑文、祭文、雜著、附錄等あり李太王己亥曾孫任壽之を刊行す

崔琳字は贊夫、畏窩と號す慶州の人貞武公震立六世の孫なり正祖己亥に生れ憲宗庚子道臣の薦を以て繕工監役に拜せられしも仕へす辛丑に歿す剛齋宋穉圭の門人にして經學行義を以て一鄕に稱せらる

○初菴全集　一四卷　金憲基著　板本

本書は金憲基の遺稿全集にして其の子中錫及門人等の蒐輯したるものなり收むる所詩、書、雜著、序、記、跋、銘、贊、字辭、婚書、祝文、祭文、墓誌銘、墓表、墓碣、行狀、遺事、言行錄、傳、附錄等あり李太王辛巳後學金澤榮等之を刊行す

金憲基字は穉度、初庵と號す熊川の人佐郎就行の子なり英祖甲午に生れ憲宗己亥敎官を授けられたるも仕へす壬寅に歿す憲基開城に居り花潭徐敬德に次いで學問最も高しと稱せられ哲宗己未承旨を贈らる

○經山集　二三卷　鄭元容著　板本

本書は鄭元容の詩文集にして李太王丙申孫右相範朝の編刊に係る

鄭元容の小傳は史部國朝寶鑑に出つ

○對山集　四卷　姜溍著　板本

本書は姜溍の遺稿にして其の子龜秀及鴻秀か李太王五年之を裒輯し活字を以て印行せるものなり

姜溍字は進汝、對山と號す晋州の人豹庵世晃の曾孫なり純祖丁卯に生る憲宗の時奎章閣檢書官を